年　報

令和２年度



第39号

GUNMA CHILDREN'S MEDICAL CENTER
群馬県立小児医療センター

年　報（令和二年度）

第三十九号

群馬県立小児医療センター

GUNMA CHILDREN'S MEDICAL CENTER
群馬県立小児医療センター

◇ 基 本 理 念

小児の専門病院として、

未来あるこどもたちの生命（いのち）をまもり、

すこやかな成長発達を支援します。

◎ 基 本 方 針

1　小児の専門病院として、高度で安全かつ先進的な周産期・小児医療を提供し、地域の中核病院の役割を果たします。

2　子どもの権利の尊重とチーム医療により、安心で信頼できる医療を提供します。

3　地域の関係機関と連携して、診療・研究及び研修を行い、周産期及び小児の医療・保健レベルの向上に努め、子どもの望ましい成長・発達を支えます。

4　適正な情報公開と診療情報の共有により、健全で透明性の高い病院経営に努めます。

☆子ども憲章

1　子どもは、安心できる環境の中で、良質でおもいやりのある医療を受ける権利があります。
2　子どもとその家族は、医療について年齢や理解度に応じた十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
　そして、不必要な医療処置や検査から守られ、家族が治療に参加できるように配慮されます。
3　子どもとその家族は、医療について自由に意見を述べ自ら医療を選択しあるいは拒否する権利があります。
4　子どもとその家族は担当医以外の医師の考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
5　子どもは年齢や症状に応じた養育を受ける権利があります。
6　子どもとその家族は、自己の診療録の開示を求める権利があります。
7　子どもとその家族は、いつでもプライバシーが守られ、個人情報の保護を受ける権利があります。
8　子どもの権利条約を守ります。

★職員倫理要綱

1　職員は、病める子どもたちの治療はもとより、子どもの成長発達を家族とともに支えるよう、医療を受ける者とその家族の人格を尊重し奉仕しなければならない。
2　職員は、医療を受ける者に優しい心で接し、医療の内容をよく説明し、理解と信頼を得るよう努めなければならない。
3　職員は、医療を受ける者の知る権利と自己決定の権利を尊重し擁護しなければならない。
4　職員は､守秘義務を遵守し､個人情報の保護に努めなければならない。
5　職員は、国籍、人種、民族、宗教、信条、性別及び年齢にかかわらず、すべてに平等に、優しい心で接しなければならない。
6　職員は、常に自らも研鑽に努め、安心で信頼される最善の医療が提供できるように心がけなければならない。
7　職員は、互いに尊敬し協力して医療に尽くさなければならない。
8　職員は、医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くさなければならない。
9　職員は､国が定める医療に関する倫理指針を遵守しなければならない。
10　職員は、群馬県職員としての自覚を持ち、お互いに協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

～令和２年度の出来事から～



全自動遺伝子解析装置購入 (５月)



腹腔鏡カメラシステム購入 (６月)



病棟の夏祭り (７月 31 日)
第一病棟



感染相互チェック (10 月９日)
太田記念病院スタッフ来院



陰圧式エアーテント設置 (２月)



薬品冷凍冷蔵庫購入 (３月)

巻 頭 言

院 長　外 松　　学

2020 年 1 月年明けに中国から始まった新型コロナウイルス感染は世界的な大流行となりました。群馬県でも 3 月 7 日に第 1 例目が発生し、県を挙げての対策が本格化しました。その後、県内の患者も徐々に増加し、2020 年度になってもその勢いは続きました。4 月には緊急事態宣言が発令され、我々の日常生活にも大きな制限がかかるようになりました。

医療サイドへの影響も甚大で、新型コロナ患者の受入体制、発熱外来設置、新型コロナ患者以外の重症患者の受入対策等、様々な問題が噴出しました。我々にとって、今回の新型コロナ感染症のような新興感染症の大流行は、かつて経験がなく、何事に関しても初経験のことが多く、医療現場は混乱を極めました。新規発症患者の把握、患者の搬送、入院受入医療機関間の調整等に、多くの労力が費やされました。様々な対策にも係わらず、次々に、感染流行の波が繰り返し襲って来ました。感染症対策に重きを置いてこなかったこれまでの医療体制では今回のようなパンデミックには対応できないことが露呈しました。ポストコロナの医療体制では、新興感染症に対応できるような病院建設、非常時の医療スタッフ体制整備、地域全体を含めた医療提供体制の構築等、検討すべき課題は膨大です。また、パンデミック時における新興感染症以外の重症患者に対する医療の確保も合わせて検討する必要があると思われます。2024 年度から開始される第 8 次医療計画では「新興感染症等の感染拡大時における医療」が追加された 5 疾患 6 事業が議論される予定であり、国を挙げての本格的な感染症対策が動き始めるようです。

また、今回の新型コロナウイルス感染蔓延は病院経営にも大きな影響を与えました。外来患者数の減少、不急の検査入院／手術の制限、新型コロナウイルス感染に対する防護のための費用の増加、院内クラスター発生による入院制限など、数えあげると切りがありません。多くの医療機関で経営状態が悪化しました。現時点で、新型コロナウイルス感染がいつ終息するか予想が立たず、先行きが心配されます。

2021 年 3 月頃から、医療従事者へのワクチン接種が始まり、2021 年度に入ってからは、高齢者、基礎疾患を有する人、最終的には全国民へと接種が拡大されていくと思われます。ワクチン接種者が増加することで、現在の新型コロナウイルス感染のパンデミックが終息していく可能性があり大いに期待できるところです。今後、国民全員への接種をどう進めるかが大きな問題になってくると思われます。

2021 年 7 月

目　　次

業務編

1. 第一病棟 …… 3
⑴ 総合内科…… 6
⑵ 腎臓内科…… 6
⑶ 神経内科…… 7
⑷ アレルギー感染免疫・呼吸器科…… 7
⑸ 遺伝科…… 7
2. 第二病棟 …… 9
⑴ 小児外科…… 9
⑵ 形成外科……10
⑶ 整形外科……12
3. 第三病棟 ……15
⑴ 循環器科……15
⑵ 心臓血管外科……16
⑶ 血液腫瘍科……16
4. 小児集中治療部 ……17
5. 新生児未熟児病棟 ……20
6. 産科病棟 ……25
7. 麻酔科 ……27
8. 放射線科 ……28
9. 歯科・障害児歯科 ……29
10. 放射線課……31
11. 検体検査課・生理検査課……33
12. リハビリテーション課……35
13. 栄養調理課……40
14. 臨床工学課……41
15. 薬剤部……43
16. 看護部……46
⑴ 第一病棟……49
⑵ 第二病棟……50
⑶ 第三病棟……50
⑷ NICU 病棟 ……51
⑸ GCU 病棟 ……52
⑹ 小児集中治療部……53
⑺ 産科病棟……54
⑻ 手術室……54
⑼ 外　来……55

⑽　サービス向上委員会……56
17. 母子保健室……58
18. 地域医療連携室……61
19. 医療安全管理室……62
20. 感染対策室……66

研究研修編

1. 学会報告 ……71
◆小児内科……71
＜神経内科＞＜循環器科＞＜新生児科＞＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞
◆小児外科……73
＜一般外科＞＜形成外科＞
◆産　科……74
◆歯　科……74
◆検体検査課・生理検査課……74
◆放射線課……74
◆リハビリテーション課……74
◆栄養調理課……75
◆臨床工学課……75
◆看護部……75
2. 誌上発表 ……75
◆小児内科……75
＜神経内科＞＜循環器科＞＜新生児科＞＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞
＜血液腫瘍科＞
◆小児外科……79
＜一般外科＞
◆産　科……79
◆検体検査課・生理検査課……79
◆放射線課……79
◆リハビリテーション課……79
3. 単行本・その他 ……80
◆小児内科……80
＜循環器科＞＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞
◆小児外科……80
＜形成外科＞
4. 班会議等報告書 ……80
◆小児内科……80
＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞
5. 講　演 ……80
◆小児内科……80

＜神経内科＞＜循環器科＞＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞
◆歯　科……81
◆リハビリテーション課……81
6. 講習会・研修会 ……81
◆小児内科……81
＜循環器科＞＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞
◆放射線課……81
◆臨床工学課……81
◆薬剤部……82
◆母子保健室・地域医療連携室……82
7. 学会長・座長・その他 ……82
◆小児内科……82
＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞
◆産　科……82
◆検体検査課・生理検査課……82
◆リハビリテーション課……82
◆看護部……82
8. 学生講義 ……82
◆小児内科……82
＜神経内科＞＜循環器科＞＜新生児科＞＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞
◆歯　科……83
◆リハビリテーション課……83
◆臨床工学課……83
◆看護部……84
9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス ……85
10. 講話会……86
11. クルズス……86
12. CPC……86
13. その他……86
⑴　研究会・セミナー等……86
14. 公的資金による研究……87
1　院内研究費による研究 ……87
2　院外研究費による研究 ……92

統計編

1. 管理業務 ……96
⑴　会　計……96
①経営分析
②収益的収入及び支出
③月別医業収益内訳

2. 診療業務 …… 102
⑴ 総括表…… 102
⑵ 月別・科別外来患者受診の状況…… 104
◆ 1 日平均外来患者の状況
⑶ 月別入退院患者数…… 107
◆ 1 日平均入院患者の状況
⑷ 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数…… 109
◆地域別新規登録患者数
◆地域別入院患者の状況
◆地域別利用状況
⑸ 年齢階層別状況 (新規登録患者)…… 114
◆年齢階層別状況
⑹ 救急医療…… 115
②救急医療の状況
② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況
⑺ 予防接種実施状況…… 117
①月別実施状況
②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況
③推　移
⑻ 疾病分類別入院患者数…… 118
①第一病棟
②第二病棟
形成外科
整形外科
③第三病棟
④新生児未熟児病棟
⑼ 麻　酔…… 123
①月別麻酔件数
②年齢階層別状況
⑽ 放射線…… 124
①依頼科別件数
②月別件数
③検査種別件数
ア　CT
イ　MRI
ウ　RI
エ　X-TV
オ　US
カ　心臓カテーテル
キ　一般撮影
ク　ポータブル撮影

ケ　画像データコピー
⑾　臨床検査…… 128
①検査の状況
②血液製剤取り扱い状況
③分割取り扱い状況
④幹細胞保存
⑿　薬　剤…… 130
①調剤等の状況
ア　処方箋の枚数等
イ　調剤件数内訳
②注射剤の状況
ア　注射箋等の枚数等
イ　抗がん薬調製数
③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況
④薬剤情報件数等
⑤製剤等の状況 (種類別、製剤件数及び量)
⑥薬効別薬品購入額
⒀　リハビリテーション…… 135
①診療点数
②延べ治療件数
③延べ単位数
④年齢別患者実数
⑤リハビリテーション算定区分別実績
⒁　栄　養…… 138
①一般食の種類と食数
②離乳食の種類と食数
③特別食の種類と食数
④調乳の種類及び人数・本数
⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数
⑥ NST (栄養サポートチーム)
ア　NST 介入状況
イ　院内 NST 勉強会実施状況
⒂　臨床工学課…… 142
①臨床業務症例数
ア　体重別体外循環症例数
イ　疾患別内視鏡手術症例数
②月別始業点検件数
③月別人工呼吸器使用中点検件数
④月別院内修理件数
⑤月別定期点検件数
⒃　母子保健室…… 146

①精密健康診査
ア　保健福祉事務所・保健所別受診状況
イ　科別・年齢別受診状況
ウ　3 歳児健康診査・精密検診実施状況
エ　1 歳 6 か月児健康診査・精密検診実施状況
オ　科別受診状況及びその結果
②子どものこころの発達相談
ア　来院経路及び年齢別実施状況
イ　相談件数及び相談後の対応状況
③新生児・未熟児病棟 (A) および他病棟 (B) 入院患児の退院連絡
ア　退院連絡後の状況
イ　体重別退院連絡実施状況
④関係機関との連携状況
①から③の事業以外の相談・問合せの数
⑤関係機関との連携会議
⑥子ども虐待防止対策事業
⑦心理判定・心理カウンセリング
＜心理判定＞
ア　心理判定
イ　アの年齢別被検査者数
ウ　依頼科
＜心理カウンセリング＞
ア　心理カウンセリング
イ　初回心理カウンセリング実施時受診科
＜精神科コンサルト＞
⑧研修会等
⑨学会・研修会参加状況
⑩群馬県先天性代謝異常等検査事業
⑪親の会への支援
⑫その他
⑰　地域医療連携室…… 154
①医療相談件数
ア　相談内容及び件数 (地域医療連携室)
イ　公費負担医療費申請等事務取扱件数
ウ　身体障害者手帳
②子ども虐待防止対策事業
ア　院内 CAPS 開催状況
イ　要支援事例検討会状況

総括編

1. 沿　革 …… 159
◆開院後の歩み…… 160
2. 施　設
⑴　敷地・建物の面積…… 174
⑵　病棟構成並びに建物配置図…… 174
⑶　施設・設備の設置状況…… 175
⑷　付属設備　主なる付属設備一覧…… 182
⑸　重要物品　主なる医療機器一覧…… 185
3. 組　織
⑴　機構…… 189
⑵　人事…… 190
①役職者名簿
②職種別・部門別職員配置状況
4. 運　営
⑴　診療制度…… 193
⑵　院内会議の状況…… 197
令和 2 年度のあゆみ…… 198
職員名簿、職員異動状況…… 199
編集後記…… 202

業　務　編

1. 第一病棟

令和 2 年度の第一病棟は神経内科 6 名、アレルギー感染免疫・呼吸器科 4 名の医師で主な診療を行った。入院患者は 953 名であり昨年度の 1,037 名より減少した (入院患者詳細は別表 1-3 参照、死亡例なし)。

多種多様な疾患・患者を受け入れ、県内唯一のこども病院として求められる医療水準を維持する事は決して容易なことではなく、医師・看護師・他スタッフの献身的努力はもちろん、患者や患者家族の理解や協力に支えられて居ます。県内外あるいは院内からの要求に応えられないこともあると思いますが、他医療機関とも連携しながら、自分たちの役割を果たし続ける所存です。今後ともご理解・ご支援よろしくお願いします。

(椎原 隆)

表 1　第一病棟主診断別入院患者

疾患名	人	疾患名	人
食物アレルギー	257	先天性多発性関節拘縮症	8
COVID-19	58	尿路感染症	7
てんかん	57	睡眠時無呼吸症候群	6
麻痺	55	薬物過敏症	6
う蝕	49	アナフィラキシー	5
低ガンマグロブリン血症	48	腎盂腎炎	5
肺炎	44	脳症	5
胃腸炎	40	痙攣	4
気管支炎	33	起立性調整障害	4
糖原病 2 型	26	哺乳不全	4
脊髄性筋萎縮症	23	ウエスト症候群	4
呼吸不全	20	関節型若年性特発性関節炎	4
ミオパチー	14	慢性下痢症	3
筋ジストロフィー	14	埋伏歯	3
脱水症	12	麻痺性イレウス	3
気管支喘息	9	その他	115
川崎病	8	合　計	953

表 2　第一病棟入院患者年齢構成

1 か月未満	9 人	0.9%
1〜11 か月	108 人	11.3%
1 歳	92 人	9.7%
2 歳	81 人	8.5%
3 歳	96 人	10.1%
4 歳	60 人	6.3%
5 歳	69 人	7.2%
6 歳	75 人	7.9%
7 歳	59 人	6.2%
8 歳	43 人	4.5%
9 歳	23 人	2.4%
10 歳	22 人	2.3%
11 歳	34 人	3.6%
12 歳	28 人	2.9%
13 歳	24 人	2.5%
14 歳	18 人	1.9%
15 歳	27 人	2.8%
16 歳	17 人	1.8%
17 歳	7 人	0.7%
18 歳	2 人	0.2%
19 歳	9 人	0.9%
20 歳以上	50 人	5.2%
合計	953 人	100.0%

表 3　第一病棟科別入院患者数

アレルギー感染免疫・呼吸器科	514 人	53.9%
神経内科	334 人	35.0%
歯科	54 人	5.7%
循環器科	36 人	3.8%
外科（小児外科）	12 人	1.3%
一般内科（小児科）	2 人	0.2%
形成外科	1 人	0.1%
合　　計	953 人	100.0%

⑴ 総合内科

総合内科外来は月曜午前を清水彰彦 (アレルギー感染免疫・呼吸器科)、午後を山口 (遺伝科)、火曜午前を鈴木 (神経内科)、午後を道和 (神経内科)、水曜午前を清水有紀 (神経内科)、午後を山口、木曜午前を鈴木、午後を江原 (後期研修医)・椎原 (神経内科)、金曜午前を柴 (非常勤)、午後を森田 (神経内科) が担当した。日勤帯であればいつでも急患を受け付けており、1 次および 2 次医療機関からのご紹介により診療を行っている。またリハビリテーション前、心理カウンセリング前の診察も行っている。予防接種は他の医療機関での接種が困難な方を中心に主として感染症外来で実施している。総合内科を受診し、入院する場合は多くが第一病棟への入院となるので、入院患者数、およびその疾患については第一病棟の業務編をご参照いただきたい。なお入院診療も含め紹介の依頼があった場合には原則的に全てお引き受けする方針であるが、常勤医師がいない等の理由で診療が困難な疾患については他の医療機関に受け入れていただいている。さらには他の医療機関から医師を派遣していただき、より多様な疾患や病態に対応するようにしている。入院が必要と予測される場合や基礎疾患等から特別な対応を要する場合などは地域医療連携室および外来診療部門があらかじめご相談を受け円滑な受け入れを心がけている。

(野村 滋)

⑵ 腎臓内科

腎臓内科は令和 2 年度も常勤医が不在のままであり、外来診療のみ継続した。腎臓外来は、(火) の 1,3,5 週を丸山、(木) の 1,3,5 週を群馬大学小児科の池内助教、(金) の 2,4 週を鎌が担当した。前年度と同様に初診患者は (木) のみの受け入れとさせていただいたが、令和 2 年度の延べ受診患者数は 751 名であり、前年度より 39 名減少する結果となった。常勤専門医不在のため、急性・慢性ともに腎臓疾患の入院管理はできなかった。常勤医の復活が待たれるところである。

(丸山健一)

⑶ 神経内科

令和2年度神経内科外来担当は以下の通りで、外来患者数は新患97 (昨年度88) 名、再来2,921 (昨年度 2,952) 名と大きな変化はありませんでした。

月曜午前、金曜終日　椎原 隆
月曜午後、水曜終日　渡辺美緒
月曜午前　迫 恭子 (非常勤) /清水有紀
火曜終日　清水信三 (非常勤) /森田孝次
木曜午前　鈴木江里子/森田孝次
木曜終日　道和百合

県内で高い専門性を持って神経疾患に対応できる医療機関は限られており、少子化とは言っても、当院当科に対する重症・稀少あるいは慢性疾患などの要請はむしろ増えて来てます。しかしながら当センターは医療機関としては規模が小さく、医療スタッフ全体の数は多くないため、特に夜間や休日の対応は十分でない事もあります。紹介や転院のタイミングの調整をお願いすることもあると思いますが、自分たちが機能不全に陥ること無くより長く県内外の医療に貢献することが重要な課題と認識しています。皆様のご理解とご協力に感謝します。

(椎原 隆)

⑷ アレルギー感染免疫・呼吸器科

アレルギー感染免疫・呼吸器科ではアレルギー性疾患および感染症、リウマチ疾患、免疫不全症、呼吸器疾患の診療を行っている。

最近では好酸球性消化管疾患、消化管アレルギーおよびその関連疾患の診療が当科の特色の 1 つとなっている。また近年は感染症診療および感染管理業務を強化し、リウマチ疾患、自己免疫、自己炎症性疾患の診療にも力を入れており、多種多様な免疫異常による疾患に対して専門性の高い診療が可能になり、総合診療を担当する科としても診療の幅が拡がった。

また多くの初期研修医を受け入れた。院外活動では日本小児アレルギー学会による食物アレルギーおよび小児気管支喘息の診療ガイドライン作成に取り組み、感染症やアレルギーに関する講演を積極的に行った。当科で経験した症例、および感染症、好酸球、好酸球性消化管疾患、消化管アレルギー、細胞分離法、フローサイトメトリーを用いた新しい検査についての研究成果について学会・論文発表を行った。

当科の外来診療は月曜から金曜まで毎日、午後に行っている。経口食物負荷試験は入院での施行が多い。また感染症コンサルトについては院内外ともに随時受けている。当科では他科が担当している様々な基礎疾患のある方の診療、つまり境界分野の診療にあたることが多い。また患者様とご家族の家庭や集団での生活に対する支援にも力を入れている。総合内科としての役割と専門医療を診療の両輪として取り組んだ。

(野村 滋)

⑸ 遺伝科

遺伝科は平成 19 年 4 月に常勤化されて以降、令和 2 年度に 14 年目を迎えました。前年度に引き続き、常勤医 1 名での体制で山口 有が担当しました。

診療内容は先天性疾患・遺伝性疾患についての診断や情報提供、遺伝相談 (遺伝カウンセリング)、健康管理のための他科紹介などで、外来診療に加えて入院患者のコンサルテーションを行い

ました。専門外来は金曜午前・午後、月曜午前とともに他科受診に合わせて受診できるよう調整を行っています。

外来患者数は、院外紹介の新規患者が 33 人 (前年度 23 人)、院内紹介の新規患者が 80 人 (前年度 91)、遺伝科常勤化に伴う再紹介患者が 14 人 (前年度 25 人)、再診 840 人 (前年度 404 人) でした。院外からの新規患者は、群馬大学医学部附属病院、桐生厚生総合病院、長嶋歯科医院、太田記念病院、群馬中央病院、公立藤岡総合病院、高崎総合医療センター、光病院、前橋赤十字病院、本島総合病院、横田マタニティホスピタル、埼玉県立小児医療センター、順天堂大学医学部附属浦安病院よりご紹介をいただきました。院内紹介/再紹介の依頼元は新生児科 27 人、神経内科 23 人、循環器科 9 人、総合内科 7 人、アレルギー感染免疫科 6 人、整形外科 3 人、外科 3 人、形成外科 3 人、血液腫瘍科 1 人、歯科 1 人でした。

診断のための遺伝学的検査を行えるよう、保険診療内での検査以外にも、他施設との共同研究による研究的遺伝子解析の実施体制を更に整えました。研究的遺伝子解析については、昨年度に引き続き、慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センターや、未診断疾患イニシアチブ (IRUD) への参加を中心に患者さんの紹介、検査の実施を行いました。

平成21年度より続いている集団診療・家族会 (Down 症候群に対する集団診療「あさがおの会」、13 トリソミー・18 トリソミーの家族会「あさがお」については、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、今年度は実施を見送り、書面での交流を行いました。

(山口 有)

2. 第二病棟

第二病棟は外科系病棟であり、外科、形成外科、整形外科が計 27 床にて運用している。また同じ棟内にある DAY 病棟は外科、形成外科、歯科が 2 床にて運用している。

令和 2 年度の入院患者数は 793 人であり、令和元年度の 841 人より 48 人減少した。在院日数は 8.3 日であり、令和元年度の 7.8 日より延長した。延べ患者数は 6,678 人であり、令和元年度の 6,539 人より 139 人増加した。一日平均患者数は 18.3 人であり、令和元年度の 17.9 人より 0.4 人増加した。病床利用率は 67.8％であり、令和元年度の 66.2％より 1.6％増加した。

以上は Covid-19流行で一時的に各科が待機可能な定時手術を制限したことが原因と考えられる。

令和 2 年度の DAY 病棟の入院患者数は 404 人であり、令和元年度の 417 人より 13 人減少した。DAY 病棟の病床利用率は 55.3％であり、令和元年度の 56.8％より 1.5％減少した。

(西 明)

⑴ 小児外科

診療体制では、高本尚弘先生が大学の医局人事で異動となり、かわりに東京大学から則内友博先生、獨協大学埼玉医療センターから菊地健太先生が加わって、西 明、高澤慎也、則内友博、菊地健太、小山亮太の 5 人体制で診療しました。前年度が 4 人態勢だったので、少し余裕がでて、急患対応などが無理なくスムーズにできた印象があります。

入院数 601 例 (昨年度 593 例)、うち手術数 486 例 (昨年度 493 例)、新生児手術例は 22 例 (昨年度 36 例) でした。

なんといっても Covid-19 のための診療制限が一番の問題でした。物流の停滞から帽子やマスクの使いまわしもしましたし、5 月と 6 月は定時の待機できる手術を完全に停止させました。学会もほとんど中止や Web 開催となってしまって寂しい 1 年でした。

外科としては、びっくりするような症例や手術が大変だった症例も多々ありましたが、いろいろな科や手術室や病棟の看護師の方々やコメディカルの方々の皆さんの協力のもと、大きな問題もなく 1 年過ごすことができました。ありがとうございました。

その中でも印象的な症例としては、鼠経ヘルニアの子が、自分のヘルニアに「ぽこちゃん」と名前を付けていて会えなくなるのが寂しいといって泣いたというのが一番でした。それに対する小山先生の「会えなくなるけどおなかの中にいるんだよ。」と慰めた対応も最高でした。

コロナで少し空いた時間に僕も新しく何かに挑戦しようと思って、うちの小 1 の末っ子が挑戦していたリップスティックを始めてみました。くねくねすいすいと行けるようなるとなかなか気持ち良いのです。ちょっとできるようになって調子に乗ったときにすごい勢いでひっくり返って空中を飛んだときには死ぬかと思いました。腕の骨が折れましたとかならないようにしながら、これからも上達するよう頑張ろうと思います。

(西 明)

＜手術症例＞

手術症例　R2 年度 (重複含む)

正中頚嚢胞，側頚瘻手術	3	小腸切除	2
気管切開	4	腸重積観血的整復	3
喉頭気管分離術	6	ヒルシュスプルング病根治手術	1
気胸手術 (胸腔鏡)	0	直腸肛門奇形手術 (低位)	8
肺葉切除 (開胸)	1	直腸肛門奇形手術 (中間位・高位)	1
肺葉切除 (胸腔鏡)	1	肛門疾患	8
肺分画症手術 (胸腔鏡)	1	胆道閉鎖症手術	1
A 型食道閉鎖症手術	0	胆道拡張症手術 (開腹)	2
C 型食道閉鎖症手術	3	胆道拡張症手術 (腹腔鏡)	0
食道バンディング	1	脾臓摘出術 (開腹)	1
食道アカラシア手術 (腹腔鏡)	0	水腎症手術	0
胃・食道逆流防止手術	0	膀胱尿管逆流症手術	0
胃・食道逆流防止手術 (腹腔鏡)	15	悪性腫瘍手術	4
横隔膜ヘルニア手術 (開腹)	1	良性腫瘍手術	9
横隔膜ヘルニア手術 (胸腔鏡)	1	腫瘍生検	7
先天性腹壁異常手術	1	中心静脈カテーテル挿入	26
胃手術 (胃瘻含む)	11	鼠径ヘルニア (精巣水瘤含む) 手術	80
肥厚性幽門狭窄症手術	9	鼠径ヘルニア (精巣水瘤含む) 手術 (腹腔鏡)	76
腸閉鎖・狭窄症手術	4	精巣固定術	33
腸回転異常症手術	3	気管支鏡	0
虫垂炎手術 (開腹)	2	上部消化管内視鏡 (治療含む)	48
虫垂炎手術 (腹腔鏡)	23	下部消化管内視鏡 (治療含む)	27
人工肛門造設	10	小腸カプセル内視鏡	13
人工肛門閉鎖	5	その他手術	25
イレウス手術	6	合　　計	486

⑵ 形成外科

令和 2 年度は 4 月に佐々木淑恵医師が常勤医として赴任し、浜島と佐々木医師の常勤医 2 人体制で診療を行った。また、以前に当院に勤務していた専門医である荒木夏枝医師に前年度と同様に非常勤として水曜日に勤務していただいた。佐々木医師は令和 3 年 1 月に産休にはいったため、江崎聖美医師がレジデントとして 2 月から赴任し、専門医 1 名とレジデント 1 名という体制となった。

新型コロナに対する対応として、病院全体として外来および手術の制限を行った時期があったため例年よりも外来患者数、手術数は減少した。

＜外来診療＞

外来診療は月曜日・木曜日の午後に行い、新患患者は月曜日・木曜日の午前中の予約診察として行った。また、月曜日の午前中に外来で血管腫に対するレーザー治療を行った。

令和 2 年度の新患患者数は 453 人、再診患者数は 3,530 人、総数 3,983 人であった。新型コロナへの対応として外来制限を行ったため前年度と比較して減少した (令和年度の新患患者数は 482 人、再診患者数は 3,840 人で、総数 4,328 人)。

＜手術＞

手術は、水曜日・金曜日に入院全身麻酔手術及び日帰り全身麻酔手術を行っている。また金曜日午後には、手術枠の空きが有る場合に外来局所麻酔手術を行った。

令和 2 年度の形成外科の手術件数は 1,158 件で、全身麻酔 189 件 (入院 151 件、日帰り全身麻酔下手術 38 件)、局所麻酔 953 件であった。前年度と比較すると手術制限を行った影響もあり、手術数は減少した。(令和元年度の形成外科の手術件数は 1,190 件で、全身麻酔 208 件 (入院 141 件、日帰り全身麻酔下手術 67 件)、局所麻酔 981 件。

手術症例を手術内容区分に従って分類し、その術式とともに以下に示す。

⑴	新鮮熱傷	0 件	
⑵	顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷	0 件	
⑶	唇裂・口蓋裂	31 件	
	口唇鼻形成術	10 件	
	口唇鼻修正術	3 件	
	口蓋形成術	10 件	(耳鼻科で鼓膜切開もしくは鼓膜チューブ留置術を同時施行 4 例)
	顎裂部骨移植術	8 件	
⑷	手、足の先天異常、外傷	19 件	
	多指症手術	8 件	
	合指症手術	3 件	
	合趾症手術	4 件	
	多合趾症手術	3 件	
	裂手症手術	1 件	
⑸	その他の先天異常	73 件	
	副耳切除術	14 件	
	耳瘻孔切除術	6 件	
	小耳症手術	1 件	
	睫毛内反症手術	11 件	
	舌小帯形成術	4 件	
	頬小帯形成術	1 件	
	漏斗胸手術 (Nuss 法)	4 件	
	漏斗胸手術 (Nuss 法術後バー抜去)	6 件	
	臍ヘルニア形成術	21 件	
	白線ヘルニア形成術	1 件	
	尿膜管摘出術	3 件	
	腋臭症手術	1 件	
⑹	母斑、血管腫、良性腫瘍	68 件	
	母斑切除術	20 件	
	良性腫瘍切除術	39 件	
	血管腫切除術	6 件	
	静脈奇形硬化療法	1 件	
	リンパ管腫切除術	1 件	

外骨腫切除術	1 件	
⑺ 悪性腫瘍およびそれに関連する再建	0 件	
⑻ 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド	5 件	
瘢痕拘縮形成術	5 件	
⑼ 褥創、難治性潰瘍	0 件	
⑽ 美容外科	0 件	
⑾ その他	962 件	
レーザー治療	961 件	(うち全身麻酔下 7 例)
皮膚生検術	1 件	

今年度は新型コロナの影響で、手術数は減少したものの、手術内容に関しては、例年と特に大きな変化は認めなかった。

口唇口蓋裂においては、顎裂部骨移植の症例が増加している。長期休みでの手術を希望される患者さんが多いため、手術予定を立てるのが困難な状況で、漏斗胸に関しても同様である。

血管腫に対するダイレーザー V-beam による治療は、前年に引き続き月曜日午前中に行っている。月曜日が祝日になることが多く、予約を入れるのが困難な状況である。午前中に 20〜30 人のレーザー治療を行っているため、待合いが三密になってしまうことも問題となっている。また、乳児血管腫に対するプロプラノロール内服治療も徐々に認知され、内服治療目的で紹介される症例も増加している。

新型コロナの流行時の対応として「不要・不急の手術は延期が望ましい」という指針が外科系の学会より出されている。形成外科で扱う疾患は、手術しないと命にかかわってしまうものは少なく「不要・不急の手術」にあたるものが多い。しかしながら、口唇口蓋裂、手足の異常などの小児の治療においては、手術を至適時期に行う必要がある。このため、手術制限や延期が必要な事態になれば至適時期に手術を受けられない可能性があるが、今年度は幸いにも手術の一部制限のみであったため問題となった症例はなかった。

(浜島昭人)

⑶ 整形外科

1．スタッフ

部長: 浅井伸治

資格: 日本整形外科学会専門医、義肢装具等適合判定医 、身体障害者福祉法第 15 条指定医

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会幹事、日本小児股関節研究会

非常勤医師: 富沢仙一

資格: 日本整形外科学会専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター、運動器リハビリテーション認定医

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会、日本リハビリテーション学会、日本足の外科学会、日本創外固定学会、日本二分脊椎研究会、脳性麻痺の外科研究会、日本関節鏡学会、関東整形災害外科学会

2．総　括

令和 2 年 3 月 31 日をもって富沢仙一先生がご退職され常勤医 1 名となりました。

4 月 1 日から富沢仙一先生は非常勤医師として月曜から木曜まで外来診療、手術に参加され診療体制を維持しております。

当科の特色は、脳性麻痺や二分脊椎に対する包括的治療の試みと、さらに、変形治癒骨折や低身長に対し骨延長術、創外固定術、小児股関節の手術治療である。

整形外科外来は、21 診察室、22 診察室は診察を主体の部屋とし、23 診察室は処置室とし、ギプス処置、装具作製等を行っている。

骨長補正術は、以前は短肢側の骨延長術のみであったが、8-プレートによる成長抑制術が差の小さい場合には有用であり、片側肥大症例 (或いは片側低形成症例) に行われている。

小児股関節疾患について、自己血貯血、股関節造影の後、2 期的に内反骨切りを行う治療対象は昨年より減少し、2 例であった。

本年の特徴として新型コロナウイルスによる医療資源の供給不足があり令和 2 年度当初は手術制限により 4、5 月の手術件数は少なかったが、手術を行えない代わりにボトックス施注が 6 月に 5 人と多かったことが上げられます。

	月	火	水	木	金
午前	再来	手術	再来	小手術、BTX	再来
午後	新患	手術	新患	書類ほか	リハビリ

整形外科研修医の後期研修医の研修受け入れはなかった。

3．外　来

総受診者数 3,219 人、新患 342 人、再来 2,877 人であった。総受診者数は 262 人減少し、新患は 19 人減少し、再来者は 279 人の減少であった。当科における新患数は入院、外来で他科からの予定外の紹介や過去の通院患者の新規受診なども含まれており、診察日の実際の総受診者の記録が電子カルテに反映されないために、実際の受診者数との乖離がある。

外来日には、主に、午前中を再来に、午後を新患にあてた。予定ギブス等の処置は再来終了時刻を目安にギプス処置枠を置いて、行なった。小児整形外科的ギプスは 109 回行った。現在、外来を能率的に進めるために、前日までの予約患者リストにてレントゲン検査者や装具作成者をピックアップし滞りのない流れを作っている。それでも外来の待ち時間が長くなりつつある。医師補助員が外来時に 1 名ついた。

4．病棟入院患者数

延べ入院患者数は 64 人であった。創外固定装着症例は 2 人であった。

予定外の入院が 12 人 (うち緊急 2 人を含む 5 人が手術治療) あり、環軸椎回旋位固定による牽引治療が 3 人、大腿骨頸部骨折の保存的治療 1 人、血管腫を伴う膝関節血腫が 1 人であった。

下肢の手術が多いため、免荷や骨延長に長期間を要し在院日数は長くなる傾向がある。比較的年長児、学童期にある患者が治療対象となることが多く、赤城特別支援学校が併設されていたことは有用であった。

5．手術件数

手術は103件、うち麻酔下の検査を20件 (関節造影18件、自己血採血2件) 行なった (別表1参照)。予定外の手術として、緊急手術 3 件 (化膿性股関節炎 2 件、減張切開術 1 件)、骨折などによる臨時手術が 4 件ありました。

なお、手術に関する施設基準について、区分 2 に分類される手術:「靭帯断裂形成手術等」については、手術なし、区分 3 に分類される手術:「内反足手術等」については、3 例の手術を実施した。脚長補正術に関しては、骨延長術 (Ilizarov Frame 使用) 2 例、骨端軟骨発育抑制術 9 例 (8 プレート使用) 行った。

脳性麻痺児に対するボトックス施注を 20 例に行った。

(浅井伸治)

別表 1【手術件数】103 件

関節鏡	
膝	0
足	0
関節造影	
肩関節	0
肘関節	0
股関節	5
膝関節	6
足関節	7
自己血採血	2
骨生検	0
筋性斜頚	3
先天性股関節脱臼	
徒手整復	1
観血整復	1
Salter 手術	0
減捻内反骨切術	1
ペルテス病	
内反骨切り	1
Salter 手術	1
大腿骨頭辷り症	1
骨折観血的整復固定術	4
偽関節手術	1
矯正骨切り術	2
創外固定器使用手術	1*
骨延長術	
大腿骨	1
脛骨	1
成長軟骨抑制術	
大腿骨遠位	9
脛骨近位	10
骨、軟部腫瘍	
摘出術	0
先天性ばね指	
腱鞘切開	6
骨関節感染症	
化膿性股関節炎掻爬術 (股)	2
骨掻爬術	1
断端形成術	0
デブリードマン	1
先天性内反足	
後内方解離	3
エバンス	1
三関節固定術	0
二関節固定術	2
脳性麻痺	
股関節観血授動術	0
膝関節観血授動術	1
足関節観血授動術	3
二分脊椎	
後方解離	0
後内方解離	1
エバンス	0
組み合わせ	0
三関節固定術	0
減張切開術	1
多指症	2
腱延長術	1
骨部分切除	2
抜釘術	33
創外固定器除去手術	4
計　造影検査 (18 件) を除く	103

*: 同時処置として重複を示す

3. 第三病棟

第三病棟 (血液腫瘍・循環器) の延べ入院患者数は 6,325 人、1 日平均入院患者数は 21.2 人、年間病床利用率は 70.2%と、いずれも令和元年度より増加していた。

第三病棟の病室の不足や比較的医療的ケアが多い重症患者を PICU から受け入れなければならない状況があり、安全管理上の問題にも努力をし、PICU から循環器・心臓血管外科患者の退室や受け入れが比較的スムーズに行われるようにしている。年間病床利用率が上昇したため、病室の不足時には予定入院患者の一部や比較的循環が安定した患者を他病棟に移動させるなど、病院全体として対応した。循環器疾患と血液腫瘍疾患という重症疾患を扱う病棟であり、それぞれ高度の専門知識と看護力を必要とする分野である。小児がんの化学療法を行う一方で、重症心疾患の術前管理や心不全管理を行うなど、疾患概念が全く違う患者の看護を同時に行う看護師の負担は大きい。医療安全を考慮しながら、患者家族を中心に考えられる業務環境を整えていきたい。

(河崎裕英)

⑴ 循環器科

令和 2 年度は、小林富男、下山伸哉、池田健太郎、中島公子、浅見雄司、新井修平の 6 名体制で診療を行った。また、群馬大学の後期研修医 5 名をそれぞれ 3 週間ずつ受け入れ、小児循環器診療についての研修を行った。

年間総入院患者数は 524 名であった。断層心エコーは 6,463 件であった。心臓カテーテル検査は 161 件であった。Catheter intervention は、バルーン拡張術 35 件、血管内コイル塞栓 6 件、経皮的 ASD 閉鎖術 3 件、Amplatzer PDA 閉鎖栓 4 件、PDA コイル塞栓 4 件、カテーテルアブレーション 7 件、BAS 3 件の計 62 件であった。循環器科関連の死亡は 4 件であった (表 1)。新型コロナウイルスの影響により PICU の一部閉鎖、カテーテルの制限などを行ったため症例数は例年より減少したが、重症患者については通常通りの対応がおおむね可能であった。

循環器科では重症患者を多く扱っており、毎日循環器科・心臓外科でチームカンファレンスを行い治療方針の検討を行っている。また PICU が円滑に運営できるようベッドコントロール会議を毎日行い緊急患者に対応できるよう努めている。

令和 3 年度も群馬県内唯一の小児循環器科として質の高い医療を提供できるよう努めていきたい。

(池田健太郎)

表 1　循環器科関連の死亡患者

No	年　齢	性　別	死 亡 日	診　　断	解　剖	Ai
1	29d	F	2020.6.5	PAIVS, 類洞交通	なし	なし
2	7m	M	2020.10.11	TAPVC, PVO	なし	なし
3	2y1m	F	2021.3.8	AVSD, CoA	なし	なし
4	11y8m	M	2021.3.16	asplenia, SV, 慢性心不全	なし	あり

⑵ 心臓血管外科

令和 2 年度は、岡徳彦、友保貴博、林秀憲、井上崇道医師の延べ 4 名が心臓血管外科チームとして診療にあたりました。年間を通して良好な手術成績を残すことができました。重症な心疾患を多く扱っているにも関わらず良好な成績を残すことができたのも、ひとえに小児循環器科を含めた循環器チーム、その他の診療科、診療部門との連携、協力があったからこそと感謝しております。今後ともこの成績を維持し、症例数増加を目指し努力していきたいと思います。

(岡村 達)

⑶ 血液腫瘍科

令和 2 年度の血液腫瘍科総入院数 (再入院を含む) は、昨年と同様である。

実入院数は 57 例、新規入院患者数は 33 例と、ともに微増している。疾患の内訳は、白血病・リンパ腫 62.3%、固形腫瘍 9.1%、非腫瘍性血液疾患 15.2%、脈管系奇形 4.8%、その他 8.6%であった。

昨年度から引き続き血管腫に対するプロプラノロール投与のクリニカルパス入院が増加している。昨年度から、入院中および退院後の小児がん患児やその家族を支援する目的に、当院に関わりのあったご家族を中心に様々な支援活動をしていただく試みを開始している。今後、発展させていく予定である。

(河崎裕英)

4. 小児集中治療部

令和2年度は小児集中治療部 (以下 PICU) の専任医師を固定配置する方針として5年目となった。オープン ICU 形態での運営は続いており、心臓血管外科および循環器科主体で運営し、令和 2 年度からは循環器科医師 (新井、浅見、中島) が 4ヶ月交代で専任としてローテートし各科入室者の担当医との協力のもと業務を行った。

特筆すべきは令和元年度後半から新型コロナウイルス感染症による感染が拡大したことである。当院は重症心疾患患者等の患者が多く、未知のウイルスの脅威に対しどのように対応するか、PICU 部門でも県内の他の ICU 部門と連携の模索を始めた。幸いにも現時点では小児の重症感染者は多くなく、当院では人工呼吸管理が必要な新型コロナウイルス感染症重症患者の収容はなかったが、擬似症や疑い症例の対応に苦慮した。今後の感染拡大リスクは当分続くと考えられ、通常業務を行うことの難しさを痛感した 1 年であった。実際、PICU への新規入室制限を余儀なくされ入室制限を行った日数は年間 130 日 (36%) であり、平成 30 年度の 65 日、令和元年度の 100 日とさらなる増加傾向を示した。数年前と比較しベッド調整においては大幅に改善されてはいるが、重症疾患患者の長期在室の問題や、また、ハイケアユニットレベルの管理が必要な病状の患者さんの収容ベッドの確保は依然として大きな問題点である。今年度は新型コロナウイルス感染症患者増加の影響で病床数を 5 月から一時的に 6 床に削減せざるを得ない状況となったこともこれに拍車をかけていたと考えられ、安定した病床確保が急務と考えられた。また、新型コロナウイルス感染症患者受入協力機関として、陰圧室等の再整備を行い部門の体制整備を行った。また、当院の小規模で各科との連携がしやすいメリットを活かした多職種の連携に関しては、リハビリテーション科と協力しての早期リハビリテーション介入、歯科診療や NST、心のサポートチームの介入、臨床工学部門や感染症科、薬剤部と連携は日常業務として根付いている。

令和 2 年度に PICU で治療・管理を行った患者数はのべ 242 名で、8 床の運用で 1 日平均入院患者数は6.6名 (前年6.4名)、平均入室日数は7.6日 (前年7.5日) で、入室期間は同様の傾向を示した (表1)。全入室患者のうちわけは、例年同様約 7 割は手術後の管理のための入室で、その他は一般病棟入院中の患者状態悪化で入室になったケース 41 件 (前年 31 件)、外来からの直接入院 5 件 (前年 15 件)、当院産科での重症先天性心疾患児の出生後の入院 (胎児診断後) 9 件 (前年 9 件) であった。また、他院からの重症者の転院は 16 件 (前年 29 件) であり、いずれのケースも緊急入室であった (表2)。新型コロナウイルス感染症の流行の影響で例年見られる RS ウイルス感染等の感染者の減少傾向が特徴的であった。

また、新生児・乳児への緊急開胸 ECMO 装着など PICU 内での手術を含めた緊急処置は42件 (前年 35 件) あり、PICU 内での迅速な対応が求められている状況は同様であった。通常の呼吸循環管理等以外の特殊な治療としては、ECMO 3 件 (前年 4 件)、CHDF 14 件 (前年 6 件)、血漿交換 4 件 (前年 21 件)、NO 吸入治療 33 件 (前年 28 件)、N2 吸入治療 4 件 (前年 3 件) であった。その他、脳低温療法 1 件、腹膜透析 9 件、PMX 0 件であった。

科別在室日数では循環器科・心臓血管外科患者が 83% (前年 81%) (図 1)、診療科別入院患者数も図 2 のごとく循環器科・心臓血管外科が 58% (前年 63%)、外科が 27% (前年 18%) を占め、従来と同様に術後患者の管理が中心であった。また、PICU 入室者を年齢構成別にみると、新生児 (1ヶ月未満) と 1 歳未満の乳児 (1ヶ月～1 歳未満) が 21%と多くをしめた (図 3)。また、PICU における死亡患者は 2 名 (前年 7 名) (約 0.8%) であった。2 名とも重症心疾患に対する心臓手術術後症例であった。

最後に新型コロナウイルス感染対応も含め、当院 PICU に求められている役割は、県内他院で対応困難な重症小児を遅滞なく対応することであり、新型コロナウイルス感染症が蔓延している現在その状況は更に加速している状態といえる。

(下山伸哉)

表 1　平均在室日数

診　療　科	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
全診療科	6.9	7.5	7.6
循環器科・心臓外科	9.5	9.7	10.0
アレルギー・呼吸器・感染免疫科	12.2	17.9	11.0
神経内科	3.5	4.1	3.7
血液腫瘍科	2.3	7.6	1.5
整形外科	1.3	1.0	4.0
外科	3.1	1.5	2.0
形成外科	1.2	0.9	0.9
その他内科系診療科	0	0	0

表 2　他院からの転院患者疾患名

疾　患	症　例　数
脳炎・脳症	0 (1)
痙攣重積等	2 (5)
先天性心疾患	4 (9)
心筋疾患等	2 (1)
後天性心疾患	2 (3)
呼吸器感染等	2 (4)
急性腹症等	2 (0)
尿路感染症	0 (1)
不慮の事故／外傷	0 (3)
その他	2 (2)
合　計	16 (29)

図 1　診療科別在室日数

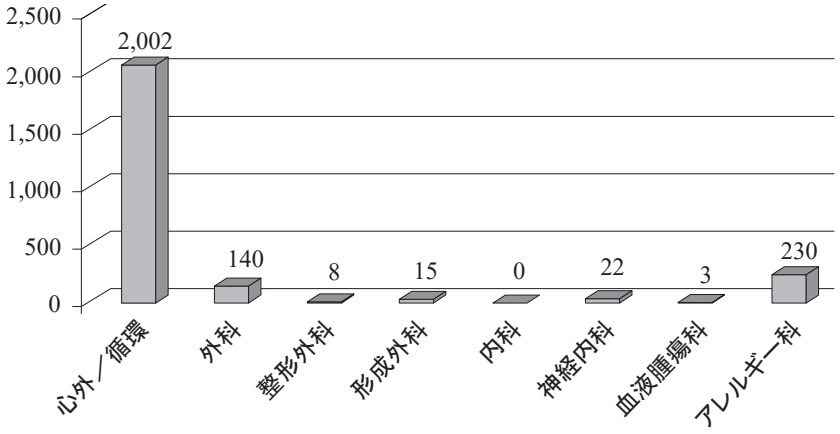


図 2　診療科別入院患者割合

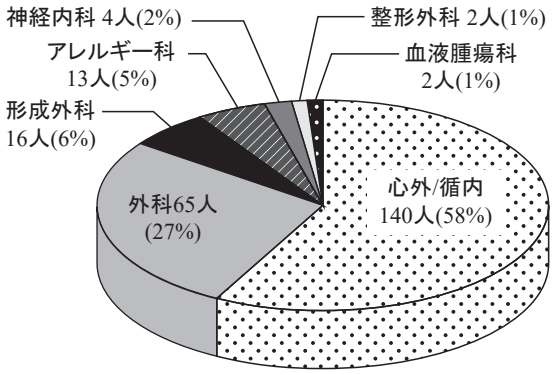
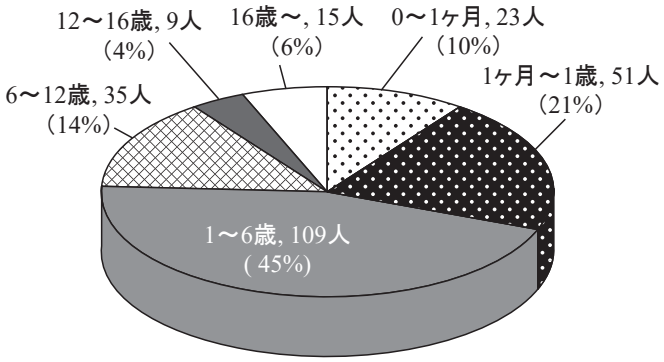


図 3　PICU入院患者年齢分布



5. 新生児未熟児病棟

今年度の入院患者数は 241 名で、最近数年間は 280 〜 300 名前後で推移していたのに比較すると大きく減少していた。出生体重、在胎期間別の入院数をみると、極低出生体重児は 47 名、超早産児は 30 名で、例年と大きな変化はなかった。出生場所別の入院数は、院内出生の児は 168 名で例年と同様であったが、院外出生の児は 73 名で、減少が目立った。県内の出生数の減少が著しいことや地域の周産期センターでの軽症例の受け入れが増えていることが原因となっている可能性がある。

入院数が減少しているにも関わらず、病床稼働率は前年度と同様、高い水準で推移していた。今年度は死亡患者数も少なかったことから、極めて未熟性の強い早産児や重症新生児の救命例が増加し、これに伴い、入院期間が長くなっていることが示唆された。円滑な入院患者の受け入れのためには、入院が長期化している患者の院内での転棟、地域の医療機関への逆搬送、在宅医療への移行などについて今後も引き続き検討する必要がある。

そのような状況下で、今年度は常勤医師が 5 名に減ったため、2019 年度に行なっていた NICU の医師当直を夜勤の体制に切り替える試みを中止し、当直体制に戻した。今後、一定数の医師数を確保することができたら、再度、夜勤体制を試みることになっている。

新型コロナウイルス感染症流行のため、今年度のオープンカンファレンスは中止とした。また、毎年冬に行なっている県主催の当院での県内の医療従事者向けの新生児蘇生法講習会と救急救命士向けの新生児蘇生法講習会も中止とした。しかし、院外向けの新生児蘇生講習会は、11 月に S コースと救急救命士向けの P コースを各 1 回、3 月に消防学校で救急科の学生に対して P コースを行うことができた。今後、新型コロナウイルス感染症の流行状況などをみながら、従来行なっていた研修会を適宜開催してきたいと考えている。

(丸山憲一)

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総　数
500g未満	2	0	2
500 〜 999g	23	5	28
1000 〜 1499g	15	2	17
1500 〜 1999g	38	2	40
2000 〜 2499g	39	13	52
2500g以上	51	51	102
計	168	73	241

◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総　　数
22 週	2	0	2
23 週	4	0	4
24 週	7	1	8
25 週	6	2	8
26 週	4	1	5
27 週	3	0	3
28 週	0	0	0
29 週	3	2	5
30 週	11	0	11
31 週	5	0	5
32 週	8	0	8
33 週	6	1	7
34 週	17	1	18
35 週	13	3	16
36 週	10	4	14
37 週	24	19	43
38 週	19	5	24
39 週	13	18	31
40 週	9	13	22
41 週	4	3	7
42 週	0	0	0
不明	0	0	0
計	168	73	241

◆疾患の分布

呼吸窮迫症候群	30	先天性後鼻孔閉鎖	1
胎便吸引症候群	2	気管支低形成	1
新生児一過性多呼吸	34	抜管困難	1
気胸・気縦隔	8	新生児仮死	46
無呼吸発作・反復性無呼吸	32	新生児重症仮死	34
喉頭軟化症	1	新生児けいれん・けいれんの疑い	3
先天性胸水・腹水	4	頭蓋内出血	11
新生児持続性肺高血圧症	4	出血後水頭症	1
慢性肺疾患	23	低酸素性虚血性脳症	2
声帯麻痺・両側声門開大不全	2	全前脳胞症	2
誤嚥性肺炎・誤嚥性肺炎の疑い・誤嚥の疑い	1	脳静脈血栓症・脳動静脈血栓症・脳静脈血栓症の疑い	1
先天性横隔膜ヘルニア	1	頭蓋縫合早期癒合症	1
肺高血圧症	2	脳梁欠損・脳梁低形成・脳梁欠損の疑い・脳梁低形成の疑い	6
声門下狭窄・喉頭狭窄・声門下粘膜肥厚・声帯浮腫	1	小脳低形成	3
胸郭低形成・胸郭低形成の疑い	1	裂脳症・多小脳回	1
Dry lung syndrome	2	墜落産児	1
間質性肺気腫	1	くも膜嚢胞・くも膜嚢胞の疑い	2

◆疾患の分布

大槽拡大	1	門脈体循環シャント	2
てんかん・てんかんの疑い	2	鼠径ヘルニア	3
係留脊髄	1	ヒルシュスプルング病･ヒルシュスプルング病の疑い	1
脊髄脂肪腫	1	胎便性腹膜炎	2
仙尾部欠損	1	哺乳不良・哺乳障害	1
脳脊髄萎縮	1	胆石症	2
皮質指状嵌合	1	臍帯ヘルニア	1
高インスリン血性低血糖症 (一過性・持続性)	5	臍ヘルニア	11
新生児高ビリルビン血症	159	肝被膜下出血・肝出血・肝損傷	1
新生児重症黄疸	2	短腸症候群	1
未熟児くる病	32	臍腸管遺残	1
汎下垂体機能不全・下垂体機能不全の疑い	2	総胆管拡張症・総胆管拡張症の疑い	1
新生児低血糖症	11	亜鉛欠乏症	4
高血糖	6	総排泄腔遺残	1
副腎出血・副腎出血の疑い	1	肝内石灰化	1
糖尿病母体児	1	食道裂孔ヘルニア	1
ミトコンドリア呼吸鎖異常症の疑い･ミトコンドリア病	1	膵頭部嚢胞性腫瘤	1
先天性副腎過形成 (リポイド過形成)･先天性副腎過形成の疑い	1	仮性メレナ	1
尿崩症・尿崩症の疑い	3	先天性食道狭窄・先天性食道狭窄の疑い	1
SIADH	1	麻痺性イレウス	2
二次性副甲状腺機能亢進症	1	肝線維症・肝線維症の疑い	1
非ケトーシス型高グリシン血症	1	腸管不全関連肝障害	1
敗血症・菌血症・敗血症性ショック	5	多発性結腸狭窄	2
先天性サイトメガロウイルス感染症	1	VSD	15
感染症 (focus 不明)・感染症の疑い	4	DORV	1
蜂窩織炎	1	ASD	1
後天性サイトメガロウイルス感染症	1	MS	1
子宮内感染症の疑い	1	PA	2
尿路感染症	6	MAPCA・MAPCA の疑い	1
カテーテル関連血流感染症･カテーテル関連感染の疑い	1	大動脈弁狭窄	1
新生児特発性嘔吐症	3	動脈管早期収縮・動脈管早期収縮の疑い	1
腸回転異常症・中腸軸捻転	3	大動脈縮窄症・大動脈縮窄の疑い	2
腸穿孔	3	左心低形成	1
胃食道逆流症・胃食道逆流症の疑い	6	症候性動脈管開存症	25
先天性十二指腸閉鎖	1	発作性上室性頻拍	1
胎便関連性腸閉鎖症･胎便関連性腸閉鎖症の疑い	4	上室性不整脈･上室性期外収縮･上室性頻脈	2
小腸捻転・結腸小腸捻転	3	ductal shock	1
先天性食道閉鎖	3	左上大静脈遺残	2
肥厚性幽門狭窄症	3	肺高血圧	1
鎖肛・鎖肛の疑い	6	単心室・機能性単心室	1
急性胃粘膜病変	1	右側大動脈弓	1
腹壁破裂	1	三尖弁閉鎖	1
小腸閉鎖	2	左室緻密化障害・左室緻密化障害の疑い	1
ミルクアレルギー･ミルクアレルギーの疑い･好酸球性胃腸炎	5	末梢性肺動脈狭窄	1

◆疾患の分布

肺動脈弁狭窄	2
右室憩室	1
左鎖骨下動脈起始異常	1
胎児水腫	2
結節性硬化症・結節性硬化症の疑い	1
Treacher-Collins 症候群	1
Apert 症候群	1
クラリーノ症候群	1
OEIS 症候群	1
口唇裂・口蓋裂	10
小顎症	5
魔歯	1
歯肉腫・歯肉腫瘤	1
21 トリソミー・21 トリソミーの疑い	9
18 トリソミー	1
13 トリソミー	1
7p 部分モノソミー	1
1q モノソミー	1
難聴・難聴の疑い	15
副耳	1
未熟児網膜症	15
外耳道閉鎖・外耳道閉鎖＋小耳症	1
小耳症・小耳介	1
無眼球・小眼球	1
鼻腔狭窄・後鼻腔狭窄	2
耳瘻孔	1
未熟児貧血	60
貧血・重症貧血・鉄欠乏性貧血・乳児貧血	10
血管腫・苺状血管腫・血管腫の疑い	6
TAM・TAM の疑い	4
心臓腫瘍・心臓横紋筋腫	1
カテーテル関連血栓症	1
その他の溶血性貧血	1
ABO 不適合	6
副腎腫瘍・副腎腫瘍の疑い	1
溶血性貧血・溶血性貧血の疑い	1
右房内血栓	1
リンパ管奇形	1
水腎症・水腎症の疑い	4
高 K 血症	4
低 Ca 血症	2
膀胱外反症	1
尿道下裂	2
馬蹄腎・癒合腎	2
停留精巣・停留精巣の疑い	4
嚢胞性異形成腎・多嚢胞性異形成腎	1
卵巣嚢腫・嚢胞	1
二分陰嚢	2
小陰茎	1
異所性腎	1
過剰腎	1
陰茎無形成	1
双角子宮の疑い	1
多指症	4
先天性内反足	2
欠指症	1
骨形成不全・骨形成不全の疑い	1
合指症	5
脊椎奇形	2
脛骨	1
点状軟骨異形成症の疑い	1
母指球部腫瘤	1
単純性血管腫	2
後頸部肥厚	1
双胎	33
品胎	9
中心静脈カテーテル遺残	1

◆新生児未熟児病棟死亡症例及び剖検

	年齢	性別	死亡日	病　　名	剖検	Ai
1	0歳	男	2021.7.30	21トリソミー、低出生体重児(在胎35週6日、出生体重1880g)、一過性骨髄異常増殖症、肝線維症、胎児水腫、新生児重症仮死、心室中隔欠損症、新生児高ビリルビン血症、Serratia菌血症／尿路感染症	なし	なし
2	0歳	女	2020.12.12	超低出生体重児(在胎22週6日、出生体重620g)、新生児重症仮死、呼吸窮迫症候群、間質性肺気腫、敗血症	なし	なし
3	1歳	女	2021.1.2	13トリソミー、低出生体重児(在胎37週0日、出生体重2172g)、新生児仮死、唇顎口蓋裂、心室中隔欠損症、動脈管開存症、高度脳室拡大、小脳低形成、頭皮欠損、多嚢胞腎、高インスリン血性低血糖症、新生児高ビリルビン血症、無呼吸発作、肺高血圧症、誤嚥性肺炎、血小板減少症、ネフローゼ症候群、新生児けいれんの疑い、鉄欠乏性貧血、ビタミンD欠乏症	なし	なし

6. 産科病棟

令和 2 年度はフルタイム常勤医 3 名でスタートし、5 月以降は育休明けから復帰した時短常勤医 1 名を加えた 4 名体制となったが、このうち当直待機業務可能なものは 2 名だけであった。群馬大学産科婦人科からの当直要員として派遣されたパート医も年度開始当初は 3 名であったが、このうち 1 名は 8 月以降に産休となったため、その後は利根中央病院、県立がんセンター、伊勢崎市民病院に当直用医師を派遣していただくことで何とか乗り切ることが出来た。このように令和 2 年度は年度当初から人員不足に悩まされ続けた 1 年であった。

臨床成績概要を表 1 に示す。令和 2 年度の新規外来患者数 459 名、入院患者数 360 名、分娩数 257 件は、前年度 (各々453 名 302 名 222 件) に比較して増加した。母体搬送については、依頼総数 104 件、受入数 85 件、受入率 81.7%で、前年度 (各々94 件 77 名 85.1%) と比較し、依頼数と受入数が増加した一方で、受入率は低下した。受入不可の理由は、NICU 満床によるものが 7 件あり、これは最近 5 年間では最多であった (前年度は 1 件のみ)。逆に産科満床は 1 件と最近 5 年間で最低であった (前年度 6 件)。当院からの母体搬送搬出数は 9 件で、そのうち母体合併症や出血などの母体要因に関わるものが 4 件と多くを占めていたのは例年通りだが、NICU 満床によるものが 3 件とそれに次いでいたことが今年度は特徴であった。

表 2 に主な胎児先天異常症例を示す。

今年度は新型コロナウイルスの世界的流行という未曾有の 1 年であったが、当科は感染妊婦を受け入れていないため、臨床成績に大きな影響はみられなかった。しかし、いまだ収束の兆しが見えない中、ベッド数とマンパワーに大きな制約を抱える周産期医療分野では、今後施設毎の役割分担が更に進むと思われ、その中で当院の存在感をより強く示す必要がある。

(京谷琢治)

表 1　産科臨床成績概要 (令和元年度)

新規外来患者数	459 名		出生体重別出生数		
入院患者数	360 名		＜ 1000g	24 名	8.6%
			1000-1499g	14 名	5.0%
分娩数合計	257 件		1500-1999g	38 名	13.7%
単胎分娩	231 件		2000-2499g	52 名	18.7%
双胎分娩	24 件		2500-3999g	150 名	54.0%
品胎分娩	3 件		4000g≦	0 名	
多胎分娩率	10.5%		合計	278 名	
帝王切開数	84 件	32.7%	死産児数	10 名	
単胎	65 件	28.1%			
双胎	17 件	70.8%	児入院先		
品胎	2 件	66.7%	新生児科	151 名	
			循環器科	16 名	
母体搬送依頼連絡数	104 件				
母体搬送受入数	85 件				
受入不可数	19 件				
受入率	81.7%				
母体搬送搬出数	9 件				
新生児科満床	3 件				
妊娠中母体合併症	2 件				
産褥出血	1 件				
逆搬送	1 件				
居住地への搬送	1 件				
産褥合併症 (出血以外)	1 件				

表 2　主な胎児先天異常症例

●外科疾患
- 食道閉鎖
- 十二指腸閉鎖
- 回腸閉鎖
- 胎便性腹膜炎
- 腹壁破裂
- 鎖肛
- 食道裂孔ヘルニア
- 肺嚢胞性腺腫様形成異常
- 縦隔リンパ管腫
- 胆道拡張症
- 副腎腫瘍
- 多嚢胞性異形成腎
- 異所性腎
- 水腎／水尿管
- 卵巣嚢腫
- OEIS 症候群

●循環器疾患
- 心室中隔欠損
- 大動脈縮窄
- 完全大血管転位
- 三尖弁閉鎖
- 心房内臓錯位症候群
- ファロー四徴症
- ファロー四徴症／肺動脈閉鎖
- 両大血管右室起始
- 左心低形成症候群
- 房室中隔欠損
- 純型肺動脈閉鎖
- 動脈管早期収縮
- 上室性期外収縮
- 心臓横紋筋腫

●染色体異常
- 21 トリソミー
- 18 トリソミー
- 13 トリソミー

●整形外科・形成外科疾患
- 頭蓋骨早期癒合症
- 唇裂／唇顎裂／唇顎口蓋裂
- 小顎
- 骨形成不全
- 胸郭低形成
- 多指／多趾
- 合指

●中枢神経系疾患
- 脊髄髄膜瘤
- 脳梁欠損
- 脳室拡大／水頭症
- 全前脳胞症
- くも膜嚢胞
- 脳腫瘍
- 無脳症

●その他
- 胎児水腫
- 乳び胸水
- 一過性骨髄異常増殖症
- ミトコンドリア病
- 門脈体循環シャント
- 羊膜索症候群
- 性分化異常

7. 麻 酔 科

今年度は、COVID-19 感染対策に留意しながらの手術室運営となった。COVID-19 陽性患者の麻酔管理を行うことはなかったが、術前 PCR 検査、抗原検査を行った上で、さらに対策を講じながら対応した。

手術室としては、昨年度末に生体情報モニタの更新をしていただき、より精度の高いモニタリングが可能となり、安全な患者管理を行うことが出来た。また、経食道心エコーを更新していただいたことで、先天性心疾患患者に対する心臓外科手術中の管理、評価を向上させることが出来た。これまで、2.5kg から 7kg の患者にはシングルプレーンの使用に限られてきたが、新しい経食道心エコーは 2.5kg の患者に対してもマルチプレーンが使用可能となり、新生児期の手術、特に肺動脈絞扼術においてより詳細な評価を行うことが出来るようになった。更新していただいた機器をフル活用し、安全な麻酔管理を行っていきたい。

人事については、今年度もレジデント枠を維持していただくことができ、昨年度と同様の 5 人体制となった。指導にあたる麻酔科専門医・指導医も、レジデントの教育を通して学ぶこともでき、互いに向上し合える指導体制が構築できている。

今年度の麻酔科管理手術件数は 894 件であり、昨年度より 30 件減少した。一日入院手術 (日帰り手術) は COVID-19 の影響で 48 件と昨年度より大きく減少したが、産科の帝王切開も 83 件で昨年度よりもさらに増加した。帝王切開の増加は、他院の NICU の診療体制が影響したと考えられる。心臓外科手術は 100 件であり前年度と同様であった。

次年度は COVID-19 の影響が続くと考えられるが、麻酔科の体制をより一層維持・強化し、安全な手術室運営に努めていきたい。

(松本直樹)

8. 放射線科

医師 1 名、技師 12 名で例年通りの業務を行った。

画像検査所見を記載した総人数は、前医で行われた紹介患者を含めて、X 線検査; 17,914 名 (昨年度 18,559 名)、超音波検査; 1,246 名 (1,275 名)、MRI; 795 名 (797 名)、CT; 400 名 (495 名)、RI; 63 名 (79 名)、死後画像診断 (Ai); 4 名 (15 名) であった。この他に、セカンドオピニオンも含む院外症例の画像コンサルテーションにも随時対応した。

医療法施行規則が改正され、「診療用放射線安全利用のための研修」が必須となった。対象が小児であること、そして疾患も特異的であることを念頭に置いて、「医療放射線被ばくの正当化」について当科としての考え方を示した。

(畠山信逸)

9. 歯科・障害児歯科

(新型コロナウイルスによる歯科外来運営への影響と対応)

令和 2 年初頭から世界的に広がりを見せた新型コロナウイルス (以下 COVID-19) は、群馬県における障害児 (者) 歯科の診療体制に大きな影響を与えた。令和 2 年 4 月 7 日に発令された緊急事態宣言は、二次障害児 (者) 歯科診療に首都圏からの応援医師派遣の停止という形で大きな影響を与え、診療体制の縮小を余儀なくされる事態となった。

群馬県における三次障害児 (者) 歯科医療を担う当科の運営は、日本小児総合医療施設協議会歯科ネットワークを通じて、他県の小児病院歯科と情報交換しながら、感染対策を強化した上で「群馬県における障害児歯科の最後の砦として」必要な診療は継続する方針とした。そこで、緊急性の少ない定期診察は延期もしくは、受診間隔を空け、抑制下での治療を可能な限り回避する方針とした。一方、エアロゾル発生を比較的コントロールしやすい全身麻酔や静脈内鎮静下での治療は、群馬県の感染拡大状況に注視しながら継続することとした。感染対策は当院感染対策委員会と連携し、可能な限り EBM に基づいた診療環境を整備するよう心掛けた。

(スタッフ)

今年度の診療体制は、常勤歯科医師は東京医科歯科大学より萩原大子歯科医師に代わり千葉真子歯科医師が着任し 3 人体制を維持、歯科衛生士は前年度同様に常勤 4 名、非常勤職員 1 名の体制で診療を行った。

(診療実績)

診療実績は、新規患者数が 502 名 (前年度比 108%)、延べ受診者数は 4,618 名 (前年度比 97.5%)、全身麻酔下歯科治療は 384 症例 (前年度比 102%) で前年度とほぼ同様であった。これは前述のとおり、「群馬県における障害児歯科の最後の砦として」新規の患者を受け入れ続けたことと、全身麻酔下歯科治療を継続したことが診療実績にも反映された結果といえる。受診患者数は緊急事態宣言のあった上半期は前年度を下回ったが、下半期はその反動もあり前年度以上の受診者数となった。

(受診患者と診療内容)

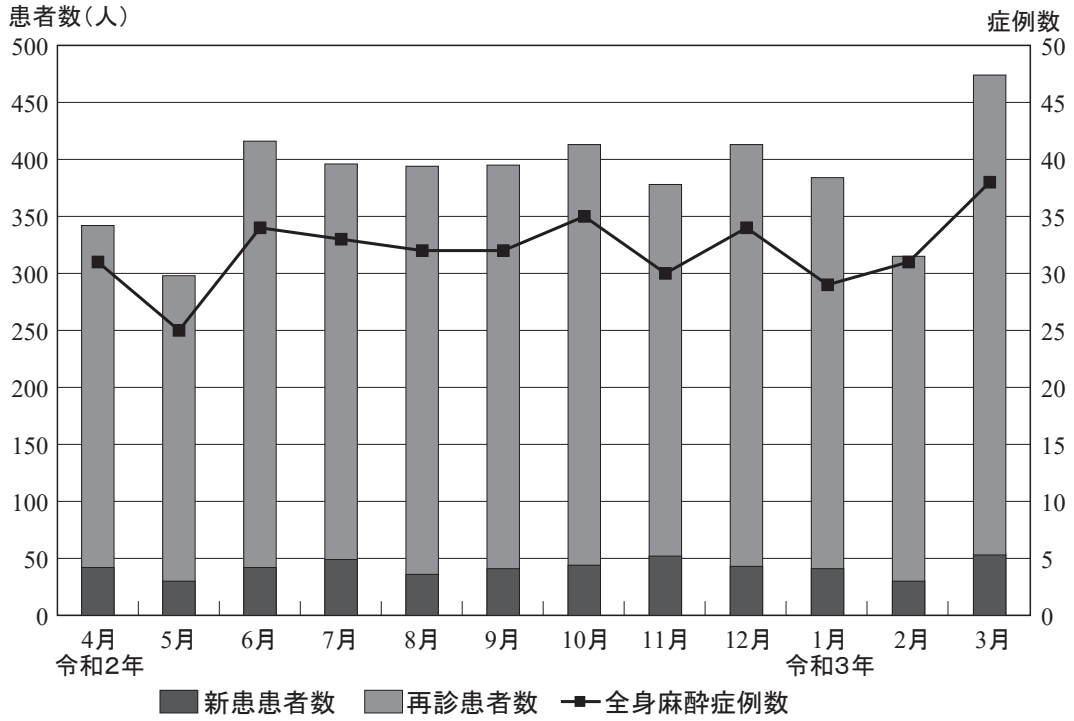
COVID-19 による医療機関への受診控えにより、急性増悪した症例が緊急で紹介されたケースが例年よりも多く、群馬県唯一の小児・障害児三次歯科医療機関である当科のニーズは依然高いことが示唆された。新規患者における院外紹介率は約 60% (前年度 65.6%) であった。

院内紹介では新生児科、小児神経科や小児循環器科、遺伝科より、乳児期の哺乳や摂食嚥下障害を主訴に受診するケースが増加した。「もぐもぐ外来」は、今年度も群馬県保健予防課石田圭吾医長にご指導いただき、感染に配慮しながら相談中心の診察を継続した。

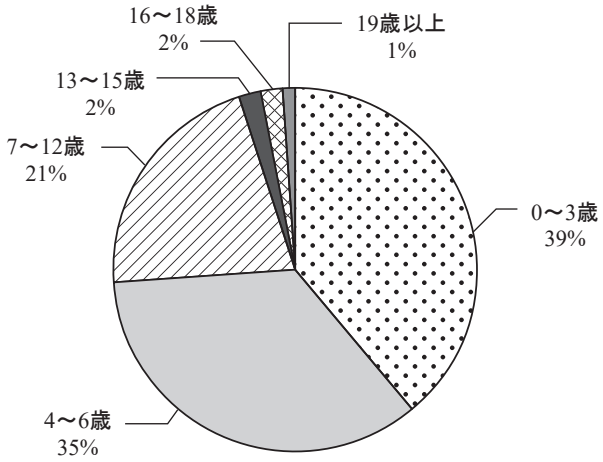
院外紹介は、例年通り精神遅滞や発達障害児の多数歯齲蝕 (うしょく＝虫歯) の全身麻酔下歯科治療依頼に加え、低年齢定型発達児の多数歯齲蝕の治療依頼や、口腔外科症例 (過剰埋伏歯、舌小帯異常、粘液嚢胞) の紹介数が多かった。新規患者の年齢分布の傾向は 3 歳未満が約 39%、6 歳未満では全体の約 74%と例年同様の傾向であった。

(病院歯科として)

今年度も第一、第二、第三、PICU 各病棟への歯科衛生士による週一回の病棟ラウンドを継続したが、感染状況に配慮しながらの活動となり、例年よりも限定的であった感は否めない。しかしながら、周術期口腔衛生管理症例だけでなく、病棟内全患者を対象とした関りを今後も継続していきたいと考えている。



Graph 1: 令和 2 年度月別歯科運営状況



Graph 2: 新規患者の年齢分布

(まとめ)

COVID-19 という例年にない状況の中、様々場面で難しい判断が求められることもあったが、これまでスタッフや受診患者への感染の発生は確認されず、手探りではあったが何とか診療体制を維持することができた。このことは、群馬県における三次障害児 (者) 歯科医療体制の維持という視点において、非常に大きな意味を持つと考える。今回、COVID-19 に関して他の医療機関と情報交換を行う中で、診療体制を維持する上で非常勤派遣医師に頼らない診療体制が重要であることを痛感した。歯科大学のない群馬県で、障害児 (者) 歯科医療を担う人材確保と人材育成の重要性を再認識するとともに、懸案である歯科衛生士の安定確保へ向けた診療体制の整備を引き続き進めていきたい。

(木下 樹)

10. 放射線課

【人　　事】

令和 2 年度、人事異動はなく、田中レジデントが退職された。当院での経験を活かし新たな職場での活躍を祈念する。

【業務・設備】

レジデントが 1 名減となり正規職員 7 名、うち再任用職員 1 名、レジデント 2 名、会計年度職員 2 名と受付事務担当職員 1 名の体制で業務を遂行した。10 数年来の業務量の増加、内容の変化に安全に安定した業務体制として対応していくためにも長年切望しているレジデントの定数化による正規職員数の増員を切に望む。

新型コロナウイルス感染拡大の第 1 波と共に年度がスタートし様々な対応を求められる一年であった。新型コロナウイルス感染患者のポータブル X 線撮影については、事前にシミュレーションを実施した。防護衣の着脱とタイミング、装置や関連機器の配置・消毒、人員体制等を確認し実際の検査に備え対応した。感染状況が刻々と変化するなかスタッフ全員で協力し変化に対応した。収束の兆しが見られない現状では今後数年は柔軟に適切に対応していく必要があると考える。

医療法施行規則の一部が改正され令和 2 年度より施行となった。これにより放射線の安全利用を目的とした診療用放射線に係わる安全管理体制の運用が開始された。具体的には指針の作成、責任者の配置、医療放射線管理委員会の設置・開催、CT・核医学・血管造影の検査前の正当化の説明体制を整備し運用開始、診療用放射線の安全利用のための研修 (医療放射線研修) 等々を実施した。

今年度は学会参加が困難で開催方法も web 開催という新しい形式が主であったが、その利点を活用し積極的に参加した。認定資格については試験が開催されず取得不可能であった。来年度以降も職員の資質向上、検査技術向上のためにも認定資格取得を推進していく。また例年受け入れている実習も受入れることができなかった。

設備については大型装置の更新はなかったが一般撮影室の CR システムコンソール更新によりポータブル撮影用のワイヤレス FPD が併用可能となり即時性、利便性が向上した。次年度は血管撮影装置等の大型機器が更新予定である。その他の老朽化を迎えた装置についても順次適正な時期の更新を望む。

業務多忙の中、新型コロナウイルス対応・法改正など激動の一年であった。更に建物等の老朽化によるトラブルにも遭遇したが共に協力し、奮闘し、全力で業務に取組んでくれたスタッフ一同に深く感謝する。

【検　　査】

各検査の前年度件数比は、CT 検査 81.6%、MRI 検査 105.1%、RI 検査 74.1%、X 線透視検査 83.0%、超音波検査 100.8%、カテーテル検査 81.2%、一般撮影検査 94.6%、ポータブル撮影 102.4%、画像コピー96.5%で全体として 96.4%となっている。平成 19 年度からの全件数の経緯を以下に示す (令和 2 年度詳細は統計編)。

【学会・研修等】

本年度の学会・研修会等の参加は以下のとおりである。

件　　名	期　　日	場　　所
第 76 回日本放射線技術学会総会学術大会	5/15～6/5	web 開催
第 43 回日本小児放射線技術研究会	5/25～6/30	web 開催
第 24 回日本医療情報学会春季学術大会シンポジウム 2020Web	6/4～6/6	web 開催
第 6 回胎児 MRI 研究会学術集会	10/11	web 開催
令和 2 年度医療放射線安全管理講習会	11/11～15	web 開催
第 32 回放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会	11/15～12/5	web 開催
第 15 回医療の質・安全学会	11/22～23	web 開催
令和 2 年度成育医療研修会診療放射線技師コース	12/3～4	web 開催
第 26 回講演会 MRI 安全性の考え方	12/5	web 開催
第 36 回日本診療放射線技師会学術大会	1/8～31	web 開催
日本オートプシー・イメージング技術研究会 2020 年度学術大会	3/24	web 開催

(佐々木 保)

11. 検体検査課・生理検査課

【人　　事】

令和 2 年度の検査課は、正規職員 10 名 (うち 2 名は産育休) と産休代替 1 名、レジデント 7 名 (うち 1 名は育休) でスタートした。前年度のレジデント 2 名が正規職員として採用され、うち 1 名は心臓血管センターに配属となった。もう 1 名は当院への配属となったが、これに伴って正規職員 1 名が精神医療センターに異動となったため、最終的に正規職員の総数 10 名は変わらなかった。育休中だったレジデント1名が4月から復帰したが8月に退職し、5月からは正規職員1名が産休に入った。実質、正規職員 7 名、産休代替 1 名、レジデント 6 名の計 14 名で 24 時間体制を維持した。

【業　　務】

1．臨床検査システムの更新と病理システムの導入

臨床検査 (検体検査・輸血検査・細菌検査) システムを更新し、同時に病理システムを新規導入した。臨床検査システムでは、これまでの機能に加え、当院で蓄積したデータを用いて、診療科や病棟ごとに範囲を設定した再検チェック機能を活用することで、再検の判断や検査結果の検証における技師間差の軽減が図れた。また、病理システム導入により病理業務が効率化され、病理医の切り出し作業の負担が軽減した。さらに課題であった診断時や病理結果の取扱いにおける安全性が向上した。

2．生化学部門

LDH、ALP の測定法が全国的に JSCC 法から IFCC 法へ変更になることに伴い、IFCC 準拠試薬への切り替えを行った。これにより、ALP の基準範囲が現行法の 1/3 程度の値になることを受け、新たな基準値の検討を行い設定した。また、フェリチン、AST、ALT については、より直線性の高い試薬に変更し、希釈再検実施件数を減らすことで、試薬代の低減や検体の消費を抑えることに努めた。LAP については検査試薬が販売終了になることを機に他の肝機能系検査試薬と同一メーカへの集約を図った。

3．血液部門

多項目自動血球分析装置 2 台の入れ替えを行った。これにより、蛍光染色による血小板数測定が可能となり、低値域での精度が向上した。また、サブ機にも網赤血球数測定や体液モードが搭載され、夜間でも短時間で臨床に必要な検査結果が提供できるようになった。

4．病理部門

血液疾患における骨髄組織診断のための特殊染色として ASD ギムザ染色を新たに取り入れた。CPC は 2 回開催し、3 例を検討した。

5．細菌部門

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、4月からリアルタイム PCR による検査を開始した。5 月からは全自動遺伝子解析装置「フィルムアレイ」(ビオメリュー・ジャパン) を導入し、8 月には新型コロナに係る遺伝子検査はすべて当検査法へ移行した。さらに、11 月からは抗原検査として迅速キットを採用し、並行して検査依頼に対応した。

6．生理検査部門

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、感染患者への対応を図った。感染管理看護師協力の下、全課員を対象に心電図検査の際の実践的研修を実施した。

【検査件数】

総検査件数は、454,509 件で、対前年度比 99.5％であった。以下、対前年度比として％を (　) 内に示す。増加した部門は、細菌検査 14,792 (110.4)、一般検査 13,243 (101.2) であった。一方減少した部門は、病理検査 2,124 (81.4)、輸血検査 3,603 (90.0)、免疫血清 31,290 (90.3)、血液検査 64,125 (93.8)、生理検査 12,366 (95.4) であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響による患者数の減少に伴い全体的に減少傾向であったが、細菌検査は新型コロナウイルス検査の新規導入により増加した。

【委 員 会】

1．臨床検査委員会

臨床検査委員会は 2 回開催した。内部精度管理報告を行い、検査に使用している機器が適正に管理されていることが承認された。ALP、LDH を JSCC 法から IFCC 法へ変更し、新たな基準範囲が承認された。新型コロナ感染症対応として細菌検査と病理検査の対応を示し、協力を求めた。臨床検査システム更新、病理システム導入に伴う変更点について周知した。販売終了や性能の向上により検討した試薬への変更が承認されたほか、FT3 の基準値変更や TSH ハーモナイゼーションについて周知した。

2．輸血療法委員会

輸血療法委員会は年 6 回開催した。月別の血液製剤使用率や廃棄率を報告し、適正使用の協力を呼びかけた。また、輸血後感染症検査の実施の見直しのほか、輸血同意書および院内輸血マニュアル第 14 版の改訂を行った。輸血勉強会は新型コロナウイルス感染症の影響で延期 (中止) された。

3．感染対策委員会

院内感染対策委員会は年 12 回開催した。定例の委員会ではウイルス迅速検査の陽性数、耐性菌の検出状況、抗菌薬の使用状況、血流感染サーベイ等について報告、検討した。

【学会・研修会等】

参加状況を表 1 に示した。

また、日本臨床衛生検査技師会の学会誌「医学検査」に論文 3 編が採用されるとともに、日本臨床細胞学会で 1 題、群馬県医学検査学会で 2 題、群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会で 1 題の口演発表を行った。

表 1　学会・研修会などへの参加状況

件　　名	期　　日	場　　所
令和 2 年度群馬県感染対策連絡協議会総会・特別講演	7 月 20 日	Web 開催
日本医療検査科学会　第 52 回大会	10 月 1～31 日	Web 開催
第 59 回日本臨床細胞学会秋期大会	11 月 21～22 日	横浜市
第 65 回群馬県医学検査学会	12 月 6 日	桐生市
令和 2 年度群馬県感染対策連絡協議会総会･合同カンファレンス	12 月 23 日	Web 開催
令和 2 年度群馬県臨床検査精度管理調査報告会	3 月 2 日	前橋市

(田中伸久、神山晴美)

12. リハビリテーション課

【人　　事】

令和 2 年度は、理学療法士 5 名 (正規 4 名・実務研修生等 1 名)、作業療法士 3 名 (正規 1 名・実務研修生等2名)、言語聴覚士1名 (産育休代替え職員1名) の常勤技術職9名と受付1名で開始した。前年度退職者と交代でレジデント作業療法士 1 名を迎え、9 月には正規言語聴覚士が育児休暇より復帰 (9月23日～)、12月末に5年間勤務した作業療法士実務研修生1名が他院の正規職に合格し退職、3 月年度末は常勤 9 名となった。

レジデント療法士の多くは、3 年間で各疾患・病態に一通り対応できるように育つが、その後正規職を求めて他医療機関への転出を繰り返している。そのため正規職員の計画的な職員教育に至らない、新人の教育・指導を繰り返し、業務の効率化を図れないことは採算性において大きな課題である。小児医療に沿った効率的で安全なリハビリテーション体制維持には、人材の計画的な育成が必須と感じている。

【新型コロナウイルスの感染対策と影響】

・個別で行うリハビリテーションは、直接接触時間が 20 分～1 時間と長い業務の性質上、患者ご家族や課員自身の感染不安も強くあった。ICN と相談しつつ、病棟・外来のリハ担当者の配置変更、リハビリテーション室の入室患者数やリハの立ち会い家族の人数制限、リハ実施後毎回の機器・マット・おもちゃの消毒、リハ室受付待合いの混雑の回避・絵本の撤去などに取り組んだ。

1．例年、療育機関・保育園・療育施設・デイサービスなど関連機関職員より個別患者のリハビリテーション内容の確認及びリハ見学希望があるが、今年度は見学中止、電話・メール・ご家族経由での動画等による情報交換にて対応した。
2．入院リハビリテーションでは、病棟のご家族面会の時間制限もあり、リハビリテーション介入時のご家族・病棟との時間調整に苦慮した症例もあった。
3．リハビリテーションの新規患者件数は 4 月・5 月に減少、その後は回復した。感染対策により外来リハビリテーションを中止・減数した他医療機関の影響もあり、他院からの外来リハビリテーションの紹介件数は増加した。しかし、感染対策として、リハ担当者変更やリハ室内患者数の制限、外来予約枠を減らすなどの対策を取った。そのため希望日時での予約が入りにくく患者様にご迷惑をおかけした。幸い苦情に至らなかったのは、病院と各担当者が誠意を持って個別に説明・対応したことによると考えている。
4．小学校などの急な長期休校に伴い、子育て中の課員のなかには通常勤務が難しい状況も生じたが、幸い当院保育士による保育を受けられる体制を用意して頂いたことで、大きな支障なく業務をこなすことが出来た。

【業務業績】

1．平成 30 年度は常勤 11 名、令和元年度は常勤 8 名、今年度は年度途中の職員退職などがありながら常勤 9 名で取り組んだ業績である。

今年度の新規患者数は、年間で入院 343 人 (前年度 371 人)、外来 382 人 (前年度 269 人)、合計 725 人 (前年度 640 人) であった。外来予約枠を減らすなどの対策のため、新規患者数は増えたが、頻度が減り、外来リハの実施件数は減少した。入院患者実数は減少したが、リハニーズが高い症例

が多く、患者 1 人あたりの単位数は増え、実施単位数、算定点数は増加した。

2．疾患別リハビリテーション: 特に入院患者を対象とした、がんリハビリテーション、運動器リハビリテーションは実績が増えたところである

・がんリハビリテーション: がんリハビリテーションは、主に入院治療に伴う機能低下を来した患児の運動機能改善の役割を果たしている。算定継続のため医局・看護部の協力のもと研修会に参加し、治療や看護ケアと協力し小児のがんリハビリテーションに取り組むことが出来ている。前年度 144 件/39,975 点、今年度 277 件/86,920 点と、依頼件数も実績も増加した。リハ職が治療に伴う機能低下及び QOL に介入できてきている。今後はリスク管理や治療・看護ケアとの連携を強化し、効果的なリハ介入に取り組みたいと考えている。

・運動器リハビリテーション: 今年度は予定手術が延期されるなど、入院・外来に様々な影響があったが、主に整形外科術後の入院患者の運動器リハビリテーション (早期・初期加算を合算) のニーズは高く、積極的に早期より取り組んだため、前年度 191,320 点が今年度は 359,430 点と大きく増加した。

【部門別の状況】

・理学療法部門は、常勤 5 名、うち 1 名は 2 年目レジデントである。小児心疾患に対する心リハ、整形外科での運動器リハ、血液腫瘍科でのがんリハ、感染・呼吸器科での呼吸リハ、新生児科や神経内科の発達を支援する障害児リハと在宅移行支援など、当課で対応する各領域の小児リハビリテーションの習得を目標に指導・支援していきたいと考えている。今年度は院外の技術講習会などは中止となったが、多くのオンライン開催の研修会に参加し、他施設との情報交換に取り組んだ。

・作業療法部門は、常勤 3 名うち 2 名が実務研修生等である。小児領域の経験がない新規職員入職に伴い、教育指導に多くの時間が必要であり対応可能な患者数が一時減少した。12 月末で 5 年間勤務した実務研修生の退職に伴い常勤2名の体制となったが、非常勤作業療法士1名を招聘し、レジデント作業療法士の単独担当患者を増やし外来実施頻度を辛うじて保持した。また、昨年度に引き続き多指症術後の手装具作成や 脊髄性筋萎縮症児へのスピンラザ投与症例の機能評価の実施と国内学会での発表を継続的に行うことができた。

・言語聴覚部門は、産休代替え職員 1 名、非常勤言語聴覚士 1 名でスタートし、9 月から常勤 1 名が育児休暇より復帰した。職員の復帰とともに非常勤言語聴覚士が退職し、年度後半は常勤 2 名で対応した。新規患者依頼への対応が可能になり、口唇口蓋裂など顎・口腔の先天異常症例への早期からの介入を再び開始することができた。また、気管切開症例のスピーチバルブ装用下での発声指導に、医師と連携して取り組むことができた。

【課の取り組み】

1．リハビリテーション部門システム (リハメイト) の入れ替え

電子カルテに連携し、診療報酬としてリハビリテーション料算定及び件数集計に利用しているリハビリテーションの部門システム (リハメイト) は、2005 年に導入し日々の算定に活用している。サーバー更新と併せ、リハメイト DB 版に入れ替えを実施した。バージョンアップしたリハメイトも問題なく稼働できている。

2．リハビリテーション室受付・事務業務の整備

4月よりリハビリテーション室の受付業務がソラストへの委託業務となった。それに伴い、受付業務 (リハ受付、リハ前診察の案内、リハ予約、リハ依頼受付、算定集計など)、そのほか課内の事務的業務を整理し、課員での分担も行った。手順などの修正を加えながら、多忙な課員全員が安全に効率的にリハビリテーションに取り組め、経営的にも算定漏れなく実施できる課の運営を目指して取り組んでいる。

3．退院時リハビリテーション指導料の算定

入院リハビリテーション対象患者の多くに退院後の在宅生活を支援し、機能低下を来さないことを目的に、患者・ご家族に退院時に介護方法や Home ex を指導することが多い。今年度準備を整え、医師と協力し退院時リハビリテーション指導料の算定を開始した。9月より算定開始し、9月10件、10月12件、11月17件、12月19件、1月11件、2月7件の算定をあげた。退院日算定となるため、各リハ担当者が指導を実施した対象患者の算定をあげ忘れないようなシステムづくりが今後の課題である。

4．自主トレーニングプログラムの見直しと推進

感染不安などによる患者の自主的な受診控えや予約枠縮減により外来リハビリテーションの頻度低下、また他施設や訪問リハビリテーションの利用控えの症例も多く、発達の遅れや機能低下が心配された。その対策として、Home ex 指導に力を入れ自主トレーニングプログラムの見直しに取り組み、少しでも感染予防対策に伴う2次的障害の軽減に役立てたいと考えた。

5．学会・研修会の参加

オンラインでの学会・研修会等の参加により、最新の情報を共有できた。

6．学生実習指導 (オンライン)

当院の感染対策委員会の指示により、既に依頼を受けていた学生臨床実習が中止となった。代替えとして当院リハビリテーションの概要の講義をオンラインで取り組んだ。

7．新たな治療・研究の支援

・当院神経内科での新しい取り組みである、Remudy-DMD (デュシャンヌ型筋ジストロフィーを対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究) 登録及び筋ジストロフィー症へのビルテプソン治療に伴い、当課ではそのプロトコルに沿った定期的な機能評価を始めた。脊髄性筋萎縮症児のスピンラザ治療に伴う定期的な運動機能評価も、前年度に継続的して取り組んでいる。
・言語聴覚療法では、新たに気管切開症例のスピーチバルブ装用下での発声指導に、医師と連携して取り組むことができた。
・ボトックス療法やバクロフェン療法など痙性麻痺に関わる治療においても、各科医師と協力し、より効果的なリハビリテーションや生活支援を検討していきたいと考える。

8．他セクションとの連携

リハビリテーションに関わる子どもとご家族には、要支援事例検討会、子どもと家族のサポートチーム、学校病院連絡会、在宅療養移行支援、あさがおの会 (ダウン症の会)、口唇口蓋裂の患者会

に関わる症例も多い。個別リハビリテーションと同時に、関連する機関や他セクションと積極的に連携を図り、生活と育児の支援に取り組みたい。

9．在宅療養移行支援・退院支援

今年度の支援会議への参加回数は19回、退院後の家庭・学校の環境整備や学校での介助方法の提案などが主であり、症例の担当療法士が参加し情報交換を行っている。退院後訪問リハビリテーション等が関わる症例も多く、リハ職間の情報の共有を図っている。今年度については、リハの際の付き添い家族の人数制限も行っていることから、療育施設、教育機関などとの連携・連絡は、リハビリテーション場面の同席は極力行わず、書面・電話・メール・ご家族の伝達の形式で対応した。今年度は、訪問リハビリテーション・デイサービスの人手不足や感染予防策から、実施回数が減少、機能維持が難しい症例も少なくなかった。

【人材育成】

1．外部機関への見学研修　中止

2．学会等発表

発表者	共同研究者	演題	学会名	場所	発表日
鳥越和哉	熊丸めぐみ、萩原絵梨、渡邉卓也、田中仁美、高橋祐樹、浅見雄司、小林富男	気管切開のある先天性心疾患児に対する在宅復帰に向けた取り組み	第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	福岡/WEB	2020/7/18〜7/19
六本木温子	臼田由美子、鳥越和哉、加藤英子、秋山友香、渡辺美緒	脊髄性筋萎縮症1型のヌシネルセン投与後のスイッチ操作および生活における変化	第62回日本小児神経学会学術集会	WEB	2020/8/18〜8/20
六本木温子	臼田由美子、渡辺美緒	ヌシネルセン投与を開始した脊髄性筋萎縮症2型2症例の運動機能経過と生活における変化	第54回日本作業療法学会	WEB	2020/9/25〜10/25
熊丸めぐみ	下山伸哉、池田健太郎、田中健佑、浅見雄司、新井修平、岡徳彦、小林富男	小児先天性心疾患手術後にICU-AWを発症した患者におけるADL回復の特徴	第56回日本小児循環器学会総会学術集会	京都/WEB	2020/11/22〜11/24

3．研修会等参加

参加者	主催・研修会名	会場	日時
代　美穂	日本理学療法士協会主催、 第206回臨床実習指導者講習会、	群馬大学保健学科	2020/10/10〜11
六本木温子	日本作業療法主催 臨床実習指導者講習会	WEB開催	2020/12/12,13,19,20

【地域貢献】

1．院内講師

臼田由美子(理学療法士)　呼吸理学療法と排痰機器　看護新人教育研修　2020/2/19

2．院外講師

講師	内容	主催	形式	日時
臼田由美子	発達障害系理学療法	高崎健康福祉大学	オンライン	2020/5/20,5/27,6/17
六本木温子	発達過程作業療法学Ⅱ	群馬医療福祉大学	対面式	2020/6/30.7/7
熊丸めぐみ	呼吸・循環系理学療法学	国立大学法人秋田大学	WEB 開催	2020/11/2
熊丸めぐみ	重度発達障害理学療法学	国立大学法人秋田大学	WEB 開催	2020/11/2
鳥 越 和 哉	小児医療センターのリハビリテーションについて	群馬パース大学	WEB 開催	2020/2/18
熊丸めぐみ	PICU における理学療法の実際	日本小児集中治療研究会メディカルスタッフ向けセミナー21-01	WEB 開催	2021/3/13

3．特別支援学校機能強化モデル事業の協力 (文部科学省補助事業　群馬県教育委員会主催)
六本木温子、嬬恋村立東部小学校 (WEB)、2020/12/2

4．他医療機関からの研修・見学　　中止

5．学生臨床実習等の受け入れ

「理学療法作業療法学校養成施設指定規則」令和元年度改正に伴い、臨床実習指導者要件として、5年以上の業務従事経験及び厚生労働省指定臨床講習会受講修了が義務化された。理学療法士1名、作業療法士1名 (オンライン形式) が受講、前年度受講の理学療法士2名も含め、学生臨床実習の受け入れ体制を準備した。

学生実習受け入れ状況: 当院感染対策により、予定の院内実習は中止となった。ただし、受け入れを開始していた群馬大学理学療法学科4年生総合実習Ⅰ (1名) は、講義・指導をオンライン形式で一部対応した。

【各職能団体に関連する活動】

各職員の経験と専門性を生かし地域連携に役立つ活動と考え取り組んでいる。今年度の活動の多くは、オンラインでの取り組みとなった。

1) 日本小児呼吸器学会将来構想委員会委員: 臼田由美子
2) 群馬県呼吸リハビリテーション研究会世話人: 臼田由美子・熊丸めぐみ
3) 群馬県重症心身障害研究会世話人: 臼田由美子
4) 日本心臓リハビリテーション学会評議員: 熊丸めぐみ
5) 全国自治体病院協議会令和元年度リハビリテーション部会幹事: 熊丸めぐみ
6) 群馬県理学療法士協会地域局小児リハ部員: 鳥越和哉
7) 群馬県作業療法士会発達支援推進グループ長: 六本木温子　部員: 窪田莉那
8) 群馬県言語聴覚士会言語聴覚療法発達・聴覚グループ部員: 松下郁江

(臼田由美子)

13. 栄養調理課

【人　　事】

令和 2 年度は、4 月に管理栄養士 1 名が育児休業から復帰し、正規職員 7 名 (管理栄養士 3 名、調理師 4 名) と委託会社職員 15 名で業務を行った。

【設　　備】

保温冷配膳車 2 台と冷蔵コールドテーブル 3 台を更新した。

【業　　務】

1．食数は、一般食延べ 34,913 食 (前年度比 106.5%)、離乳食延べ 5,971 食 (同 123.1%)、特別食延べ 1,566 食 (同 163.8%) で、前年度と比較すると全て増加した。調乳数は、ミルクの人数延べ 12,127 人 (同 103.7%)、本数 7,394 本 (同 100.8%)、濃厚流動食・成分栄養剤等の人数延べ 11,167 人 (同 89.5%)、本数 45,749 本 (同 84.1%) であった。

2．栄養指導は、全体で 411 件 (前年度 325 件)、そのうち入院栄養指導が 352 件 (同 268 件)、外来栄養指導が 59 件 (同 57 件) であった。

3．食物アレルギー患者への対応として、1 日入院の食物負荷試験 (週 3 回) に立ち会い、食生活全般や加工食品の表示の見方などの指導をした。対象患者が、1 日 2 名から 3 名へ増加した。

4．栄養委員会は、令和 2 年 6 月、9 月、12 月、令和 3 年 3 月の 4 回開催し、食事基準の改訂や新型コロナウイルス (COVID-19) 陽性者の食事提供、選択食の試行等について協議した。なお、6 月、9 月、12 月については、書面で開催した。

5．NST (栄養サポートチーム) の活動は、勉強会の実施と入院時の栄養アセスメント及び第 1・3・5 火曜日のラウンドを実施した。

6．新入職看護職員研修において、小児の栄養に関する講義を行った。

7．10 月に委託業務の更新を行い、上処理作業を追加した。委託業務内容は、下処理作業を除いた調理、調乳、洗浄とした。

【学会・研修会等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、以下のとおりである。

件　　名	期　　日	場　　所
全国自治体病院協議会群馬県支部栄養部会 (書面)	1 月	群　　馬　　県

(島田純子)

14. 臨床工学課

【人　　事】

今年度は、正規職員 4 名で業務を行った。

【設　　備】

医療機器購入は、シリンジポンプ (SP-120) 10 台、開放型保育器 (インファウォーマ　アイ) 4 台、除細動器 (TEC-5631) 1 台を更新した。その他、特別枠の予算で新生児用保育器 (インキュ　アイ) 5 台を更新した。また、新型コロナウイルス対策補助金の申請を行い、人工呼吸器 (ベネット 980) 2 台、補助循環装置 (ECMO 装置) 1台、新生児用保育器 (インキュ　アイ) 2台、生体情報モニター (セントラルモニタ: 1 台、ベッドサイドモニタPVM-4763: 3 台) を購入した。

【業　　務】

今年度の体外循環症例は72症例で、昨年度比 91% (昨年度 79 症例) となった。最低体重は2.3kg、最高体重は 55.2kg、平均 10.9 ± 8.9kgであった。無輸血手術は 17 症例 (23.6%) 手術室抜管は 8 症例 (11.1%) であった。術式別の症例数は、VSD closure 25 症例 (34.7%) が最も多く、次にASD closure 8 症例 (11.1%)、フォンタン手術 6 症例 (8.3%)、AVSD repair 5 症例 (6.9%) であった。その他に大動脈弁疾患や大動脈基部疾患に対し Konno 手術および David 手術を 1 症例ずつ行った。

心臓カテーテル検査は 161 症例で、その内バルーン拡張術 34 症例 (21.1%)、コイル塞栓術 8 症例 (5.0%)、心筋焼灼術 7 症例 (4.3%)、動脈管開存症カテーテル治療 5 症例 (3.1%)、バルーン心房中隔裂開術 4 症例 (2.5%)、心房中隔欠損カテーテル治療 4 症例 (2.5%)、心臓電気生理学的検査 4 症例 (2.5%) であった。また、緊急心臓カテーテル検査は 2 症例 (1.2%) で、2 症例ともバルーン心房中隔裂開術であった。

内視鏡手術は138症例で、緊急手術となった15症例 (10.9%) 全てが腹腔鏡下虫垂切除術であった。

血液浄化療法は5症例で、治療の内訳は CHDF (持続血液透析濾過療法) 3 症例、PE (血漿交換療法) 1 症例、DHP (直接血液吸着療法) 1 症例であった。PE は急性心筋炎に対し、ECMO・CHDF 併用下に施行し、DHP は ECMO 下 GPC 感染症に対し、CHDF 併用下に施行した。

補助循環 (ECMO) 業務は 3 症例であったが、全症例において補助循環から離脱することができた。

一酸化窒素吸入療法は33症例で、心臓周術期が27症例、新生児遷延性高血圧症が6症例であった。

低酸素吸入療法は 4 症例であった。この療法は、高肺血流による肺高血圧症の予防と同時に、全身に多くの血液を送るために人工呼吸器などを使用し、低濃度 (21%以下) 酸素にて意図的に肺動脈を収縮させることで肺血流を制御する治療法である。通常は肺動脈絞扼術までコントロールする必要がある。今年度の平均施行日数は 7 日間であった。

脳低温療法は 3 症例で、新生児重症仮死 (2 症例) と心肺停止蘇生後 (1 症例) に対し施行した。

その他、植込み型ペースメーカおよび ICD フォローアップが 72 症例で、その内 5 症例が緊急を要するチェックであった。

ME 機器管理業務では、人工呼吸器、保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、麻酔器、人工心肺装置、血液浄化装置、補助循環装置、体外式ペースメーカ、除細動器、分娩監視装置など計 583 台の定期点検をし、院内修理も 95 台行った。除細動器については、年 1 回のメーカー定期点検の他、3 か月毎にスタッフによる除細動器動作チェックや消耗品チェック等を行っている。また、その際

にセントラルモニタの時刻合わせも同時に行っている。人工呼吸器においては回路準備時および、使用中回路交換時に時刻合わせを行っている。

人工呼吸器の使用中点検は、毎日機器の設定や動作確認、呼吸器回路の不具合等のチェックを行い、安全性の確保に努めている。今年度は延べ 5,146 台の使用中点検を行った。また、定期的 (1ヶ月毎) に人工呼吸器の回路交換も行っている。

機器を使用する前の動作チェックである日常点検としては、人工呼吸器や麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプをはじめ、除細動器や保育器、低圧持続吸引器など累積 6,596 台行った。麻酔器始業点検においては、日毎に担当者 1 名が 8 時 30 分までに全手術室 (5 台) の始業点検を行い、安全性の確保に努めている。また、心臓カテーテル検査室の麻酔器においては、全身麻酔での検査毎に始業点検を行っている。今年度は合計で 1,227 台の麻酔器始業点検を行った。

今年度の新規購入機器の説明会は、外来に設置した除細動器に 16 名、人工呼吸のベネット 980 に 19 名、補助循環装置に 33 名が参加した。説明会では、取扱方法や特徴、トラブル時の対処法などについてのレクチャーを行った。

その他、教育業務として看護部、各病棟に対する ME 機器説明会やトラブル対応等の勉強会の開催をはじめ、在宅へ移行する患者様や御家族の方へ機器の説明や臨床工学技士養成校への外部講師も行った。

【学会・研修等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、下記の通りである。

件　　名	期　　日	場　　所
2020 年度 1 年次 JaSECT 教育セミナー	7/20～8/19	e ラーニング
第 30 回日本臨床工学会	9/29～9/30	愛知県 (web)
全国自治体病院協議会臨床工学部会オンラインセミナー	10/20～1/31	オンライン
2020 年度 JSEPTIC CE 部会オンラインセミナー	11/1～12/6	オンライン
第 58 回日本人工臓器学会大会	11/12～11/14	高　知　県
第 56 回日本小児循環器学会学術集会	11/22～11/24	京　都 (web)
第 36 回日本人工臓器学会教育セミナー	2/1～4/30	e ラーニング

(関 明彦)

15. 薬 剤 部

【人　　事】

令和 2 年度は正規職員が 8 名、嘱託職員 1 名、臨時職員 1 名、調剤助手 3 名と昨年度と同じ人員配置で業務を行った。

【業　　務】

チーム医療の推進に関しては、薬剤師が ICT ラウンド・コアチームのメンバーとして参加し、感染防止対策加算 1 の取得に貢献した。また、AST のメンバーとして抗菌薬適正使用支援加算の取得にも貢献した。TDM については、医師から依頼を受けて各種検査値に基づき、最適な投与計画を提案し、抗菌薬の適正使用に貢献した。また、特定抗菌薬使用届の提出を徹底し、耐性菌の発生予防に寄与した。PICU で平日行われているカンファレンスに薬剤師 1 名が参加し、抗菌薬を含めた医師の処方設計を支援した。

＜新型コロナウイルス感染症関連業務＞

コロナ禍で各種消毒薬の市場在庫が枯渇したため、先ずエタノール等の入手に奔走した。手指消毒薬の処方検討を行い、エタノール濃度の違いに対応し計 76.3L 調製を実施した。清拭用アルコールの調製 (20L) も併せて実施した。

エタノール以外の消毒薬についても入手可能な消毒薬の新規採用及び購入を行った。

外来患者に対して、新型コロナウイルス対応における処方・電話再診で院外処方せんが発行された場合の流れを整えた。実際に院外処方せんが発行され、外来及び医事課と連携し、患者が安心して処方薬を受け取れるように調剤薬局へ連絡調整を 13 件実施した。

3 月 12 日より渋川地区分配分の新型コロナウィルスワクチン (コミナティ) の-80℃の超低温冷凍庫で保管管理を開始。当院での接種分 113V (約 565 接種分) の溶解・希釈を実施した。また、3 月 19 日より北関東循環器病院等 10 施設への厳格な温度管理を伴うワクチン供給を開始した。ワクチン接種に用いるシリンジ・ロットシール等の資材管理・供給についても同様に開始した。

レムデシビルやアビガン等、入手経路が特殊な COVID-19 治療薬に関する情報入手・共有を実施した。

以上の ICT・AST 関連業務を行い院内感染対策に寄与した。

＜薬剤管理指導業務＞

薬剤管理指導業務は、3 月中旬より新生児科の患者の保険算定を開始し、産科病棟の帝王切開及び切迫早産の患者及び第 3 病棟循環器科及び血液腫瘍科の一部患者に対し年間 215 件 (昨年度より 55 件減少) の薬剤管理指導業務を行った。

＜調剤業務＞

入院処方箋枚数はほぼ横ばいで、院外処方箋の発行率は 91.2%だった。

なお、医師業務負担軽減の一環として、院外処方箋に関する調剤薬局からの疑義照会受付の窓口としての薬剤部の対応は、613 件であった。対応の結果処方変更となった場合、医師の業務負担軽減のため電子カルテへの薬剤部での代行入力は 241 件であった。院内処方箋、注射箋に関する医師への問い合わせは 1,268 件であった。また、医師に代わり薬剤師が 985 件 (院内処方箋、注射箋) の

代行修正を行った。入院時の持参薬の鑑別報告は 65 件 231 剤数となった。

＜無菌調製業務＞

抗悪性腫瘍薬の調製及び TPN の無菌調製を実施した。今年度は短腸症候群や腸管不全患者に使用されるオメガベンの無菌調製を 16 件 (1 名) 行った。

抗悪性腫瘍薬の注射剤は調製者の被爆が問題となることから、平日だけではなく休祭日も薬剤師が安全キャビネットで調製を行った。特に揮発性の高い薬剤は、調製者保護のため抗がん剤曝露閉鎖システムによって調製している。

退院後も在宅で TPN を継続して使用している患児については、TPN を無菌調製できる調剤薬局との連携、無菌調製を応需する薬局の無い地域の患者には薬剤部で輸液を調製・交付し、ショートケア時の輸液の調製など、個々のケースに応じてきめ細かい対応を行った。

＜製剤業務＞

医師の要望により市販されていない小規格の坐剤、麻薬を含む MK 注腸液、医薬品以外の物を原料とするカラヤ軟膏、安息香酸 Na 注射液の注射剤等の調製を行った。また、第 3 回薬事委員会にて院内製剤の取り扱いについて (一社) 日本病院薬剤師会「院内製剤の調製及び使用に関する指針 Version1.0」を遵守することが承認され、令和 3 年度より運用が開始される。

＜DI 業務＞

「薬剤部インフォメーション」として、医薬品の適正使用に関する情報や薬事委員会で採用となった医薬品に関する情報提供を行った。厚生労働省からの「医薬品・医療機器等安全性情報」は情報が迅速に伝わるようメールによる直接配信を行った。また、各部署からの照会に随時応じ、情報提供件数は 275 件であった。

＜退院時服薬指導業務＞

第 3 病棟の一部の患者に対し退院時薬剤情報管理指導を行った。また、退院時薬剤情報管理指導料を算定していない患者に対しても、主に退院時の処方について薬効説明と注意点、飲み方の確認等を行い、薬剤情報提供書及びお薬手帳用シールを交付し、お薬手帳を所持していない方には手帳もあわせて交付した。また、当院の薬剤を常時在庫している保険薬局は少ないため、外来時に支障なく院外処方に対応できるよう院外処方の説明を行い、初回時には在庫の有無を電話確認するなど円滑に外来に移行できるよう対応した (退院時服薬指導 208 件)。

在宅療法支援担当看護師長と連携し、無菌調製製剤を必要とする外来患者と無菌調剤を応需できる保険薬局の間を調整し、院外処方せん応需と在宅患者訪問薬剤管理指導を実施できた。

＜医薬品の適正管理＞

在庫管理システムを使用し経営課と協力、入出庫管理を行った。また、各病棟に定数配置されている医薬品については、定数を見直し院内在庫の適正化に努め、期限切れ薬品等、病棟配置薬の定期点検を実施した。

【薬事委員会】

令和 2 年 5 月 26 日 (書面会議)、9 月 10 日、12 月 17 日、令和 3 年 3 月 11 日、計 4 回に開催した。

新規採用医薬品 66 品目 (うち院外専用 12 品目)、購入中止医薬品 67 品目 (うち製造中止品 9 品目) について承認された。特定の患児のみに使用し、それ以外は在庫を置かない一時採用品は68件だった。また、事務局提案による後発医薬品への切り替えは 16 品目であった。後発医薬品指数 (後発医薬品がない医薬品を除く後発医薬品の数量ベースの採用率) は 89.17%で後発医薬品使用体制加算 1 取得の基準に適合していたが、カットオフ値が年度途中で 50%を下回ることもあったため昨年度より加算の取得をしていない。

(伊藤理恵)

16. 看 護 部

【看護要員】

・定数　211 名　　現員数 231 名

(正規 214 名、再任用 2 名、会計年任用職員 15 名)

＊令和 2 年 4 月 1 日現在

・採用 10 名　　正規 10 名、転入者 5 名

・退職 21 名　　正規 13 名、賃金 8 名

【組　　織】

今年度は、新任師長 1 名が誕生した。キャリアアップ・チャレンジ制度において、看護管理コースの 1 名は 3 か月間自部署研修をし、その後 3 病院に出向し研修を行った。令和 2 年度看護部は、看護部長 1 名、副看護部長 1 名、各部署看護師長 9 名、教育担当師長 1 名、在宅療養支援担当師長 1 名、GRM 1 名、感染管理認定看護師 1 名を配置し、連携を取りながら充実を図った。

令和 2 年度は小児専門病院であり、総合周産期医療センターとして、安全で質の高い看護を提供するために、昨年度の結果を踏まえ、安全の強化・人材育成・病院経営への参画を課題として取り組んだ。そして、知識技術はもちろんのことではあるが、ホスピタリティマインドを考え、看護部全員で承認行動に取り組んだ。

今年度は、新型コロナウィルス感染症が発生し、その対応に追われた。

【看護活動】

看護部の理念

あたたかな心で患者と家族を支えます。

【令和 2 年度の目標】

1．安全への取組を強化する

1) 医療安全

(1) 看護が起因した 4a 以上の医療事故をおこさない

(2) ヒヤリハットへの取組を強化する

繰り返しの発生・影響力のある事例について問題解決シートでの分析をする

(3) 患者誤認を昨年度の 50%削減する

輸液・与薬の監査を 100%実施する

(4) シミュレーション研修を各病棟 1 回/年実施する

2) 感染対策

標準予防策・経路別予防策 (接触・飛沫・空気) を強化する。

(1) 他者監査を 100%実施する

2．質の高い看護を提供する

1) 新人看護職員の精神的要因での離職率を 0% にする

2) フィジカルアセスメント能力の強化・向上を図る

(1) フィジカルアセスメント教育の実施をする

(2) OJT の強化 (患者を多角的にアセスメントし、互いに技術・知識の共有)

(3) アラーム対応が確実にできる

(4) BLS (100 人/年以上) を実施する
3) 服務規律の徹底・接遇を強化する
4) クリニカルラダー JNA 版の見直しをする
3 . 病院経営に積極的に参画をする
1) 効率的な空床利用率 73%を目指す
(1) ベッドコントロール依頼時に断らない
2) 新規加算を 2 つ以上取得する

【評　　価】

1 . 安全への取組を強化するでは、ヒヤリハットの報告については報告する文化はできており、件数は増加しているものの、レベル 0〜1 が増加しレベル 2 は減少した。繰り返し発生しているものや影響力のある事例については、問題解決シートでの分析を行い改善できた部署もあった。患者誤認については、昨年度と比較して 20%削減できたが、患者に大きな影響を及ぼしかねないため、来年度も課題としたい。輸液・与薬の監査については、輸液のバーコード認証を導入が年度末となったため監査ができなかった。昨年度の医療事故から、シミュレーション教育を取り入れ、RM 委員を中心となって各部署で実施した結果、重要性を理解してくれた。来年度はシミュレーションだけでなく、フィジカルアセスメントや BLS を一連の流れとして、来年度も継続して取り組んでいきたい。また、感染対策においては、COVID-19 の入院も受け入れ、ICN が中心となって部署で取り組んだ結果、院内感染は起こさなかった。コロナ禍が続くため、更に問題抽出を行い二次感染を起こさないようにしていきたい。

2 . 質の高い看護を提供するでは、新人教育を充実させ、精神面においても多方面からフォローアップし、教育担当師長を中心として病棟とともに新人を支えた。精神的な理由での離職はなかったが 2 名退職となった。クリニカルラダーについては、日本看護協会クリニカルラダーに則った見直しをし、小児専門病院および総合周産期母子医療センターの機能を果たすため専門性の高い看護者の育成となるように、患者・家族の思いに寄り添い信頼される看護が提供できる看護者を育成する目的で変更した。来年度実施をして、評価していきたい。承認行動については、看護師長が毎月標語を決定し、看護師長自ら承認に心がけ、全体的に承認行動がいつもある、ときどきあるが増加した。

3 . 病院経営に参画するについては、看護部でベッドコントロールを行い、できるだけ速やかに入院が出来るようにしたが、スムーズでないこともあるため継続して取り組む。コロナ禍であったため、病床利用率は 76.2%→ 72.0%と低下し、PICU 加算取得率 39.6%→ 39.3%とやや低下した。しかしショートケアについては、延べ人数で 70 件→ 89 件人で増加した。また、新規加算については 2 つ取得ができた。入退院支援加算 3 を 1 月から取得し、新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱 6 歳未満の乳幼児に対して、小児の外来診療において特に必要な感染予防策を講じた上で診療を行い 12 月 22 日から開始した。

【次年度の課題】

1 . 質の高い看護を強化する
2 . 安全への取組を強化する
3 . 病院経営に積極的に参画をする

(清水奈保)

令和 2 年度院外研修 (学術集会・研修会・セミナー・救護など)

主催	研修・学会名	日程	場所	氏名	人数
長期研修	新人看護職員実地指導者研修	9 月 17 日～10 月 19 日 (5 日)	前橋　群馬看護教育センター	須田慎也	1
	新人看護職員研修事業教育担当者研修	11 月 2 日～11 月 27 日 (5 日)	前橋　群馬看護教育センター	星山友絵	1
	e ラーニング活用型「医療安全管理者養成研修」	12 月 9 日～11 日	群馬県看護協会	大平典子	1
学会・学術集会・研修会等	第 30 回日本小児看護学会学術集会	9 月 19 日～30 日	Web によるオンライン学会	樋口真梨子 清水奈保	2
	群馬県病院前周産期研修会 (BLSO)	11 月 8 日	前橋赤十字病院	渡邊智香子	1
	2020 年度小児在宅移行支援指導者養成研修	11 月 10 日～11 日	Web によるオンライン研修	梅山由佳子	1
	第 24 回群馬県看護学会	11 月 18 日～30 日	Web によるオンライン学会	清水奈保	1
	第 15 回医療の質・安全学会学術集会	11 月 22 日 23 日	Web によるオンライン学会	清水奈保	1
	国際医療リスクマネージメント学会 医療事故調査教育セミナー	3 月 11 日・12 日	Web 会議	大平典子	1
群馬県看護協会	災害支援ナースの第一歩 ～災害看護の基礎知識～	7 月 16 日、17 日	群馬県看護協会研修センター		1
	現場で活かす感染対策の基礎知識	7 月 22 日	群馬県看護協会研修センター		2
	褥瘡ケア (初級編)	8 月 21 日	群馬県看護協会研修センター		1
	ファシリテーションの技法を学ぶ	9 月 1 日	群馬県看護協会研修センター		2
	慢性心不全看護、循環器疾患に対する緩和ケア	9 月 4 日	群馬県看護協会研修センター		1
	メンタルヘルス (新卒者)	9 月 14 日	群馬県看護協会研修センター		9
	急変時の対応に役立つアセスメント能力を磨く	9 月 16 日	群馬県看護協会研修センター		3
	特性のあるスタッフに対する理解と接し方	9 月 18 日	群馬県看護協会研修センター		4
	産前・産後のメンタルヘルス	9 月 19 日	群馬県看護協会研修センター		1
	小児救急看護に必要な看護実践能力	9 月 29 日	群馬県看護協会研修センター		4
	感染管理～職場で中心になって活動するためのポイント～	10 月 20 日	群馬県看護協会研修センター		1
	国際助産の日の特別記念講演「母子のための災害対策」	11 月 7 日	群馬県看護協会研修センター		1
	クリニカルラダーの活用と効果的な看護師教育	11 月 6 日	群馬県看護協会研修センター		1
	これだけは知っておきたい糖尿病看護の基礎知識	11 月 30 日	群馬県看護協会研修センター		1
県市町村職員合同研修	クレーム対応	8 月 28 日	群馬県自治研修センター	狩野ひかる	1
	目標管理研修	8 月 27 日	群馬県自治研修センター	北爪幸子	1
	データ分析力向上	9 月 9 日	群馬県庁	小池智美	1
	プレゼンテーション講習会	9 月 16 日	ぐんま男女共同参画センター	坪井杏奈	1
	問題解決力～発想力を活かした問題解決～	9 月 28 日	群馬県自治研修センター	田中絢子	1
	ワンペーパー作成力	10 月 5 日	群馬県自治研修センター	髙橋洋子	1
	業務改善のススメ～業務の“見える化”で改善の推進・定着を図る～	10 月 8 日	群馬県自治研修センター	佐々木理恵	1
	会議運営力 (ファシリテーション)	11 月 19 日	群馬県自治研修センター	小池智美	1
	折衝・交渉力	12 月 1 日	群馬県自治研修センター	笠原寿恵	1
	論理的な話し方	12 月 3 日	群馬県自治研修センター	髙橋洋子 羽鳥悌枝 熊谷扶美子	3
	ティーチング＆コーチング	12 月 16 日	群馬県自治研修センター	笠原寿恵 小渕加奈絵	1
	タイムマネジメント	12 月 22 日	群馬県自治研修センター	狩野英美 黒岩　徹	1
	アサーション	1 月 14 日	群馬県自治研修センター	佐藤直美 黒岩智香	2
	情報発信力向上	2 月 2 日	群馬県自治研修センター	石坂泰子 小林育代	2

⑴ 第一病棟

令和 2 年度は、看護師 30 名 (うち院内異動 1 名、再任用 1 名)、看護助手 3 名、保育士 2 名 (うち院内異動 1 名) でスタートした。看護師は 4 月下旬に新採用 3 名配属、2 月に 1 名育休復帰、院内異動 3 名､3 月に 1 名産休となった。看護体制では副看護師長が 3 名 (うち院内異動 1 名) となった。

今年度は看護部の目標に沿って、以下の病棟目標を挙げて取り組んだ。

【令和 2 年度第一病棟目標】

1．安全な療養環境を整備する
　1) 3b 以上の医療事故をおこさない
　2) 感染対策における標準予防策・経路別予防策を強化する
2．看護の質とは何かを考えながら看護実践を行う
　1) ペアでの看護実践を通して、看護を共有する
　2) 医療関連機器圧迫創傷 (MDRPU) を 50％削減する
　3) カンファレンスにより患者に合った看護計画にする
3．病院経営に参画する
　1) 院内のベッドコントロールに協力する
　2) 物品管理の問題点を明らかにして改善する (気管カニューレ等)

【結果・評価】

1．気管カニューレの事故抜管はオムツ交換時の患者の動きによる 1 件が発生した。与薬に関しては投与未実施、調剤ミス、分包薬の変色、指示間違い、退院処方忘れがあり、患者誤認は胃瘻接続チューブの消毒間違い、おやつ配膳間違いがあった。KYT 研修担当者がグループ会でベッドサイドでの KYT 活動を行うことで、日々のペア看護師とのラウンド時にも危険予知を発言する機会が増えてきた。オムツ交換の監査と手指消毒の 6 つのタイミングについてテストを実施したが、患者環境接触後、手袋・エプロンを外した後の手指衛生が徹底出来ておらず、勉強会や朝の唱和で注意喚起を継続して行った。

2．グループ会で PNS マインドの勉強会を行い、看護実践の場でペア看護師と協働することを強化した。末梢刺入部固定方法とラインの確認行動を見直すことで末梢刺入部固定方法のトラブルを防ぐことができた。呼吸器 (NPPV) マスク圧迫による皮膚損傷の予防として、マスクの種類別の装着手順を作成した。グループ会で担当患者の情報共有を行い、倫理カンファレンスでは看護ケアとして患児の記念日イベント開催、監視カメラの使用、患児への言葉遣い、COVID-19 患者の病室環境、摂食障害児の看護について考える場を持つことで、患者の個別性を活かした看護計画立案に繋げることができた。

3．COVID-19 対応で東病棟の運用について整備し、他部署と共に指導を進めている。物品管理ではベッドサイドの予備・緊急時用の物品管理が次年度での継続課題となっている。

(村上容子)

⑵ 第二病棟

令和 2 年度は、看護師 24 名 (うち新採用 2 名)、看護助手 3 名、保育士 2 名でスタートした。看護師は 2 月院内異動で 3 名配属になり、3 月の時点では看護師 25 名であった。

【令和 2 年度第二病棟目標】

1．安全への取組を強化する
　1) マニュアルに準じた行動をとる
　　⑴ 輸液・与薬の監査を実施する
　　⑵ 指差し・声出しを徹底する
2．質の高い看護を提供する
　1) PNS 定義とマインドの醸成を図る
　2) フィジカルアセスメント能力の強化・向上を図る
　　⑴ 緊急時のシミュレーションを実施する
　　⑵ 自己研鑽のために院内外の研修に参加する
3．病院経営に積極的に参画をする
　1) ベッドコントロールを他科と協力し合い自部署の稼働率を上げる

【結果・評価】

1．輸液・与薬の監査は実施し、確認行動を読み上げ、指出し・声出しを実施した。その結果確認の依頼から実施までの行動が昨年より 21.5%増加している。しかし確認不足によるインシデントは起きている (全体の 28%) 今後の課題である。
2．PNSマインドの伝達講習は実施した。夜間の PNS 導入にあたりマニュアルの修正を行い実施した。その結果を踏まえ今後修正していく。
　緊急時のシミュレーションは実施した。しかし実施後のデブリーフィングは行えていないため今後の課題である。対象者の院内研修は参加できた。
3．空床ベッドの利用を他病棟と相談しながらベッドコントロールを行った。
　しかし新型コロナの関係で稼働率を上げることができなかった。

(福島富美子)

⑶ 第三病棟

令和 2 年度の第三病棟は、看護師 30 名 (うち非常勤 2 名)、保育士 3 名、看護助手 3 名、クラーク 1 名で始動した。循環器科・血液腫瘍科ともに、子どもたちや家族の支援について、看護師だけでなく医師、臨床工学士、理学療法士・言語聴覚士・作業療法士、歯科医師・歯科衛生士、保育士、ソーシャルワーカーや在宅療養支援看護師長、地域の保健師や訪問看護師と協力して取り組んだ。

【令和 2 年度第三病棟看護目標】

1．リスク感性を高め、倫理や規則を守り、これに応じた行動をとることができる
　1) 薬剤の患者誤認をゼロにする
　2) 標準予防策・経路別予防策の徹底により院内感染を起こさない
2．PNS 体制での人材育成システムを醸成し、質の高い看護を実践する

1）PNS グループを中心に病棟全体で新人や異動者を支援し離職をゼロにする
2）カンファレンスを充実し、高度医療的ケア児の在宅支援や重症児・終末期のケアを向上させる (多職種カンファレンスの開催月 2 回以上)

3．病院経営に関する知識を得て、業務に生かすことができる
1）経営に関する業務改善 3 件以上実践する
2）ショート受け入れ件数の前年度比 2 割増加
3）経営指標の捉え方を理解し、経営的視点をもって退院計画に活かすことができる

【結果・評価】

1．薬剤に関する患者誤認 0 件を目標に、リスクマネージャーや KYT 活動グループにより患者確認行動の評価を行い、注意喚起を行うことができた。注射薬の患者誤認が 1 件発生したが、その後 0 件に止めることができた。

院内感染の防止については、おむつ交換の手順確認を実施し、各自の標準予防策の遵守について振り返ることができた。ごみの分別については確認テストや環境整備を実施し、院内感染を起こすことなく業務を遂行できた。

2．プリセプターやフレッシュパートナーだけでなく、PNS グループを中心に病棟全体で新人や異動者を支援し、支援体制の問題による離職をゼロにできた。カンファレンスの定期開催の習慣化や安全カンファレンスの充実が出来、目標である看護の質向上に貢献できた。個別患者の多職種カンファレンスについて目標値に届かない月もあったが、週 1 回の定期カンファレンスで多職種との情報共有は実施できた。

3．経営に関する業務改善を試みたが、実際の効果を得ることは出来なかった。病床稼働については、他部署・当該科と相談し積極的な調整を実施した。ショートケアは COVID-19 の流行により 12 月から中止となったが、11 月までは前年度並みの件数であった。経営指標の捉え方については、資料を配布するにとどまった。

次年度は、引き続き安全な医療・看護の提供を重点課題とし、病棟経験の浅いスタッフの占める割合が増加したため、教育体制の整備と強化を目指していきたい。

(石坂泰子)

⑷ NICU 病棟

令和 2 年度は、看護師 37 名でスタートした。5 月に看護師 1 名が育児休暇明けで配属となった。9 月と 11 月に看護師 1 名ずつ産休に入り、10〜11 月に看護師 3 名が病気休暇となった。12 月に看護師 1 名が育児休暇明けで配属になり、2 月に院内異動で看護師 5 名が配属、5 名が異動、1 名が病気休暇から復職した。3 月に 1 名退職し、3 月末の時点で 36 名であった。

【令和 2 年度 NICU 病棟目標】

1．安全への取り組みを強化する
1）KYT 強化と問題解決シート活用により、チューブ・ドレーン関連のインシデント件数を昨年度より 30%削減する
2）病棟でのシミュレーション研修に全員が 1 回以上参加する
3）感染監査を年 2 回実施し、全員が 100%クリアする

2．質の高い看護を提供する

1）ベッドサイドカンファレンスでの OJT 強化により、フィジカルアセスメント能力が向上する
2）接遇を強化し、看護師の対応に対する患者家族のクレームがゼロになる

3．病院経営に積極的に参画する
1）入退院支援加算 3 取得に必要な NICU での役割を確実に果たす
2）GCU と協働し、患者の安全を念頭に、双方の入院医療管理料を有効的に取得し、病床を稼働させる

【結果・評価】

1．KYT 強化により挿管患者数・期間に対する事故抜管割合は減少したが件数は同様だった。他のチューブ類では、自己抜去予防と定期観察で異常の早期発見・対応ができたが、16 件増加し削減には至らなかった。シミュレーション研修は、全員が 1 回以上参加した。感染監査は、順守率 100%未満の項目を繰り返し監査し、全員が 100%クリアした。

2．カンファレンスで他者のアセスメントを聞くことにより視点が広がり、アセスメント力向上につながった。接遇では、患者環境整備と丁寧な家族対応を協力して行い、クレームは無く、サンクスカードや手紙で感謝の言葉をいただいた。

3．スクリーニングシートの記載やカンファレンスの実施など算定要件となる役割を果たし、加算取得に貢献できた。病床稼働率は GCU と協力し 90%以上を維持できた。

(齊藤織恵)

⑸ GCU 病棟

令和2年度は、看護師19名、看護助手4名でスタートした。4月下旬に2名新人職員が配属となり、5 月中旬より育児休暇明けの看護師が配属となった。11 月に院内異動で看護師 2 名が異動し、2 名が配属となり、3 月末時点で、看護師 22 名体制であった。

【令和 2 年度GCU病棟目標】

1．安全への取り組みを強化する
1）母乳に関わる患者誤認のゼロを維持する
2）最終確認時のシングルチェックを強化し、確認不足によるヒヤリ・ハットを 30%削減する
3）NG チューブの事故抜管を 30%削減する
4）病棟入院中での新規細菌感染の発症を起こさない

2．質の高い看護を提供する
1）新人看護職員の精神的要因での離職をゼロにする
2）患者のストレスサインに対する知識の向上を図り、知識レベルが 80%になる

3．病院経営に積極的に参画する
1）NICU と協働し、特定入院料を確実に取得する
2）産科病棟と情報共有し、産後ケア利用者を増やす

【結果・評価】

1．母乳に関わる患者誤認は、ゼロを維持した。確認不足によるヒヤリ・ハットの削減は、確認行動の徹底を呼び掛けにより、30%削減できた。NG チューブは、チューブの固定テープの変更と固定方法の周知徹底と抑制の変更により昨年度と比較し、削減したが、30%削減を達成できな

かった。新規細菌感染は、病床稼働率も高く新規感染が発生し、目標達成できなかった。ゾーニングやガウンテクニックの強化により新規細菌感染は、2 月以降なくなったが、継続して新規感染を出さない事が課題である。

2．新人職員の離職はなく、患者のストレスサインに対する知識向上も、勉強会の実施と継続的な意識づけを図った結果、知識レベルの評価は 81.3%となり、目標達成した。今後は知識を活かし、ケア実践に繋げることが課題である。

3．特定入院料については、NICU からの転入患者の 83.6%が管理料切れなく受け入れられ、連携して病床稼働ができた。産後ケア利用者は、病棟内でのマニュアルとチェックリストを作成し、スタッフが産後ケア事業を理解し、家族に産後ケア利用を勧める機会が増えたため、産後ケア利用者を 6 件に増やすことができた。今後は、チェックリストを活用した上で産後ケア利用を進める関りを定着させたい。

(浅野 香)

⑹ 小児集中治療部

令和 2 年度は、看護師 30 名、看護助手 2 名、病棟クラーク 1 名、ドクタークラーク 1 名 (第 3 病棟と兼務) でスタートした。6 月に産休者が 1 名、7 月に育休復帰が 1 名あった。2 月の院内部所間異動があったが看護師は最終 30 名であった。

【令和 2 年度 PICU 病棟看護目標】

目標 1. 根拠に基づく看護技術を、安全・正確に提供する

1) 患者誤認を起こさない

2) ドレーン・チューブ類、皮膚トラブルに関するヒヤリハット報告件数が昨年度より各 10%下回る

3) 繰り返し発生する問題には、問題解決シートを使用したカンファレンスを実施する

4) 病棟発生の感染に対し、感染対策のレベルを 1 で対処する

目標 2. お互いに学びあう看護を、実践できる環境に整える

1) 今年度 PICU 配属になった新人職員、異動者の離職率を 0%にする

2) シミュレーションを 10 回/年実施する

3) PNS を推進し、フィジカルアセスメントの向上を図る

4) 接遇の強化

目標 3. 病院経営に積極的に参画する

1) 加算取得率 50%を目指す

2) 時間外超過勤務時間を昨年度より、10%削減する

【結果・評価】

1．患者誤認は 1 件あった。(前年 2 件) 問題抽出し対策を早急にとれ、その後の発生はなかった。ドレーン・チューブ類は (前年 28 件) 36 件、皮膚トラブルは (前年 6 件) 8 件と増加した。いずれも発生から発見まで短時間であったが、アセスメント不足があり問題解決シートを使用したカンファレンスを 10 回行えたが、今後も継続してかかわる必要がある。手指消毒薬消費量は昨年度を超えたが感染レベルは 2 となることもあった。

2．離職者はなかった。シミュレーションを 10 回実施できた。終日 PNS 体制をとり、情報共有を

図れたが、アセスメント力向上には至らなかった。看護計画の見直しをしながら、勉強会やカンファレンスを実施し、妥当性を学びを深めた。

3．加算取得は (前年 39%) 40%であった。新規患者が取れない時期が長く、稼働ベッドの確保が課題である。時間外は月の平均が 84 時間と前年と同じであった。

(黒田佐織)

⑺ 産科病棟

令和 2 年度は、助産師は、4 月に 1 名産休に入り 16 名 (うち非常勤 1 名)、看護師は 5 月に育休休暇明けで 1 名配属となり 7 名、看護助手 1 名、クラーク 1.5 名でスタートした。

【令和 2 年度産科病棟】

1．安全への取り組みを強化する
  1) 問題解決シートを活用しヒヤリハットを起こさないシステムを構築する
  2) 防災・看護に関わるシミュレーションを実施し緊急時の対応強化を図る
2．質の高い看護を提供する
  1) 早期母子接触を確立し母子支援の充実を図る
  2) 外来マタニティークラスを開始し妊婦のケアの質の向上につとめる
3．病院経営に積極的に参画する
  1) 乳腺炎重症化予防ケアを提供することにより、診療報酬加算を取得する
  2) 1 か月健診時に EPDS (エジンバラ産後うつ病質問票) を追加し、収益を上げるシステムを構築する

【結果・評価】

1．ヒヤリハット発生時から問題解決シートを活用し改善策を実行するまでの流れを、明文化し実施することができた。防災に対するシミュレーションは院内の 2 回と各グループに分かれて実際に訓練を行った。緊急時のシミュレーションは大出血と抗生物質のアナフィラキシーショックについて、2 回行った。

2．外来マタニティークラスの看護手順を作成し、環境さえ整えば、いつでも開始することができるようになっている。早期母子接触の手順を作成し、実施し、アンケート等をとり内容を精査し 39 件の実施をすることができた。

3．乳腺炎重症化予防ケアの提供は，アドバンス助産師の資格を有している者が常時勤務していることが加算取得には必須である。今年度 5 年毎の更新を半数が行っており、8 名が資格を保持している。年間通して 101 件行った。

1 か月健診時に EPDS を追加し、239 件実施した。

(丸山美幸)

⑻ 手 術 室

令和2年度は､4月に看護師長が県立病院から転入し、看護師11名、看護助手1名でスタートした。7 月には看護助手 1 名入職、2 月には、看護師 1 名が院内異動で配属となり、看護師 12 名、看護助手 2 名となった。

【令和 2 年度手術室看護目標】

1．安全への取り組みを強化し、患者や家族にとって安全で安心な手術看護を提供する。

1）ヒヤリハット事例の発生要因を問題分析シートから明らかにし、発生要因から再発予防策を立案・実施して、同じ要因での事例発生を 0 にする。

2．フィッシュ活動を実践したスタッフ間で、知識・技術を共有し、質の高い手術看護を実践する。

1）手術看護におけるフィジカルアセスメントについて学習会を開催し、標準基準を作成する。

2）ペア間でフィジカルアセスメントを実施し、患者の状態に沿ったアセスメント、計画立案が 100％されている。

3．手術室が行える経営改善に取り組み、病院経営に参加する。

1）肺血栓症予防管理料について学習し、必要時加算を習得する。

2）手術で使用する衛生材料物品・消耗品使用の見直しを行い、10％削減する。

【結果・評価】

1．同じ要因での事例発生は 0 にすることはできなかった。しかし、問題分析シートを使用した要因分析を積極的に実施し、繰り返し生じている事象は減少することができた。また、繰り返し生じている事象には、経験年数により差がみられており、スタッフ間で暗黙知を言語化して、アセスメントから計画を立案し、対策を共有することが課題である。

2．学習会開催によりフィジカルアセスメントについての知識を深め、標準看護計画の基盤を作ることができた。計画立案時のアセスメントにも、フィジカルアセスメントの記載がみられるようになった。記録監査の結果、患者の状態に沿ったアセスメント、計画立案は、70％実施できていた。

3．肺血栓症予防管理料は、手術室内ではリスク評価をした外科患者に予防策を実施し、算定した。昨年度より 10 件の増加であった。今後は他科でも必要な患者にリスクを評価し、予防策を実施、算定していきたい。不必要な衛生材料・消耗品を見直し、衛生材料は約 25％、滅菌物の再滅菌率を約 10％削減することができた。数年使用していた不要な材料もあり、個々がコスト意識をもって日々の業務に取り組む必要がある。

(角田愉香理)

⑼ 外　来

令和2年度の外来は、看護師15名 (常勤4名、再任用1名、会計年度10名)、看護助手1名でスタートした。6 月に看護師長の異動があり、9 月に 1 名配属となり、11 月に 1 名産休に入った。12 月に看護助手 1 名配属となったが、3 月に看護助手 1 名退職となり、3 月末時点では、看護師 15 名、看護助手 1 名であった。

【令和 2 年度外来目標】

1．安全への取り組みを強化する

1）患者確認 (患者氏名・生年月日確認) を徹底し、患者誤認を 0 とする

2）輸液確認行動監査を 1 回/年実施する

3）シミュレーション研修を 1 回/年実施する

4）感染対策他者監査を 1 回/年実施する

2．質の高い看護を提供する
　1）外来マニュアルの見直しを実施する
　2）患者さんより看護師の対応に関する不満のご意見がない
　3）服務規程・接遇に関する唱和を月/1 回 (1 週間) 実施する
3．病院経営に積極的に参画する
　1）診療材料物品単価を表示し、コスト意識を向上する
　2）指導料・加算での衛生材料払い出しが適切に実施できるようシステム化を検討・実施する

【結果・評価】
1．感染対策他者監査、シミュレーション研修は実施できた。患者誤認が 1 件あったが、他部門で気づき連絡があり、患者に不利益が発生することはなかった。
2．外来マニュアルは、ほぼ見直しを実施できた。接遇に関する唱和は実施できたが、それが患者・家族からの看護師に対するクレームなしにはつながらず、ご意見箱には 1 件あり、直接ご家族に対応することもあった。外来として患者・家族が安心して外来受診できるように関わっていきたい。
3．在宅療養指導管理料・加算での衛生材料の払い出しについては、電子カルテに入力することでシステム化できた。また在宅療養指導管理料の算定漏れを防ぐために病棟、医事課に働きかけ、入院した場合退院時に算定できるようにした。

(宮川祐子)

⑽ サービス向上委員会

委員長: 都丸八重子 (副看護部長)　副委員長: 篠澤雅之 (総務課課長)
委　員: 今井正浩 (事務局長) 井上陸斗 (医事課) 小山亮太 (Dr) 清水真理子 (Dr) 村上麻耶 (Dr) 浅見杏子 (生理検査課) 萩原祐輔 (放射線課) 窪田莉那 (リハビリ) 河野美咲 (栄養) 高橋和子 (薬剤) 山下愛咲美 (歯科衛生士) 瀬下明日香 (地域連携室) 石坂泰子 (第三病棟師長) 久松飛鳥 (第一病棟) 荒木有美 (第二病棟) 井田智巳 (第三病棟) 高田やよい (NICU) 服部由佳 (GCU) 田中絢子 (産科病棟) 高橋ゆり菜 (PICU) 日景智行 (手術室) 瀬谷由美 (外来)
開催日: 定例開催日 4 回/年　第 3 火曜日 16:45～

【目　　的】
1．職員一人ひとりの接遇の向上を図る。
2．患者・家族の権利を尊重し、思いやりのある医療サービスを提供する。

【活動報告】
1）患者経験価値調査 (PX)
　NHA (日本ホスピタルアライアンス) で行っている患者経験価値調査 (PX) を今年度初めて導入した。この調査は医療の質指標 (Quality Indicator: QI) の一つで、患者満足度調査 (Patient Satisfaction＝PS) が主観的な「満足」を評価するのに対し具体的で客観的な「経験」を尋ねるのが特徴で、医療の質改善に向けて具体的な課題が抽出しやすいとされている。PX を行うことで患者の健康アウトカムの向上や医療資源利用の効率性向上、医療過誤の減少などに影響することが証明されている調査である。入院患者・家族 98 名、外来患者・家族 150 名の回答を得た。入院患者においては他施

設との対比により自施設の現状がより明白となり、患者家族に対するコミュニケーションが最重要課題であることが分かった。また治療においては、薬剤師の病棟配置により改善できる結果であった。外来全体は、待ち時間、対応の不統一とともに医師看護師以外の対応も課題があった。例年指摘されている設備に対しては患者家族の経験に、さほどの影響がないことが理解できた。この結果を真摯に受け止めサービス基本である接遇、優しい心をもって対応することを次年度の課題として取り組んでいきたい。

2) ご意見箱

総数 34 件 (感謝 6 件、改善対応 21 件、対応困難 2 件、取組継続 5 件、その他重複) であり、総数について昨年より若干減少した。改善対応は 20 件で昨年と同様、職員の対応に対する意見が半数を占めた。対応困難事例は設備に関するものであったが外来や病棟の環境に関する意見には、可能な限り改善し安全な環境づくりに努めた。また改善対応を求める意見の中にも職員への感謝の言葉が明記されており励みとなった。

3) 挨拶習慣への取り組み

接遇の基本である挨拶には、全職員対象に取り組みを行った。各セクションのサービス向上委員が統一した挨拶の方法を共有し職員へ周知した。院内にポスターを掲示し取り組みを明示した。2 月 1 日から 1 か月を目安に取り組んだ。委員から全職員が気持ちよく挨拶できるまでには至っていないと評価、経年での取り組みとした。

4) ボランティア

新型コロナ感染症に伴いすべてのボランティアが中止となった。それに伴い意見交換会も中止となったが定期的に連絡し要望等を確認している。早期の活動再開をボランティア共々強く望む。

クリニクラウン、しまじろうキャラバンは、オンラインを活用し子どもたちへ一時の楽しみをもたらす結果となった。

令和 2 年度も各部署の委員を中心に全職員協力して、患者・家族へのサービス向上と職員の接遇に向けて活動を行った。

(都丸八重子)

17. 母子保健室

⑴ はじめに

当室は、昭和 57 年のセンター開院時から『高度医療を背景として、保健所や市町村の母子保健に対する専門的保健指導を担う部門』として設置され、現在、子どもたちの健やかな成長と発達を支援することを理念とし、入通院児をもつ家族支援に対応するため、多様な相談を受けつつ関係機関との連絡調整機能を担っている。

令和 2 年度の母子保健室の室員は、室長 (院長が兼務)、保健師 3 名 (駐在 1 名・駐在会計年度職員 1 名・会計年度職員 1 名)、臨床心理士 1 名 (会計年度職員) の 4 名体制で、地域医療連携室の MSW や在宅療養支援師長と連携しながら相談業務に従事している。

近年、社会情勢の変化や家族背景が変化している中、虐待予防も見据えて院内外関係者の多くの協力をいただきながら関係機関との連絡調整や支援会議を開催するなど、緊急性と継続支援の必要性が高い案件がますます多くなっている。このため、院内各部門及び地域の保健・福祉・教育関係者等と適時に協議しながら連携を深め家族支援を行っている。

⑵ 令和 2 年度実績

①精密健康診査

市町村の乳幼児健康診査の結果、精密検査該当で受診した児について、必要に応じて市町村保健師と連携を図り、受診同席を行いながら受診結果の把握及びその後の支援を行っている。

令和 2 年度の受診者は 84 人、受診結果は要観察 46 人 (54.8%)、要治療 17 人 (20.2%) で、要観察児は当センター外来又は市町村でフォローアップされている。

②子どものこころの発達相談

子どもの心理的な発達を支援するため、月 4 回臨床心理士によるカウンセリングと必要に応じて保健師による相談を実施し、相談終了後には主治医を含めたカンファレンスを行っている。

相談者は、院内各診療科からの紹介と前年度の継続事例であり、実人数 39 人、延べ人数 77 人で、3 年度への継続事例 3 人 (7.7%)、相談終了は 27 人 (69.2%)、他機関紹介は、9 人 (23.1%) であった。

相談内容は発達に関係した養育や育児環境の調整が最も多く、行動の問題が次に多い傾向が続いている。

③新生児・未熟児病棟入院児の退院連絡

退院後の養育状況の把握と育児支援を目的として、市町村保健師に家庭訪問を依頼している。継続支援には地域との連携が不可欠であり、令和 2 年度の訪問依頼件数は 204 件であった。

訪問依頼への返信数は 189 件、そのうち、訪問実施は 184 件 (90.2%) で、5 件は訪問に替えて電話連絡等で対応されていた。新型コロナウイルス感染症の蔓延のため訪問できないケースが見られた。情報提供書として退院後 2 週間以内に市町村に連絡することを目標に各病棟や医事課スタッフと連携して早期に連絡できるよう努力している。

④育児相談及び関係機関との連携状況

育児に関わる一般的な相談をはじめ、療育や受診に関わる相談と支援に伴う関係機関との調整を行っている。内訳をみると、家族からの相談が 862 件、市町村との連携が 493 件、院内関係部署と

の連絡調整が 273 件であった。支援や事業に伴う関係機関との連絡総数は件で、連絡方法別にみると、電話が 988 件、面接が 872 件であった。

⑤関係機関連携会議

環境等の調整が必要な家庭の支援のため、地域機関 (市町村、児童相談所、学校、保育所等) との間で連携会議を開催しており、令和 2 年度は 9 回開催した。

⑥子ども虐待防止対策事業　(母子保健室・地域連携室)

地域医療連携室と協働で事務局を担っている。院内虐待防止委員会のもと緊急対応や虐待防止に向けての研修会などを開催した。

詳細については、地域医療連携室の事業内容を参照していただきたい。

⑦臨床心理士による発達検査及び心理カウンセリング

当院は総合周産期総合母子医療センターの機能をもつことから、極低出生体重児全員の成長発達確認 (1 歳 6 か月・3 歳・6 歳時点の発達検査等) 及びその他主治医が必要とした児の発達検査やカウンセリングを行い、必要に応じて地域との連携を行っている。

また、発達相談日以外にも緊急度により心理カウンセリングを行っている。令和 2 年度における発達相談日以外の心理カウンセリングは、対象 85 家族で延べ 538 回、産科からの依頼が 33%、続いて神経内科から 32%であった。産科からの依頼が増加している。

⑧産後ケア事業

令和元年度から産後ケア事業を受け入れ産科病棟で開始された。実施主体は市町村であるため、利用する場合の市町村等への連絡調整を行った。

⑨研修会等

看護大学学生への実習中の講義等を適時行っている。

院内では看護部の新規採用職員研修、院外では群馬大学保健学科ではゲスト講師、医療的ケア児等コーディネーター養成研修での講師なども勤めた。

⑩先天性代謝異常等マス・スクリーニング事業

本事業の事務局として、患者情報の管理 (精密検査対象児及び継続治療児等のフォローアップ) を行っている。平成 25 年 10 月からタンデムマス法検査の導入がされ、現在、発見可能な疾患が 20 疾患となった。保護者の不安等への対応については、地域機関である保健所・保健福祉事務所と連携して不安の軽減と解消に努めている。

また、毎年度、先天性代謝異常等対策委員会を開催している。

⑶ まとめ

母子保健室はセンター開院時から病院と地域との橋渡し役として、多くの保護者から相談を受け相談内容に応じて関係機関との連絡調整の役割を担ってきた。

特に、ここ数年は婚姻外出産、育児経験不足 (養育力低下)、家庭環境不全、育児支援者の不在、経済的困窮等の要支援家庭の増加や、障害受容が困難な家族、虐待事例等、児童相談所等の関係機

関との調整や家族支援に時間を要するハイリスク事例がますます増加している。

産科病棟等協力し、産後ケア事業もスタートした。当院で出産した産婦さん方の必要なフォローのため市町村等の連絡調整に努めている。

今後も疾患を抱えながら成長していく子どもたちと見守るご家族が安全かつ安心して日常生活が過ごせるようひとり一人の相談に真摯に向き合い、主治医と相談しながら母子保健室ならではの多職種のチームとして得意分野を最大限発揮した相談体制に努め、関係セクションとの協働を継続し、地域の関係機関との連携を強化していきたい。

(阿久澤直子)

18. 地域医療連携室

地域医療連携室は2階のリハビリテーション室隣に新設後3年目を迎えた。地域医療連携室 (相談窓口) にはメディカルソーシャルワーカー (MSW) 2名、在宅療養支援担当の看護師長1名が常時、勤務している。在宅療養・退院に向けた支援、福祉制度の案内、心配事やお困り事の相談などを受けている。患者様をご紹介いただく窓口 (予約・受付窓口) は受付の地域医療連携担当が受けて地域医療連携室長および当該科医師と相談して対応している。退院時共同指導料2、介護等連携指導加算、患者サポート体制充実加算の3つの加算を取得し、毎週、金曜日午前には定例の患者サポートカンファレンスを行っている。医療連携のより一層の充実に向けて取り組みをすすめている。

(野村 滋)

19. 医療安全管理室

1．令和 2 年度医療安全管理体制

医療安全管理室長　副院長　小林富男

専任安全管理推進者 (ゼネラルリスクマネージャー : GRM)　看護師長　福田 円

非常勤職員　1 名

委　　員　　会　　等	開　催　日	構成員	開 催 実 績
医療安全管理委員会 ＜医療安全管理体制の方針決定機関＞ 委員長: 小林副院長 副委員長: 福田 GRM	原則毎月 第 2 火曜日	22 名	定例 12 回
診療関連死原因検討委員会 委員長: 小林副院長 副委員長: 浜島医療局長	原則月 1 回 開催日随時決定	19 名	8 回開催
リスクマネジメント委員会 ＜医療安全対策の実行機関＞ 委員長: 福田 GRM 副委員長: 黒田師長	原則毎月 第 3 水曜日	28 名	定例 12 回
看護部リスクマネジメント委員会 ＜看護部内の医療安全対策検討＞ 委員長: 福田 GRM 副委員長: 黒田師長	原則毎月 第 3 水曜日	11 名	定例 12 回
患者相談窓口	責任者: GRM 福田		相談件数 2 件

2．令和 2 年度医療安全講演会・研修開催状況

対象	開　　催　　日	参加人数	参加率	テーマ・内容	講　　師
全職員対象	R2.11.18〜1 か月	265	79.6%	医療倫理 DVD 研修	稲葉一人　病院局顧問
	R2.9〜10 月R2.10.19 締切	462	100%	患者確認自己評価	
	R2.9.1〜1 か月	457	100%	患者誤認 DVD 研修	GRM 福田 円
	R2.5.22,28	91	統一救急カート勉強会		下山伸哉 部長 木島久仁子 副主幹 冨樫哲雄 主任 諏佐和也 主任
	R3.1.17	250	インシデントレポートから伝えたいこと		高橋祐樹 技師
	R2.7.27	17	看護助手対象　医療安全「病院チームの一員」		医療安全管理室 GRM 福田 円
看護部	R2.5 月	KYT 危険予知訓練・部署目標			
	R2.10 月	KYT 危険予知訓練・中間フォローアップ			
	R3.2.22	KYT 危険予知訓練・最終取り組み報告			

3．医療事故及びヒヤリ・ハット事例調査集計

1）医療事故及びヒヤリ・ハット報告数

1,015 件。R1 年度比較 9 件増加 (0.8%)　3b: 5 件　4 以上の発生なし。

件数の微増はあったが、全体の 80.2%はレベル 1 以下であった。

2）項目別発生割合

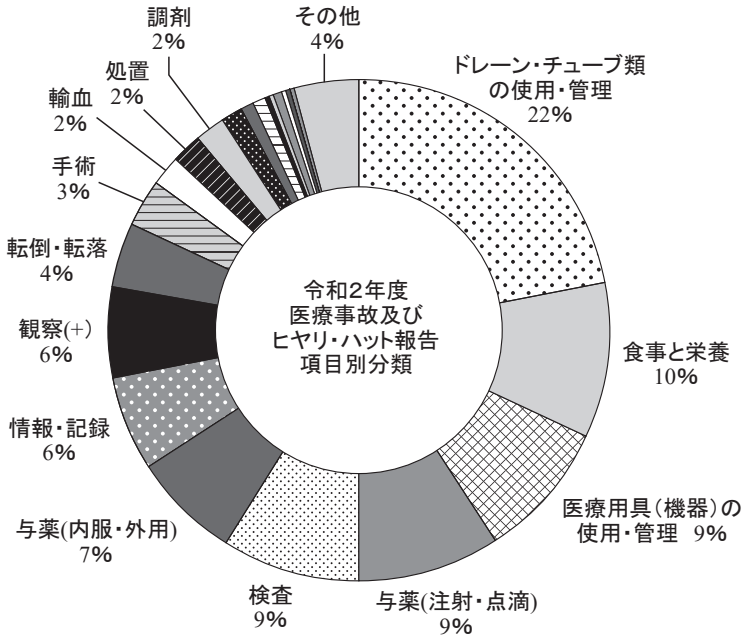
①ドレーン・チューブの使用管理22%　②食事と栄養 (内服) 10%　③医療用具、与薬 (内服)、検査それぞれ 9%の順。

3）事故発生日時

平日日勤 10 時～11 時台の発生ピークに変化はなく、12 時～15 時の発生は減少した。

4）患者誤認

28 件発生 (3 件増加)。2 レベル以上は 2 件で、それ以外は 0～1 レベルであった。医師が関係したもの 6 件 (21%)、看護部 10 件 (36%)。一人あたりの発生状況では①歯科、②検査課、③医療局の順で、内容は、①情報と記録、②検査、③食事と栄養であった。



	レベル / 件数	0	1	2	3a	3b	4a	4b
ドレーン・チューブ類の使用・管理	226	23	104	85	12	2	0	0
食事と栄養	105	52	48	5	0	0	0	0
医療用具 (機器) の使用・管理	91	41	43	5	2	0	0	0
与薬 (注射・点滴)	87	25	56	5	1	0	0	0
検査	87	39	32	16	0	0	0	0
与薬 (内服・外用)	76	25	48	2	1	0	0	0
情報・記録	63	55	7	1	0	0	0	0
観察 (+)	62	5	36	21	0	0	0	0

	レベル / 件数	0	1	2	3a	3b	4a	4b
転倒・転落	38	2	16	19	1	0	0	0
手術	30	12	13	3	0	2	0	0
輸血	23	15	6	2	0	0	0	0
処置	23	1	15	7	0	0	0	0
調剤	22	22	0	0	0	0	0	0
処方	14	12	1	1	0	0	0	0
感染防止	9	6	1	2	0	0	0	0
説明	7	3	4	0	0	0	0	0
分娩	2	1	0	0	1	0	0	0
清拭・入浴介助等	2	0	2	0	0	0	0	0
環境整備	2	1	1	0	0	0	0	0
事務	2	2	0	0	0	0	0	0
歯科医療用具 (機器)・材料の使用・管理	2	1	0	1	0	0	0	0
麻酔	1	1	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション	1	1	0	0	0	0	0	0
排泄の介助	1	0	1	0	0	0	0	0
移送	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	39	29	7	2	0	1	0	0
合　　計	1,015	374	441	177	18	5	0	0

4．患者・家族相談件数

相　談　内　容	件数
相談内容	件数
医師に関する事	1 件
看護に関する事	1 件
	計 2 件

5．医療安全地域連携加算に係る相互評価

日　　程	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和 2 年 11 月 17 日	加算 I 群馬県立がんセンター	加算 I 群馬県立小児医療センター
令和 2 年 12 月 8 日	加算 I 群馬県立小児医療センター	加算 I 群馬県立がんセンター
令和 3 年 2 月 25 日	加算 I 群馬県立小児医療センター	加算 II 北関東循環器病院

6．リスクマネジメント委員会活動

委 員 長: 福田 円

副 院 長: 黒田佐織

委　　員: 高澤部長 (外科)、福田部長 (新生児)、大和医長 (血腫)、道和部長 (内科)、森田部長 (内科)、廣木部長 (麻酔)、村上医長 (産科)、新井医長 (循環器)、殿木副主幹 (第一)、亀井主幹 (第二)、柴田主幹 (第三)、飯田主幹 (NICU)、眞下主幹 (GCU)、和田主任 (産科)、黒岩主任 (OPE)、青木主任 (PICU)、佐川主幹 (外来)、高木技師 (薬剤部)、松井主任 (検査)、吉田技師 (放射線)、磯田主任 (栄養)、熊丸主幹 (リハビリ)、高橋技師 (ME)、船山主事 (総務課)、若井レジデント (歯科)

1) 活動内容

⑴ 事故及びヒヤリ・ハット報告の周知、問題の共有、対策検討、知識の修得

⑵ WG 活動

フィッシュ活動	コミュニケーションの活性化を図るため、THANKS カード、あいさつ運動
患者誤認	患者誤認ポスター掲示、指差し唱和、院内ラウンド
災害対応	BCP の内容確認、災害時炊き出し訓練
5S 活動	院内ラウンドによる日頃の評価と 5S 取り組みを 1 月発表会実施、表彰

7．今後の課題

1) シミュレーション教育の継続

2) 患者誤認事故の削減

3) 確認行動監査の継続 (与薬: 内服・輸液注射)

4) 各部署の取り組み支援の強化

5) TeamSTEPPS の導入

(福田 円)

20. 感染対策室

1．令和 2 年度感染対策体制

感染対策室長　山田佳之 (ICD) (兼任)
感染対策医師　清水彰彦 (ICD) 小泉亜矢 (ICD) (兼任)
専従感染対策担当看護師 (感染管理認定看護師: ICN)　石川さやか (6 月まで)
　　北爪幸子 (7 月より)
感染対策担当検査技師　佐藤敦子 (兼任)
感染対策担当薬剤師　　高橋大輔 (兼任)

2．委員会活動報告

委 員 会 等	開　催　日	構　成　員
院内感染対策委員会 ＜感染対策体制の方針決定機関＞ 委員長: 山田佳之 副委員長: 清水彰彦	毎月第 4 水曜日	46 名
ICT 委員会 ＜感染対策の実働＞ 委員長: 清水彰彦 副委員長: 山田佳之・小泉亜矢	毎月第 1 火曜日	25 名
リンクナース会 委員長: 北爪幸子	毎月第 3 月曜日	10 名

1) 院内感染対策委員会活動

委員会は毎月開催で年 12 回開催した。委員会では細菌ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況報告・血流感染／ SSI サーベイランス報告・AST 活動・ICT 活動の報告を実施した。

2) ICT 委員会活動

今年度より委員会開催を第 1 週の火曜日に変更となり、年 11 回開催した。委員会では院内の感染状況報告・細菌・ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況の報告・ICT ラウンド報告・研修内容の検討、清掃満足度調査、相互チェック対応・改善活動等を実施した。

3) リンクナース会活動

活動目標として「各部署における感染対策活動が実施できる」とし、活動を実施した。

オムツ交換他者評価 (外来・手術室は別内容での実施) 年 2 回実施、ICT ラウンド結果・相互チェック・指摘内容の改善、自部署の感染管理上の問題点を抽出、改善計画を立案し、改善を実践した。手指消毒薬使用量調査結果を報告した。

来年度の課題として、手指衛生の強化の継続と、環境整備の定着を実施する。また COVID-19 患者対応について二次感染者がでないよう、個人防護具の着脱について他者評価を実施する予定。

3．感染対策室活動報告

1）感染防止対策カンファレンス

開催日	主催		備考
7 月 20 日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和 2 年度群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	WEB 開催・共催
12 月 11 日	小児医療センター	令和 2 年度第 1 回 感染防止対策カンファレンス	WEB 開催
12 月 23 日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和 2 年度群馬県感染症対策連絡協議会・合同カンファレンス	WEB 開催・共催
3 月 12 日	小児医療センター	令和 2 年度第 2 回 感染防止対策カンファレンス	WEB 開催

2）相互チェック

開催日	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和 2 年 7 月 31 日 (金)	小児医療センター	公立富岡総合病院
令和 2 年 10 月 9 日 (金)	太田記念病院	小児医療センター

3）ICT ラウンド

毎週木曜日に病棟 (第一・第二・第三・産科・NICU・GCU・PICU) は毎週、技術部 (検査課・リハ課・放射線課・CE 課)・薬剤部・外来・手術室は月 1 回ラウンドを実施した。標準予防策実施状況・環境清掃状況・感染対策物品管理状況などを確認した。毎回報告書を作成し、ラウンドを実施した部門へ配布し改善を求めた。相互チェックで指摘された項目もラウンド項目に追加し、改善できた。

4）AST 活動

令和 2 年度の AST 活動について、広域抗菌薬・抗 MRSA 薬使用患者や、医師からコンサルトがあった症例等に随時介入し、週 1 回の特定抗菌薬ラウンドを実施した。

特筆すべきは、カルバペネム系抗菌薬の入院患者 1000 人あたりの使用頻度が平成 30 年: 9.77, 令和1年: 5.72, 令和2年: 1.58と年々改善し､JACHRI 加盟38病院中3位となったことが挙げられる。また、経口第 3 世代セフェムの採用を中止した。

AMR アクションプランが示す目標 (対 2013 年比) については、静注抗菌薬使用量 20%減、経口マクロライド 50%減と 2 項目について目標を達成した。

5）研修開催状況

⑴　全職種対象

開催日	内容	講師	参加人数	備考
6 月 8 日から 7 月 17 日	手指衛生研修	ICT ／ ICT リンク委員	447 名	参加率 96.5%
10 月 23･26･27 日	インフルエンザ研修	北爪看護師	457 名	参加率 99.6%

⑵　部門別研修

開　催　日	内　　容	講　　師	参加人数	対　　象
4 月 8 日	新入職者研修	清水医師／石川看護師	21 人	新入職職員
7 月 27/28 日	個人防護具について	北爪看護師	13 名	外来看護師
9 月 10/15 日	コロナ対応について	北爪看護師	18 名	検査課職員
10 月 30 日	新入職者研修プログラム感染	北爪看護師	9 名	看護師新入職職員

6) 新型コロナウイルス関連

⑴　新型コロナウイルス受け入れ対応病棟準備・マニュアル作成・指導

⑵　新型コロナウイルス患者入院時受け入れ対応

陽性患者: 16 件、疑似症患者: 7 件

⑶　病院間調整センター・保健福祉事務所・保健予防課等との調整・報告

⑷　新型コロナウイルス患者宿泊療養施設看護業務調整・指導

⑸　発熱外来運営検討・手順書作成

⑹　新型コロナウイルスワクチン接種対応

⑺　診療材料・個人防護具等の備蓄物品管理

⑻　新型コロナウイルス定例会議開催 (毎週水曜日)

7) その他

⑴　感染対策マニュアル改訂　新型コロナウイルス (COVID-19) 追加

⑵　乳幼児感染予防策加算取得準備・実施

⑶　広報活動: コロナ通信　12 回発行、ICT だより　3 回発行

⑷　病院局感染対策担当者会議出席

⑸　外来患者インフルエンザワクチン接種対応

⑹　職員抗体価検査結果管理・ワクチン接種対応

⑺　外部施設への感染対策実施指導

月　日	施　　設　　名	派　　遣　　職　　員
4 月 28 日	利根中央病院	清水医師・石川看護師
8 月 18 日	並木路荘	北爪看護師
10 月 14 日	群馬整肢療護園	山田医師・北爪看護師
1 月 4 日	はんな・さわらび療育園	山田医師・北爪看護師

⑻　感染対策相談対応

(北爪幸子)

研究研修編

1. 学会報告

◆小児内科

＜神経内科＞

1) 森田孝次. SLE を発症し, 一般小児病棟で多科・多職種で連携しながら診療にあたった発達障害の 1 例. 第 62 回日本小児神経学会学術集会, 新潟, 2020. 8.

2) 渡辺美緒, 清水有紀, 鈴木江里子, 森田孝次, 道和百合, 椎原 隆, 六本木温子, 臼田由美子. ヌシネルセン治療を開始した脊髄性筋萎縮症の 5 例. 第 62 回日本小児神経学会学術集会, 新潟, 2020. 8.

3) 道和百合. SCN2A 遺伝子異常と診断されたてんかん性脳症の 2 例. 慶應義塾大学臨床遺伝学センター勉強会, 東京 (Web 開催), 2020. 11. 19.

＜循環器科＞

1) 中島公子, 池田健太郎, 新井修平, 浅見雄司, 下山伸哉, 小林富男. Amplatzer Piccolo Occuluder (APO) の回収経験. 第 7 回 Informal JPIC 関東甲信越研究会, Web 開催, 2020. 10. 25.

2) 池田健太郎, 新井修平, 浅見雄司, 田中健佑, 下山伸哉, 小林富男, 林 秀憲, 友保貴博, 岡 徳彦. 総動脈幹症における両側肺動脈絞扼部へのバルーン拡張術の検討. 第 56 回日本小児循環器学会総会学術集会, 京都 (hybrid 開催), 2020. 11. 22-24.

3) 浅見雄司, 清水彰彦, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉, 林 秀憲, 友保貴博, 岡 徳彦, 山田佳之, 小林富男. 髄膜炎を併発したメチシリン感受性ブドウ球菌による感染性心内膜炎. 第 56 回日本小児循環器学会総会・学術集会, 京都, 2020. 11. 22-24.

4) 新井修平, 稲田雅弘, 浅見雄司, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. フォンタン型手術前における APCA に対する塞栓術後の炎症反応の推移. 第 56 回日本小児循環器学会総会・学術集会, 京都, 2020. 11. 22-24.

5) 下山伸哉, 高橋大輔, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 田中健佑, 池田健太郎, 小林富男. 心不全治療中の中心静脈カテーテル閉塞の原因の検討. 第 56 回日本小児循環器学会学術集会, 京都, 2020. 11. 23.

6) 中島公子, 関 満, 畠山信逸, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉, 岡 徳彦, 小林富男. Fontan-associated liver disease は術後早期から始まっている—フォンタン周術期の低心拍出と中心静脈圧の関与—. 第 56 回日本小児循環器学会, 京都, 2020. 11. 24.

7) 下山伸哉, 石毛 崇, 滝沢琢己, 小林富男, 荒川浩一. 炎症性腸疾患治療中に発症した薬剤性心筋炎の小児例. 第 56 回日本小児循環器学会学術集会, 京都, 2020. 11. 24.

8) 池田健太郎. S-ICD 小児の有用性. 第 13 回植え込みデバイス関連冬季大会, 大阪 (hybrid 開催), 2021. 2. 6.

9) 浅見雄司, 田中健佑, 新井修平, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. 完全房室ブロックにより早期に胎児水腫を来たし娩出時期の決定に苦慮した一例. 第 27 回日本胎児心臓病学会学術集会, 宮城, 2021. 2. 26-27.

10) 川崎達也, 志馬伸朗, 井手健太郎, 伊藤雄介, 稲田 雄, 川口 敦, 古薗弘隆, 谷 昌憲, 松石雄二朗, 近藤 豊, 三浦慎也, 板倉隆太, 旗智武志, 冨田健太朗, 芳賀大樹, 菊地 斉, 榎本有希, 其田健司, 林 拓也, 石原唯史, 木村 翔, 鉄原健一, 高島光平, 下山伸哉, 伊藤健太, 江木盛時, 小倉裕司, 西田 修, 田中 裕, J-SSCG2020 特別委員会小児班. 日本版敗血症診療ガイドライン 2020; 小児敗血症診療を知る 小児敗血症診療 Questions & Answers. 第47回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2021. 3. 7.

11) 近藤 豊, 川崎達也, 志馬伸朗, 井手健太郎, 伊藤雄介, 稲田 雄, 川口 敦, 古薗弘隆, 谷 昌憲, 三

浦慎也, 松石雄二朗, 板倉隆太, 旗智武志, 冨田健太朗, 芳賀大樹, 菊地 斉, 榎本 有希, 其田健司, 林 拓也, 石原唯史, 木村 翔, 鉄原健一, 高島光平, 下山伸哉, 伊藤健太, 江木盛時, 小倉裕司, 西田 修, 田中 裕, J-SSCG2020 特別委員会小児班. 日本版敗血症診療ガイドライン 2020; 小児敗血症診療を知る 小児敗血症のエビデンス解説. 第 47 回日本集中治療医学会学術集会, 名古屋, 2021. 3. 7.

12) 池田健太郎, 中島 忠, 佐々木孝志, 飯塚貴士, 田村峻太郎, 長谷川寛, 小針尭司, 庭前野菊, 丹下正一, 小林富男, 金古善明, 倉林正彦. Multiple arrhythmic and cardiomyopathic phenotypes associated with a non-functional SCN5A A735E mutation. 第85回日本循環器学会学術集会, 横浜 (hybrid 開催), 2021. 3. 28.

＜新生児科＞

1) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鏑木浩太. 当科における救急救命士を対象とした新生児蘇生法講習会. 第 123 回日本小児科学会学術集会, 神戸 (Web 開催), 2020. 8. 21-23.

2) 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山﨑 優, 鏑木浩太, 本間春奈, 丸山憲一. 胎児期に発症した腸回転異常を伴わない小腸捻転 当院における経験症例のまとめ. 第 123 回日本小児科学会学術集会, 神戸 (Web 開催), 2020. 8. 21-23.

3) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 山﨑 優, 鏑木浩太, 本間春奈. 巨大肝腫瘍の早産児例. 第 123 回日本小児科学会, 神戸 (Web 開催), 2020. 8. 21-23.

4) 井上文孝, 丸山憲一, 畠山信逸. Autopsy imaging で脳梗塞を認めた先天性横隔膜ヘルニアの一例. 第 56 回日本小児放射線学会学術集会, 横浜 (Web 開催), 2020. 8. 28-9. 11.

5) 鏑木浩太, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 西 明, 畠山信逸. 膵管内ガス像を認めた十二指腸狭窄, 膵胆管合流異常の新生児例. 第 56 回日本小児放射線学会学術集会, 横浜 (Web 開催), 2020. 8. 28-9. 11.

6) 福田一代, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鏑木浩太. 下垂体機能低下症を合併した早産児の3例. 第 36 回群馬周産期研究会総会, Web 開催, 2020. 10. 17.

7) 丸山憲一. 生存退院, 転院した極低出生体重児における腸穿孔発症に関連する出生前, 出生後早期の因子に関する検討. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, Web 開催, 2020. 10. 24-25.

8) 小泉亜矢, 山田佳之, 西 明, 福田一代, 市之宮健二, 鏑木浩太, 丸山憲一. 胎児期に腸管拡張と羊水過多を呈した新生児好酸球性胃腸炎の一例. 第 214 回日本小児科学会群馬地方会講話会, 前橋 (Web 開催), 2020. 12. 6.

9) 市之宮健二. NRN データベースの解析経験 —双胎 VLBWI の膜性による予後比較—, NRN Web 講演会 (Web 開催), 2020. 12. 12.

10) 山崎 優, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鏑木浩太. Small for gestational age (SGA) と多発奇形をきっかけに染色体異常が見つかった 1q43 欠失症候群の一例. 第 215 回日本小児科学会群馬地方会講話会, Web 開催, 2021. 3. 20.

＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞

1) 山田佳之. 小児の診療ガイドライン —Up To Date— 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症診療ガイドライン. 第 123 回日本小児科学会学術集会. (シンポジウム), 神戸 (Web 開催), 2020. 8. 22.

2) Arakawa N, Shigeta D, Yagi H, Shimizu M, Takizawa T, Yamada Y. Dupilumab induces tolerance in gastrointestinal allergy; a case report. JAS/WAO joint congress, 京都 (Web 開催), 2020. 9. 17-10. 20.

3) Kama Y, Kato M, Yamada Y, Koike T, Suzuki K, Enseki M, Tabata H, Hirai K, Mochizuki H. Pediatric asthma Pharyngeal Streptococcus pneumoniae colonization in acute exacerbations of childhood bronchial asthma is associated with shorter duration of wheezing and lower levels of serum TNF-α. JAS/WAO joint congress, 京都 (Web 開催), 2020. 9. 17-10. 20.

4) Shimizu M, Kama Y, Shimizu A, Nomura S, Nishi A, Kato M, Yamada Y. Progression to esophageal eosinophilia in patients with suspected eosinophilic esophagitis or congenital esophageal stenosis. JAS/WAO joint congress, 京都 (Web 開催), 2020. 9. 17-10. 20.

5) 高澤慎也, 小山亮太, 磯田有香, 山田佳之, 西　明. 慢性便秘症児の食事内容と腸内細菌叢の解析. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, Web 開催, 2020. 10. 24.

6) Kama Y, Kato M, Yamada Y, Koike T, Suzuki K, Enseki M, Tabata H, Hirai K, Mochizuki H. Pharyngeal streptococcus pneumoniae colonization in acute exacerbations of childhood bronchial asthma is associated with shorter duration of wheezing. 第 57 回日本小児アレルギー学会学術大会, 横浜 (Web 開催), 2020. 10. 31-11. 30.

7) Shimizu M, Kama Y, Shimizu A, Nomura S, Nishi A, Kato M, Yamada Y. Prednisolone enema allows tapered use of systemic corticosteroid in a patient with eosinophilic gastroenteritis. 第 57 回日本小児アレルギー学会学術大会, 横浜 (Web 開催), 2020. 10. 31-11. 30.

8) 浅見雄司, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉, 林　秀憲, 友保貴博, 岡　徳彦, 清水彰彦, 山田佳之, 小林富男. 髄膜炎を併発したメチシリン感受性ブドウ球菌による感染性心内膜炎. 第 56 回日本小児循環器学会総会・学術集会, 京都 (Web 開催), 2020. 11. 22-24.

9) 小泉亜矢, 山田佳之, 西　明, 福田一代, 市之宮健二, 鏑木浩太, 丸山憲一. 胎児期に腸管拡張と羊水過多を呈した新生児好酸球性胃腸炎の一例. 第 214 回日本小児学会群馬地方会講話会, Web 開催, 2020. 12. 6.

◆小児外科

＜一般外科＞

1) 西　明, 高澤慎也, 高本尚弘, 小山亮太. 大量腸管血流障害 22 例の検討. 第 57 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2020. 9. 19.

2) 高本尚弘, 小山亮太, 高澤慎也, 西　明. 当科における挿入補助具を利用した小腸カプセル内視鏡検査の経験. 第 57 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2020. 9. 19.

3) 高澤慎也, 小山亮太, 高本尚弘, 西　明. 3D スキャナーを用いた小児胸部手術後の胸郭表面形状変化の検討. 第 57 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2020. 9. 19.

4) 高澤慎也, 小山亮太, 高本尚弘, 西　明. 短腸症候群児の中心静脈カテーテル感染時における腸内細菌叢の変化. 第 57 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2020. 9. 19.

5) 小山亮太, 高本尚弘, 高澤慎也, 西　明. アルカリ性洗浄剤による口腔内潰瘍をきたした一例. 第 57 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2020. 9. 19.

6) 高澤慎也, 小山亮太, 磯田有香, 山田佳之, 西　明. 慢性便秘症児の食事内容と腸内細菌叢の解析. 第 47 回日本小児栄養消化器肝臓学会, Web 開催, 2020. 10. 24.

7) Takazawa Shinya, Koyama Ryota, Takamoto Naohiro, Nishi Akira. Developing proficiency in single incision laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure. 第 33 回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2021. 3. 10.

＜形成外科＞

1) 佐々木淑恵, 浜島昭人, 西村 怜, 荒木夏枝, 髙澤慎也. ハンディ3D スキャンを使用した漏斗胸胸郭形態の評価検討. 第 29 回日本形成外科学会基礎学術集会, 横浜, 2020. 10. 8.

◆産　科

1) 飯野彩奈, 村上麻耶, 木暮さやか, 京谷琢治. 非典型的な経過により娩出時期の決定に苦慮した胎児小腸軸捻転の 1 例. 第 36 回群馬周産期研究, 前橋, 2020. 10. 17.

2) 木暮さやか, 村上麻耶, 飯野彩奈, 京谷琢治. 胎児診断し得なかった胎児卵巣嚢腫の 1 例. 第 36 回群馬周産期研究, 前橋, 2020. 10. 17.

3) 村上麻耶, 飯野彩奈, 木暮さやか, 京谷琢治. 後方視的に膜性診断に至った一絨毛二羊膜双胎の 2 例. 第 171 回群馬県産科婦人科学会群馬県産婦人科医会, 前橋, 2020. 11. 28.

4) 京谷琢治. 胎児心エコー拡大と診断率向上への課題—新ガイドラインは産科の現場に即しているか— (招待講演). 第 93 回日本超音波医学会学術集会, 仙台 (Web 開催), 2020. 12. 1.

5) 京谷琢治. 妊娠 16 週に発症した胎児心臓血管腫の 1 例. 第 27 回日本胎児心臓病学会学術集会, 仙台 (Web 開催), 2021. 2. 27.

◆歯　科

1) 大嶋 瑛, 千葉真子, 市川怜那, 瀬下愛子, 楠 幸代, 若井美佳, 木下 樹. 全身麻酔下歯科治療を契機に Duchenne 型筋ジストロフィー保因者と判明した自閉スペクトラム症患者の 1 症例. 第 37 回日本歯科麻酔学会, Web 開催, 2020. 11. 13.

◆検体検査課・生理検査課

1) 神山晴美, 平戸純子, 飯田麻美, 土田 秀, 飯島美砂. 胸水細胞診が有用であった悪性ラブドイド腫瘍の 1 例. 第 59 回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜市, 2020. 11. 21.

2) 笠原 渉, 田中伸久, 神宮大輝, 松井重憲, 星野知栄子, 神山晴美, 富岡千鶴子. 血液ガス分析における開放検体の評価. 第 65 回群馬県医学検査学会, 桐生市, 2020. 12. 6.

3) 宮下新菜, 神山晴美, 佐藤敦子, 富岡千鶴子. 当院で経験した小児の*Burkholderia cepacia*菌血症の 2 症例. 第 65 回群馬県医学検査学会, 桐生市, 2020. 12. 6.

4) 佐藤敦子, 田中伸久. 当院における新型コロナウイルス感染症の対応. 第 39 回群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会, 前橋市, 2021. 2. 13.

◆放射線課

1) 清水宏史. MRI アップグレードの有用性. 第 43 回日本小児放射線技術研究会, 小児放射線機器の更新. (シンポジウム), Web 発表, 2020. 5. 25-6. 30.

2) 佐々木保. 小児医療センターでの取り組み. 第 15 回医療の質・安全学会. 医療事故調査制度における Ai (オートプシー・イメージング; 死亡時画像診断) の活用と取り組み. (シンポジウム), Web 発表, 2020. 11. 23.

◆リハビリテーション課

1) 鳥越和哉, 熊丸めぐみ, 萩原絵梨, 渡邉卓也, 田中仁美, 高橋祐樹, 浅見雄司, 小林富男. 気管切開のある先天性心疾患児に対する在宅復帰に向けた取り組み. 第 26 回日本心臓リハビリテーション学会

学術集会, 福岡 (Web 開催), 2020. 7. 18〜7. 19.

2) 六本木温子, 臼田由美子, 鳥越和哉, 加藤英子, 秋山友香, 渡辺美緒. 脊髄性筋萎縮症 1 型のヌシネルセン投与後のスイッチ操作における変化. 第 62 回日本小児神経学会学術集会, Web 開催, 2020. 8. 18〜8. 20.

3) 六本木温子, 臼田由美子, 渡辺美緒. ヌシネルセン投与を開始した脊髄性筋萎縮症 2 型 2 症例の運動機能経過と生活における変化. 第 54 回日本作業療法学会, Web 開催, 2020. 9. 25〜10. 25.

4) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 池田健太郎, 田中健佑, 浅見雄司, 新井修平, 岡　徳彦, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後に ICU-AW を発症した患者における ADL 回復の特徴, 第 56 回日本小児循環器学会総会学術集会. 京都 (Web 開催), 2020. 11. 22〜11. 24.

◆栄養調理課

1) 磯田有香, 髙澤慎也, 島田純子, 西　明. 小児慢性便秘患者に対する食物繊維負荷および乳製品除去による食事療法の効果について (第 2 報). 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 神戸, 2021. 2. 18.

◆臨床工学課

1) 高橋祐樹. 小児 ICD 植込み患者において脚ブロックから生じる TWOS によって ICD アラートが作動した一例. 第 30 回日本臨床工学会, 愛知 (Web 開催), 2020. 9. 29.

◆看　護　部

1) 樋口真梨子. 気管切開術という危機に直面した思春期患者への意思決定支援. 第 30 回日本小児看護学会学術集会, 神戸 (Web 開催), 2020. 9. 1.

2. 誌上発表

◆小児内科

＜神経内科＞

1) Dowa Y, Shiihara T. Multiple cerebral cysts are another possible feature of Jacobsen syndrome. Brain Dev. 42: 626, 2020.

2) Uematsu M, Numata-Uematsu Y, Aihara Y, Kobayashi T, Fujikawa M, Togashi N, Shiihara T, Ohashi K, Hattori A, Saitoh S, Kure S. Behavioral problems and family distress in tuberous sclerosis complex. Epilepsy Behav. 111: 107321, 2020.

3) Dowa Y, Shiihara T, Akiyama T, Hasegawa K, Inoue F, Watanabe M. A case of pyridoxine-dependent epilepsy with novel *ALDH7A1* mutations. Oxf Med Case Reports. 2020: omaa008, 2020.

4) Numoto S, Kurahashi H, Sato A, Kubota M, Shiihara T, Okanishi T, Tanaka R, Kuki I, Fukuyama T, Kashiwagi M, Ikeno M, Kubota K, Akasaka M, Mimaki M, Okumura A. Acute encephalopathy in children with tuberous sclerosis complex. Orphanet J Rare Dis. 16: 5, 2021.

5) Akiyama T, Hyodo Y, Hasegawa K, Oboshi T, Imai K, Ishihara N, Dowa Y, Koike T, Yamamoto T, Shibasaki J, Shimbo H, BPharm, Fukuyama T, Takano K, Shiraku H, Takeshita S, Okanishi T, Baba S, Kubota M, Hamano S, Kobayashi K. Pyridoxal in the cerebrospinal fluid may be a better indicator of vitamin B6 dependent epilepsy than pyridoxal 5'-phosphate. Pediatric Neurology. 113: 33-41, 2020.

6) Koji Morita, Takashi Shiihara, et al: Acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced

diffusion; posterior frontal hyperperfusion before late seizures revealed by arterial spin labeling: A case report. Brain and Development: Mar 2 2021.

＜循環器科＞

1) Ohuchi H, Hayama Y, Miike H, Suzuki D, Nakajima K, Iwasa T, Konagai N, Sakaguchi H, Miyazaki A, Shiraishi I, Kurosaki K, Nakai M. Prognostic value of von Willebrand factor in adult patients with congenital heart disease. Heart. 106(12): 910-915, 2020.

2) Ohuchi H, Hayama Y, Nakajima K, Kurosaki K, Shiraishi I, Nakai M. Incidence, Predictors, and Mortality in Patients With Liver Cancer After Fontan Operation. American Heart Journal. 216; 125-135, 2021.

3) 浅見雄司, 清水彰彦, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉, 林 秀憲, 友保貴博, 岡 徳彦, 山田佳之, 小林富男. 細菌性髄膜炎を合併したメチシリン感性黄色ブドウ球菌による感染性心内膜炎. 日本小児科学会雑誌. 第 124 巻第 11 号: 1614-1620, 2020.

4) Sasaki T, Ikeda K, Nakajima T, Kawabata-Iwakawa R, Iizuka T, Dharmawan T, Tamura S, Niwamae N, Tange S, Nishiyama M, Kaneko Y, Kurabayashi M. Multiple arrhythmic and cardiomyopathic phenotypes associated with an SCN5A A735E mutation. J Electrocardiol. 2021 Mar-Apr; 65: 122-127.

5) 江木盛時, 小倉裕司, 矢田部智昭, 安宅一晃, 井上茂亮, 射場敏明, 垣花泰之, 川崎達也, 久志本成樹, 黒田泰弘, 小谷穣治, 志馬伸朗, 谷口 巧, 鶴田良介, 土井研人, 土井松幸, 中田孝明, 中根正樹, 藤島清太郎, 細川直登, 升田好樹, 松嶋麻子, 松田直之, 山川一馬, 原 嘉孝, 大下慎一郎, 青木善孝, 稲田麻衣, 梅村 穣, 河合佑亮, 近藤 豊, 斎藤浩輝, 櫻谷正明, 對東俊介, 武田親宗, 寺山毅郎, 東平日出夫, 橋本英樹, 林田 敬, 一二三亨, 廣瀬智也, 福田龍将, 藤井智子, 三浦慎也, 安田英人, 阿部智一, 安藤幸吉, 飯田有輝, 石原唯史, 井手健太郎, 伊藤健太, 伊藤雄介, 稲田 雄, 宇都宮明美, 卯野木健, 遠藤功二, 大内 玲, 尾崎将之, 小野 聡, 桂 守弘, 川口 敦, 川村雄介, 工藤大介, 久保健児, 倉橋清泰, 櫻本秀明, 下山 哲, 鈴木武志, 関根秀介, 関野元裕, 高橋 希, 高橋 世, 高橋 弘, 田上 隆, 田島吾郎, 巽 博臣, 谷 昌憲, 土谷飛鳥, 堤 悠介, 内藤貴基, 長江正晴, 長澤俊郎, 中村謙介, 西村哲郎, 布宮 伸, 則末泰博, 橋本 悟, 長谷川大祐, 畠山淳司, 原 直己, 東別府直紀, 古島夏奈, 古薗弘隆, 松石雄二朗, 松山 匡, 峰松佑輔, 宮下亮一, 宮武祐士, 森安恵実, 山田 亨, 山田博之, 山元 良, 吉田健史, 吉田悠平, 吉村旬平, 四本竜一, 米倉 寛, 和田剛志, 渡邉栄三, 青木 誠, 浅井英樹, 安部隆国, 五十嵐豊, 井口直也, 石川雅巳, 石丸 剛, 磯川修太郎, 板倉隆太, 今長谷尚史, 井村春樹, 入野田崇, 上原健司, 生塩典敬, 梅垣岳志, 江川裕子, 榎本有希, 太田浩平, 大地嘉史, 大野孝則, 大邉寛幸, 岡 和幸, 岡田信長, 岡田遥平, 岡野 弘, 岡本 潤, 奥田拓史, 小倉崇以, 小野寺悠, 小山雄太, 貝沼関志, 加古英介, 柏浦正広, 加藤弘美, 金谷明浩, 金子 唯, 金畑圭太, 狩野謙一, 河野浩幸, 菊谷知也, 菊地 斉, 城戸崇裕, 木村 翔, 小網博之, 小橋大輔, 齊木 巌, 堺 正仁, 坂本彩香, 佐藤哲哉, 志賀康浩, 下戸 学, 下山伸哉, 庄古知久, 菅原 陽, 杉田篤紀, 鈴木 聡, 鈴木祐二, 壽原朋宏, 其田健司, 高氏修平, 高島光平, 高橋 生, 高橋洋子, 竹下 淳, 田中裕記, 丹保亜希仁, 角山泰一朗, 鉄原健一, 徳永健太郎, 富岡義裕, 冨田健太朗, 富永直樹, 豊崎光信, 豊田幸樹年, 内藤宏道, 永田 功, 長門 直, 中村 嘉, 中森裕毅, 名原 功, 奈良場啓, 成田知大, 西岡典宏, 西村朋也, 西山 慶, 野村智久, 芳賀大樹, 萩原祥弘, 橋本克彦, 旗智武志, 浜崎俊明, 林 拓也, 林 実, 速水宏樹, 原口 剛, 平野洋平, 藤井 遼, 藤田 基, 藤村直幸, 舩越 拓, 堀口真仁, 牧 盾, 増永直久, 松村洋輔, 真弓卓也, 南 啓介, 宮崎裕也, 宮本和幸, 村田哲平, 柳井真知, 矢野隆郎, 山田浩平, 山田直樹, 山本朋納, 吉廣尚大, 田中 裕, 西田 修, 日本版敗血症診療ガイドライン 2020 特別委員会. 日本版敗血症診療ガイドライン

2020. 日本集中治療医学会雑誌 28 巻Suppl.: S1-S411, 2021.

6) 江木盛時, 小倉裕司, 矢田部智昭, 安宅一晃, 井上茂亮, 射場敏明, 垣花泰之, 川崎達也, 久志本成樹, 黒田泰弘, 小谷穣治, 志馬伸朗, 谷口 巧, 鶴田良介, 土井研人, 土井松幸, 中田孝明, 中根正樹, 藤島清太郎, 細川直登, 升田好樹, 松嶋麻子, 松田直之, 山川一馬, 原 嘉孝, 大下慎一郎, 青木善孝, 稲田麻衣, 梅村 穣, 河合佑亮, 近藤 豊, 斎藤浩輝, 櫻谷正明, 對東俊介, 武田親宗, 寺山毅郎, 東平日出夫, 橋本英樹, 林田 敬, 一二三亨, 廣瀬智也, 福田龍将, 藤井智子, 三浦慎也, 安田英人, 阿部智一, 安藤幸吉, 飯田有輝, 石原唯史, 井手健太郎, 伊藤健太, 伊藤雄介, 稲田 雄, 宇都宮明美, 卯野木健, 遠藤功二, 大内 玲, 尾崎将之, 小野 聡, 桂 守弘, 川口 敦, 川村雄介, 工藤大介, 久保健児, 倉橋清泰, 櫻本秀明, 下山 哲, 鈴木武志, 関根秀介, 関野元裕, 高橋 希, 高橋 世, 高橋 弘, 田上 隆, 田島吾郎, 巽 博臣, 谷 昌憲, 土谷飛鳥, 堤 悠介, 内藤貴基, 長江正晴, 長澤俊郎, 中村謙介, 西村哲郎, 布宮 伸, 則末泰博, 橋本 悟, 長谷川大祐, 畠山淳司, 原 直己, 東別府直紀, 古島夏奈, 古薗弘隆, 松石雄二朗, 松山 匡, 峰松佑輔, 宮下亮一, 宮武祐士, 森安恵実, 山田 亨, 山田博之, 山元 良, 吉田健史, 吉田悠平, 吉村旬平, 四本竜一, 米倉 寛, 和田剛志, 渡邉栄三, 青木 誠, 浅井英樹, 安部隆国, 五十嵐豊, 井口直也, 石川雅巳, 石丸 剛, 磯川修太郎, 板倉隆太, 今長谷尚史, 井村春樹, 入野田崇, 上原健司, 生塩典敬, 梅垣岳志, 江川裕子, 榎本有希, 太田浩平, 大地嘉史, 大野孝則, 大邉寛幸, 岡 和幸, 岡田信長, 岡田遥平, 岡野 弘, 岡本 潤, 奥田拓史, 小倉崇以, 小野寺悠, 小山雄太, 貝沼関志, 加古英介, 柏浦正広, 加藤弘美, 金谷明浩, 金子 唯, 金畑圭太, 狩野謙一, 河野浩幸, 菊谷知也, 菊地 斉, 城戸崇裕, 木村 翔, 小網博之, 小橋大輔, 齊 木巌, 堺 正仁, 坂本彩香, 佐藤哲哉, 志賀康浩, 下戸 学, 下山伸哉, 庄古知久, 菅原 陽, 杉田篤紀, 鈴木 聡, 鈴木祐二, 壽原朋宏, 其田健司, 高氏修平, 高島光平, 高橋 生, 高橋洋子, 竹下 淳, 田中裕記, 丹保亜希仁, 角山泰一朗, 鉄原健一, 徳永健太郎, 富岡義裕, 冨田健太朗, 富永直樹, 豊崎光信, 豊田幸樹年, 内藤宏道, 永田 功, 長門 直, 中村 嘉, 中森裕毅, 名原 功, 奈良場啓, 成田知大, 西岡典宏, 西村朋也, 西山 慶, 野村智久, 芳賀大樹, 萩原祥弘, 橋本克彦, 旗智武志, 浜崎俊明, 林 拓也, 林 実, 速水宏樹, 原口 剛, 平野洋平, 藤井 遼, 藤田 基, 藤村直幸, 舩越 拓, 堀口真仁, 牧 盾, 増永直久, 松村洋輔, 真弓卓也, 南 啓介, 宮崎裕也, 宮本和幸, 村田哲平, 柳井真知, 矢野隆郎, 山田浩平, 山田直樹, 山本朋納, 吉廣尚大, 田中 裕, 西田 修, 日本版敗血症診療ガイドライン 2020 特別委員会. 日本版敗血症診療ガイドライン 2020. 日本救急医学会雑誌 32 巻 Suppl.: S1-S411, 2021.

＜新生児科＞

1) Aya Koizumi, Kenichi Maruyama, Yasushi Ohki, Akifumi Nakayama, Yoshiyuki Yamada, Hajime Kurosawa, Hiroyuki Tsukagoshi, Toru Fujiu, Miki Takahashi, Takao Kiumura, Nobuhiro Saruki, Masami Murakami, Hirokazu Arakawa. Prevalence and risk factor for antibiotic-resistant Escherichia coli colonization at birth in premature infants: A prospective cohort study. The Pediatric Infectious Disease Journal. 39: 546-552, 2020.

2) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鏑木浩太. 小児病院の周産期センター化が極低出生体重児の長期予後に及ぼす影響: 第 2 報 6 歳時のWechsler Intelligence Scale for Children - Third Edition の結果についての検討. 小児科臨床. 73: 509-513, 2020.

3) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 山﨑 優, 鏑木浩太, 宮川陽一, 山口 有, 味原さや香, 大竹 明, 窪田 満. 超大量ビオチン投与に加え栄養療法を要したホロカルボキシラーゼ合成酵素欠損症. 日本小児科学会雑誌. 124: 858-863, 2020.

4) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鏑木浩太, 本間春奈. 早産児, 低出生体重児

における肝芽腫発見のための定期的検査の実態に関する全国調査. 日本新生児成育医学会雑誌. 32: 361-367, 2020.
5) 丸山憲一. 群馬県内における母乳育児の地域差に関する検討. 日本新生児生育医学会雑誌. 32: 394-399, 2020.

＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞

1) Yagi H, Takizawa T, Sato K, Inoue T, Nishida Y, Yamada S, Ishige T, Hatori R, Inoue T, Yamada Y, Arakawa H. Interleukin 2 receptor-α expression after lymphocyte stimulation for non-IgE-mediated gastrointestinal food allergies. Allergol Int. 69(2): 287-289, 2020.
2) Koizumi A, K Maruyama, Ohki Y, Nakayama A, Yamada Y, Kurosawa H, Tsukagoshi H, Fujiu T, Takahashi M, Kimura T, Saruki N, Murakami M, Arakawa H. Prevalence and Risk Factor for Antibiotic-resistant Escherichia coli Colonization at Birth in Premature Infants: A Prospective Cohort Study. The Pediatric Infectious Disease Journal. 39(6): 546-552, 2020.
3) Yamada Y. Unique features of non-immunoglobulin E-mediated gastrointestinal food allergy during infancy in Japan. Current Opinion in Allergy & Clinical Immunology. 2020; 20(3): 299-304. 2020.
4) Yoshihara A, Sekine R, Yamada Y, Takai M. Study on Polyethylene Glycol Cross-linker in Peptide-conjugated Antibody on Efficiency of Cell Capture and Release. Analyical Biochemistry. 602: 113790. 2020.
5) Shimizu A, Tsukagoshi H, Sekizuka T, Kuroda M, Koizumi A, Fujita M, Yamada Y, Saruki N. Meningitis and bacteremia by nonhemolytic Group B Streptococcus strain: a whole genome analysis. Microbiology and Immunology. 64: 630-634, 2020.
6) Matsuda S, Kato M, Koike T, Kama Y, Suzuki K, Enseki M, Tabata H, Hirai K, Yamada Y, Mochizuki H. Differences in Virus Detection and Cytokine Profiles between First Wheeze and Childhood Asthma. Tokai J Exp Clin Med. 45(1): 10-17, 2020.
7) Shimizu A, Ebara Y, Nomura S, Yamada Y. Chronological Changes of Strawberry Tongue in Toxic Shock Syndrome Toxin-1-mediated Exanthematous Disease. Journal of General and Family Medicine. 280-281, 2020.
8) Yagi H, Sato K, Arakawa N, Inoue T, Nishida Y, Yamada S, Ishige T, Yamada Y, Arakawa H, Takizawa T. Expression of Leucine-rich Repeat-containing Protein 32 Following Lymphocyte Stimulation in Patients with Non-IgE-mediated Gastrointestinal Food Allergies. Yale J Biol Med. 93(5): 645-655, 2020.
9) 浅見雄司, 清水彰彦, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉, 林 秀憲, 友保貴博, 岡 徳彦, 山田佳之, 小林富男. 細菌性髄膜炎を合併したメチシリン感性黄色ブドウ球菌による感染性心内膜炎. 日本小児科学会雑誌. 第 124 巻第 11 号: 1614-1620, 2020.
10) 山田佳之.【小児科専攻医必携 専門検査・治療実施マニュアル】食物アレルギー診断のための食物経口負荷試験. 小児科. 61 巻 8 号: 1110-1117, 2020.
11) 山田佳之. 好酸球性消化管疾患. アレルギー . 69 巻 4 号: 260-266, 2020.
12) 山田佳之.【小児領域特有の免疫に関わる消化管疾患とはどのようなものか？】小児における好酸球性消化管疾患とは？ 消化器病学サイエンス. 4 巻 3 号: 159-164, 2020.

＜血液腫瘍科＞

1) Daiichiro Hasegawa, Toshihiko Imamura, Keiko Yumura-Yagi, Yoshihiro Takahashi, Ikuya Usami, So-

Ichi Suenobu, Shinichiro Nishimura, Nobuhiro Suzuki, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Akiko Moriya-Saito, Koji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Masahiro Hirayama, Akihiro Iguchi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Atsushi Sato, Tooru Kudoh, Tatsutoshi Nakahata, Megumi Oda, Junichi Hara, Keizo Horibe, Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS). Risk-adjusted therapy for pediatric non-T cell ALL improves outcomes for standard risk patients: results of JACLS ALL-02. Blood Cancer J 2020 Feb 27; 10(2): 23.

2) Hara Y, Shiba N, Yamato G, et al., Patients aged less than 3 years with acute myeloid leukaemia characterize a molecularly and clinically distinct subgroup. Br J Haematol. 2020 Feb; 188(4): 528-539.

◆小児外科

＜一般外科＞

1) 高澤慎也, 五嶋 翼, 谷有希子, 内田康幸, 高本尚弘, 島田脩平, 小山亮太, 西 明. 手術日のインターネット予約導入による患者家族の満足度向上と手術待機期間の変化. 日本小児外科学会雑誌. 56: 253-261, 2020.

2) 高澤慎也, 西 明, 小山亮太, 則内友博, 菊地健太, 外松 学. 集学的治療 7 年後に再発を来たした上腹壁デスモイド型線維腫症の 1 小児例. 日本小児外科学会雑誌. 56: 1144-1149, 2020.

3) 則内友博, 西 明, 高澤慎也, 丸山憲一. 当院における低出生体重児の人工肛門閉鎖術の周術期管理および治療成績の報告と今後の課題. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 56: 445-450, 2020.

◆産　科

1) 道崎 護, 佐藤達也, 田中亜由子, 木暮さやか. 亜急性に経過した母児間輸血症候群の 1 例. 関東連合産科婦人科学会誌. 57(4): 575-580, 2020.

◆検体検査課・生理検査課

1) 田中伸久, 三宅妙子. 小児における尿蛋白スクリーニングの検討. 医学検査. 70(2): 308-311, 2021.

2) 田中伸久, 神宮大輝. 早期新生児期における免疫グロブリン (IgG, IgA, IgM) の参考基準範囲. 医学検査. 70(3): 525-528, 2021.

3) 田中伸久, 新井菜津子. 当院における新生児重症黄疸に対する交換輸血 30 例の検討. 医学検査. 70(3): 566-570, 2021.

◆放射線課

1) 清水宏史. MRI アップグレードの有用性. 日本小児放射線技術研究会雑誌. No.46 MARCH: 15-18, 2021.

2) 佐々木保. 群馬県立小児医療センターにおける死後 MRI の活用. Rad Fan. Vol19 No3: 44-48, 2021.

◆リハビリテーション課

1) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 岡 徳彦, 宮本隆司, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者における ICU-acquired weakness の発症状況とそのリスク因子. 日本集中治療医学会雑誌. 27(4): 267-272, 2020.

3. 単行本・その他

◆小児内科

＜循環器科＞

1) 江木盛時ら. 日本版敗血症診療ガイドライン 2020 (J-SSCG2020) ダイジェスト版. 東京, 真興交易, 2020.

＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞

1) 山田佳之. 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症 (炎) (新生児・乳児消化管アレルギー) 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症診療ガイドライン　小児診療ガイドラインのダイジェスト解説＆プログレス. 編集「小児科」編集委員会　4 月号臨時増刊号 Vol. 61 No. 5, 東京, 金原出版株式会社, 2020, p487-491.

2) 山田佳之, 水口　雅, 市橋　光, 崎山　弘, 伊藤秀一. 新生児・乳児消化管アレルギー 10 アレルギー疾患　今日の小児治療指針 第 17 版. 総編集, 東京, 医学書院, 2020, p304-306.

3) 山田佳之, 足立雄一, 滝沢琢己, 二村昌樹, 藤澤隆夫. 小児気管支喘息 治療・管理ガイドライン 2020 第 14 章　主な抗喘息薬一覧表. 日本小児アレルギー学会作成 監修, 東京, 協和企画, 2020, p232-240.

4) 山田佳之, 福井次夫, 高木　誠, 小室一成. 今日の治療指針 2020 私はこう治療している 血清病. 総編集, 東京, 医学書院, 2020, p858-859.

◆小児外科

＜形成外科＞

1) 浜島昭人. 第7章　知っておきたい知識　3. その他の先天異常. 形成外科治療手技全書Ⅳ　先天異常. 東京, 克成堂出版. 56-262, 2020.

4. 班会議等報告書

◆小児内科

＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞

1) 山田佳之. 乳児～成人の好酸球性消化管疾患, 良質な医療の確保を目指す診療提供体制構築のための研究. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業). 令和 2 年度分担研究報告書, 2020; in press.

5. 講　演

◆小児内科

＜神経内科＞

1) 森田孝次. 一般小児科医がみる発達障害の診療. 横浜労災病院 Meet the expart, 横浜, 2020. 9. 11.

2) 森田孝次. 周産期のメンタルヘルス. 前橋. 群馬県助産師会研修会, 前橋, 2021. 2. 7.

＜循環器科＞

1) 池田健太郎. 川崎病心臓血管後遺症の診断と治療に関するガイドライン 2020 改定版のポイント　循環器疾患ガイドライン Web セミナー , 前橋, 2020. 11. 6.

＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞

1) 山田佳之. 知っておくと役に立つ食物アレルギー最新情報　好酸球性消化管疾患と消化管アレルギー (教育講演) . 第 119 回日本皮膚科学会総会, 京都 (Web 開催), 2020. 6. 6.

2) 山田佳之. 消化管アレルギー (教育講演). JAS/WAO joint congress, 京都 (Web 開催), 2020. 9. 17-10. 20.

3) 山田佳之. 新生児・乳児消化管アレルギー . 第 14 回相模原臨床アレルギーセミナー , 横浜 (Web 開催), 2020. 8. 21-9. 23.

4) Yamada Y. Recent topics gastrointestinal allergic disorders. Korean Academy of Pediatric Allergy and Respiratory Disease (KAPARD) 2020 (講演). South Korea (Web), 2020. 10. 23.

◆歯　科

1) 木下　樹. 発達障害児の口腔ケア. 恩賜財団母子愛育会地域母子保健研修会, 東京, 2020. 10. 3.

2) 木下　樹. 歯科から見た要保護要支援児童対策. 令和 2 年度群馬県小児科医会学術講演会, Web 講演, 2020. 11. 7.

3) 木下　樹. 偶発症に関する緊急時対応と医療事故等の医療安全. 歯科医療安全研修会, 前橋, 2020. 11. 15.

◆リハビリテーション課

1) 熊丸めぐみ. PICU における理学療法の実際. 日本小児集中治療研究会メディカルスタッフ向けセミナー21-01, WEB 開催, 2021. 3. 13.

6. 講習会・研修会

◆小児内科

＜循環器科＞

1) 新井修平. 研修医から小児循環器医になるまで. 前橋臨床研修会, 2020. 11. 20.

2) 池田健太郎. 小児専門医なら知っておきたい循環器外来のポイント. 群馬大学小児科専門医セミナー , 2021. 2. 16.

＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞

1) 山田佳之. 渋川女子高校. 令和 2 年度医療的ケア検討部会, 渋川, 2020. 9. 11.

◆放射線課

1) 佐々木保. 医療被ばくの基本的な考え方・放射線診療の防護の最適化・過剰被ばくその他の事例発生時の対応・放射線診療を受ける者への情報提供. 令和 2 年度診療用放射線の安全利用のための研修, 群馬県立小児医療センター , 2020. 11. 26.

◆臨床工学課

1) 高橋祐樹. ME 機器の取り扱い. 令和 2 年度看護部新規採用者オリエンテーション, 群馬, 2020. 4. 15.

2) 高橋祐樹. インシデントレポートから伝えたいこと. 令和 2 年度医療機器安全研修, 群馬, 2021. 3. 11.

◆薬 剤 部

1) 髙橋大輔. AST (Antimicrobial Stewardship Team) 活動報告. 感染対策講演会, 渋川, 2021. 3. 12.

◆母子保健室・地域医療連携室

1) 髙橋雪子. 医療機関における保健師活動, 群馬大学医学部保健学科地域看護学方法論Ⅰ. 群馬大学医学部保健学科, 2020. 11. 9.

2) 髙橋雪子. NICU からの在宅移行支援. 医療的ケア時等コーディネーター養成研修, 群馬県庁, 2020. 11. 30

7. 学会長・座長・その他

◆小児内科

＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞

1) 山田佳之, 渡邊美砂. 第 57 回日本小児アレルギー学会学術大会 (一般口演座長), 消化管アレルギー 2, Web 開催, 2020. 10. 31-11. 30.

2) Yamada Y. 第 57 回日本小児アレルギー学会学術大会 (International Pediatric Allergy Symposia) (座長), I-PAS3 Atopic dermatitis, angioedema, and rhinitis/sinusitis, Web 開催, 2020. 10. 31-11. 30.

◆産　科

1) 京谷琢治. 第 93 回日本超音波医学会学術集会 (座長), 産婦人科「新技術 1」, 仙台 (Web 開催), 2020. 12. 3.

◆検体検査課・生理検査課

1) 田原貴子. 第 39 回群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会 (座長), 前橋市, 2021. 2. 13.

◆リハビリテーション課

1) 熊丸めぐみ. 日本心臓リハビリテーション学会, 心血 OB セミナー「心不全の心臓リハビリテーション」, 第 5 回関東甲信越支部地方会, Web 開催, 2020. 11. 28.

◆看 護 部

1) 北爪幸子.「福祉施設における感染症対策」教材作成, 群馬県庁, 前橋, 2020. 4. 24.

2) 北爪幸子.「福祉施設における感染症対策」教材作成, 群馬県庁, 前橋, 2020. 4. 27.

8. 学生講義

◆小児内科

＜神経内科＞

1) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生「臨床医学 4」神経・精神系疾患①発作性神経疾患, 重症心身障害者 (児), 群馬, 2020. 8. 25.

2) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生「臨床医学 4」神経・精神系疾患③神経筋疾患と神経免疫疾患, 群馬, 2020. 9. 1.

＜循環器科＞

1）下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅰ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2021. 1. 6.
2）下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅱ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2021. 1. 20.
3）下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅲ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2021. 2. 4.

＜新生児科＞

1）丸山憲一. 健康障害と回復過程各論Ⅶ. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 6. 3, 10, 17, 24, 7. 1, 8, 22.
2）丸山憲一. 新生児学, 周産期ハイリスク論Ⅱ. 高崎健康福祉大学大学院, 高崎, 2020. 5. 13, 20, 27, 6. 3, 10, 17, 24, 7. 1, 8, 15, 22, 29, 8. 5, 12, 19, 11. 18, 25, 12. 2, 9.
3）丸山憲一. 子どもの保健. 新島学園短期大学, 高崎, 2020. 5. 8, 15, 22, 29, 6. 5, 12, 19, 26, 7. 3, 10, 17, 20, 26, 8. 2.
4）丸山憲一. 小児・新生児. 群馬県消防学校, 前橋, 2021. 3. 18.

＜アレルギー感染免疫・呼吸器科＞

1）山田佳之. 群馬大学医学部チームワーク実習. 群馬県立小児医療センター, 渋川, 2020. 6. 12-13.
2）山田佳之. 応急措置総論. 群馬県消防学校, 前橋, 2021. 3. 8.

◆歯　科

1）木下　樹. 老年看護学各論Ⅰ, 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2020. 6. 2.
2）木下　樹. 人体の構造と機能Ⅳ, 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2020. 7. 7, 7. 14.
3）木下　樹. 健康障害と回復過程各論Ⅱ, 渋川看護専門学校看護学生講義・実習, 渋川看護専門学校, 2020. 11. 10, 11. 19.
4）木下　樹. 障害児, 有病児の歯科保健, 東京工科大学看護学生実習講義, 東京工科大学蒲田キャンパス, 2020. 12. 18.

◆リハビリテーション課

1）臼田由美子. 発達障害系理学療法. 高崎健康福祉大学, オンライン, 2020. 4. 1〜9. 27.
2）六本木温子. 発達過程作業療法学Ⅱ. 群馬医療福祉大学, 前橋, 2020. 6. 30 / 7. 7.
3）熊丸めぐみ. 呼吸・循環系理学療法学. 国立大学法人　秋田大学, Web 開催, 2020. 11. 2.
4）熊丸めぐみ. 重度発達障害理学療法学. 国立大学法人　秋田大学, Web 開催, 2020. 11. 2.
5）鳥越和哉. 小児医療センターのリハビリテーションについて. 群馬パース大学, Web 開催, 2020. 2. 18.

◆臨床工学課

1）深町直之. 特別講演「小児医療を支える臨床工学技士と医療現場で求められるスキル」, 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2020. 10. 7.
2）深町直之.「循環代行技術学: PCPS, IABP」, 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2020. 6. 6.
3）深町直之.「生体機能代行装置実習Ⅰ」, 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2020. 6. 20, 8. 7.
4）深町直之.「生体機能代行装置実習Ⅱ」, 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2020.

9. 18, 9. 25.

5) 深町直之.「臨床医学総論, 生体機能代行装置学国家試験対策」, 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2020. 11. 13, 11. 23.

◆看 護 部

1) 石坂泰子. 母子と家族の心理・社会学 基礎助産学. パース大学, 高崎, 2020. 5. 13.

2) 清水奈保. 小児看護の魅力. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 6. 26.

3) 宮川祐子. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2020. 7. 1.

4) 宮川祐子. 子どもの状況 (環境) に特徴づけられる看護. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2020. 7. 8.

5) 黒田佐織. 小児看護学各論Ⅰ「病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 7. 9, 7. 16.

6) 金子友香. 子どものアセスメント「系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2020. 7. 15.

7) 齊藤織恵.「新生児の看護」,「染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2020. 7. 22, 7. 29.

8) 清水奈保. 小児看護学概論. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 8. 3, 8. 4.

9) 福島富美子. 症状を示す小児の看護, 子どもにおける疾病の経過と看護, 検査・処置を伴う看護技術. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2020. 8. 5, 8. 12, 8. 19.

10) 和田千穂. ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援. 高崎市医師会看護専門学校, 高崎, 2020. 9. 1, 9. 2.

11) 齊藤織恵. NICU とハイリスク 新生児のケア. 高崎市医師会看護専門学校, 高崎, 2020. 9. 4.

12) 都丸八重子. さまざまな状況にある子どもと家族の看護「活動制限 (安静, 体動制御) が必要な子供と家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 9. 15, 9. 29.

13) 丸山美幸. 小児看護学各論Ⅰ「先天的疾患のある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 9. 28.

14) 浅野 香. 急性期にある子どもと家族の看護. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 9. 30, 10. 7.

15) 都丸八重子. 統合実習. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2020. 10. 1, 10. 2.

16) 黒田佐織. 小児看護学各論Ⅰ「手術を受ける子どもと家族」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 10. 2.

17) 丸山美幸. 小児看護学各論Ⅰ「障害のある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 10. 5.

18) 都丸八重子. さまざまな状況にある子どもと家族の看護「慢性期にある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 10. 6.

19) 齊藤織恵. 小児看護学各論Ⅰ「未熟児の特徴とハイリスク新生児の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 10. 2, 10. 9.

20) 石関梨華.「苦痛や疼痛のある子どもの看護」,「死に逝く子どもとその家族の看護」,「小児がんの子どもとその家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 10. 1, 10. 8.

21) 村上容子. 小児看護学各論Ⅱ「子どもの検査・処置に伴う看護技術」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 11. 5, 11. 12, 11. 19.

22) 木島久仁子. 小児の退院支援と在宅支援. 群馬県看護協会, 前橋, 2020. 11. 11.

23) 木島久美子. 小児看護学各論Ⅱ (小児看護技術) 救急救命処置. 渋川看護専門学校, 渋川, 2020. 11. 27, 12. 4.

9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス

月曜日	8:00〜8:30	PICU カンファレンス
	16:45〜	産科病棟カンファレンス
	17:00〜17:30	PICU カンファレンス
	17:00〜	内科系合同カンファレンス
	17:00〜	新生児科カンファレンス
	17:00〜	小児外科合同カンファレンス
	17:15〜	第一病棟カンファレンス
	17:30〜	血液腫瘍科カンファレンス
	18:00〜	血液腫瘍科抄読会
	18:00〜19:00	循環器カンファレンス
	18:00〜	第一病棟・新生児科カンファレンス (適時)
火曜日	8:00〜8:30	PICU カンファレンス
	13:30〜	産科・新生児科合同カンファレンス
		産科・新生児科合同カンファレンス終了後〜産科･新生児科抄読会
	15:00〜16:00	麻酔科抄読会
	16:30〜17:00	心臓カテーテルカンファレンス
	17:00〜17:30	PICU カンファレンス
水曜日	8:00〜8:30	PICU カンファレンス
	16:00〜16:30	出生前合同カンファレンス
	17:00〜17:30	PICU カンファレンス
木曜日	8:00〜8:30	PICU カンファレンス
	10:30〜12:00	全科症例検討会・総回診
	13:00〜15:00	外科病棟症例カンファレンス
	14:00〜16:00	群大小児科教授回診 (第 3 木曜)
	16:30〜	出生前診断カンファレンス (適時)
	16:45〜	産科病棟カンファレンス
	17:00〜17:30	PICU カンファレンス
金曜日	7:45〜8:30	循環器科・心臓血管外科合同カンファレンス
	8:00〜8:30	PICU カンファレンス
	9:00〜9:30	抄読会
	12:30〜	アレルギー感染免疫・呼吸器科勉強会
	16:00〜17:00	心臓外科症例カンファレンス
	17:00〜	産科・新生児科合同カンファレンス
	17:00〜17:30	第三病棟会
	17:00〜17:30	PICU カンファレンス

月一回　神経内科・遺伝科症例検討会

10. 小児医療センター講話会

1) 実施なし

11. クルズス (臨床講義)

1) 実施なし

12. CPC

1) 第 107 回　2020. 9. 2

No303　循環器内科: 下山

14 日男 (臨床診断: 心臓型総肺静脈還流異常症, 肺静脈閉鎖)

No304　新生児科: 鏑木

3 日女 (臨床診断: 腫瘍原性胎児水腫)

2) 第 108 回　2021. 2. 3

No305　新生児科: 福田

1 日女 (臨床診断: 帽状腱膜下血腫)

13. そ の 他

⑴ 研究会・セミナー等

◆小児内科

＜神経内科＞

1) 道和百合. 令和元年度東海大学大学院　博士 (医学) . 神奈川県伊勢原市. 2020. 3. 24.

＜新生児科＞

1) 第 19 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) 講習会 (B コース), 2020. 10. 22.

2) 令和 2 年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 1 回), 2020. 11. 28.

3) 令和 2 年度群馬県救急救命士向け新生児蘇生法研修会 (第 1 回). 2020. 11. 28.

4) 群馬県消防学校 新生児蘇生法実習 (NCPR P コース). 2021. 3. 18, 19.

14. 公的資金による研究

1　院内研究費による研究

⑴　自主研究事業

■推奨テーマ

No.	研　究　テ　ー　マ	氏　名
1	FilmArray システムを用いた髄膜炎・脳炎の原因微生物早期診断方法の確立	清水彰彦
		山田佳之
		椎原　隆
		佐藤敦子
2	小児外科疾患における食習慣と腸内細菌叢の関連についての探索的研究	髙澤慎也
		西　明
		則内友博
		菊地健太
		小山亮太
3	遺伝子解析技術の円滑な臨床応用に向けたシステム構築	山口　有
		椎原　隆
		道和百合
		山田佳之

■一般テーマ

No.	研　究　テ　ー　マ	氏　名
1	第 1 病棟に入院している患者のケア・保育に活用できる布製品の検討	鈴木絹代
		狩野美紀
		浅見真生
2	外国人の患者や家族とのコミュニケーションツール活用	久松飛鳥
3	①小児循環器領域の移行期支援プログラムの確立 ②フォンタン術後患者および患者家族のニーズ共有	中島公子
		小林富男
		宮川祐子
		佐川有子
		石沢恵理
		石坂泰子
		後藤真紀
		若林大介
		関口百香
		黒田佐織
		藤井美香
		萩原利香

No.	研　究　テ　ー　マ	氏　名
3	①小児循環器領域の移行期支援プログラムの確立 ②フォンタン術後患者および患者家族のニーズ共有	冨　樫　哲　雄
		塩　谷　　愛
		髙　橋　かおり
		曽　根　ちひろ
		茂　木　歩　美
		大　平　典　子
		木　島　久仁子
		熊　丸　めぐみ
		北　爪　幸　子
		瀬　下　明日香
4	先天異常症候群の児をもった家族の継続的支援	大　平　典　子
		山　口　　有
		小　泉　亜　矢
5	群馬県内の母乳育児の地域間格差に関与する因子とその影響に関する検討	丸　山　憲　一
6	家族のストレス緩和に向けたファミリールームの改善	荒　木　七　生
		平　田　裕　香
		黒　田　佐　織
7	GCU の音・光環境を調査し、患児へのストレスの要因を考察する	本　間　美樹恵
		本　多　みさ子
		野　村　幸　枝
		勝　山　ゆかり
		萩　原　梨　絵
		都　丸　真由美
		石　坂　亜　美
8	脳波・ABR・ASSR の検査時間と当日の睡眠時間の調査	宮　下　新　菜
9	新生児頭部 MRI 検査における固定具の有用性	大　川　夏　輝
10	小児・障害児における安全で快適なラバーダム装着法の検討	木　下　　樹
11	産後 2 週間健診及び 1ヶ月健診時の診察とエジンバラ産後うつ病質問 (EPDS) を実施するための最適な環境を整える	和　田　千　穂
		天　田　美枝子
		坪　井　杏　菜
12	子どもが恐怖心を感じない環境で処置 (採血、計測) を受けることができる	佐　川　有　子
		宮　川　祐　子
13	小児放射線検査における眼の水晶体の被ばく線量評価	清　水　宏　史
14	母乳外来実施にあたり、患者にとって心地良い環境を整える	籾　山　由　美
		篠　原　由実子
15	経管栄養児の血糖管理による経腸栄養方法の検討	道　和　百　合

No.	研　　究　　テ　　ー　　マ	氏　　名
16	麻酔経験年数が小児の気道確保デバイスのサイズ選択に及ぼす影響	廣　木　　茜
17	マタニティクラスを実施するための最適な環境を整える	渡　邊　敦　美
		田　島　伴　美
18	入院妊婦のストレス緩和のためのリラクゼーション	佐　藤　直　美
		天　田　美枝子
		小　池　智　美
19	当院における口蓋裂手術症例の検討	浜　島　昭　人
		佐々木　淑　恵
20	入院生活を送る児への食育	齋　藤　理　沙
21	小児医療センター看護部の看護研究支援体制の充実	金　子　友　香
22	タブレットを導入し、鎮静剤を使用せず、安全で質の高い検査を実施する	丸　山　裕　子
23	尿培養の合理化の検討	田　中　伸　久
24	外来患者への病状説明のための最適な環境を整える	坪　井　杏　菜
		天　田　美枝子
		和　田　千　穂
25	外来診察室を災害から守り、且つ使用しやすい環境を考える	高　野　朝　乃
26	小児・障害者治療におけるコンポジットレジン充填	大　嶋　　瑛
27	外国人患者受け入れのための体制整備と文書の多言語化実施	楠　　幸　代
		瀬　下　愛　子
		若　井　美　佳
		山　下　愛咲美
28	生体情報モニタアラームレポートを活用した安全対策への取り組み	深　町　直　之
29	医療機器管理システムの活用	下　田　隼　人
30	災害発生時の避難時における必要物品を検討する	亀　井　和　広
		佐　川　有　子
		森　田　孝　次
31	運動発達の促進と生活への応用の検討	窪　田　莉　那
		六本木　温　子
		加　藤　英　子
32	小児期を対象とした効果的な筋力増強練習の方法の検討	臼　田　由美子
		鳥　越　和　哉
		浅　井　伸　治
33	緊急時対応できる分娩着の作成	丸　山　美　幸
		髙　橋　洋　子
34	PCR-based ORF Typing 法 (POT 法) による黄色ブドウ球菌層別化の活用の検討	森　谷　　晃
		佐　藤　敦　子

No.	研　　究　　テ　　ー　　マ	氏　　名
35	廃用症候群の症例に対してゲームを使用したリハビリテーションによりその効果やモチベーションの変化の検討	秋　山　友　香
		臼　田　由美子
		鳥　越　和　哉
		河　崎　裕　英
36	骨髄組織標本における ASD ギムザ染色の有用性の検討	神　山　晴　美
		高　塚　堅　至
37	県内産科における母乳育児率と搾乳指導の現状から、院外施設に対しての効果的な搾乳指導依頼の仕方を考える	塚　本　久美栄
		丸　山　憲　一
		小　林　理　恵
38	きょうだい支援と ACP の普及活動	石　関　梨　華
39	多様化する外国人家族へのコミュニケーション・退院指導に自動翻訳機を活用して	眞　下　茂　美
		浅　野　　香
40	患児と保護者の緊張の緩和	狩　野　美　紀
41	神経筋疾患児の上肢操作が発揮しやすい環境調整について	六本木　温　子
		加　藤　英　子
		窪　田　莉　那
42	ハンディ3D スキャナーを用いた漏斗胸胸郭の形態評価の検討	佐々木　淑　恵
		浜　島　昭　人
43	器材庫の整理整頓を行う事で作業しやすい環境を整える	髙　橋　洋　子
		渡　邊　智香子
44	注意欠如多動症の児のアセスメントにおける Conners3 日本語版の有効性について	森　田　孝　次
		川　崎　陽　子
		布施川　貴　子
45	小児便秘症患者に対する食事療法の検討 ―食物繊維摂取量を考慮した栄養指導の効果及び牛乳アレルギーの関与について―	磯　田　有　香
		高　澤　慎　也
		河　野　美　咲
		島　田　純　子
		小　山　亮　太
		西　　明
		山　田　佳　之
46	食材の切り方統一	狩　野　知　子
		瀬　間　祐　子
		萩　原　勝　代
		南　雲　佐智代
		河　野　美　咲

No.	研　　究　　テ　　ー　　マ	氏　　名
47	選択食の導入の検討	河　野　美　咲
		石　坂　泰　子
		島　田　純　子
		磯　田　有　香
48	発音不明瞭や文字の読み困難な症例に対し音韻認識に視点を当てたリハビリテーションの検討	青　柳　のどか
		中　野　まりえ
		松　下　郁　江
49	軟骨無形性症術後患者の歩行補助具の検討	鳥　越　和　哉
		秋　山　友　香
		浅　井　伸　治
		富　澤　仙　一
50	放射線検査運用基準・手順書の作成	佐々木　　保
51	X線透視室における職業被ばく低減のための空間線量分布の把握と防護用具の効果	下　田　寛　貴
52	放射線防護衣の管理	吉　田　有　希
53	ALP, LDH の測定法変更に係る小児における基準値変更に用いる補正式の妥当性	神　宮　大　輝
54	UB Analizer (UA-2) での総ビリルビン測定における乳びの影響	松　井　重　憲
55	新生児用マルチプレーン経食道心エコーを用いた肺血流量の評価	松　本　直　樹
56	前投薬と心拍変動の関連について	星　野　　智
57	療養環境の整備	高　橋　ゆり菜
		平　田　裕　香
		石　関　梨　華
		黒　田　佐　織
58	安価な術野カメラの製作	則　内　友　博
59	PICU における各種書類整理の効率化	下　山　伸　哉

2 院外研究費による研究

⑴ 県立病院総合研究 (群馬県) (令和 2 年度)

1) 次世代シークエンサーを用いたGATA1 遺伝子解析による潜在性一過性骨髄異常増殖症（silent TAM）の診断と臨床的意義の解明. 主任研究者: 鏑木多映子. 副主任研究者: 大和玄希, 朴 明子.

2) チームトレーニングによる新生児腸管吻合手技の向上に関する研究.主任研究者: 髙澤慎也.副主任研究者: 西 明, 黒岩 徹. 分担研究者: 小山亮太, 笠原寿絵.

3) 免疫・アレルギー疾患指標となるヘルパーT細胞表面受容体発現の検討. 研究代表者: 山田佳之. 分担研究者: 清水真理子, 野村 滋, 清水彰彦.

⑵ その他院外研究費による研究

1) 山田佳之. 公益財団法人川野小児医学奨学財団. 小児に新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 感染に対する耐性をもたらす因子の検討. 研究代表者: 山田佳之.

2) 山田佳之. 令和 2 年度厚生労働省厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等政策研究事業). 乳児～成人の好酸球性消化管疾患, 良質な医療の確保を目指す診療提供体制構築のための研究. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 野村伊知郎.

3) 山田佳之. 令和 2 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究C (一般). ウイルス感染喘息における自然型及び獲得型アレルギーの病態解明と新規制御機構の検討. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 加藤政彦.

4) 山田佳之. 令和 2 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究C (一般). 小児急性骨髄性白血病の網羅的メチル化解析を中心とした統合的解析とその臨床応用. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 林 泰秀.

統　計　編

1 管理業務

(1) 会　計

①経営分析

区分				単位	令和2年度	元年度
病床利用率				%	72.0	71.9
患者数	1日平均患者数	入院		人	108.0	107.8
		外来		人	181.3	198.5
	外来入院比率			%	111.8	120.7
	職員1人1日当り患者数	医師	入院	人	2.3	2.3
			外来	人	3.9	4.3
		看護師	入院	人	0.5	0.5
			外来	人	0.8	0.9
収入	患者1人1日当り診療収入	入院診療収入		円	84,094	86,660
		うち	薬品収入	円	4,319	4,895
			検査収入	円	848	950
			放射線収入	円	151	151
		外来診療収入		円	18,792	17,285
		うち	薬品収入	円	4,582	4,587
			検査収入	円	2,955	2,748
			放射線収入	円	931	932
費用	患者1人1日当り材料費	材料費		円	13,276	12,984
		うち	薬品費	円	7,750	7,680
			診療材料費	円	5,200	5,004
診療収入に対する割合	投薬・注射収入			%	9.0	9.7
	検査収入			%	3.9	4.0
	放射線収入			%	1.1	1.2
対医業収益比	医療材料費	薬品費		%	15.0	15.3
		その他の医療材料費		%	10.1	10.0
		計		%	25.2	25.3
	職員給与費			%	84.6	81.5
検査の状況	患者100人当り	検査件数		件	506	527
		放射線件数		件	40	40
	検査技師1人当り	検査件数		件	35,193	41,763
		検査収入		千円	13,636	15,307
	X線技師1人当り	放射線件数		件	5,604	5,998
		放射線収入		千円	7,824	8,393

平成 30 年度	29 年度	28 年度	27 年度	26 年度	25 年度
76.2	70.9	71.4	73.5	69.2	73.5
114.2	106.3	107.1	110.3	103.8	110.2
197.7	189.9	190.7	193.9	191.2	190.8
115.7	119.4	118.5	116.7	123.1	115.7
2.6	2.6	2.4	2.5	2.4	2.4
4.5	4.6	4.3	4.3	4.4	4.2
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8
85,762	84,584	81,467	80,675	87,441	78,463
6,197	3,366	1,861	1,917	2,002	5,656
729	736	945	762	684	1,080
130	141	157	108	124	489
16,019	16,557	16,854	16,636	15,614	15,437
3,746	4,648	4,781	5,140	4,393	4,540
2,702	2,706	2,574	2,407	2,262	2,303
911	973	952	830	842	791
12,538	12,815	11,940	11,885	12,412	11,415
7,391	7,365	6,683	6,528	6,490	5,057
4,855	5,113	4,939	5,040	5,624	4,840
10.1	8.5	7.4	7.9	6.9	11.3
3.7	3.8	3.9	3.6	3.3	3.9
1.1	1.2	1.3	1.1	1.1	1.5
14.8	15.0	13.9	13.6	13.1	13.6
9.8	10.5	10.4	11.2	11.9	11.0
24.7	25.5	24.3	24.8	25.0	24.6
77.2	81.4	85.1	81.0	78.7	78.7
522	552	548	509	519	481
40	42	39	47	45	43
46,990	42,742	42,528	37,115	39,911	37,959
16,071	13,992	14,204	12,013	11,951	13,698
5,998	5,896	5,614	6,793	6,393	6,257
8,226	8,428	8,381	7,244	7,333	9,417

②収益的収入及び支出

科目＼年度	令和2年度		元年度		平成30年度	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
病院事業収益	6,381,194	100.0	6,319,790	100.0	6,402,746	100.0
医業収益	4,308,666	67.5	4,383,884	69.4	4,482,505	70.0
入院収益	3,315,995	52.0	3,420,381	54.1	3,576,199	55.9
外来収益	828,131	13.0	823,283	13.0	772,753	12.1
その他医業収益	164,540	2.6	140,220	2.2	133,553	2.1
医業外収益	2,015,516	31.6	1,920,837	30.4	1,920,241	30.0
受取利息配当金	47	0.0	108	0.0	99	0.0
補助金	116,443	1.8	18,508	0.3	19,650	0.3
負担金・交付金	1,484,109	23.3	1,471,043	23.3	1,460,339	22.8
長期前受金戻入	290,441	4.6	275,018	4.4	251,611	3.9
その他医業外収益	124,476	2.0	156,160	2.5	188,541	2.9
特別利益	57,011	0.9	15,069	0.2	0	0.0
病院事業費用	6,591,783	100.0	6,509,005	100.0	6,342,390	100.0
医業費用	6,443,706	97.8	6,384,197	98.1	6,208,675	97.9
給与費	3,643,097	55.3	3,573,702	54.9	3,462,612	54.6
材料費	1,108,538	16.8	1,130,922	17.4	1,127,676	17.8
経費	1,130,995	17.2	1,138,901	17.5	1,125,771	17.7
減価償却費	534,469	8.1	490,824	7.5	445,725	7.0
資産減耗費	2,008	0.0	12,413	0.2	11,320	0.2
研究研修費	24,598	0.4	37,437	0.6	35,572	0.6
医業外費用	90,752	1.4	108,471	1.7	103,383	1.6
支払利息及び企業債取扱諸費	6,844	0.1	10,022	0.2	13,849	0.2
母子保健指導費	160	0.0	403	0.0	193	0.0
雑損失	83,748	1.3	98,045	1.5	89,341	1.4
特別損失	57,325	0.9	16,337	0.3	30,332	0.5
収支差	▲ 210,589		▲ 189,215		60,356	

（単位：千円・%）

29 年 度		28 年 度		27 年 度		26 年 度		25 年 度	
決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
5,961,445	100.0	5,839,593	100.0	5,894,218	100.0	5,966,108	100.0	5,677,776	100.0
4,182,516	70.2	4,102,408	70.3	4,192,060	71.1	4,200,095	70.4	4,033,456	71.0
3,281,682	55.0	3,185,180	54.5	3,256,138	55.2	3,313,567	55.5	3,156,562	55.6
767,134	12.9	781,018	13.4	783,789	13.3	728,444	12.2	718,698	12.7
133,700	2.2	136,210	2.3	152,133	2.6	158,083	2.6	158,196	2.8
1,778,930	29.8	1,736,409	29.7	1,702,141	28.9	1,765,729	29.6	1,644,320	29.0
100	0.0	171	0.0	541	0.0	524	0.0	479	0.0
19,486	0.3	19,751	0.3	19,597	0.3	20,106	0.3	43,925	0.8
1,331,884	22.3	1,309,745	22.4	1,327,036	22.5	1,361,337	22.8	1,478,695	26.0
256,644	4.3	249,955	4.3	237,182	4.0	235,035	3.9		
170,815	2.9	156,786	2.7	117,785	2.0	148,727	2.5	121,221	2.1
0	0.0	777	0.0	17	0.0	284	0.0	0	0.0
6,132,370	100.0	6,103,576	100.0	5,988,480	100.0	7,186,361	100.0	5,485,445	100.0
6,024,962	98.2	5,980,166	98.0	5,847,341	97.6	5,777,535	80.4	5,382,080	98.1
3,404,643	55.5	3,491,030	57.2	3,394,094	56.7	3,305,522	46.0	3,175,105	57.9
1,090,952	17.8	1,020,160	16.7	1,039,635	17.4	1,049,436	14.6	990,649	18.1
1,031,407	16.8	982,641	16.1	955,823	16.0	970,270	13.5	950,423	17.3
453,151	7.4	416,370	6.8	405,399	6.8	404,954	5.6	220,381	4.0
5,113	0.1	24,189	0.4	9,531	0.2	5,730	0.1	4,779	0.1
39,695	0.6	45,775	0.7	42,859	0.7	41,623	0.6	40,743	0.7
107,408	1.8	92,321	1.5	110,000	1.8	102,502	1.4	102,917	1.9
15,155	0.2	15,945	0.3	17,154	0.3	17,203	0.2	18,830	0.3
201	0.0	116	0.0	363	0.0	339	0.0	440	0.0
92,053	1.5	76,260	1.2	92,482	1.5	84,960	1.2	83,647	1.5
0	0.0	31,089	0.5	31,139	0.5	1,306,324	18.2	448	0.0
▲ 170,925		▲ 263,984		▲ 94,261		▲ 1,220,252		192,331	

③月別医業収益内訳

区分＼月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入院収益	入院料	127,025,548	175,118,491	217,094,576	210,748,443	255,252,046	163,244,344	197,589,576
	給食料	3,234,544	3,980,302	4,023,255	4,402,452	4,217,387	3,562,186	4,574,940
	投薬	2,003,780	1,540,370	1,270,102	1,324,700	853,566	1,493,632	1,459,273
	注射	14,692,130	16,395,030	6,833,379	6,425,664	14,245,528	43,721,026	6,996,216
	処置及び手術	63,047,180	42,462,040	67,832,946	77,039,413	49,491,493	36,440,633	67,583,987
	検査	2,432,990	2,230,890	3,097,145	3,222,256	1,811,841	2,679,736	3,645,163
	X線	559,910	366,490	789,929	644,839	175,224	400,620	527,114
	その他	5,627,880	5,961,610	6,303,953	5,598,607	5,814,820	6,055,588	6,471,539
	計	218,623,962	248,055,223	307,245,285	309,406,374	331,861,905	257,597,765	288,847,808
外来収益	初診料	1,115,390	1,043,660	1,396,375	1,330,964	1,413,812	1,427,577	1,558,676
	再診料	4,447,150	3,902,090	4,673,433	4,164,118	4,605,605	4,425,557	4,620,737
	投薬	415,010	460,830	88,551	250,958	118,494	64,739	108,831
	注射	4,731,690	323,680	5,265,931	15,778,518	22,520,980	21,378,645	24,755,716
	処置及び手術	2,959,950	3,485,480	5,097,996	3,940,552	3,603,463	3,977,797	3,970,592
	検査	9,624,420	7,731,460	9,556,338	11,046,276	12,690,187	11,311,749	12,180,539
	X線	2,785,490	2,516,600	2,947,673	3,363,862	4,613,447	3,938,264	3,575,136
	その他	27,903,035	26,015,606	24,517,877	27,402,478	28,658,405	30,190,121	26,851,418
	計	53,982,135	45,479,406	53,544,174	67,277,726	78,224,393	76,714,449	77,621,645
その他		9,683,666	12,335,226	11,755,116	11,390,333	9,289,450	9,489,292	9,629,343
合計		282,289,763	305,869,855	372,544,575	388,074,433	419,375,748	343,801,506	376,098,796

（単位：円・%）

11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	令和 2 年度計	元年度計	対前年比
193,604,830	200,194,358	179,511,690	214,194,215	187,930,610	2,321,508,727	2,318,650,016	100.1
4,178,684	4,528,390	3,508,003	4,603,100	4,408,843	49,222,086	49,247,593	99.9
1,103,361	1,770,802	1,030,464	579,112	1,097,066	15,526,228	14,229,179	109.1
5,286,586	2,704,600	21,906,906	16,677,303	-1,096,516	154,787,852	178,973,310	86.5
42,050,563	58,611,357	57,048,111	57,430,610	42,631,648	661,669,981	766,522,109	86.3
2,187,318	3,370,867	2,708,464	3,040,548	2,996,831	33,424,049	37,496,393	89.1
416,433	620,120	491,614	542,802	404,222	5,939,317	5,956,207	99.7
7,426,904	6,521,595	4,721,021	6,535,833	6,877,519	73,916,869	49,306,343	149.9
256,254,679	278,322,089	270,926,273	303,603,523	245,250,223	3,315,995,109	3,420,381,150	96.9
1,508,154	1,450,502	1,485,664	1,090,770	1,718,450	16,539,994	18,050,589	91.6
4,025,398	4,675,432	5,605,007	5,147,124	7,653,397	57,945,048	61,669,689	94.0
194,102	408,922	94,359	237,766	185,175	2,627,737	4,235,102	62.0
31,067,886	27,832,176	31,188,936	6,847,136	7,607,612	199,298,906	214,226,177	93.0
3,057,090	5,004,580	3,355,433	3,916,036	5,752,333	48,121,302	45,169,019	106.5
10,472,691	10,106,898	10,971,873	9,837,151	14,682,987	130,212,569	130,877,745	99.5
3,097,894	3,198,173	3,666,199	2,953,330	4,349,264	41,005,332	44,401,871	92.4
25,565,164	27,050,023	32,994,437	24,508,646	30,723,242	332,380,452	304,652,480	109.1
78,988,379	79,726,706	89,361,908	54,537,959	72,672,460	828,131,340	823,282,672	100.6
10,088,024	11,286,660	13,244,990	12,011,876	44,335,749	164,539,725	139,151,505	118.2
345,331,082	369,335,455	373,533,171	370,153,358	362,258,432	4,308,666,174	4,382,815,327	98.3

2 診療業務

(1) 総括表

区分				令和2年度	元年度	平成30年度
外来	診療日数	A		243日	240日	244日
	新患者数	B		2,909人	3,301人	3,284人
	延患者数	C		44,068人	47,630人	48,239人
	平均通院日数	D	C/B	15.1日	14.4日	14.7日
	日平均新患者数	E	B/A	12.0人	13.8人	13.5人
	日平均患者数	F	C/A	181.3人	198.5人	197.7人
入院	診療日数	G		365日	366日	365日
	病床数	H		150床	150床	150床
	新入院患者数	I		3,096人	3,294人	3,311人
	退院患者数	J		3,088人	3,307人	3,297人
	延入院患者数	K		39,432人	39,469人	41,699人
	病床利用率	L	K/G/H*100	72.0%	71.9%	76.2%
	病床回転率	M	{(I+J)*1/2}/H/L	28.6回	30.6回	28.9回
	平均在院日数	N	K/{(I+J)/2}	12.8日	12.0日	12.6日
	外来入院比率	O	C/K*100	111.8%	120.7%	115.7%
	入院率	P	I/B*100	106.4%	99.8%	100.8%
	日平均新入院数	Q	I/G	8.5人	9.0人	9.1人
	日平均患者数	R	K/G	108.0人	107.8人	114.2人

29 年 度	28 年 度	27 年 度	26 年 度	25 年 度	24 年 度
244 日	243 日	243 日	244 日	244 日	245 日
3,007 人	3,141 人	3,333 人	3,143 人	3,145 人	2,934 人
46,334 人	46,340 人	47,114 人	46,654 人	46,558 人	46,337 人
15.4 日	14.8 日	14.1 日	14.8 日	14.8 日	15.8 日
12.3 人	12.9 人	13.7 人	12.9 人	12.9 人	12.0 人
189.9 人	190.7 人	193.9 人	191.2 人	190.8 人	189.1 人
365 日	365 日	366 日	365 日	365 日	365 日
150 床	150 床	150 床	150 床	150 床	150 床
3,021 人	3,026 人	3,084 人	2,954 人	2,778 人	2,757 人
3,033 人	3,025 人	3,075 人	2,948 人	2,788 人	2,761 人
38,798 人	39,098 人	40,361 人	37,895 人	40,230 人	40,665 人
70.9%	71.4%	73.5%	69.2%	73.5%	74.3%
28.5 回	28.2 回	27.9 回	28.4 回	25.2 回	24.8 回
12.8 日	12.9 日	13.1 日	12.8 日	14.5 日	14.7 日
119.4%	118.5%	116.7%	123.1%	115.7%	113.9%
100.5%	96.3%	92.5%	94.0%	88.3%	94.0%
8.3 人	8.3 人	8.4 人	8.1 人	7.6 人	7.6 人
106.3 人	107.1 人	110.3 人	103.8 人	110.2 人	111.4 人

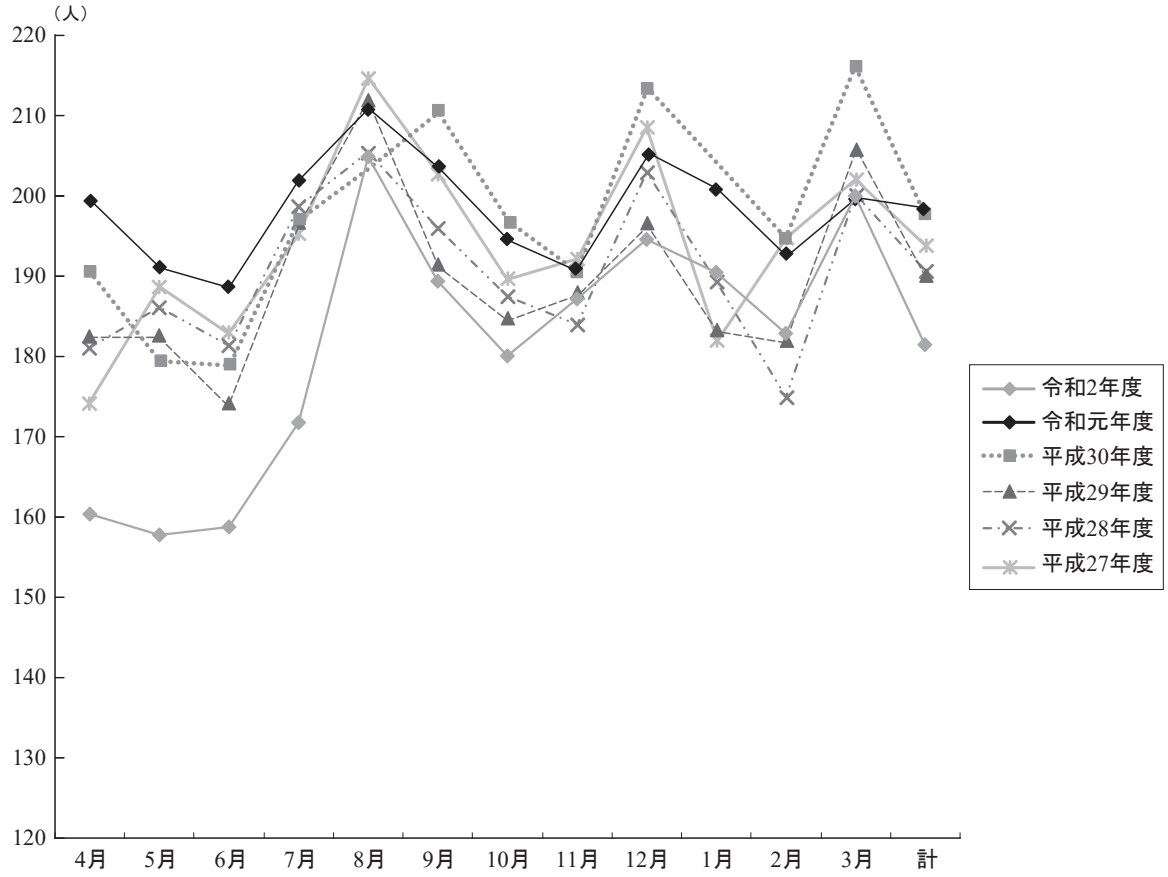
⑵ 月別・科別外来患者受診の状況（人）

区分＼月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
一般内科	初診	22	17	21	27	35	26	24
	再診	138	107	136	149	175	151	153
	延数	160	124	157	176	210	177	177
内分泌代謝科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	36	39	34	36	43	50	35
	延数	36	39	34	36	43	50	35
腎臓内科	初診	0	0	3	0	1	2	1
	再診	41	64	79	51	86	59	56
	延数	41	64	82	51	87	61	57
アレルギー感染免疫科	初診	7	3	4	9	2	3	6
	再診	204	160	158	207	178	163	212
	延数	211	163	162	216	180	166	218
血液腫瘍科	初診	0	1	1	0	1	3	1
	再診	58	41	43	65	100	65	44
	延数	58	42	44	65	101	68	45
リハビリ	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	369	329	370	403	388	402	428
	延数	369	329	370	403	388	402	428
小児精神科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	11	9	14	17	13	13	16
	延数	11	9	14	17	13	13	16
遺伝科	初診	1	1	0	0	1	3	1
	再診	25	25	24	32	46	23	15
	延数	26	26	24	32	47	26	16
眼科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	5	0	10	10	8	10	8
	延数	5	0	10	10	8	10	8
耳鼻咽喉科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	25	12	20	27	25	26	21
	延数	25	12	20	27	25	26	21
循環器科	初診	18	14	19	18	37	34	49
	再診	382	297	337	421	500	513	557
	延数	400	311	356	439	537	547	606
神経内科	初診	13	7	9	9	10	10	16
	再診	344	259	339	298	351	328	368
	延数	357	266	348	307	361	338	384
一般外科	初診	30	20	36	19	37	37	28
	再診	319	223	297	340	413	406	370
	延数	349	243	333	359	450	443	398
形成外科	初診	39	30	38	39	36	38	33
	再診	261	213	305	279	340	274	337
	延数	300	243	343	318	376	312	370
整形外科	初診	11	11	16	17	9	21	9
	再診	201	192	198	228	340	248	233
	延数	212	203	214	245	349	269	242
脳神経外科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	0	1	0	0	1	2	0
	延数	0	1	0	0	1	2	0
新生児科	初診	19	29	32	27	22	18	21
	再診	215	204	258	238	296	237	272
	延数	234	233	290	265	318	255	293
産科	初診	28	35	44	37	33	42	35
	再診	231	220	264	235	201	213	229
	延数	259	255	308	272	234	255	264
歯科	初診	29	10	23	26	15	21	21
	再診	282	263	357	339	351	342	358
	延数	311	273	380	365	366	363	379
合計	初診	217	178	246	228	239	258	245
	再診	3,147	2,658	3,243	3,375	3,855	3,525	3,712
	延数	3,364	2,836	3,489	3,603	4,094	3,783	3,957
診療実日数		21	18	22	21	20	20	22
日平均患者数		160.2	157.6	158.6	171.6	204.7	189.2	179.9

（単位：人・%）

11月	12月	1月	2月	3月	令和2年度計	元年度計	対前年比
47	35	38	36	36	364	559	65.1
132	153	147	156	218	1,815	2,195	82.7
179	188	185	192	254	2,179	2,754	79.1
0	0	0	0	0	0	0	-
30	37	27	32	41	440	579	76.0
30	37	27	32	41	440	579	76.0
1	7	1	0	2	18	11	163.6
50	78	46	51	72	733	779	94.1
51	85	47	51	74	751	790	95.1
3	5	1	5	10	58	69	84.1
193	218	230	212	312	2,447	2,516	97.3
196	223	231	217	322	2,505	2,585	96.9
4	5	4	0	2	22	20	110.0
52	55	62	49	97	731	863	84.7
56	60	66	49	99	753	883	85.3
0	0	0	0	0	0	0	-
384	437	402	381	452	4,745	5,214	91.0
384	437	402	381	452	4,745	5,214	91.0
0	0	0	0	0	0	0	-
16	18	17	12	21	177	151	117.2
16	18	17	12	21	177	151	117.2
2	0	2	2	1	14	23	60.9
23	31	43	25	44	356	342	104.1
25	31	45	27	45	370	365	101.4
0	0	0	0	0	0	0	-
9	6	7	6	6	85	93	91.4
9	6	7	6	6	85	93	91.4
0	0	0	0	0	0	0	-
22	29	23	15	25	270	283	95.4
22	29	23	15	25	270	283	95.4
50	41	15	17	19	331	447	74.0
454	416	401	333	472	5,083	5,482	92.7
504	457	416	350	491	5,414	5,929	91.3
13	10	10	7	12	126	122	103.3
294	340	290	280	337	3,828	3,946	97.0
307	350	300	287	349	3,954	4,068	97.2
23	32	38	31	37	368	416	88.5
323	379	326	277	458	4,131	4,603	89.7
346	411	364	308	495	4,499	5,019	89.6
36	49	30	34	51	453	482	94.0
275	322	279	279	366	3,530	3,840	91.9
311	371	309	313	417	3,983	4,322	92.2
15	11	11	6	10	147	166	88.6
215	205	232	210	375	2,877	3,156	91.2
230	216	243	216	385	3,024	3,322	91.0
0	0	0	0	0	0	0	-
0	1	0	0	3	8	27	29.6
0	1	0	0	3	8	27	29.6
29	23	25	22	19	286	309	92.6
268	293	250	211	302	3,044	3,416	89.1
297	316	275	233	321	3,330	3,725	89.4
37	46	49	49	35	470	452	104.0
207	227	255	267	325	2,874	2,703	106.3
244	273	304	316	360	3,344	3,155	106.0
28	16	21	13	29	252	225	112.0
318	363	334	271	407	3,985	4,141	96.2
346	379	355	284	436	4,237	4,366	97.0
288	280	245	222	263	2,909	3,301	88.1
3,265	3,608	3,371	3,067	4,333	41,159	44,329	92.8
3,553	3,888	3,616	3,289	4,596	44,068	47,630	92.5
19	20	19	18	23	243	240	101.3
187.0	194.4	190.3	182.7	199.8	181.3	198.5	91.4

◆1日平均外来患者の状況



（単位：人）

月／年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度	160.2	157.6	158.6	171.6	204.7	189.2	179.9	187.0	194.4	190.3	182.7	199.8	181.3
元年度	199.5	191.3	188.5	202.0	211.0	203.6	194.7	190.7	205.4	201.0	192.6	199.9	198.5
平成30年度	190.7	179.4	179.0	197.0	203.5	210.4	196.9	190.4	213.5	204.2	194.9	216.3	197.7
29年度	182.3	182.4	173.7	196.3	212.0	191.2	184.4	187.7	196.3	181.7	181.7	205.8	189.6
28年度	181.1	186.1	181.3	198.7	205.4	196.0	187.5	184.0	202.9	189.3	174.9	200.1	190.7
27年度	174.0	188.7	182.8	195.0	214.7	202.8	189.7	192.1	208.6	181.8	194.7	202.2	193.9

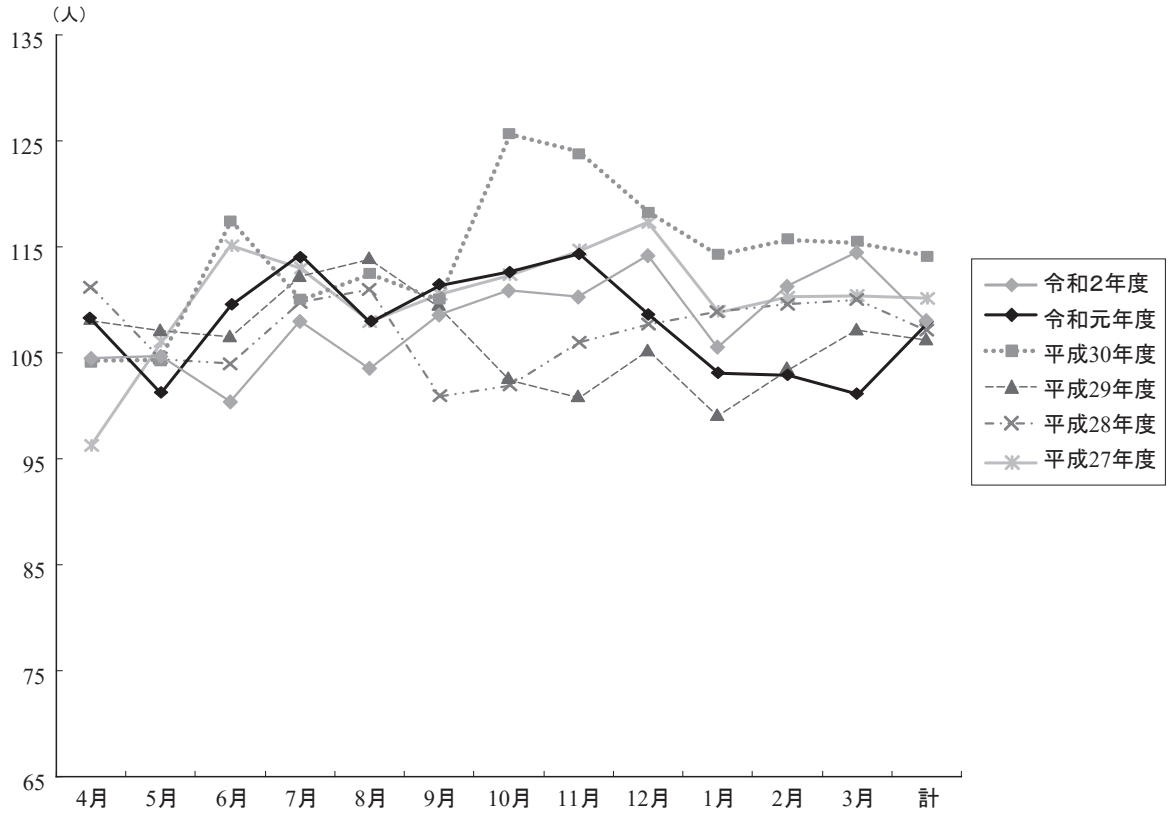
⑶ 月別入退院患者数

（単位：人・%）

病棟	区分＼月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和2年度計	元年度計	対前年比
第一	入院	(3)	(2)	(2)	(1)	(5)	(3)	(4)	(4)	(6)	(2)	(2)	(4)	(38)	(63)	
		55	59	68	71	80	81	86	75	69	98	77	83	902	938	96.2
	退院	(3)	(1)	(1)	(2)	(2)	(4)	(5)	(2)	(2)	(2)			(24)	(33)	
		52	66	71	69	80	83	80	77	79	94	73	90	914	974	93.8
	月末在院者数	20	14	12	13	16	13	18	18	12	16	22	19			
	延患者数	620	573	527	536	562	552	629	655	667	605	594	694	7,214	8,665	83.3
	1日平均	20.7	18.5	17.6	17.3	18.1	18.4	20.3	21.8	21.5	19.5	21.2	22.4	19.8	23.7	83.5
第二	入院	(11)	(9)	(5)	(8)	(3)	(9)	(11)	(8)	(7)	(13)	(12)	(10)	(106)	(98)	
		92	54	81	91	94	101	93	84	110	85	92	114	1,091	1,160	94.1
	退院	(10)	(7)	(6)	(7)	(5)	(9)	(6)	(8)	(8)	(9)	(12)	(14)	(101)	(107)	
		89	63	72	90	99	97	98	86	115	90	86	104	1,089	1,151	94.6
	月末在院者数	18	11	19	21	14	18	18	16	10	9	15	21			
	延患者数	529	493	500	626	599	611	646	616	661	515	556	730	7,082	6,955	101.8
	1日平均	17.6	15.9	16.7	20.2	19.3	20.4	20.8	20.5	21.3	16.6	19.9	23.5	19.4	19.0	102.1
第三	入院	(13)	(10)	(14)	(17)	(15)	(16)	(13)	(9)	(12)	(12)	(5)	(10)	(146)	(152)	
		30	28	45	34	54	40	41	45	37	35	30	44	463	562	82.4
	退院	(10)	(7)	(14)	(14)	(12)	(11)	(13)	(6)	(10)	(9)	(7)	(7)	(120)	(116)	
		32	35	45	44	49	44	42	47	44	33	25	51	491	600	81.8
	月末在院者数	22	18	18	11	19	20	19	20	15	20	23	19			
	延患者数	666	623	556	590	586	656	708	575	661	629	619	683	7,552	8,170	92.4
	1日平均	22.2	20.1	18.5	19.0	18.9	21.9	22.8	19.2	21.3	20.3	22.1	22.0	20.7	22.3	92.7
PICU	入院	(19)	(13)	(20)	(22)	(17)	(19)	(15)	(14)	(16)	(16)	(19)	(17)	(207)	(198)	
		2	2	3	1	1	5	3	5	2	3		1	28	41	68.3
	退院	(22)	(16)	(20)	(22)	(20)	(23)	(17)	(17)	(18)	(19)	(19)	(19)	(232)	(228)	
				1				1	1	1			1	5	10	50.0
	月末在院者数	6	5	7	8	6	7	7	8	7	7	7	5			
	延患者数	196	161	219	191	211	199	193	190	217	232	208	208	2,425	2,355	103.0
	1日平均	6.5	5.2	7.3	6.2	6.8	6.6	6.2	6.3	7.0	7.5	7.4	6.7	6.6	6.4	103.3
新生児・未熟児	入院						1					1		(2)		
		18	28	30	24	14	19	20	24	19	18	16	15	245	286	85.7
	退院	(1)	(3)		(3)	(1)	(1)	(3)	(2)	(3)	(4)	(1)	(1)	(23)	(28)	
		13	18	29	20	17	17	19	18	20	12	19	14	216	269	80.3
	月末在院者数	24	31	32	33	29	31	29	33	29	31	28	28			
	延患者数	723	974	933	992	988	875	971	912	970	962	790	865	10,955	9,785	112.0
	1日平均	24.1	31.4	31.1	32.0	31.9	29.2	31.3	30.4	31.3	31.0	28.2	27.9	30.0	26.7	112.3
産科	入院		(2)					(1)						(3)	(1)	
		30	32	29	35	25	26	22	34	32	32	37	33	367	307	119.5
	退院		(2)											(2)		
		26	41	24	41	24	24	23	36	29	37	29	39	373	303	123.1
	月末在院者数	16	7	12	6	7	9	9	7	10	5	13	7			
	延患者数	401	422	277	414	264	366	292	360	364	326	349	369	4,204	3,539	118.8
	1日平均	13.4	13.6	9.2	13.4	8.5	12.2	9.4	12.0	11.7	10.5	12.5	11.9	11.5	9.7	119.1
合計	入院	(46)	(36)	(41)	(48)	(40)	(48)	(44)	(35)	(41)	(43)	(39)	(41)	(502)	(512)	
		227	203	256	256	268	272	265	267	269	271	252	290	3,096	3,294	94.0
	退院	(46)	(36)	(41)	(48)	(40)	(48)	(44)	(35)	(41)	(43)	(39)	(41)	(502)	(512)	
		212	223	242	264	269	265	263	265	288	266	232	299	3,088	3,307	93.4
	月末在院者数	106	86	100	92	91	98	100	102	83	88	108	99			
	延患者数	3,135	3,246	3,012	3,349	3,210	3,259	3,439	3,308	3,540	3,269	3,116	3,549	39,432	39,469	99.9
	1日平均	104.5	104.7	100.4	108.0	103.5	108.6	110.9	110.3	114.2	105.5	111.3	114.5	108.0	107.8	100.2
病床利用率		69.7	69.8	66.9	72.0	69.0	72.4	74.0	73.5	76.1	70.3	74.2	76.3	72.0	71.9	100.2

（注）入院・退院欄の上段は転棟患者数
病床利用率は、運用病床数 150 床で算出

◆1日平均入院患者の状況



（単位：人）

月 / 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度	104.5	104.7	100.4	108.0	103.5	108.6	110.9	110.3	114.2	105.5	111.3	114.5	108.0
元年度	108.1	101.1	109.4	114.2	107.8	111.3	112.6	114.3	108.5	103.0	102.8	101.0	107.8
平成30年度	104.2	104.2	117.6	109.9	112.5	109.9	125.5	124.1	118.2	114.2	115.6	115.2	106.3
29年度	108.1	107.1	106.5	112.2	113.9	109.4	102.4	100.8	105.3	99.1	103.3	107.2	107.1
28年度	111.2	104.4	104.0	109.8	111.0	100.9	101.9	106.0	107.7	108.9	109.6	110.0	110.3
27年度	96.2	105.9	115.3	113.0	108.0	110.5	112.3	114.7	117.5	108.8	110.4	110.5	103.8

⑷ 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数

（単位：人・%）

月別／管内別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和2年度計	構成比	元年度計	対前年比
前橋市	42	35	62	50	34	55	62	81	57	48	41	57	624	21.5	718	86.9
高崎市	41	41	40	39	64	69	43	44	71	57	50	57	616	21.2	626	98.4
安中	3	2	3	2	3	3	1	6	5	2	3	2	35	1.2	52	67.3
渋川	36	22	33	35	38	33	41	39	42	43	33	38	433	14.9	481	90.0
藤岡	6	4	8	7	7	1	1	2	6	7	2	6	57	2.0	58	98.3
富岡	5	2	3	4	5	4	3	5	5	2	3	7	48	1.7	49	98.0
吾妻	13	13	13	11	6	15	12	10	11	13	15	11	143	4.9	158	90.5
利根沼田	11	15	18	13	10	11	14	25	11	11	6	12	157	5.4	216	72.7
伊勢崎	23	13	25	32	31	30	39	24	26	25	28	25	321	11.0	371	86.5
桐生	6	4	8	9	12	9	8	5	4	8	7	11	91	3.1	102	89.2
太田	9	6	8	8	8	3	10	16	14	9	14	8	113	3.9	109	103.7
館林	1	4	1	2	6	4	2	9	4	8	3	6	50	1.7	37	135.1
県外	21	17	24	16	15	21	9	22	24	12	17	23	221	7.6	324	68.2
令和2年度計	217	178	246	228	239	258	245	288	280	245	222	263	2,909	100.0	—	88.1
元年度計	281	266	278	332	333	287	286	271	268	257	209	233	—	—	3,301	—

（注）この表は、当センターに初診で登録された患者の集計である。したがって、即入院患者数が含まれたものである。

◆地域別新規登録患者数

区　　分	令和2年度	元年度	対前年比
総　　計	2,909	3,301	88.1
市　　計	2,228	2,440	91.3
町　村　計	460	538	85.5
県　外　計	221	323	68.4
前橋市保健所	624	718	86.9
前　橋　市	624	718	86.9
高崎市保健所	616	626	98.4
高　崎　市	616	626	98.4
安中保健福祉事務所	35	52	67.3
安　中　市	35	52	67.3
渋川保健福祉事務所	433	481	90.0
渋　川　市	271	286	94.8
榛　東　村	59	64	92.2
吉　岡　町	103	131	78.6
藤岡保健福祉事務所	57	58	98.3
藤　岡　市	55	58	94.8
神　流　町			－
上　野　村	2		－

区　　分	令和2年度	元年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	48	49	98.0
富　岡　市	37	40	92.5
下仁田町	2	3	66.7
南　牧　村			－
甘　楽　町	9	6	150.0
吾妻保健福祉事務所	143	158	90.5
中之条町	50	49	102.0
東吾妻町	37	55	67.3
長野原町	15	18	83.3
嬬　恋　村	21	13	161.5
草　津　町	9	9	100.0
高　山　村	11	14	78.6
利根沼田保健福祉事務所	157	217	72.4
沼　田　市	95	129	73.6
片　品　村	6	7	85.7
川　場　村	2	14	14.3
みなかみ町	32	51	62.7
昭　和　村	22	16	137.5

（単位：人・％）

区分		令和2年度	元年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所		321	371	86.5
	伊勢崎市	277	316	87.7
	玉村町	44	55	80.0
桐生保健福祉事務所		91	102	89.2
	桐生市	48	65	73.8
	みどり市	43	37	116.2
太田保健福祉事務所		113	109	103.7
	太田市	113	109	103.7
館林保健福祉事務所		50	37	135.1
	館林市	14	4	350.0
	板倉町	1		－
	明和町	4	4	－
	千代田町	2	3	66.7
	大泉町	21	22	95.5
	邑楽町	8	4	200.0

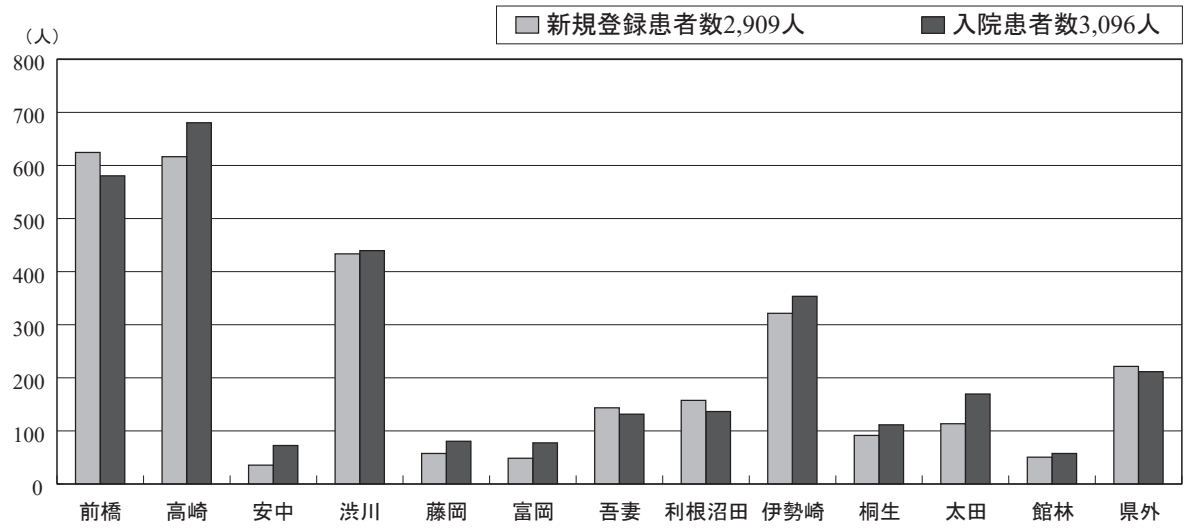
区分		令和2年度	元年度	対前年比
県外計		221	323	68.4
	北海道	3	6	50.0
	岩手県	1		－
	宮城県	2	4	50.0
	山形県	1	1	100.0
	茨城県	4	4	100.0
	栃木県	16	13	123.1
	埼玉県	118	132	89.4
	千葉県	5	14	35.7
	東京都	35	88	39.8
	神奈川県	13	22	59.1
	新潟県	2	6	33.3
	富山県		1	－
	石川県	1		－
	山梨県	1	1	100.0
	長野県	1	6	16.7
	岐阜県		3	－
	静岡県	3	4	75.0
	愛知県	7	8	87.5
	三重県	1		－
	京都府	2		－
	大阪府	4		－
	兵庫県		1	－
	奈良県		1	－
	和歌山県		1	－
	広島県		1	－
	徳島県		1	－
	福岡県	1	1	100.0
	沖縄県		3	－
	国内計	221	322	68.6
国外		0	1	－

◆地域別入院患者の状況（再入院を含む）

区　　分	令和２年度	元年度	対前年比
総　　計	3,096	3,294	94.0
市　　計	2,423	2,511	96.5
町　村　計	462	493	93.7
県　外　計	211	290	72.8
前橋市保健所	580	685	84.7
前　橋　市	580	685	84.7
高崎市保健所	680	659	103.2
高　崎　市	680	659	103.2
安中保健福祉事務所	72	62	116.1
安　中　市	72	62	116.1
渋川保健福祉事務所	439	499	88.0
渋　川　市	275	305	90.2
榛　東　村	63	70	90.0
吉　岡　町	101	124	81.5
藤岡保健福祉事務所	80	69	115.9
藤　岡　市	79	69	114.5
神　流　町			－
上　野　村	1		－

区　　分	令和２年度	元年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	77	69	111.6
富　岡　市	45	41	109.8
下　仁　田　町	8	6	133.3
南　牧　村	1	1	－
甘　楽　町	23	21	109.5
吾妻保健福祉事務所	131	139	94.2
中　之　条　町	50	42	119.0
東　吾　妻　町	43	54	79.6
長　野　原　町	9	15	60.0
嬬　恋　村	12	6	200.0
草　津　町	11	14	78.6
高　山　村	6	8	75.0
利根沼田保健福祉事務所	136	153	88.9
沼　田　市	82	108	75.9
片　品　村	10	7	142.9
川　場　村	1	5	20.0
みなかみ町	25	24	104.2
昭　和　村	18	9	200.0

◆地域別利用状況（市保健所・保健福祉事務所管内別の状況　令和2年度）



（単位：人・％）

区　　分		令和２年度	元年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所		353	330	107.0
	伊勢崎市	317	296	107.1
	玉村町	36	34	105.9
桐生保健福祉事務所		111	107	103.7
	桐生市	74	76	97.4
	みどり市	37	31	119.4
太田保健福祉事務所		169	171	98.8
	太田市	169	171	98.8
館林保健福祉事務所		57	61	93.4
	館林市	13	8	162.5
	板倉町		2	
	明和町	4	1	400.0
	千代田町	1	5	20.0
	大泉町	30	41	73.2
	邑楽町	9	4	225.0

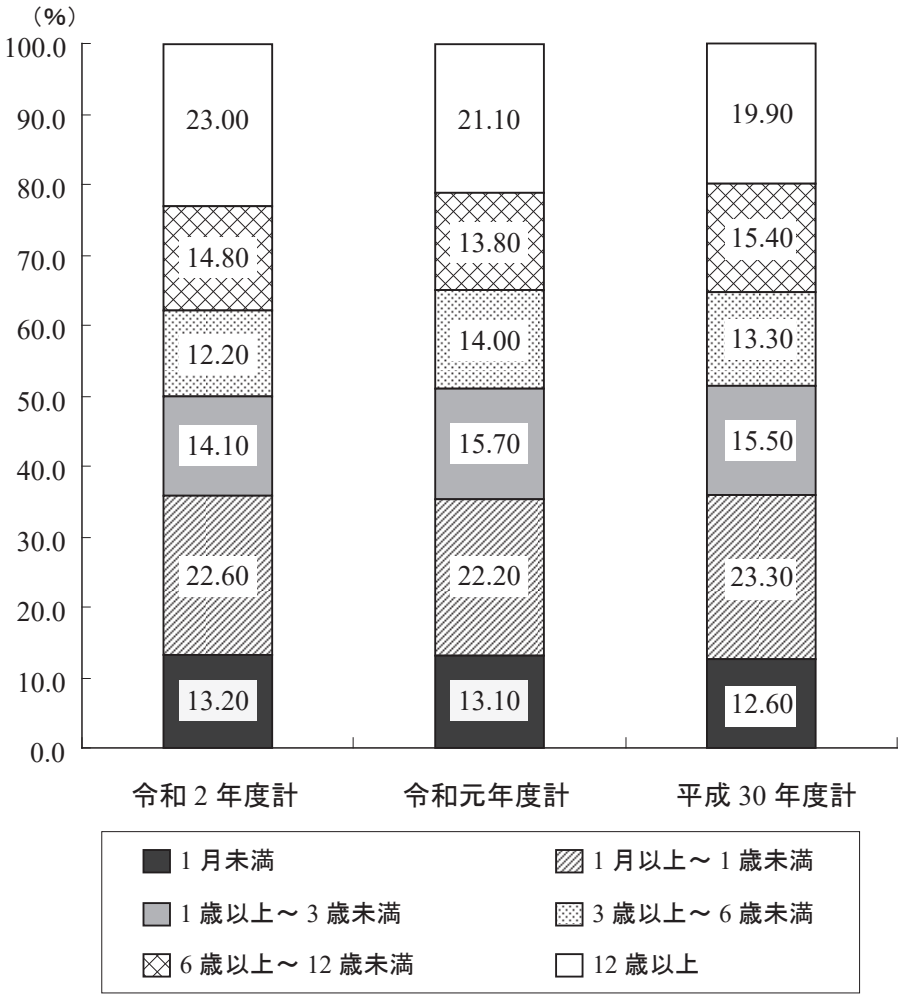
区　　分		令和２年度	元年度	対前年比
県外計		211	289	73.0
	北海道		6	－
	岩手県	2		－
	宮城県		2	－
	秋田県			－
	山形県	2	2	100.0
	茨城県	2	3	66.7
	栃木県	24	13	184.6
	埼玉県	135	161	83.9
	千葉県	2	8	25.0
	東京都	22	53	41.5
	神奈川県	10	13	76.9
	新潟県		4	－
	山梨県	1	1	100.0
	長野県	2	8	25.0
	岐阜県		1	－
	静岡県	2	3	66.7
	愛知県	4	9	44.4
	京都府	2		－
	広島県		1	－
	徳島県		1	－
	福岡県	1		－
	沖縄県		1	－
	国内計	211	289	73.0
国外				－

⑸ 年齢階層別状況（新規登録患者）

（単位：人・%）

区分 / 年齢	男	女	令和 2 年度計	元年度計	対前年比
1 月未満	208	177	385	434	88.7
1 月以上～1 歳未満	324	334	658	733	89.8
1 歳以上～3 歳未満	242	169	411	519	79.2
小　　計	774	680	1,454	1,686	86.2
3 歳以上～6 歳未満	197	158	355	463	76.7
6 歳以上～12 歳未満	246	185	431	457	94.3
12 歳以上	103	566	669	695	96.3
令和 2 年度計	1,320	1,589	2,909		88.1
令和元年度計	1,526	1,775		3,301	
対前年比	86.5	89.5	88.1	100.5	

◆年齢階層別状況（新規登録患者）平成 30 年度～令和 2 年度



⑹ 救急医療

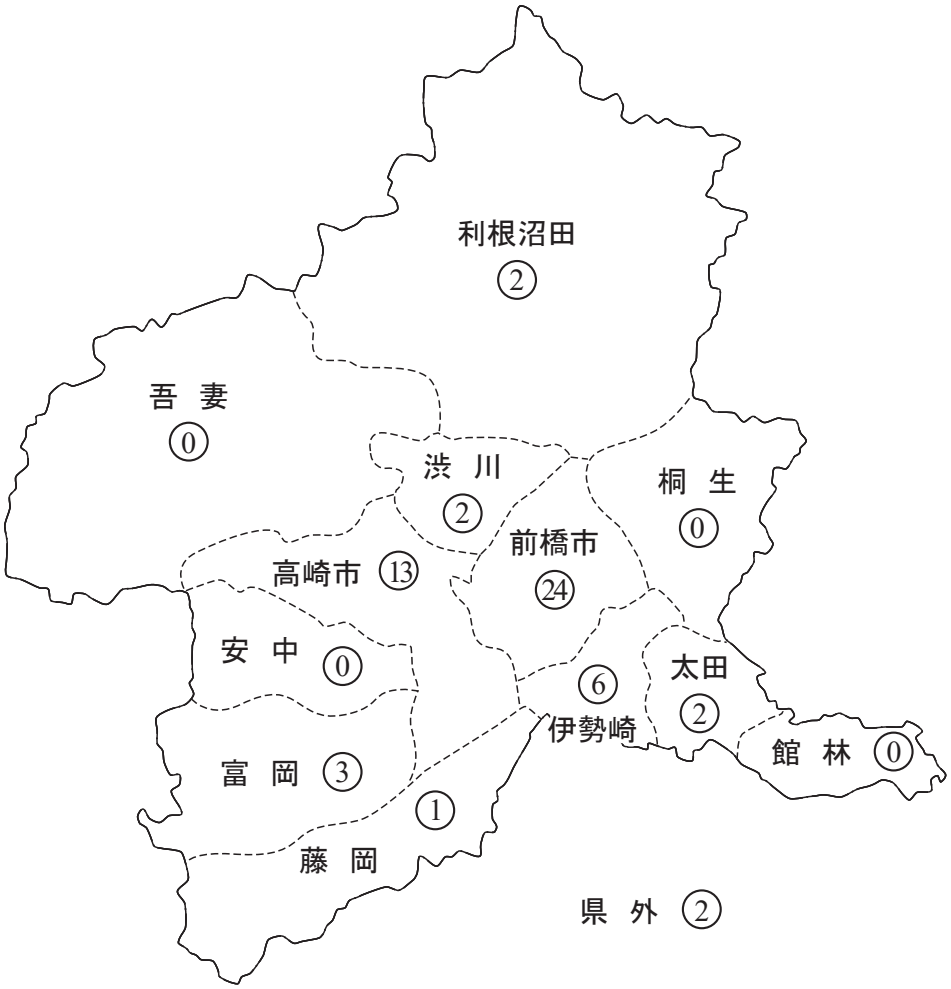
①救急医療の状況（診療状況より）

（単位：人・%）

区分＼月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和2年度計	元年度計	対前年比
NICU車	時間外	1	3	2	4	3	1	0	4	1	3	3	0	25	43	58.1
	時間内	2	2	4	4	1	5	2	2	1	0	0	3	26	41	63.4
	休　日	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4	11	36.4
	計	3	7	6	8	4	6	2	6	2	4	4	3	55	95	57.9
救急車・その他	時間外	44	50	54	57	52	49	47	51	52	45	55	61	617	869	71.0
	時間内	10	8	7	8	6	7	7	9	11	8	9	9	99	167	59.3
	休　日	15	25	17	28	22	27	19	33	48	38	24	17	313	606	51.7
	計	69	83	78	93	80	83	73	93	111	91	88	87	1,029	1,642	62.7
合　計		72	90	84	101	84	89	75	99	113	95	92	90	1,084	1,737	62.4

（注）「時間内」とは、平日の 8：30～17：15 である。それ以外の時間を「時間外」に区分した。
　　土曜は「時間外」とした。

② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況（搬入元医療機関等）



出動区分＼年度		令和2年度 出動件数	令和2年度 対前年比	元年度 出動件数	平成30年度 出動件数	29年度 出動件数	28年度 出動件数	27年度 出動件数	26年度 出動件数	25年度 出動件数	24年度 出動件数	23年度 出動件数
救急患者		55	55.6%	95	99	95	90	99	55	87	57	43
内訳	休日及び時間外	29	60.4%	54	48	39	40	58	31	40	32	25
内訳	時間内	26	51.0%	41	51	56	50	41	24	47	25	18
その他		28	140.0%	17	20	49	43	31	48	45	32	38
合計		83	69.7%	112	119	144	133	130	103	132	89	81

（注）「その他」は、当センター入院中の患者を他の医療機関へ搬出したもの、及び他の医療機関の要請により当センター以外の他の医療機関へ搬送を行ったもの等である。

(7) 予防接種実施状況

①月別実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
B C G			2	1		1	2	1		1	2	1	11
ポリオ													
四種混合	3	5	6	2	6	7	5	1	5	5	3	5	53
三種混合													
二種混合			1		1					1			3
麻しん・風しん	1	1	1	3	2	2						1	11
麻しん													
風しん													
日本脳炎	2				3	4	1		3	2	3	2	20
ヒブ	2	3	7	4	6	7	3	2	2	3	2	2	43
肺炎球菌	2	4	8	4	6	5	2	2	2	2	3	2	42
子宮頸がん予防													
水痘	1	2	3	3	1	3		1	1			3	18
B型肝炎	3	3	5	3	5	1	2	3	2	4	5	1	37
ロタウイルス								1	1		1		3
計	14	18	33	20	30	30	15	11	16	18	19	17	241

②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況

	前橋市	高崎市	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	利根沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
B C G		4	1	3					1		1		1	11
ポリオ														
四種混合	10	18	3	11	3				3	2	2		1	53
三種混合														
二種混合	1			2										3
麻しん・風しん	3	1		2		2					1		2	11
麻しん														
風しん														
日本脳炎	4	8	2	3		1		1	1					20
ヒブ	10	13	3	8	3				3	1	1		1	43
肺炎球菌	8	14	3	8	3				3	1	1		1	42
子宮頸がん予防														
水痘	6	2		3						1	4		2	18
B型肝炎	7	14	2	7	2				3		1		1	37
ロタウイルス	1		2											3
計	50	74	16	47	11	3		1	14	5	11		9	241

③推　移

年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
実施件数	234	269	235	233	231	154	157	95	82	56	50	109	213	241

⑻ 疾病分類別入院患者数

①第一病棟

第一病棟科別入院患者数

アレルギー感染免疫・呼吸器科	514 人	53.9%
神経内科	334 人	35.0%
歯科	54 人	5.7%
循環器科	36 人	3.8%
外科（小児外科）	12 人	1.3%
一般内科（小児科）	2 人	0.2%
形成外科	1 人	0.1%
合　　計	953 人	100.0%

②第二病棟

令和２年度　入院症例（他科入院で外科手術した症例も含む、重複含む）

頸部	
正中頚嚢胞、側頚瘻	3
気管切開（喉頭気管分離）目的	10
肺・気管支	
気胸	0
肺分画症	1
肺嚢胞性疾患	3
横隔膜	
横隔膜ヘルニア	1
食道	
先天性食道狭窄	12
先天性食道閉鎖症	4
食道アカラシア	0
胃食道逆流症	15
腹壁	
腹壁破裂	1
白線ヘルニア	1
鼠径ヘルニア	
鼠径ヘルニア (精索水瘤含む)	162
胃	
肥厚性幽門狭窄症	8
胃軸捻転	0
胃瘻造設目的	10
十二指腸・小腸、結腸、腸間膜	
小腸閉鎖・狭窄	4
腸回転異常	3
Hirschsprung 病	1
Hirschsprung 病類縁疾患	7
短腸症候群	0
消化管穿孔	7
人工肛門閉鎖目的	5
虫垂	
急性虫垂炎	46
直腸、肛門	
直腸肛門奇形	13
肛門疾患	9
イレウス	
腸重積症	6
イレウス（保存治療）	6
イレウス（手術治療）	7
胆道、脾臓	
胆道閉鎖症	11
胆道拡張症	2
脾臓摘出目的	1
腫瘍	
神経芽腫	0
肝芽腫	0
腎芽腫	3
その他の悪性腫瘍	4
良性腫瘍	8
生殖泌尿器	
水腎症	1
膀胱尿管逆流症	0
停留精巣（萎縮含む）	38
皮膚、筋、骨格	
リンパ節腫大	2
リンパ管腫	3
血管腫	0
その他	
便秘	10
内視鏡（治療含む）	51
ＣＶカテーテル敗血症	12
ＣＶカテーテル挿入目的	24
腸炎	7
その他	79
合計	601

形成外科

(うちカッコ内は日帰り全身麻酔の入院患者数)

口唇裂	2	多指症・合指症	11
口唇顎裂	9	多趾症・合趾症	4
口唇口蓋裂	16	多合趾症	3
口蓋裂	4	裂手症	1
副耳	8(2)	母斑	16 (4)
耳瘻孔	6(3)	皮膚腫瘍	32(11)
小耳症	1	血管腫・血管奇形	10(4)
睫毛内反症	11(3)	外骨腫	1
舌小帯短縮症	4(1)		
頬小帯短縮症	1	癥痕	5
漏斗胸	10		
臍ヘルニア	21(10)	限局性皮膚筋炎	1
白線ヘルニア	1		
尿膜管遺残	3		
腋臭症	1		

整形外科

【手術件数】103 件

関節鏡	
膝	0
足	0
関節造影	
肩関節	0
肘関節	0
股関節	5
膝関節	6
足関節	7
自己血採血	2
骨生検	0
筋性斜頚	3
先天性股関節脱臼	
徒手整復	1
観血整復	1
Salter 手術	0
減捻内反骨切術	1
ペルテス病	
内反骨切り	1
Salter 手術	1
大腿骨頭辷り症	1
骨折観血的整復固定術	4
偽関節手術	1
矯正骨切り術	2
創外固定器使用手術	1*
骨延長術	
大腿骨	1
脛骨	1
成長軟骨抑制術	
大腿骨遠位	9
脛骨近位	10

骨、軟部腫瘍	
摘出術	0
先天性ばね指	
腱鞘切開	6
骨関節感染症	
化膿性股関節炎掻爬術（股）	2
骨掻爬術	1
断端形成術	0
デブリードマン	1
先天性内反足	
後内方解離	3
エバンス	1
三関節固定術	0
二関節固定術	2
脳性麻痺	
股関節観血授動術	0
膝関節観血授動術	1
足関節観血授動術	3
二分脊椎	
後方解離	0
後内方解離	1
エバンス	0
組み合わせ	0
三関節固定術	0
減張切開術	1
多指症	2
腱延長術	1
骨部分切除	2
抜釘術	33
創外固定器除去手術	4
計　　造影検査（18 件）を除く	103

＊同時処置として重複を示す

③第三病棟

血液腫瘍科

「業務編　3. 第三病棟　(3) 血液腫瘍科」内、業務内容参照。

④新生児未熟児病棟

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総　　数
500g 未満	2	0	2
500～ 999g	23	5	28
1,000～1,499g	15	2	17
1,500～1,999g	38	2	40
2,000～2,499g	39	13	52
2,500g 以上	51	51	102
計	168	73	241

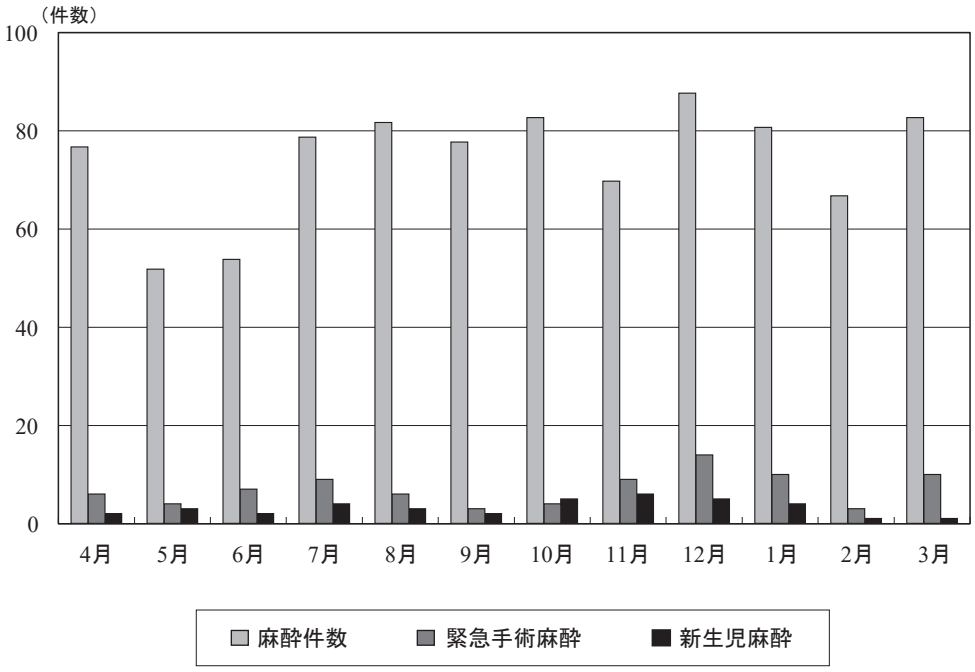
◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総　　数
22 週	2	0	2
23 週	4	0	4
24 週	7	1	8
25 週	6	2	8
26 週	4	1	5
27 週	3	0	3
28 週	0	0	0
29 週	3	2	5
30 週	11	0	11
31 週	5	0	5
32 週	8	0	8
33 週	6	1	7
34 週	17	1	18
35 週	13	3	16
36 週	10	4	14
37 週	24	19	43
38 週	19	5	24
39 週	13	18	31
40 週	9	13	22
41 週	4	3	7
42 週	0	0	0
不明	0	0	0
計	168	73	241

⑼ 麻　酔

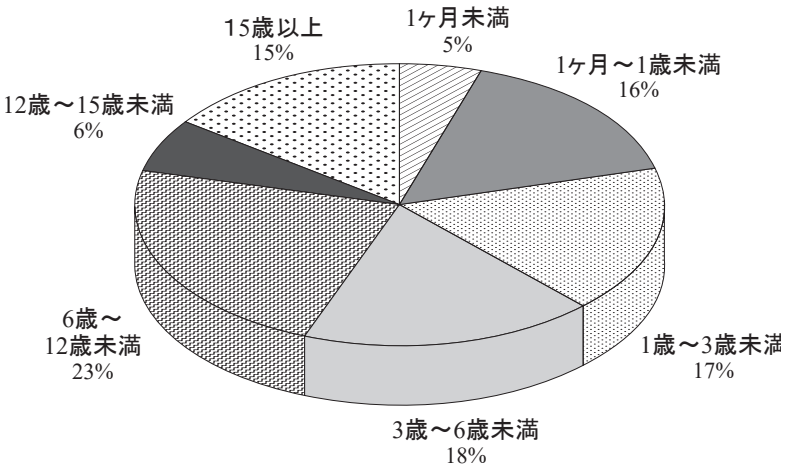
① 2020 年度　月別麻酔件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
麻酔件数	77	52	54	79	82	78	83	70	88	81	67	83
緊急手術麻酔	6	4	7	9	6	3	4	9	14	10	3	10
新生児麻酔	2	3	2	4	3	2	5	6	5	4	1	1



② 2020 年度　年齢階層別状況

1ヶ月未満	40
1ヶ月～1 歳未満	141
1 歳～3 歳未満	155
3 歳～6 歳未満	164
6 歳～12 歳未満	208
12 歳～15 歳未満	50
15 歳以上	136



⑽ 放 射 線

①依頼科別件数

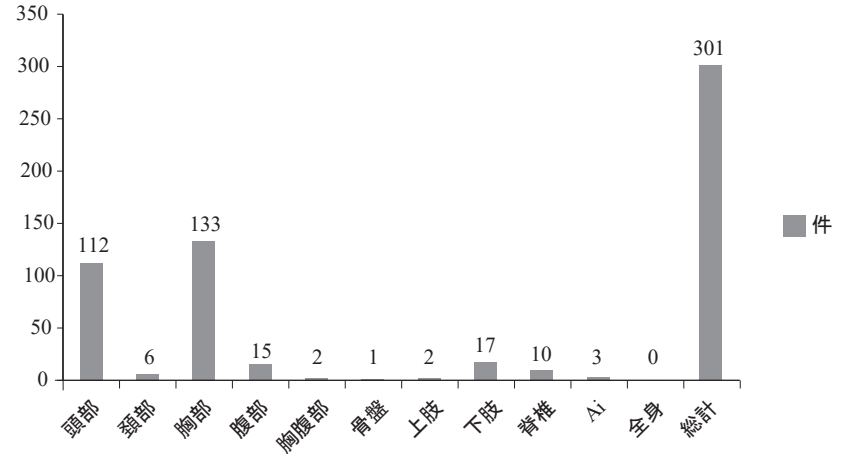
検査 / 依頼科	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル	フィルムコピー	総計(件)
アレルギー科	9	54	8	10	68	1	280	157	43	630
リハビリ科							51			51
遺伝科	1	8			4		18		27	58
一般内科	7	26		2	51		202	19	33	340
外科	24	136	69	251	1,067		895	629	274	3,345
形成外科	53	48	36		109		725	38	49	1,058
血液腫瘍科	11	122	8	2	99		146	69	52	509
産科	2	55					98	144	22	321
歯科	43	1		4	1		320	16	12	397
耳鼻科	2								4	6
循環器内科	90	151	80	26	35	990	3,258	4,576	328	9,534
心臓血管外科							11	418		429
新生児科	9	184	8	61	191	6	163	2,751	116	3,489
神経内科	23	149	4	24	37		176	229	421	1,063
腎臓内科		6			75		4		4	89
整形外科	26	98	4	10	70		11,412	437	168	12,225
正常新生児科		6			11		2	6		25
内分泌代謝科		6			12		25		5	48
脳外科	1	1							2	4
放射線科					5					5
総計	301	1,051	217	390	1,835	997	17,786	9,489	1,560	33,626

②月別件数

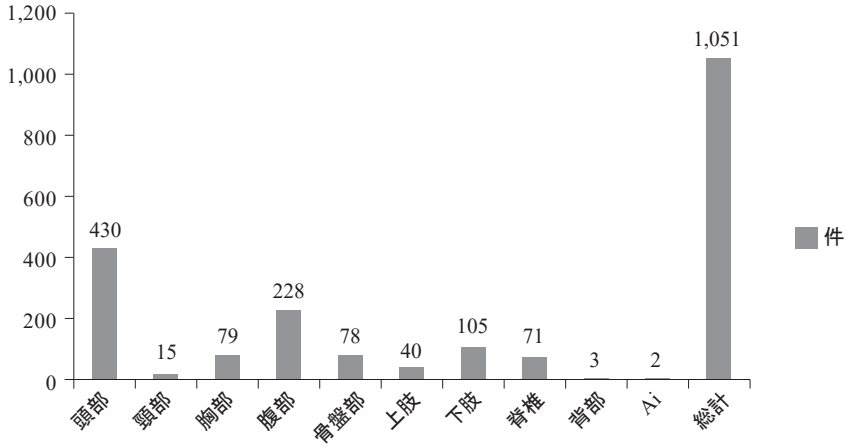
検査 / 検査月	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル	フィルムコピー	総計(件)
4月	25	88	20	34	118	67	1,210	791	79	2,432
5月	21	55	4	22	117	81	1,219	714	76	2,309
6月	30	77	41	38	155	52	1,186	803	100	2,482
7月	19	81	8	24	151	86	1,552	819	101	2,841
8月	20	99	24	30	163	119	1,812	791	127	3,185
9月	34	112	20	31	178	87	1,655	755	183	3,055
10月	25	93	8	34	157	99	1,547	760	129	2,852
11月	25	86	24	38	148	80	1,344	769	118	2,632
12月	28	87	12	38	157	105	1,354	782	147	2,710
1月	26	100	20	34	142	80	1,419	852	146	2,819
2月	20	78	20	36	136	58	1,366	810	137	2,661
3月	28	95	16	31	213	83	2,122	843	217	3,648
総計	301	1,051	217	390	1,835	997	17,786	9,489	1,560	33,626

③検査種別件数

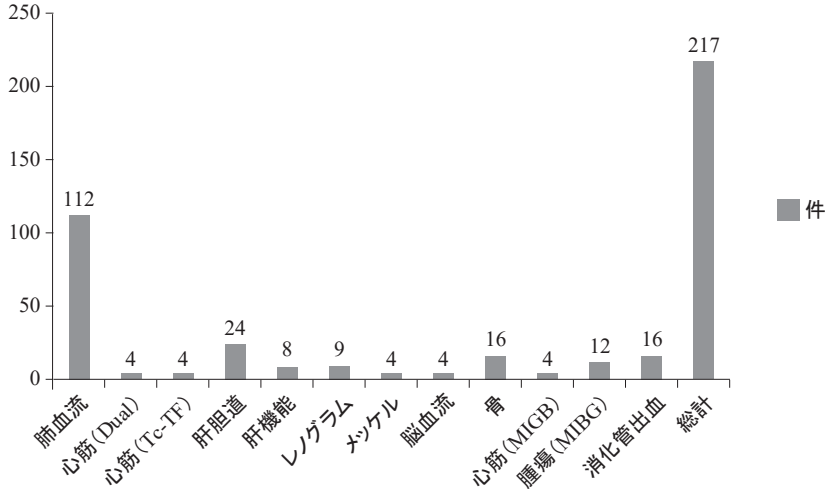
ア CT



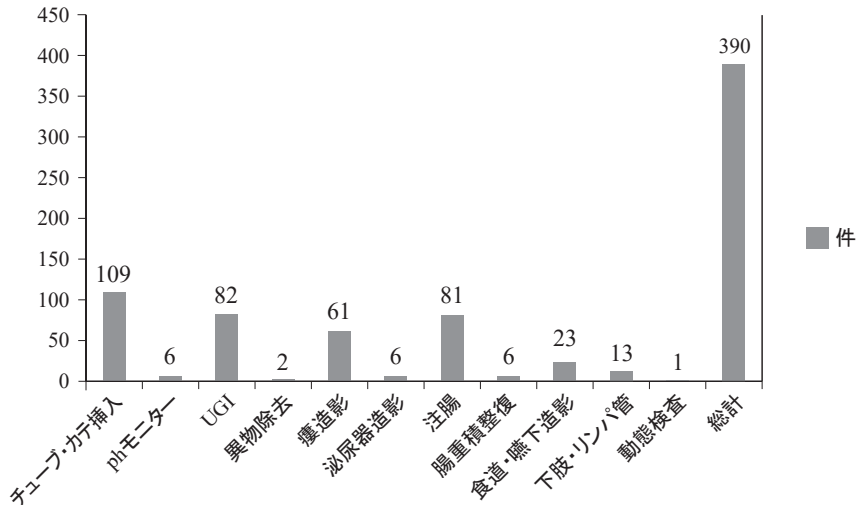
イ MRI



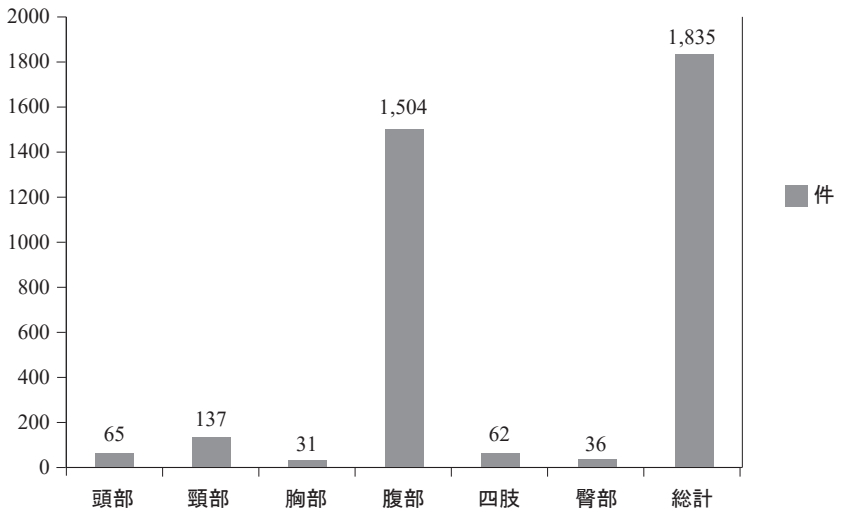
ウ RI



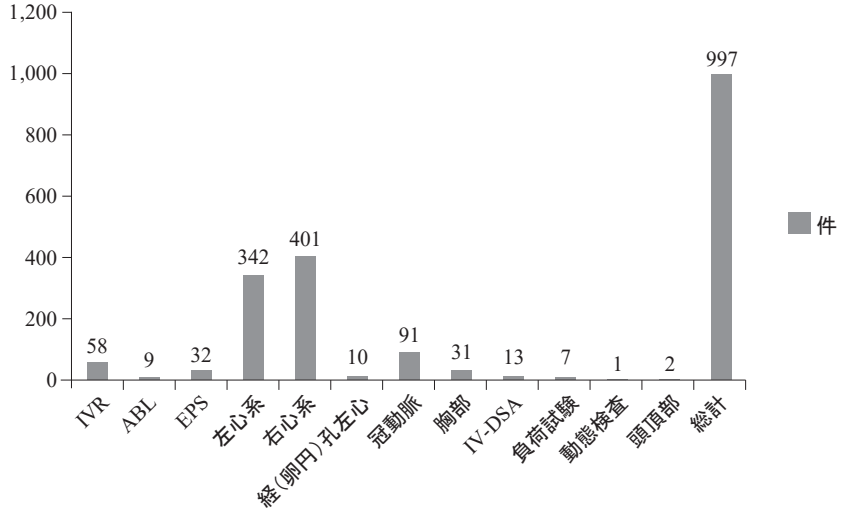
エ X-TV



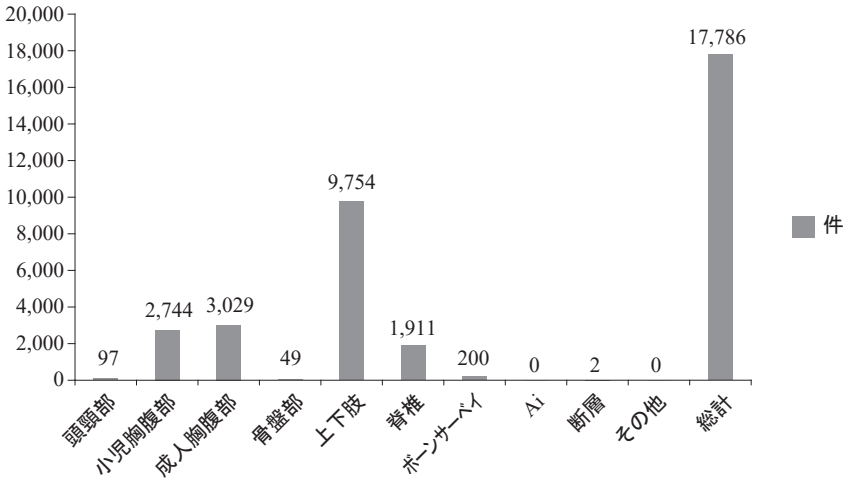
オ US



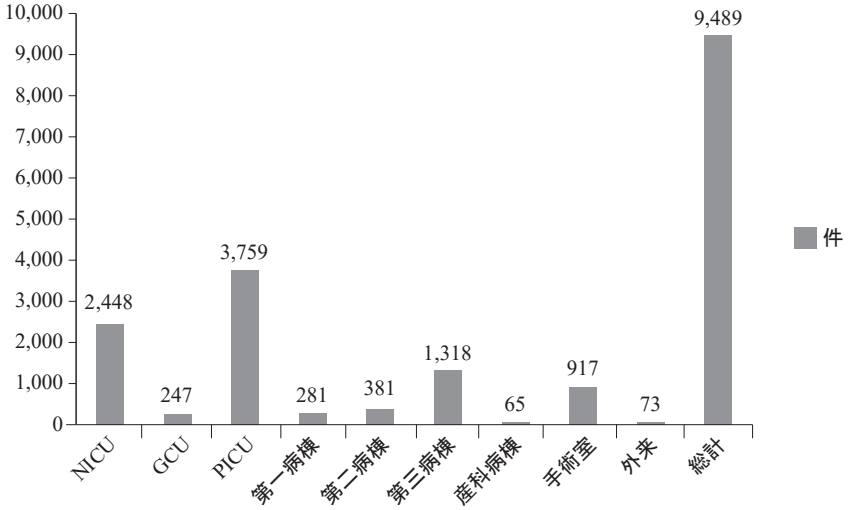
カ 心臓カテーテル



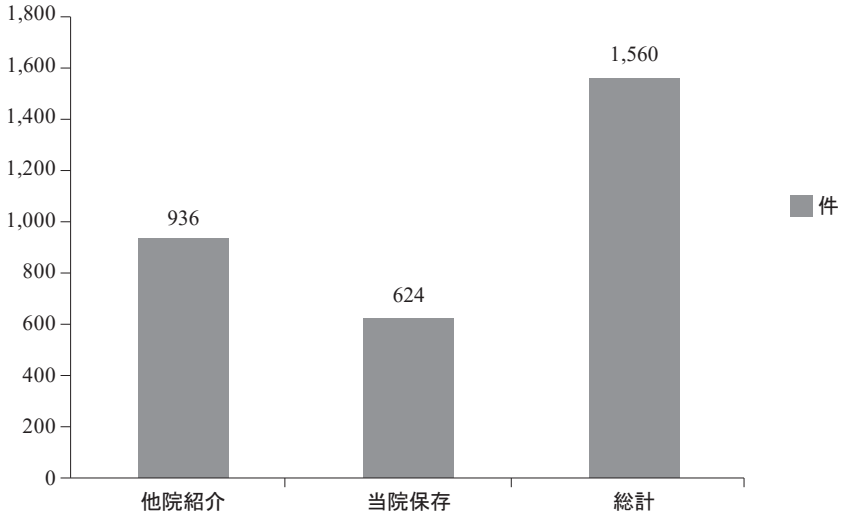
キ　一般撮影



ク　ポータブル撮影



ケ　画像データコピー



⑾ 臨床検査

①検査の状況

区　分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
生 化 学	23,654	22,756	25,117	26,202	25,988	22,306	24,478	24,292	25,740
血　　液	4,961	4,799	5,443	5,321	5,146	4,930	5,410	5,121	5,489
免疫血清	2,524	2,294	2,560	2,651	2,871	2,512	2,628	2,539	2,680
一　　般	1,106	898	1,094	1,169	1,232	1,084	959	1,010	1,055
生　　理	953	830	861	1,037	1,228	1,166	1,201	1,011	1,114
細　　菌	916	952	1,000	1,113	1,082	1,383	1,245	1,307	1,305
病　　理	173	217	159	227	97	97	190	237	247
輸　　血	325	247	331	289	290	284	311	270	336
薬物(再掲)	83	87	94	90	96	59	75	64	64
ｱﾚﾙｷﾞｰ(再掲)	341	282	429	548	340	267	452	297	274
特殊検査(再掲)	18	4	10	16	10	14	13	8	12
外部委託	747	626	787	755	1,028	643	710	624	643
総合計(再掲除く)	35,359	33,619	37,352	38,764	38,962	34,405	37,132	36,411	38,609

②血液製剤取り扱い状況

区　分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
赤 血 球 液	1 単位	5	5	1	5	10	4
	2 単位	53	57	69	41	36	52
洗浄赤血球液	1 単位	0	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0	0
小　　計		58	62	70	46	46	56
新鮮凍結血漿	120	0	0	4	0	2	4
	240	34	41	49	97	25	49
	480	0	0	0	0	0	0
小　　計		34	41	53	97	27	53
血小板濃厚液	2 単位	0	0	0	0	0	0
	5 単位	0	0	0	0	0	0
	10 単位	18	17	14	14	7	25
	15 単位	0	0	0	0	0	0
	20 単位	0	0	0	0	0	0
濃厚血小板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0	0
洗浄血小板	10 単位	0	0	0	0	0	0
洗浄血小板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0	0
小　　計		18	17	14	14	7	25
合　成　血		0	0	0	0	0	0
自　己　血		0	0	0	1	1	0
顆粒球輸血		0	0	0	0	0	0
合　　計		110	120	137	158	81	134

③分割取り扱い状況

区　分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
赤血球液	1 単位	12	11	3	13	24	6
	2 単位	39	22	45	15	26	23
小　　計		51	33	48	28	50	29
血小板濃厚液	5 単位	0	0	0	0	0	0
	10 単位	4	11	4	2	4	22
	15 単位	0	0	0	0	0	0
	20 単位	0	0	0	0	0	0
小　　計		4	11	4	2	4	22
合　　計		55	44	52	30	54	51

④幹細胞保存

区　分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
幹細胞保存	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（単位：件、%）

1 月	2 月	3 月	合計	前年度	前年度比
25,698	23,077	29,131	298,439	298,887	99.9
5,640	5,451	6,414	64,125	68,374	93.8
2,710	2,338	2,983	31,290	34,652	90.3
1,101	1,057	1,478	13,243	13,086	101.2
974	804	1,173	12,366	12,962	95.4
1,542	1,353	1,442	14,792	13,394	110.4
162	169	149	2,124	2,608	81.4
324	309	287	3,603	4,003	90.0
91	89	84	976	982	99.4
511	341	469	4,551	3,497	130.1
12	22	16	155	125	124.0
744	688	850	8,845	9,004	98.2
38,895	35,246	43,907	454,509	456,970	99.5

（単位：件、%）

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	前年度	対前年度比
3	5	13	13	9	6	79	70	112.9
54	23	40	40	49	35	549	773	71.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	
57	28	53	53	58	41	628	843	74.5
5	0	9	20	17	60	121	64	189.1
58	24	58	84	53	61	633	624	101.4
0	0	0	0	0	0	0	0	
63	24	67	104	70	121	754	688	109.6
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	2	0	0	0	2	4	50.0
19	11	36	56	63	56	336	428	78.5
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	4	0.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	4	0	0	0	4	21	19.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
19	11	42	56	63	56	342	457	74.8
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	1	0	1	1	5	12	41.7
0	0	0	0	0	0	0	0	
139	63	163	213	192	219	1,729	2,000	86.5

（単位：bag 数、%）

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	前年度	対前年度比
6	12	37	36	24	15	199	118	168.6
41	30	37	61	87	69	495	519	95.4
47	42	74	97	111	84	694	637	160.9
0	0	4	0	0	0	4	2	
12	9	28	44	46	75	261	270	96.7
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	2	
12	9	32	44	46	75	265	274	96.7
59	51	106	141	157	159	959	911	105.3

（単位：件）

1 月	2 月	3 月	合計
0	0	0	0

⑿ 薬　剤

① 調剤等の状況

ア　処方箋の枚数等

区　　分		単　位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外　　来		枚　数	120	107	111	108	92	101
		件　数	195	176	184	188	153	157
		剤　数	1,332	1,473	1,152	1,674	1,103	1,133
入　　院		枚　数	1,103	952	1,086	1,139	1,232	1,128
		件　数	2,809	2,120	2,599	2,639	2,883	2,847
		剤　数	17,499	11,357	13,836	13,604	15,166	16,663
	麻薬（内数）	枚　数	36	27	30	48	30	42
		件　数	36	27	30	48	30	42
		剤　数	67	83	121	73	30	42
合　　計		枚　数	1,223	1,059	1,197	1,247	1,324	1,229
		件　数	3,004	2,296	2,783	2,827	3,036	3,004
		剤　数	18,831	12,830	14,988	15,278	16,269	17,796
院外処方箋		枚　数	1,196	972	1,087	1,154	1,122	1,133
		発行率（%）	90.9	90.1	90.7	91.4	92.4	91.8

イ　調剤件数内訳

区　　分	錠　剤	散　剤	水　剤	外　用	注射薬	計
外　　来	624	369	55	941	193	2,182
入　　院	7,218	15,215	3,683	5,787	167	32,070
割　合（%）	22.9%	45.5%	10.9%	19.6%	1.1%	34,252

② 注射剤の状況

ア　注射箋等の枚数等

区　　分		単　位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
個人セット		枚数	1,776	1,626	1,867	1,824	1,593	1,857
		本数	19,485	15,977	20,313	20,538	16,141	18,275
	HIS（内数）	枚数	1,586	1,498	1,655	1,653	1,389	1,681
		本数	16,483	13,911	16,795	16,712	12,416	14,921
	PICU（内数）	枚数	190	128	212	171	204	176
		本数	3,002	2,066	3,518	3,826	3,725	3,354
血液製剤（外用剤を含む）		枚数	99	138	142	139	91	77
		本数	148	197	239	169	158	159
	外用剤（内数）	（枚数）	2	4	6	4	2	2
		（本数）	6	10	14	14	7	6
麻　　薬		枚数	192	177	168	211	166	146
		本数	645	631	586	980	424	385
毒　　薬		枚数	97	91	108	154	124	107
		本数	173	274	262	512	253	249
輸液（高カロリー）		本数	150	149	179	226	139	159
薬品請求伝票		枚数	269	234	274	301	268	254
		本数	2,267	2,136	2,013	2,371	2,405	2,277
ビドマー		本数	6,339	6,122	5,952	7,273	6,658	6,015
合　　計		枚数	2,433	2,266	2,559	2,629	2,242	2,441
		本数	29,207	25,486	29,544	32,069	26,178	27,519

（※）IVH- 枚数：1 日 1 枚として集計。

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
117	101	113	108	122	151	1,351
193	172	186	160	176	242	2,182
1,741	764	1,334	1,031	1,276	1,728	15,741
1,176	1,139	1,205	1,101	1,081	1,322	13,664
2,839	2,654	2,674	2,437	2,421	3,148	32,070
15,791	13,836	15,768	12,358	14,319	17,580	177,777
41	24	35	35	23	34	405
41	24	35	35	23	34	405
45	24	35	35	23	34	612
1,293	1,240	1,318	1,209	1,203	1,473	15,015
3,032	2,826	2,860	2,597	2,597	3,390	34,252
17,532	14,600	17,102	13,389	15,595	19,308	193,518
1,270	1,129	1,246	1,172	1,092	1,426	13,999
91.6	91.8	91.7	91.6	90.0	90.4	91.2

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,989	1,940	1,920	1,778	1,976	2,059	22,205
19,791	19,563	19,572	19,901	20,756	22,512	232,824
1,820	1,778	1,705	1,564	1,781	1,876	19,986
16,385	15,004	14,937	14,217	15,442	17,729	184,952
169	162	215	214	195	183	2,219
3,406	4,559	4,635	5,684	5,314	4,783	47,872
132	98	150	220	187	168	1,641
176	145	178	294	223	215	2,301
3	2	6	3	3	2	39
13	4	6	4	12	2	98
206	189	185	217	242	248	2,347
1,092	788	662	833	1,131	1,085	9,242
148	115	120	123	118	137	1,442
539	374	332	444	477	364	4,253
244	158	132	147	177	188	2,048
300	287	315	333	294	328	3,457
2,772	2,893	2,999	3,074	2,569	9,379	37,155
6,733	6,656	7,293	8,031	7,177	7,881	82,130
2,775	2,629	2,690	2,671	2,817	2,940	31,092
31,347	30,577	31,168	32,724	32,510	41,624	369,953

イ 抗がん薬調製数

区　　分	単　位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
抗がん薬調製数	本数	62	41	61	34	39	67

③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況

区　　分	単　位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
薬品請求伝票	枚　数	119	105	127	123	114	115
	本　数	1,178	1,513	1,641	1,416	1,677	1,257
ビドマー支給	本　数	1,166	1,156	940	795	601	928
合　　計	枚　数	119	105	127	123	114	115
	本　数	2,344	2,669	2,581	2,211	2,278	2,185

④薬剤情報件数等

区　　分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
薬剤情報提供件数		18	16	14	18	20	16
服薬指導件数(退院時)		16	17	17	23	20	27
薬剤管理指導(保険請求分)		17	19	16	19	25	13
薬剤管理指導(退院時加算分)		1	1	2	3	6	1
DI情報		11	11	24	14	18	20
薬剤鑑別	患者数	6	2	4	4	10	7
	延べ剤数	29	11	12	27	40	8
医薬品安全性情報報告件数		0	0	0	0	0	1
TDM件数		15	19	20	9	33	9

⑤製剤等の状況（種類別、製剤件数及び量）

区　　分	単　位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
散　　剤	件　数	69	54	69	77	84	48
内用液剤	件　数	16	9	9	13	12	9
軟　　膏	件　数	5	3	2	3	3	3
坐　　剤	件　数	0	0	1	0	1	0
	数量(本)	0	0	88	0	74	0
外用液剤	件　数	1	1	0	0	0	0
外用液剤(無菌調製)	件　数	13	17	12	13	11	13
注射剤(無菌調製)	件　数	34	29	39	22	24	47
合　　計	件　数	138	113	132	128	135	120

＜主な製剤内訳＞

液剤（内用）	ミダゾラムシロップ	0.95 L
	検査用トリクロールシロップ	122 本
散剤（内服）	HMS-1	625 件
	トロミ剤	43 件
軟　　膏	30%カラヤ入り亜鉛華単軟膏	25.0 Kg
坐　　剤	ワコビタール坐剤 10mg	252 個
無菌製剤	フラッシュ用生食 (5mL)	505 本
	エタノールロック注 (1mL)	253 本
	MK注腸液 (2.6mL)	340 本

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
86	79	60	114	91	76	810

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
122	119	139	123	103	127	1,436
1,610	1,171	1,330	853	955	1,287	15,888
909	804	709	591	664	779	10,042
122	119	139	123	103	127	1,436
2,519	1,975	2,039	1,444	1,619	2,066	25,930

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
18	37	31	26	25	36	275
20	21	15	9	9	14	208
23	21	14	18	12	18	215
1	1	1	1	3	2	23
21	7	22	16	18	21	203
5	6	8	5	5	3	65
23	27	19	23	6	6	231
0	0	0	1	1	0	3
8	11	17	23	18	5	187

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
56	38	50	45	49	29	668
14	14	6	13	6	14	135
3	6	2	2	5	4	41
1	0	0	0	0	0	3
90	0	0	0	0	0	252
0	1	1	0	0	1	5
17	14	21	20	21	22	194
62	66	47	73	61	48	552
153	139	127	153	142	118	1,598

⑥薬効別薬品購入額

（単位：円・%）

薬効分類	令和元年度	2年度	構成比率
中枢神経系用薬	123,452,859	109,070,983	20.19%
末梢神経系用薬	5,865,450	5,211,349	0.96%
感覚器官用薬	330,214	2,853,773	0.53%
循環器官用薬	27,061,802	20,195,018	3.74%
呼吸器官用薬	10,736,109	5,352,518	0.99%
消化器官用薬	4,458,160	2,682,159	0.50%
ホルモン剤	67,458,412	60,299,635	11.16%
泌尿生殖器官及び肛門用薬	991,012	256,954	0.05%
外皮用薬	1,300,304	1,346,922	0.25%
ビタミン剤	766,272	756,708	0.14%
滋養強壮剤	12,322,274	10,842,984	2.01%
血液及び体液用剤	18,123,153	14,894,447	2.76%
その他の代謝性医薬品	60,349,790	67,983,271	12.58%
腫瘍用剤	9,990,517	7,833,234	1.45%
アレルギー用薬	1,600,188	360,514	0.07%
抗生物質製剤	16,352,911	12,387,274	2.29%
化学療法剤	201,979,742	142,543,582	26.39%
生物学的製剤	65,788,877	59,314,092	10.98%
調剤用薬	5,335,170	4,976,599	0.92%
診断用薬	2,054,843	1,564,646	0.29%
麻薬	3,260,546	2,768,923	0.51%
その他	2,029,205	6,719,948	1.24%
計	641,607,806	540,215,533	100.00%

⑬ リハビリテーション

①診療点数

区　　分	理学療法	作業療法	言語療法	合　　計
入　　院	1,358,017	330,650	30,435	1,719,102
外　　来	949,656	678,155	590,025	2,217,836
合　　計	2,307,673	1,008,805	620,460	3,936,938

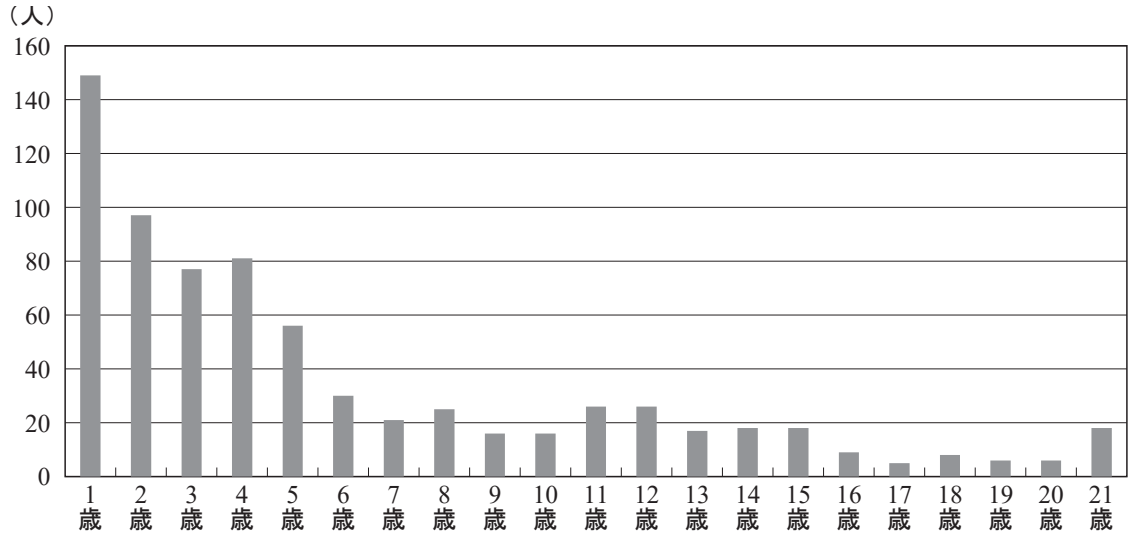
②延べ治療件数

区　　分	理学療法	作業療法	言語療法	合　　計
入　　院	3,462	939	98	4,499
外　　来	2,304	1,679	1,277	5,260
合　　計	5,766	2,618	1,375	9,759

③延べ単位数

区　　分	理学療法	作業療法	言語療法	合　　計
入　　院	5,915	1,515	105	7,535
外　　来	4,496	3,172	2,760	10,428
合　　計	10,411	4,687	2,865	17,963

④年齢別患者実数



⑤リハビリテーション算定区分別実績

理学療法

	入　　院		外　　来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	1,699	314,315	110	20,350
早期リハ加算 (運動Ⅰ)	695	20,850	0	0
初期加算 (運動Ⅰ)	310	13,950	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	517	90,475	39	6,825
早期リハ加算 (呼吸Ⅰ)	440	13,200	0	0
初期加算 (呼吸Ⅰ)	357	16,065	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	1,824	373,920	65	13,325
早期リハ加算 (心リⅠ)	1,111	33,330	0	0
初期加算 (心大Ⅰ)	683	30,735	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	42	8,400	10	2,000
早期リハ加算 (脳血Ⅱ)	31	930	0	0
初期加算 (脳血Ⅱ)	14	630	0	0
がん患者リハビリテーション料	348	71,340	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	27	3,942	16	2,336
早期リハ加算 (廃用リハⅡ)	25	750	0	0
初期加算 (廃用リハⅡ)	13	585	0	0
障害者リハビリ (6 歳未満)	997	224,325	2,678	602,550
障害者リハビリ (6 歳～18 歳)	273	53,235	1,442	281,190
障害者リハビリ (18 歳以上)	188	29,140	136	21,080
退院時リハビリ指導	79 件	23,700		
リハ総合計画評価 (医療)	114 件	34,200	0	0
合　　計	5,915	1,358,017	4,496	949,656

作業療法

	入　　院		外　　来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	50	9,250	36	6,660
早期リハ加算 (運動Ⅰ)	19	570	0	0
初期加算 (運動Ⅰ)	11	495	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	184	31,280	0	0
早期リハ加算 (呼吸Ⅰ)	88	3,960	0	0
初期加算 (呼吸Ⅰ)	144	6,480	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	73	14,965	0	0
早期リハ加算 (心リⅠ)	0	0	0	0
初期加算 (心大Ⅰ)	0	0	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	54	10,800	5	1,000
早期リハ加算 (脳血Ⅱ)	51	1,530	0	0
初期加算 (脳血Ⅱ)	23	1,035	0	0
がん患者リハビリテーション料	76	15,580	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	60	8,760	0	0
早期リハ加算 (廃用リハⅡ)	51	1,530	0	0
初期加算 (廃用リハⅡ)	29	1,305	0	0
障害者リハビリ (6 歳未満)	624	140,400	1,991	447,975
障害者リハビリ (6 歳～18 歳)	301	58,695	1,138	221,910
障害者リハビリ (18 歳以上)	93	14,415	2	310
退院時リハビリ指導	16 件	4,800		
リハ総合計画評価 (医療)	16 件	4,800	0	300
合　　計	1,214	330,650	2,034	678,155

言語療法

	入院		外来	
	単位数	診療点数	単位数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ				
早期リハ加算 (運動Ⅰ)				
初期加算 (運動Ⅰ)				
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ				
早期リハ加算 (呼吸Ⅰ)				
初期加算 (呼吸Ⅰ)				
心大血管疾患リハビリテーションⅠ				
早期リハ加算 (心リⅠ)				
初期加算 (心大Ⅰ)				
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	23	4,600	32	6,400
早期リハ加算 (脳血Ⅱ)	23	690	0	0
初期加算 (脳血Ⅱ)	10	450	0	0
がん患者リハビリテーション料				
廃用症候群リハビリテーションⅡ				
早期リハ加算 (廃用リハⅡ)				
初期加算 (廃用リハⅡ)				
障害者リハビリ (6 歳未満)	69	15,525	1,706	383,850
障害者リハビリ (6 歳～18 歳)	13	2,535	1,011	197,145
障害者リハビリ (18 歳以上)	0	0	11	1,705
摂食機能療法 (3ヶ月以内)	31	5,735	5 件	925
摂食機能療法 (3ヶ月以上)	0	0	0	0
退院時リハビリ指導	3 件	900		
リハ総合計画評価 (医療)	0	0	0	0
合計	105	30,435	2,760	590,025

⑭ 栄　養

①一般食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	比率(%)
幼児食	1	350	283	167	271	192	304	332	137	243	406	346	250	3,281	9.4
	2	373	281	207	230	202	374	500	457	362	270	299	448	4,003	11.5
学童食	1	50	80	115	236	194	78	100	176	226	101	184	289	1,829	5.2
	2	220	160	207	237	181	255	170	188	89	91	137	298	2,233	6.4
	3	204	244	238	52	305	365	411	387	378	304	368	446	3,702	10.6
	4	192	191	182	281	253	96	107	329	478	258	115	154	2,636	7.6
妊産婦食		1,066	1,090	693	1,058	642	941	720	845	973	877	913	895	10,713	30.7
全粥食		181	192	241	420	433	443	402	355	286	257	371	489	4,070	11.7
七分粥食		14	22	9	29	3	11	3	9	5		32	8	145	0.4
五分粥食		23	16	26	39	25	15	13	21	15	8	12	12	225	0.6
三分粥食		16	4		30	6	12	3	8	4	3			86	0.2
流動食		27	8	115	52	23	16	25	32	28	12	25	21	384	1.1
心カテ食		16	21	11	27	34	12	13	21	20	14	11	21	221	0.6
術前食								1			1			2	0.0
DAY食		8	1	0	5	8	6	11	5	10	8	7	9	78	0.2
歯科DAY食		31	23	32	32	31	33	35	29	31	27	28	35	367	1.1
食物負荷DAY食		10	13	13	18	16	28	20	18	19	29	18	20	222	0.6
遅延食		50	32	38	54	66	66	70	72	74	63	54	77	716	2.1
計		2,831	2,661	2,294	3,071	2,614	3,055	2,936	3,089	3,241	2,729	2,920	3,472	34,913	100.0

（注）幼児食 1（1歳～2歳）　学童食 2（8歳～9歳）
幼児食 2（3歳～5歳）　学童食 3（10歳～11歳）
学童食 1（6歳～7歳）　学童食 4（12歳以上）

②離乳食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	比率(%)
離乳食	初期	174	108	33	42	65	6	80	87	55	226	211	133	1,220	20.4
	中期	112	11	65	27	31	26	32	83	6	19	67	232	711	11.9
	後期	134	107	36	18	64	54	238	148	189	127	173	109	1,397	23.4
	完了期	226	392	242	198	128	90	60	177	268	311	279	272	2,643	44.3
計		646	618	376	285	288	176	410	495	518	683	730	746	5,971	100.0

③特別食の種類と食数

食種	区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	比率(%)
糖尿病食	幼　児													0	0.0
	学　童	88	125	16	14	93	49	55	90	59	66	10		665	42.5
	妊産婦	4	2		19	32	81	33	17	16	39	96	79	418	26.7
高脂血症食	幼　児													0	0.0
	学　童			39	38			3	80					160	10.2
膵炎食	幼　児													0	0.0
	学　童	12	10	6	22									50	3.2
潰瘍食	幼　児													0	0.0
	学　童			20	5	11					3	11	23	73	4.7
貧血食	幼　児								1	69				70	4.5
	学　童													0	0.0
	妊産婦		21										69	90	5.7
低残渣食	幼　児									5	15			20	1.3
	学　童								19		1			20	1.3
計		104	158	81	98	136	130	91	207	149	124	117	171	1,566	100.0

④調乳の種類及び人数・本数

＜ミルク＞

種　類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
普通ミルク	人数	705	805	646	606	624	619	747	598	624	626	703	717	8,020
	本数	4,732	5,287	4,392	3,967	4,035	4,022	4,724	3,978	4,089	3,782	4,012	4,236	51,256
LBW	人数	140	197	218	238	209	178	260	215	292	304	220	281	2,752
	本数	1,456	1,770	1,817	2,142	1,978	1,580	2,072	1,778	2,598	2,722	1,714	2,344	23,971
ニューMA－1	人数	1	18	24	32	48	37	32	48	34	41	23	32	370
	本数	2	144	184	256	373	276	192	312	207	303	113	163	2,525
MCT	人数	67	35	16	45	61	55	31		10	3	15	18	356
	本数	500	255	121	360	488	410	234		76	18	110	144	2,716
エレメンタルフォーミュラ	人数	37	25	11	2	2	1	1	12	31	44	42	31	239
	本数	201	147	102	12	10	3	12	96	248	352	352	248	1,783
中たんぱく低ナトリウムフォーミュラ	人数	15		13										28
	本数	120		104										224
S－22	人数							15						15
	本数							54						54
S－23	人数											28	11	39
	本数											170	66	236
ケトンフォーミュラー	人数												2	2
	本数												12	12
ARミルク	人数	37	49	18		22	12	11	9	37	54	23	34	306
	本数	207	276	132		69	86	77	70	233	351	146	181	1,828
計	人数	1,002	1,129	946	923	966	902	1,097	882	1,028	1,072	1,054	1,126	12,127
	本数	7,218	7,879	6,852	6,737	6,953	6,377	7,365	6,234	7,451	7,528	6,617	7,394	84,605

⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数

＜濃厚流動食・成分栄養剤＞

種　類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
エンシュア	人数	27	27	25	9	36	33	26	47	35	17	4	16	302
	本数	156	183	114	40	151	224	120	235	102	91	20	51	1,487
エンシュアH	人数	23				21	30	55	30	42	6	12	7	226
	本数	61				98	180	228	86	131	12	24	14	834
エネーボ	人数	78	47	54	61	40	12	58	57	44	30	55	82	618
	本数	323	208	203	251	197	44	191	222	265	128	232	451	2,715
ラコール	人数	109	110	70	70	56	52	76	46	31	22	43	38	723
	本数	412	378	269	359	276	276	352	188	142	88	184	200	3,124
ラコール（半固形）	人数	30	31	42	56	66	28	59	65	31	33	18	53	512
	本数	96	64	108	153	161	77	168	171	67	128	56	153	1,402
エレンタールP	人数	155	170	139	222	215	225	215	129	182	168	125	109	2,054
	本数	724	849	892	1,595	1,322	1,316	1,085	629	1,078	1,113	783	832	12,218
エレンタール	人数	97	116	131	108	63	84	73	82	115	70	85	76	1,100
	本数	541	677	660	587	405	320	352	287	419	262	301	249	5,060
イノラス	人数	71	81	93	67	92	48	71	66	10	40	26	34	699
	本数	211	236	387	361	496	272	410	295	51	195	83	233	3,230
CZ-Hi	人数	34	24	21	35	62	83	63	67	64	62	61	73	649
	本数	196	138	87	179	248	332	253	298	318	286	249	298	2,882
ブイクレスCP10	人数					11	9							20
	本数					11	9							20
ブイアクセル	人数	60	44	30	40	31	30	35	66	91	92	83	49	651
	本数	196	148	30	40	31	30	35	202	331	332	168	49	1,592
テゾン	人数	97	82	66	72	81	60	48	51	81	80	38	36	792
	本数	157	144	126	134	143	66	48	51	81	80	38	36	1,104
糖水	人数	1	7	12	2		1			1	1	11	10	46
	本数	1	50	96	16		8			1	8	88	74	342
ポカリスエット	人数	63	47	62	34	78	63	46	52	26	28	34	37	570
	本数	178	141	139	93	176	235	135	116	55	85	97	100	1,550
GFO水	人数	51	41	36	48	66	61	77	100	81	40	37	59	697
	本数	196	132	135	138	206	182	345	323	230	76	89	239	2,291
MCTオイル	人数	150	157	172	136	219	184	67	65	56	109	87	106	1,508
	本数	510	436	764	415	606	720	376	425	303	440	383	520	5,898
計	人数	1,046	984	953	960	1,137	1,003	969	923	890	798	719	785	11,167
	本数	3,958	3,784	4,010	4,361	4,527	4,291	4,098	3,528	3,574	3,324	2,795	3,499	45,749

⑥ NST（栄養サポートチーム）

ア NST 介入状況

男女別 NST 介入者

性　別	人数(人)
男	2
女	4
計	6

年齢別

年　齢	人数(人)
1 歳未満	1
1 ～ 2 歳	3
3 ～ 5 歳	0
6 ～ 7 歳	0
8 ～ 9 歳	1
10～11 歳	1
12 歳～	0
計	6

病棟別 NST 介入者

病　棟	人数（人）
第 一 病 棟	1
第 二 病 棟	0
第 三 病 棟	5
N I C U	0
G C U	0
計	6

主症状別 NST 介入者

主 症 状	人数(人)
嘔吐、下痢、消化不良	5
体重減少・増加不良	0
摂食嚥下	1
その他	0
計	6

介入後の経過

経　過	人数(人)
退　院(改　善)	4
退　院(継　続)	0
退　院(その他)	1
入　院(改　善)	0
入　院(継　続)	1
計	6

イ 院内 NST 勉強会実施状況

対　象	実 施 日	内　容	参加人数
R2 年度新採看護師　他	1 月 25 日	小児の栄養、消化機能と特徴	11 名

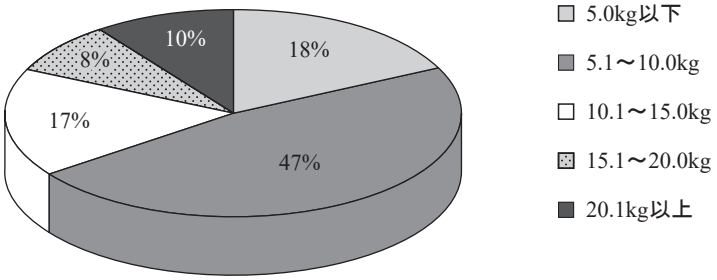
⑮ 臨床工学課

①臨床業務症例数

	体外循環	心臓カテーテル検査	血液浄化療法	補助循環	内視鏡手術	NO吸入療法	ペースメーカチェック	低酸素療法	脳低温療法
4月	7	12			19	4	6		
5月	5	14			1	4	6		2
6月	8	10			1	3	4	1	1
7月	7	13	1	1	10	6	3		
8月	8	17			17	1	4		
9月	9	14			9	0	7	1	
10月	8	17	2	1	11	3	6		
11月	4	12			10		6	1	
12月	4	16	2	1	19	3	7	1	
1月	3	12			15	4	8		
2月	6	9			13	3	7		
3月	3	15			13	2	8		
合計	72	161	5	3	138	33	72	4	3
前年比	91%	83%	42%	100%	112%	106%	101%	133%	60%

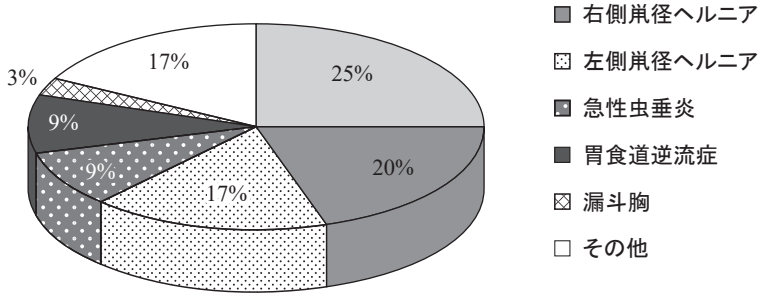
ア 体重別体外循環症例数

体　重	症例数
5.0kg以下	13 (18%)
5.1～10.0kg	34 (47%)
10.1～15.0kg	12 (17%)
15.1～20.0kg	6 (8%)
20.1kg以上	7 (10%)
計	72



イ 疾患別内視鏡手術症例数

疾患	症例数
両側鼠径ヘルニア	35(25%)
右側鼠径ヘルニア	27(20%)
急性虫垂炎	23(17%)
左側鼠径ヘルニア	13(9%)
胃食道逆流症	12(9%)
漏斗胸	4(3%)
その他	24(17%)
計	138



②月別始業点検件数

機　種　名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
麻酔器													
アバンス	21	18	21	21	20	20	22	19	20	19	18	23	242
エスティバ	21	18	22	22	20	20	22	19	19	19	18	23	243
アコマ	1	1	1	1			1	3	3	1	1	4	17
ケアステーション	65	52	66	63	60	58	66	57	61	56	53	68	725
人工呼吸器													
Trilogy	1	1	2	1	4	2	1	4		1		2	19
BiPAP V60	1	1			1	3	4	2	2			1	15
ハミング X	4	9		2	2		2	4	5	3	6	3	40
Avea			2	1	1		1			1			6
ハミング　ビュー	6	3	10	7	4	5	3	6	6	4	7	2	63
ベネット 980	1	1		1	1			1					5
セクリスト IV-100B									1		1		2
ベネット 840	2	2	2	1	1			1		1			10
ハミング V	2							1		4	2		9
N-CPAP sindi	2		1		2							1	6
サイパップ	12	13	21	16	11	12	11	12	12	16	15	11	162
ネーザル ハイフロー	20	19	19	19	16	17	13	14	10	8	10	15	180
シリンジポンプ	291	260	240	193	202	317	279	257	166	177	115	140	2,637
輸液ポンプ	120	116	149	135	131	135	153	149	121	128	114	135	1,586
経腸栄養注入ポンプ	1	3	2	1		1		1	2	1	3	5	20
開放型保育器	9	11	12	11	9	9	15	15	18	11	9	12	141
光線治療器		3	1		1	3	2		4	1	1		16
除細動器 (AED)	17	10	18	13	17	15	15	10	13	17	12	10	167
人工心肺装置	7	5	8	7	8	9	8	4	4	3	6	3	72
補助循環装置				1			1		1				3
血液浄化装置				1			2		2				5
低圧持続吸引器	16	15	25	19	12	15	21	22	9	11	17	10	192
体温調節装置			1							1			2
加温加湿器	3	1	1		1	1		1			1		9
パルスオキシメータ	1												1
搬送用モニター										1			1
合　　計	624	562	624	536	524	642	642	602	479	484	409	468	6,596

③月別人工呼吸器使用中点検件数

機　種　名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
Trilogy	115	71	87	66	108	94	93	112	93	73	48	84	1,044
BiPAP V60	6				5	12	20	19	21			4	87
ハミング X	3	7				2		10	25	35	17	12	111
Avea				9	27	16	17	5	8	8			90
BiPAP A40	5	3	10			3	2	3					26
ASTRAL	63	49	54	50	55	44	51	48	47	54	39	45	599
ハミング ビュー	45	60	44	43	24	9	16	36	55	61	56	68	517
Vivo 40							7	6	1	1	1		16
ベネット 980	1	10	3	7	2	1	6	8					38
VOCSN	28	23	4		7	3	6	4				6	81
Vivo 45									1	29	27	27	84
Trilogy Evo												4	4
セクリスト IV-100B									17	17	15	18	67
ベネット 840	46	39	53	63	50	53	65	49	76	103	95	131	823
ハミング V								1		1			2
N-CPAP sindi			11		3								14
ｲﾝﾌｧﾝﾄﾌﾛｰｻｲﾊﾟｯﾌﾟ	52	44	67	54	99	59	43	37	26	73	54	83	691
ネーザル ハイフロー	108	75	113	62	99	50	58	55	43	52	29	108	852
合　　計	472	381	446	354	479	346	384	393	413	507	381	590	5,146

④月別院内修理件数

機　種　名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
シリンジポンプ	2	3	1	1	4	2	2	2	21	11	1	3	53
輸液ポンプ			1	3	3		1	2	4	2	1	4	21
経腸栄養注入ポンプ		1											1
人工呼吸器	1	1		1									3
保育器			1										1
光線治療器		1	2	1	1	2		2				1	10
低圧持続吸引器								1					1
加温加湿器												1	1
パルスオキシメータ					4								4
合　　計	3	6	5	6	12	4	3	7	25	13	2	9	95

⑤月別定期点検件数

機　種　名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器						4						2	6
シリンジポンプ				1					224				225
輸液ポンプ							1		115		1		117
人工呼吸器													
Trilogy							7	11	13	4	14	12	61
BiPAP　V60							2						2
パーカッションベンチレータ						1							1
ハミングX	3												3
BiPAP A40								2	1	1	2	2	8
Babylog 8000plus											1		1
ASTRAL	3	4			3	1	3	2	4		3	4	27
ハミング ビュー									2		1		3
ベネット 840							6						6
N-CPAP sindi												1	1
インファントフロー SiPAP							1	1	1	1	3	2	9
新生児用保育器							9	6	12	3			30
開放型保育器							2			2	1	7	12
搬送用保育器									1		2		3
除細動器				8			8	7		8			31
人工心肺装置				1									1
補助循環装置				2									2
血液浄化装置								2	1				3
ベッドサイドモニター											1		1
セントラルモニター	4									1		3	8
体外式ペースメーカー	2	1					3		1	2	1	1	11
分娩監視装置										3	2	1	6
ハミングXピストン								1	1		1	1	4
その他											1		1
合　　計	12	5		12	3	6	42	32	376	25	34	36	583

⑯ 母子保健室

①精密健康診査

ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況

管轄		前橋	高崎	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
受診者数	R2年	0	29	0	18	0	0	15	14	4	2	1	0	1	84
	R1年	7	16	1	21	0	1	10	8	15	1	0	0	2	82

イ 科別・年齢別受診状況

科名	受診者数	年齢別受診者数					R1年度受診者数
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	
一般小児内科	6	3	1		2		3
神経内科	19	8	7	2	2		21
循環器科	5	2	1		2		4
外科	19	10	5		4		15
整形外科	20	11	5	1	3		25
形成外科	13	9	4				9
歯科	0						1
その他	2				2		4
合計	84	43	23	3	15		82

ウ 3歳児健康診査・精密検診実施状況（再掲）

科名＼結果	実施者数	異常なし	要観察	要治療	R1年度 実施者数
一般小児内科	2		2		3
神経内科	2	2			0
循環器内科	2	2			3
外科	4	1	3		6
形成外科	0				0
整形外科	3	1	2		3
歯科	0				1
その他	2	1		1	4
計	15	7	7	1	20

エ 1歳6か月児健康診査・精密検診実施状況（再掲）

科名＼結果	実施者数	異常なし	要観察	要治療	R1年度 実施者数
一般小児科					0
神経内科	2		2		6
循環器内科					1
外科	2		1	1	3
形成外科	2			2	2
整形外科	5	2	3		3
歯科					0
計	11	2	6	3	15

オ 科別受診状況及びその結果

区分 / 科別疾患名	受診者数	受診結果					R1年度受診者数
		異常なし	要観察	要治療	要訓練(重複あり)	その他(重複あり紹介等)	
一般小児内科総数	6						3
3歳児健診再検尿	2		2				3
体重増加不良・低身長	0						0
その他	4		4				0
神経内科総数	19						21
精神運動発達遅滞	15	3	12		3		19
その他	4	1	3				2
循環器内科総数	5						4
心雑音	5	4		1			4
その他	0						0
外科総数	19						15
ソケイヘルニア	2			2			4
停留・移動精巣	11	3	6	2			8
陰嚢水瘤	2		2				0
その他	4		3	1			3
整形外科総数	20						25
先天性股関節脱臼	8	4	4				14
O脚・X脚	7	3	4				1
その他	5	2	3				10
形成外科総数	13						9
血管腫・母斑	4		2	2			5
蒙古斑	2			2		2	0
耳介異常・副耳	4			4			1
ヘルニア	1			1			3
その他	2		1	1			0
歯科総数	0						1
舌小帯	0						0
その他	0						1
その他	2						4
視力検査異常	2	1		1			3
その他	0						1
総数	84	21	46	17	3	2	82

②子どものこころの発達相談

ア 来院経路及び年齢別実施状況（実人員）

経路	実施者数	年齢別							R1 年度実施者数
		1 歳未満	1 ～ 3	4 ～ 6	7 ～ 9	10 ～ 12	13 ～ 15	16 ～ 18	
センター内	29	0	16	4	6	3	0	0	30
電話相談	0	0	0	0	0	0	0		0
その他	0	0	0	0	0	0	0		0
前年度からの継続	10	0	1	1	4	2	2		18
計	39	0	17	5	10	5	2		48

イ 相談件数及び相談後の対応状況

相談内容	実数（延べ数）	相談後の経過			R1 年度実数（延べ数）
		継続	他機関紹介	終了	
発達の問題	32(65)	2	8	22	35(74)
行動の問題	4(5)		1	3	5(18)
神経性習慣	2(6)			2	5(14)
心身症					2(6)
疾病に伴う母の心理支援	1(1)	1			0(0)
その他					1(1)
合計	39(77)	3	9	27	48(113)

発達の問題 : 広汎性発達障害、自閉症、精神発達遅滞など
行動の問題 : 多動、不登校、いじめ、社会不適応など
心身症 : 心因性腹痛、頭痛、めまい、過呼吸、摂食の問題など
その他 : 育児不安、養育支援、学校・家庭環境の調整等、他

③新生児・未熟児病棟 (A) および他病棟 (B) 入院患児の退院連絡

ア 退院連絡後の状況

令和 2 年度

	退院連絡依頼数	返信数	訪問実施数	電話連絡	その他
A	169	158(93.5%)	154(91.2%)	4 (2.3%)	新型コロナウイルス感染症のため訪問できないケースあり
B	35	31(88.6%)	30(85.7%)	1 (2.9%)	
計	204	189(92.6%)	184(90.2%)	5(2.5%)	

返信数には R2 年度に依頼、R3 年度 (5 月末) までに返信が来たものも含まれる。

イ 体重別退院連絡実施状況

	退院連絡票依頼数	体重別実施状況				R1 年度依頼数
		999 g 以下	1,000 ～ 1,499g	1,500 ～ 1,999g	2,000g 以上	
A	169	21	18	29	101	203
B	35	0	0	3	32	40
計	204	21	18	32	133	243

④関係機関との連携状況

①から③の事業以外の相談・問合せの数

区　分	家族	院内	保福児相以外の県関係	保健福祉事務所	児童相談所	市町村	医療機関	学校・保育所・幼稚園	訪問看護ステーション	施設	その他	計 内訳 （電話／面接）
養育支援	664	150			45	382	3	4	40	6	4	1,209(636/662)
療育支援	30	14			2	14	1	1	1	6	4	73(45/28)
成長発達	89	22			1	16		4		1		133(52/81)
病　　気	1	1			2	1						5(4/1)
受診支援	11	15		2	8	9				1		46(7/19)
予防接種	1				2	2						5(4/1)
医療福祉												
保健医療												
患者家族会	6	1				2						9(3/6)
マス・スクリーニング	6	2	2	1		2	41				18	72(70/2)
遺伝相談												
妊娠・出産相　談	50	54			10	61	3					178(114/64)
研修・調査	0	0										
そ　の　他	4	14	1		15	4	1				2	41(33/8)
計	862	273	3	3	85	493	49	9	41	14	28	1,870 件
電話計	78	197	3	3	77	492	49	9	41	13	26	電話：988
面接計	784	76	0	0	8	1	0	0	0	1	2	面接：872

⑤関係機関との連携会議

検討内容	実　数	延べ数	関係機関及び（　）内は連携をとった延べ数	センター職員
教育機関・地域との調整	8	9	家族 (6)　市町村 (10)　児童相談所 (4) 教育委員会 (3)　小中学校 (0)　支援学校 (0) 高等学校 (0)　訪問看護 (3)　その他 (5)	医師、看護師、MSW 保健師、臨床心理士、保育士

⑥子ども虐待防止対策事業

地域医療連携室と協働して実施している。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症蔓延のため実施していない。地域医療連携室（相談部門）のページ参照してください。

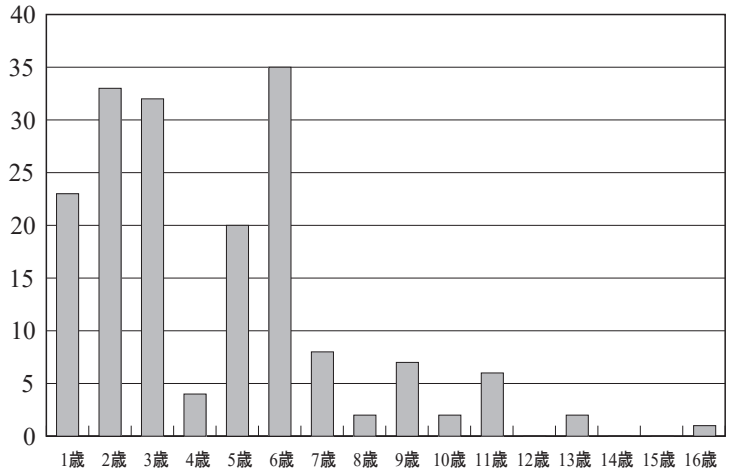
⑦心理判定・心理カウンセリング

＜心理判定＞

ア　心理判定（実施件数及び検査数）

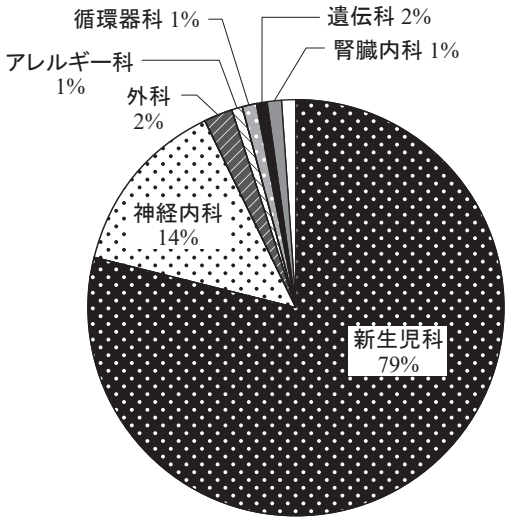
新版 K 式発達検査	92
WISC- Ⅳ知能検査	54
M-CHAT	36
PARS-TR	12
Conners3	1
Vineland-II	1
田中ビネー知能検査 V	1
計	242

イ　アの年齢別被検査者数 (n=175)



※一被験者に複数の検査を実施している場合、イならびにウでは 1 集計としている。

ウ　依頼科 (n=175)



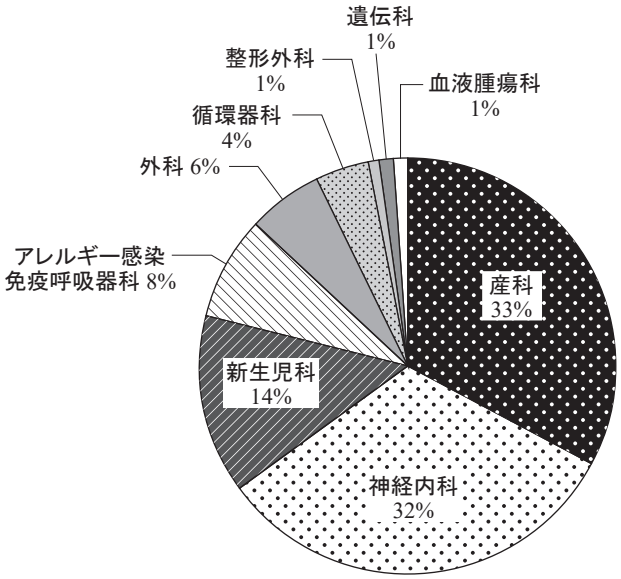
※一被検者に複数の検査を実施している場合、イならびにウでは 1 集計としている。

＜心理カウンセリング＞

ア　心理カウンセリング（実施内容及び件数）

心理カウンセリング内容	対象家族数	対象者数	述べ実施回数
気分障害	1	2	3
ストレスが関連しているもの	3	7	24
身体表現性障害（心身症を含む）と思われるもの	15	37	168
発達に関するもの	5	10	28
行動・情緒の問題	15	35	165
育児に関する悩み	10	20	44
治療に関する悩み	2	3	3
周産期からの心理支援	29	36	88
スタッフへのコンサルテーション・関係者会議出席	5	12	15
計	85	162	538

イ 初回心理カウンセリング実施時受診科 (n=85)



＜精神科コンサルト＞

10 回実施 (実人数 9 人、延人数 18 人)

⑧研修会等

○県主催の保健関係研修会（難病関係・母子保健関係）……企画及び運営に協力

○学生実習等

・群馬大学保健学科、群馬パース大学の学生等を病院実習の一環として講義を行った。 93 人

・群馬大学医学部保健学科にて専門教育科目における授業のゲスト講師を行った。

日程：令和 2 年 11 月 19 日

内容：地域看護学方法論 I 「医療機関における保健師活動」 80 名

・その他 新規看護職員研修、看護職員キャリアアップ研修・群馬大学チームワーク実習等、講義を実施した。

○群馬県医療的ケア児等コーディネーター養成研修実行委員会及び研修講師

⑨学会・研修会参加状況

日　　時	学 会・研 修 会 名	開 催 場 所 等	出 席 者
R2.11.13	全国子ども病院保健師等連絡会	滋賀県立小児保健医療センター (ZOOM 開催)	髙橋
R2.11.20-11.26	日本心理臨床学会	Web 開催	川﨑心理士
R2.12.18	群馬県先天性代謝等検診対策委員会	県庁 (ZOOM 開催)	安達・髙橋
R3.1.30-31 3.6-7	ホログラフィートーク研修会	前橋赤十字病院	川崎心理士
R3.3.16	周産期医療対策協議会	県庁	髙橋
R3.3.18	小児在宅医療連絡協議会	県庁	髙橋
R3.3.22	第 8 回群馬県地域保健研究発表会	県庁 (ZOOM 開催)	髙橋

⑩群馬県先天性代謝異常等検査事業

事務局として患者情報の管理（精密検査対象児及び継続治療児達のフォローアップ）、予防治療及び管理体制の検討を行い、適切な療育環境を整えることを目的に、検査基準値、検査体制、支援体制の見直しを行うために、毎年、先天性代謝異常等検診対策委員会を開催している。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症流行のため先天性代謝異常等検診対策委員会は書面開催とした。

＜令和２年度患者発見状況報告＞

・一次検査実施実人数	12,639 人	
・再検査実施実人数	355 人	
・精密検査対象者実人数	33 人	
・患者確定人数	先天性甲状腺機能低下症	7 人 (治療中)
	先天性副腎過形成症	1 人 (治療中)
	ホモシスチン尿症	1 人 (治療中)
	VLCAD 欠損症	1 人 (治療中)

⑪親の会への支援

例年本院を会場として講演と交流会を行っているが、本年は新型コロナウイルス感染症の流行により、会報の発行を行った。

・ダウン症親の会（あさがお）の運営支援	会報発行
・13.18 トリソミー親の会（スマイル）の運営支援	会報発行
・口唇口蓋裂患者・家族交流会の運営	会報発行

⑫その他

・令和 2 年度度群馬県小児保健会研究集会及び総会は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止

⑰ 地域医療連携室

①医療相談件数（令和２年度）

ア 相談内容及び件数（地域医療連携室）

	第一病棟	第二病棟	第三病棟	新生児病棟	産科病棟	PICU	外来	その他	合計		
									総計	内訳 面接/電話/カンファレンス	内訳 新規/継続
転院・退院・入所	279	95	185	198	0	3	107	33	900	(308/555/37)	(101/799)
ショートケア	15	2	3	2	0	1	133	3	159	(51/108/0)	(14/145)
指導管理料関係	0	4	8	0	0	1	25	0	38	(4/32/2)	(4/34)
訪問看護	100	11	58	43	0	1	288	6	507	(81/418/8)	(64/443)
多職種連携	1	2	10	90	112	1	22	56	294	(4/23/267)	(256/38)
退院後フォロー	12	2	3	6	2	0	264	13	302	(218/82/2)	(11/291)
医療費・経済	1	0	9	7	30	6	17	2	72	(36/34/2)	(27/45)
医療給付制度	16	65	167	154	22	56	433	15	928	(462/464/2)	(353/575)
福祉サービス	105	19	26	48	3	10	594	26	831	(228/575/28)	(196/635)
心理的	0	2	0	3	0	0	2	0	7	(4/3/0)	(0/7)
新生児入院面接	0	2	7	308	4	15	12	2	350	(289/60/1)	(266/84)
その他	74	34	28	50	58	12	477	95	828	(177/584/67)	(175/653)
合計	603	238	504	909	231	106	2,374	251	5,216	(1862/2938/416)	(1467/3749)

イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数

区分	件数
未熟児養育医療	165
育成医療	154
小児慢性特定疾病医療給付	60 (4)
指定難病医療給付	4
通院医療費公費負担制度	6 (2)
合計	389 (6)

( ) 内は継続数

ウ 身体障害者手帳

特別児童扶養手当等事務取扱件数

区分	件数
身体障害者手帳	※74
特別児童扶養手当	※57
障害児福祉手当	※39
その他の診断書等	993
合計	1,163

※再認定を含む

②子ども虐待防止対策事業

イ 要支援事例検討会状況 ： 通常年 6 回 （奇数月、院内研修を含む）開催

令和 2 年度は、コロナウイルス感染症の状況を踏まえ年 5 回の開催

月齢及び年齢	男		女		計	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
1ヶ月未満	0	0	0	0	0	0
1～6ヶ月	2	3	1	2	3	5
7～12ヶ月未満	3	3	2(2)	4	5(2)	7
1～2歳	6(2)	17	2	12	8(2)	29
3歳～学齢前児童	1(1)	5	0	0	1(1)	5
小学生	3	3	1(1)	1	4(1)	4
中学生	1	2	0	0	1	2
高校生・その他	0	0	0	0	0	0
計	16(3)	33	6(3)	19	22(6)	52
(令和元年度)	10(5)	20	5(2)	11	15(7)	31

(　) 内は前年度からの継続人数

総　括　編

1. 沿　革

小児医療センターは、こどもたちが心身ともに健やかに生まれ、育成されることを目的として、高度専門的な総合的小児医療、保健活動を目指す施設として構想され、まず本県における小児保健医療の現状から緊急に必要な未熟児・新生児・乳児低年齢層の幼児を中心として専門的な診断治療を行うほか、母子保健活動、小児保健医療の調査研究研修を行う施設として、昭和 57 年 4 月 1 日に開設し、同年 7 月 1 日から全面的に診療活動を開始した。

昭和47 年 9 月　建設調査検討開始
48 年 5 月　群馬県小児病院調査委員会発足 (会長　吉野文郁、委員 17 名)
50 年 1 月　調査委員会「群馬県小児医療センター基本構想」を答申 (規模: 病床数200床程度)
50 年 6 月　群馬県小児医療センター建設委員会発足 (委員長　知事、委員 22 名)
52 年 3 月　県議会「県立小児病院建設促進についての意見書」を採択
52 年 8 月　小児医療センター建設促進懇談会、建設構想を作成し知事に提示
提案者: 県医師会長鶴谷孔明ほかメンバー9 名
内　容: 病床数 60 床 (新生児科 30、小児内科 20、小児外科 10)
53 年 3 月　53 年度当初予算 7 億 9 千万円議決 (用地取得費 290 百万円、建設基金積立 500 百万円)
53 年 10 月　小児医療センター建設準備室設置
53 年 12 月　小児医療センター建設専門会議発足 (議長　衛生環境部長、委員 10 名)
54 年 2 月　小児医療センター建設基本方針及び基本計画決定 (病床規模 60 床)
54 年 3 月　54 年度当初予算 8 億 9 千万円議決 (設計委託料、基本積立等)
54 年 9 月　建設基本方針及び基本計画の一部変更決定 (病床規模 80 床)
54 年 11 月　設計委託契約の締結 (株式会社アルコム)
55 年 3 月　55 年度当初予算 7 億 6 千万円 議決 (本館建設費等)
55 年 10 月　小児医療センター起工式
56 年 3 月　56 年度当初予算 34 億 1 千万円議決 (建設費、医療機器購入等)
56 年 4 月　小児医療センター看護要員県外研修派遣 (1 年間、19 名)
57 年 3 月　小児医療センター建設完工
57 年 3 月　小児医療センターを県立病院として設置する「群馬県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正議決
57 年 3 月　医療法 7 条に基づく病院開設許可 (80 床)
57 年 4 月　小児医療センター開設
57 年 5 月　小児医療センター落成式
57 年 7 月　診療活動を開始 (川崎病患者については 6 月より診療開始)

◆開院後の歩み

昭和57年４．１　群馬県立小児医療センター設置、院長として神邊 譲 就任
５．１　保険医療機関の指定 (勢医 1014. 5010042)
〃　療養取扱機関の申出の受理 (勢国医 1014. 205145)
５．27　日本麻酔科学会麻酔指導病院認定
６．９　結核予防法による医療機関の指定 (指定番号 1572)
６．30　母子保健法による未熟児養育医療担当機関の指定 (群馬県指令保福第 6 号) (未熟児収容定員 20 人)
７．１　生活保護法による医療機関の指定 (勢医 68 号)
10．１　日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される (認定期間 1982 年 7 月 1 日より 1987 年 6 月 30 日)
10．12　身体障害者福祉法指定医 (障第 141 号) 松山四郎、小泉武宣、清水信三
12．１　基準給食承認 (食第 104 号)
58年１．１　基準看護 (特 2 類) (看護 47 号)、基準寝具 (寝第 127 号) 承認
２．１　児童福祉法による育成医療機関 (心臓血管外科) 指定
５．12　身体障害者福祉法による厚生医療担当医療機関 (心臓血管外科) 指定
３．23　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令 (医) 第 206 号) 病床数及び従業員数の変更
３．30　病院施設使用許可 (医第 213 号) 病床増に伴うもの (98 床)
５．１　基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認 (群馬県指令保第 51 号)
基準看護 (特 2 類)、給食、寝具 (98 床)
７．１　重症者の看護及び重症者の収容基準実施承認 (群馬県指令保第 55 号) 看護 3 床
８．１　同　上 (群馬県指令保第 62 号) 看護 7 床、収容 2 床
59年３．29　群馬県小児医療センター建設事業基金条例の廃止
４．１　群馬大学医学部小児科学生臨床実習指定病院
４．11　県立福祉大学校看護学科看護婦養成所の実習施設に指定
60年５．１　保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
61年３．１　日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
認定期間 1986 年 3 月 1 日～1991 年 2 月 28 日 (認定番号 105 号)
４．１　全国自治体病院協議会群馬県支部長として神邊 譲 就任
５．１　紹介型病院承認 (許可番号 (紹) 第 1 号)
８．１　在宅酸素療法指導管理届出の受理 (保第 810 号)
９．10　昭和 61 年度全国自治体病院協議会関東地方会議主催 (支部長　神邊 譲)
62年３．１　児童福祉法による育成医療機関 (小腸に関する医療) 指定
６．１　在宅中心静脈栄養法指導管理届出の受理 (保第 659 号)
63年４．１　在宅経管栄養法指導管理実施届出の受理 (保第 393 号)
〃　基準看護 (外科特 3 類) の承認 (棟看第 1 号)
５．１　保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
７．１　日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間 1987 年 7 月 1 日～1992 年 6 月 30 日
８．１　基準看護 (外科特 3 類→特 2 類) の承認
平成元年２．１　臨床修練 (小児疾患) 指定病院 (厚生省収健政第20号) (外国医師又は外国歯科医師)
３．１　基準看護 (外科特 3 類) の承認 (棟看第 1 号)
２年２．１　在宅自己導尿指導管理実施届出の受理
７．１　紹介外来型病院の指定 (厚生省収保第 1006 号)
３年３．１　日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定

認定期間平成 3 年 3 月 1 日～平成 8 年 2 月 29 日 (認定番号 105 号)
5．1　保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
4 年 7．1　日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間 1993 年 7 月 1 日～1998 年 6 月 30 日
5 年 4．1　2 代目院長として松山四郎 就任
〃　無菌調剤処理施設基準承認 (菌) 第 7 号
10．1　基準看護内科外科特 3 類 (棟看第 1 号)、未熟児・新生児特 2 類 (棟看第 47 号) の承認
〃　在宅人工呼吸指導管理実施届出の受理 (保第 1762 号)
6 年 5．1　保険医療機関指定 (勢医 1014)
8．1　基準看護承認特 3 類 3 病棟 98 床 (看) 第 1 号 (特 3)
9．1　重症者の特別の療養環境基準実施承認 (内科、外科各 2 床)
10．1　新看護等の基準に係る届出、一般病棟 3 病棟 98 床 (看第 5 号 (2 対 1 A))
7 年 7．20　身体障害者福祉法指定医 (障第 110 号) 鈴木則夫・丸山健一・重田　誠
8．1　更生医療担当医療機関指定 (障第 111 号)
11．1　夜間勤務等看護に係る届出 (保第 1926 号) (夜看Ⅰ・Ⅱ)
8 年 3．1　入院時食事療養等届 (特別管理・適時適温) (保第 416 号)
4．1　3 代目院長として土田嘉昭 就任
〃　新看護等 (夜間勤務等看護) に係る届出 (夜看) 第 24 号 (Ⅰa-3)
〃　画像診断管理の施設基準に係る届出
〃　手術前医学管理料に係る届出 (手前管) 第 32 号
11．1　院内感染防止対策に係る届出 (感防) 第 89 号
9 年 5．1　麻酔管理料に係る届出 (麻管) 第 18 号
5．2　日本形成外科学会認定医制度教育関連施設として認定 (登録番号 97-321U)
5．26　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令渋保第 45 号)
病床数の変更 (内科病棟 40 床、外科病棟 28 床)
9．17　身体障害者福祉法指定医 (障第 151 号) 設楽利二・小林富夫
12．1　重症者の特別の療養環境基準実施承認 (重第 38 号) 内科 2 床増
10年 4．1　無菌治療室管理の施設基準に係る届出
7．1　新生児特定集中治療室管理の施設基準に係る届出 (新) 第 3 号
11年 3．5　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 230 号) 外来棟増築
6．1　経皮的冠動脈形成術の施設基準に係る届出 (経形) 第 26 号
11．1　ペースメーカー移植術の施設基準に係る届出 (ペ) 第 47 号
〃　大動脈バルーンパンピング法の施設基準に係る届出 (大) 第 28 号
11．15　病院開設許可事項の一部変更許可 (群馬県指令医第 217 号)
病棟間の病床数の変更 (外科病棟 28 床→ 30 床 未熟児・新生児病棟 30 床→ 28 床)
〃　身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 103 号) 篠原　真
12．1　理学療法Ⅱの施設基準に係る届出 (理Ⅱ) 第 72 号
12年 1．1　経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準に係る届出 (経ス) 第 25 号
〃　経皮的冠動脈血栓切除術の施設基準に係る届出 (経切) 第 24 号
3．1　夜間勤務等看護に係る届出 (平成 12 年 3 月 1 日における病棟間の病床数移動による届出) (夜看) 第 75 号
4．1　検体検査管理加算 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (検Ⅰ) 第 7 号
5．1　保険医療機関の指定 (勢医 1014)
11．22　身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 103 号) 丸山憲一
13年 1．21　日本小児科学会認定制度施設として認定される

認定機関 2001 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日 (認定番号 105 号)
3．23　身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 145 号) 前田昇三
14年 4．1　1 歳未満の乳児に対する手術に係る届出 (乳外) 第 1 号
〃　画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
7．19　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
病床数の変更 (内科病棟 40 床→ 45 床)
7．26　身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 西村秀子
10．1　医療安全管理体制及び褥瘡対策の基準に係る届出 (群社局文発第 1579 号)
11．22　身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-15) 平形恭子
11．27　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-108 号)
病棟間の病床数の変更 (内科病棟 45 床→ 44 床、外科病棟 27 床→ 28 床)
15年 1．14　開設許可事項一部変更届 (標榜科目の変更)
4．1　診療科目 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科に循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科を加える)・病床数 (98 床→ 103 床) の変更
8．1　児童福祉法による育成医療機関 (中枢神経に関する医療) 指定
16年 2．26　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-169 号)
新病棟の建設、旧病棟の用途変更、一般病床の増加 (103 床→ 150 床)
4．1　褥瘡患者管理加算の施設基準に係る届出 (褥) 第 20 号
〃　尿道形成手術等に関する施設基準に係る届出 (2 エ) 第 17 号
〃　肝切除術等に関する施設基準に係る届出 (2 カ) 第 28 号
〃　食堂切除再建術等に関する施設基準に係る届出 (3 カ) 第 22 号
〃　ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。) に関する施設基準に係る届出 (ペース) 第 56 号
〃　冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術に関する施設基準に係る届出 (冠動) 第 3 号
〃　1 歳未満の乳児に対する手術に関する施設基準の届出 (加乳外) 第 1 号、(乳外) 第 2 号
5．1　小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 5 号
5．27　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-34 号) 本館の一部構造等変更
6．1　言語聴覚療法Ⅲの施設基準に係る届出 (言語Ⅲ) 第 2 号
7．20　身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 渡辺美緒
8．9　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号) 本館の一部構造等変更
11．20　身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-16) 村松礼子
11．1　小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 (小入 2) 第 16 号
12．2　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-121 号) 本館の一部構造等変更
17年 3．1　一般病棟Ⅰ群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
〃　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-160 号)
4．1　4 代目院長として林　泰秀 就任
〃　一般病棟Ⅰ群入院基本料 2 の施設基準に係る届出　増床 (一般入院) 第 102 号
〃　小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出　増床 (小入 1) 第 5 号
〃　小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出　増床 (小入 2) 第 16 号
〃　夜間勤務等看護加算 1 の辞退 (夜勤看) 第 127 号
〃　新生児特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出　増床 (新) 第 3 号

5．1　病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科の 9 科に、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の 5 科を加え 14 科とする)
〃　保険医療機関指定申請 (歯科)
〃　一般病棟Ⅰ群入院基本料 2 の施設基準に係る届出産科 (一般入院) 第 102 号
〃　総合周産期特定集中治療室管理料施設基準に係る届出 (周) 第 2 号 (新生児特定集中治療室管理料の辞退を含む)
5．2　理学療法Ⅱの施設基準に係る届出 (医師・PT の変更) (理Ⅱ) 第 72 号
6．1　病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の 14 科に、精神科を加え 15 科とする)
〃　保険医療機関記載事項変更届 (精神科)
〃　一般病棟Ⅰ群入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
7．14　褥瘡患者管理加算届出 (専任看護職員変更) (褥) 第 20 号
7．27　身体障害者福祉法指定医 (群馬県指令障第 501-5 号) 鈴木尊裕、戸所誠
〃　更生医療機関届出 (整形外科) 群馬県指令障第 501-6 号
8．22　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-46 号) 外来診療室、病室名等の変更
10．1　特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (集) 第 13 号
18年 1．1　療養環境加算の施設基準に係る届出 (療) 第 58 号
1．24　無菌製剤処理加算の施設基準に係る届出クリーンベンチ増設 (菌) 第 7 号
2．1　重症者療養環境特別加算に係る届出　変更 (重) 第 38 号
〃　自立支援医療に係る指定自立支援医療機関の指定
3．2　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-139 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の設置)
3．31　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-164 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の撤去)
3．29　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-171 号)
病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
4．1　補綴物維持管理料 (補維) 第 1033 号
〃　特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (4 → 6) (集) 第 13 号
〃　医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準届出 (通手) 第 54 号
〃　小児入院医療管理料 1 の施設基準届出 (小入 1) 第 5 号
〃　小児入院医療管理料Ⅱ (第 1 病棟・新生児未熟児病棟) の施設基準届出 (小入 2) 第 16 号
〃　一般病棟 7 対 1 入院基本料に係る施設基準届出 (一般入院) 第 102 号
〃　栄養管理実施加算に係る施設基準の届出 (栄養管理) 第 116 号
〃　単純 CT 撮影及び単純 MRI の施設基準の届出 (単) 第 56 号
〃　運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (運Ⅰ) 第 59 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準の届出 (脳Ⅱ) 第 70 号
〃　呼吸器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (呼) 第 29 号
〃　歯科疾患総合指導料 1 の施設基準の届出 (歯総指) 第 614 号
5．1　保険医療機関及び保険薬局の更新について (群社局文発 815 号)

7．20　身体障害者福祉法指定医指定願 (群馬県指令障第 30057-2 号)
7．21　医療安全対策加算に係る施設基準の届出 (医療安全) 第 17 号
8．23　指定自立支援医療機関 (精神通院医療) の指定手続き (保予第 30023-12 号)
9．29　運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準に係る医師及び作業療法士の追加届出 (運Ⅰ) 第 59 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準に係る作業療法士の追加届出 (脳Ⅱ) 第 70 号
10．2　診療録管理体制加算に係る施設基準の届出 (診療録) 第 38 号
11．20　ハイリスク分娩管理加算に係る施設基準の届出 (ハイ分娩) 第 10 号
19年 2．28　指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) の指定通知について (障第 30052 -13 号)
4．1　病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科、精神科の 15 科に、整形外科を加え 16 科とする)
〃　医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の受理 (通手) 第 54 号
4．9　呼吸器リハビリテーション科 (Ⅰ) 及び医学管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (医師の変更) (呼Ⅰ) 第 29 号
4．17　特定疾患医療給付等に関する群馬県知事との契約書について (保予第 708-2 号)
〃　保険医療機関記載事項変更の届出
4．23　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令渋保福第 551-2 号)
病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
4．27　障害者自立支援法第 59 条第 1 項の規定による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) 指定の変更 (医師の変更) 障第 30052-3 号
5．31　臨床研修病院入院診療加算の届出 (臨床研修) 第 21 号
6．19　輸血管理料Ⅰの届出 (輸血Ⅰ) 第 8 号
7．18　褥瘡患者管理加算の施設基準に係る専任看護師の変更届出 (褥) 第 20 号
7．27　栄養管理加算の施設基準に係る管理栄養士の変更届出 (栄養管理) 第 116 号
8．10　麻酔管理料の施設基準に係る常勤の麻酔科標榜医の変更届出 (麻管) 第 18 号
〃　診療録管理体制加算の施設基準に係る診療記録管理者変更の届出 (診療録) 第 38 号
〃　大動脈バルーンパンピング法 (IABP) の施設基準に係る医師の変更届出 (大) 第 28 号
〃　ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術の施設基準に係る医師の変更届 (ペ) 第 47 号
10．31　生活保護法指定医療機関指定申請書 (歯科) 健福第 839-31 号
11．20　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-77 号)
病院施設の一部用途等変更 (医薬品情報管理室)
11．30　薬剤管理指導料の届出 (薬) 第 118 号
20年 1．22　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-96 号)
病院施設の一部名称及び用途等変更 (無菌製剤室ほか 39 室)
4．1　電子化加算の施設基準に係る届出 (電子化) 第 1362 号
〃　妊産婦緊急搬送入院加算の施設基準に係る届出 (妊産婦) 第 21 号
〃　医療安全対策加算の施設基準に係る (医療安全) 第 17 号
〃　ハイリスク妊娠加算の施設基準に係る届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
〃　ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ分娩) 第 19 号

4．1　小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入) 第 20 号
〃　医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る届出 (機安 1) 第 32 号
〃　検体検査管理加算 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (検Ⅱ) 第 70 号
〃　検体検査管理加算 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (検Ⅰ) 第 7 号
〃　遺伝カウンセリング加算の施設基準に係る届出 (遺伝カ) 第 1 号
〃　画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
〃　無菌製剤処理料の施設基準に係る届出 (菌) 第 51 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 31 号
〃　医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
20年 5．12　障害児 (者) リハビリテーションの施設基準に係る届出 (障) 第 7 号
6．16　医療機能評価 (Ver.5.0) 認定　認定番号: 第 JC1509 (2008/6/16～2013/6/15)
6．27　障害者自立支援法第 59 条第 1 号の規程による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) の指定の変更届出 (障第 30052-4 号)
6．30　一般病棟入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
〃　小児入院医療管理料 1 の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
〃　小児入院医療管理料 3 の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
7．29　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく医師の指定について (障第 30057-1 号)
8．1　医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
8．15　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
病院施設の一部構造及び用途等変更 (歯科外来の拡張)
9．1　小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (保育士設置) (小入 3) 第 16 号
9．12　診療用エックス線装置に係る届出事項の変更の届出
エックス線装置 (透視・直接撮影 (診断用)) の更新
10．1　心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る届出 (心臓 M) 第 7 号
11．26　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-91 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 2、第二病棟授乳室)
21年 1．1　小児食物アレルギー負荷検査の施設基準に係る届出 (小検) 第 11 号
〃　小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
〃　小児入院医療管理料 1 の施設基準の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
3．26　指定自立支援医療機関の主として担当する医師の変更について (障第 30052-16 号)
4．1　ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ分娩) 第 19 号
〃　ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
7．29　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
10．1　歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る届出 (外来環) 第 97 号
12．7　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-3 号)
22年 4．1　地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
〃　障害者歯科医療連携加算の施設基準に係る届出 (障連) 第 3 号
〃　歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る届出 (医管) 第 155 号
〃　一酸化窒素吸入療法の施設基準に係る届出 (NO) 第 3 号
〃　運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
5．1　神経学的検査の施設基準に係る届出 (神経) 第 26 号
6．30　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-39 号)

病院施設の一部構造等変更 (第三病棟)
10．1　胎児心エコー法の施設基準に係る届出 (胎心エコ) 第 6 号
10. 20　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号)
病院施設の一部構造等変更 (新生児未熟児病棟)
11．1　医師事務作業補助体制加算の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 27 号
11. 24　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
23年 4．1　HPV 核酸同定検査の施設基準に係る届出 (HPV) 第 72 号
〃　がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る届出 (がん疼) 第 50 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
〃　新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (新 1) 第 3 号
5．23　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-17 号)
病院施設の一部構造等変更 (本館 2 階・3 階増築)
6．1　心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
10. 13　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-79 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 3)
11．1　冠動脈 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (冠動 C) 第 12 号
〃　感染防止対策加算の施設基準に係る届出 (感染防止) 第 14 号
12. 12　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
24年 2．1　新生児治療回復室入院医療管理料の施設基準に係る届出 (新回復) 第 3 号
4．1　CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る届出 (C・M) 第 230 号
〃　大腸 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (大腸 C) 第 10 号
〃　心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 初期加算の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
〃　運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
〃　呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
〃　感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
〃　感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
〃　救急搬送患者地域連携紹介加算の施設基準に係る届出 (救急紹介) 第 33 号
〃　救急搬送患者地域連携受入加算の施設基準に係る届出 (救急受入) 第 57 号
〃　一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
5．1　保険医療機関の指定 (勢医 1014)
6．1　輸血管理料Ⅰの施設基準に係る届出 (輸血Ⅰ) 第 17 号
9．1　先進医療に係る届出 (急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微小残存病変 (MRD) 量の測定) (先－ 195) 第 1 号
〃　データ提出加算 1 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
10．1　登録医制度開始
〃　データ提出加算 2 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
〃　先進医療に係る届出 (胸腔鏡下動脈管開存症手術) (先 166) 第 1 号
11．1　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 66 号
11. 12　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-71 号)
病院施設の一部用途変更 (PICU 説明室等)
11. 26　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-5 号)
25年 1．1　造血器腫瘍遺伝子検査の施設基準に係る届出 (血) 第 13 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 138 号

2．24　電子カルテ稼働開始
4．1　保険医療機関届出事項変更届 (開設者の変更)
〃　医師事務作業補助体制加算 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 42 号
〃　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
5．14　感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止) 第 15 号
6．7　病院機能評価 (Ver.6.0) 認定 認定番号: 第 JC1509-2 号 (2013/6/16～2018/6/15)
8．5　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
9．5　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-49 号)
本館第二病棟 (外科) の増改築工事に伴う病棟各施設の変更
10．1　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
11．11　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
11．22　診療用エックス線装置等変更届出
26年 1．1　麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (麻管Ⅱ) 第 6 号
2．17　第二病棟 (外科) 改修及び増築工事着工
3．5　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-114 号)
本館地下 1 階及び地上 1 階の用途変更
4．1　5 代目院長として丸山健一 就任
〃　病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
〃　DPC 対象病院に参加
〃　医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事補 1) 第 8 号
〃　胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る届出 (脈動開) 第 1 号
〃　輸血管理料Ⅱの施設基準に係る届出 (輸血Ⅱ) 第 48 号
〃　輸血管理料Ⅰの施設基準に係る辞退届 (輸血Ⅰ) 第 17 号
4．28　歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (外来環) 第 97 号
〃　歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯特連) 第 3 号
〃　歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
5．9　医療安全対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (医療安全 1) 第 17 号
〃　感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
〃　薬剤指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
〃　無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
〃　心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
〃　運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運Ⅰ) 第 20 号
〃　呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
〃　障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出　(障) 第 7 号
7．28　身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
8．1　呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
〃　感染防止対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
10．1　新生児特定集中治療管理料 1 の施設基準に係る届出 (新 1) 第 3 号

10. 1　一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
10. 22　病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-5 号)
第二病棟 (外科) の増築部分等
11. 25　病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
11. 26　生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (医科) の指定 (群医 276) (健福第 30236-15 号)
〃　生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (歯科) の指定 (群歯 185) (健福第 30236-15 号)
11. 28　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
〃　麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅱ) 第 6 号
12. 10　難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30149-2 号)
12. 11　診療用エックス線装置等変更届出
12. 24　病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
〃　難病の患者に対する医療等に関する法律第 14 条第 1 項に規定する指定医療機関の指定 (保予第 30327-1 号)
〃　児童福祉法第 19 条の 9 第 1 項の規定に基づく指定小児慢性特定疾病医療機関 (医科) の指定 (保予 30018-1 号)
〃　児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医の指定 (医科) の指定 (保予第 300019-1 号)
27年 1 . 1　麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る辞退届 (麻管Ⅱ) 第 6 号
1 . 20　心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
1 . 23　第二病棟 (外科) 改修及び増築工事完成
1 . 30　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-117 号)
本館 1 階の用途変更
4 . 1　感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
〃　特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
5 . 1　麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (麻管Ⅱ) 第 7 号
5 . 15　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
〃　ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
〃　ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
〃　歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
〃　医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (機安 1) 第 32 号
〃　胎児心エコー法の施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコ) 第 6 号
〃　心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
〃　運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運Ⅰ) 第 20 号

5．15　呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（呼Ⅰ）第29号
〃　障害児（者）リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出（障）第7号
〃　感染防止対策加算1の施設基準に係る連携医療機関変更の届出（感染防止1）第15号
7．30　身体障害者福祉法第15条第1項の規定に基づく指定医の指定（障第501-3号）
10．9　診療用エックス線装置等変更届出
11．18　病院開設許可事項一部変更許可（群馬県指令医第166-80号）
本館外来棟の増改築工事に伴う施設の変更
12．4　麻酔管理料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（麻管Ⅰ）第18号
〃　麻酔管理料（Ⅱ）の施設基準に係る従事者変更の届出（麻管Ⅱ）第7号
28年1．1　がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る届出（がんリハ）第33号
〃　CAD／CAM冠の施設基準に係る届出（歯CAD）第540号
1．25　診療用エックス線装置等変更届出
2．1　麻酔管理料（Ⅱ）の施設基準に係る辞退届（麻管Ⅱ）第7号
3．1　特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出（集3）第13号
〃　新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出（新1）第3号
3．29　児童福祉法第19条の3第1項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医（医科）の指定（保予第30334-25号）
3．31　難病の患者に対する医療等に関する法律第6条第1項に規定する指定医の指定（保予第30326-72号）
4．1　麻酔管理料（Ⅱ）の施設基準に係る届出（麻管Ⅱ）第8号
6．2　ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出（ハイ妊娠）第26号
〃　ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出（ハイ分娩）第19号
〃　麻酔管理料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（麻管Ⅰ）第18号
〃　新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出（新1）第3号
〃　心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（心Ⅰ）第7号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）の施設基準に係る従事者変更の届出（脳Ⅱ）第138号
〃　運動器リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（運Ⅰ）第20号
〃　呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）の施設基準に係る従事者変更の届出（呼Ⅰ）第29号
〃　障害児（者）リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出（障）第7号
7．1　遺伝学的検査の施設基準に係る届出（遺伝検）第2号
7．8　感染防止対策加算1の施設基準に係る連携医療機関変更の届出（感染防止1）第15号
〃　薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出（薬）第118号
〃　無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出（菌）第51号
〃　特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出（集3）第13号
〃　感染防止対策加算1の施設基準に係る連携医療機関変更の届出（感染防止1）第15号
10．1　医師事務作業補助体制加算1（40対1補助体制加算）の辞退届（事補1）第8号
〃　医師事務作業補助体制加算2（40対1補助体制加算）の施設基準に係る届出（事補2）第58号

11．4　特定集中治療室管理料3の施設基準に係る届出 (施設基準変更に伴う経過措置) (集3) 第 13 号
11．7　一般病棟入院基本料 (7対1) の施設基準に係る届出 (施設基準変更に伴う経過措置) (一般入院) 第 102 号
12．7　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号)
本館外来棟増築工事
12. 27　病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-14 号)
歯科レントゲン室
29年 3．27　病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-111 号)
建物構造等の一部変更 (用途変更)
3．28　本館外来棟増改築工事完成
6．1　人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る届出 (造設前) 第 36 号
7．3　ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
〃　ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
〃　医療安全対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (医療安全Ⅰ) 第 17 号
〃　感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止1) 第 15 号
〃　特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
〃　新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
〃　心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
〃　運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運Ⅰ) 第 20 号
〃　呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
〃　障害児 (者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
〃　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
〃　麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅱ) 第 8 号
〃　感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
7．31　がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がん疼) 第 50 号
〃　ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
〃　特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
〃　歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者等変更の届出 (外来環) 第 97 号
〃　歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者等変更の届出 (歯特連) 第 3 号
〃　歯科治療総合医療管理料 (Ⅰ) 及び (Ⅱ) の施設基準に係る従事者等変更の届出 (医管) 第 155 号
8．1　医師事務作業補助体制加算 2 の施設基準に係る区分変更 (30 対 1 補助体制加算) の届出 (事補 2) 第 58 号
8．29　胎児心エコーの施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコ) 第 6 号
11．15　がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がん疼) 第 50 号
〃　新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
12．25　胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
30年 1．4　診療用エックス線装置等変更届出
1．10　特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号

1．24　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
〃　障害児 (者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
〃　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 18 号
〃　麻酔管理料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅱ) 第 8 号
〃　小児入院管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (小入 1) 第 20 号
〃　入院時生活療養 (Ⅰ) の施設基準に係る一部業務委託の導入・従事者変更の届出 (食) 第 104 号
〃　心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
〃　運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (運Ⅰ) 第 20 号
〃　呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
〃　障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (障) 第 7 号
〃　がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出 (がんリハ) 第 33 号
3．1　重症者等療養環境特別加算の施設基準の辞退届 (重) 第 38 号
3．14　CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る区分変更 (64列以上→16列以上64列未満) の届出 (C・M) 第 230 号
4．1　6 代目院長として外松学 就任
〃　病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
〃　医療安全対策地域連携加算Ⅰの施設基準に係る届出 (医療安全 1) 第 17 号
〃　感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
4．26　特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者、専用施設面積、機材変更の届出 (集 3) 第 13 号
〃　診療録管理体制加算 2 の施設基準に係る従事者変更の届出 (診療録) 第 38 号
5．1　麻酔管理料 (Ⅱ) の辞退届
〃　保険医療機関の指定 (関厚発) 第 77 号
5．11　医師事務作業補助体制加算 2 の施設基準に係る区分変更 (40 対 1 補助体制加算) の届出 (事補 2) 第 58 号
〃　感染防止対策加算1の施設基準に係る従事者及び連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
〃　感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
5．31　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 80 号
7．1　後発医薬品使用体制加算 1 の施設基準に係る届出 (後発使 1) 第 47 号
〃　乳腺炎重症化予防ケア・指導料に係る施設基準に係る届出 (乳腺ケア) 第 14 号
8．3　医師事務作業補助体制加算 2 の施設基準に係る区分変更 (30 対 1 補助体制加算) の届出 (事補 2) 第 58 号
〃　がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がん疼) 第 50 号
9．1　骨髄微小残存病変量測定の施設基準に係る届出 (骨残測) 第 2 号
〃　医師事務作業補助体制加算 1 に係る施設基準に係る届出 (事補 1) 第 35 号 (加算 2 からの区分替え)

9．1　レーザー機器加算の施設基準に係る届出 (手光機) 第 165 号
〃　口腔粘膜措置の施設基準に係る届出 (口腔粘膜) 第 184 号
10．1　歯科外来診療環境体制加算 2 の施設基準に係る届出 (外来環 2) 第 97 号
〃　急性期一般入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
〃　地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
11．1　患者サポート体制充実加算の施設基準に係る届出 (患サポ) 第 71 号
〃　ヘッドアップティルト試験の施設基準に係る届出 (ヘッド) 第 19 号
12．5　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 80 号
〃　ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
〃　ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
12．28　人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (造設前) 第 36 号
31 年 1．3　ペースメーカー及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出 (ペ) 第 47 号
〃　大動脈バルーンパンピング (IABP 法) の施設基準に係る従事者変更の届出 (大) 第 28 号
〃　胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
3．11　遺伝学的検査の施設基準に係る一部検査委託機関の追加の届出 (遺伝検) 第 2 号
4．24　病院開設許可事項一部変更許可 (2 階 産科病棟 多目的室 室名変更)
令和 元年 6．3　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管Ⅰ) 第 80 号
7．5　大動脈バルーンパンピング (IABP法) の施設基準に係る従事者変更の届出 (大) 第 28 号
〃　人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (造設前) 第 36 号
〃　胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出 (脈動開) 第 1 号
〃　ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出 (ペ) 第 47 号
〃　薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
〃　心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心Ⅰ) 第 7 号
〃　脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳Ⅱ) 第 138 号
〃　運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運Ⅰ) 第 20 号
〃　呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
〃　障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
〃　がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (がんリハ) 第 33 号
8．29　骨髄微小残存病変量測定の施設基準に係る従事者及び当該検査を委託する施設の変更の届出 (骨残測) 第 2 号
10．30　CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る撮影機器及び安全管理責任者の変更の届出 (C・M) 第 230 号
〃　心臓MRI撮影加算の施設基準に係る撮影機器変更の届出 (心臓M) 第 7 号
12．1　後発医薬品使用体制加算 1 の辞退届

12. 26　CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る区分変更の届出 (C・M) 第 230 号
2 年 2 . 28　病院開設許可事項一部変更許可 (地下 1 階 薬剤部事務室、医薬品情報管理室及び薬剤部倉庫 室名変更)
3 . 11　診療用エックス線装置等変更届出
4 . 1　全国自治体病院協議会群馬県支部長として外松 学 就任
〃　歯科麻酔管理料の施設基準に係る届出 (歯麻管) 第 1 号
〃　小児運動器疾患指導管理料の施設基準に係る届出 (小運指管) 第 6 号
〃　先天性代謝異常症検査の施設基準に係る届出 (先代異) 第 6 号
〃　ウイルス・細菌核酸多項目同時検出の施設基準に係る届出 (ウ細多同) 第 1 号
5 . 18　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 Ⅰ) 第 80 号
〃　医療安全対策地域連携加算 Ⅰ の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (医療安全 1) 第 17 号
7 . 31　麻酔管理料 (Ⅰ) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 Ⅰ) 第 80 号
3 年 1 . 1　入退院支援加算 3 の施設基準に係る届出 (入退支) 第 105 号
3 . 1　植込型除細動器移植術 (心筋リードを用いるもの) 及び植込型除細動器交換術 (心筋リードを用いるもの) の施設基準に係る届出 (除心) 第 3 号
〃　両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 (心筋電極の場合) 及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 (心筋電極の場合) (両除心) 第 3 号
〃　両心室ペースメーカー移植術 (心筋電極の場合) 及び両心室ペースメーカー交換術 (心筋電極の場合) の施設基準に係る届出 (両ペ心) 第 1 号

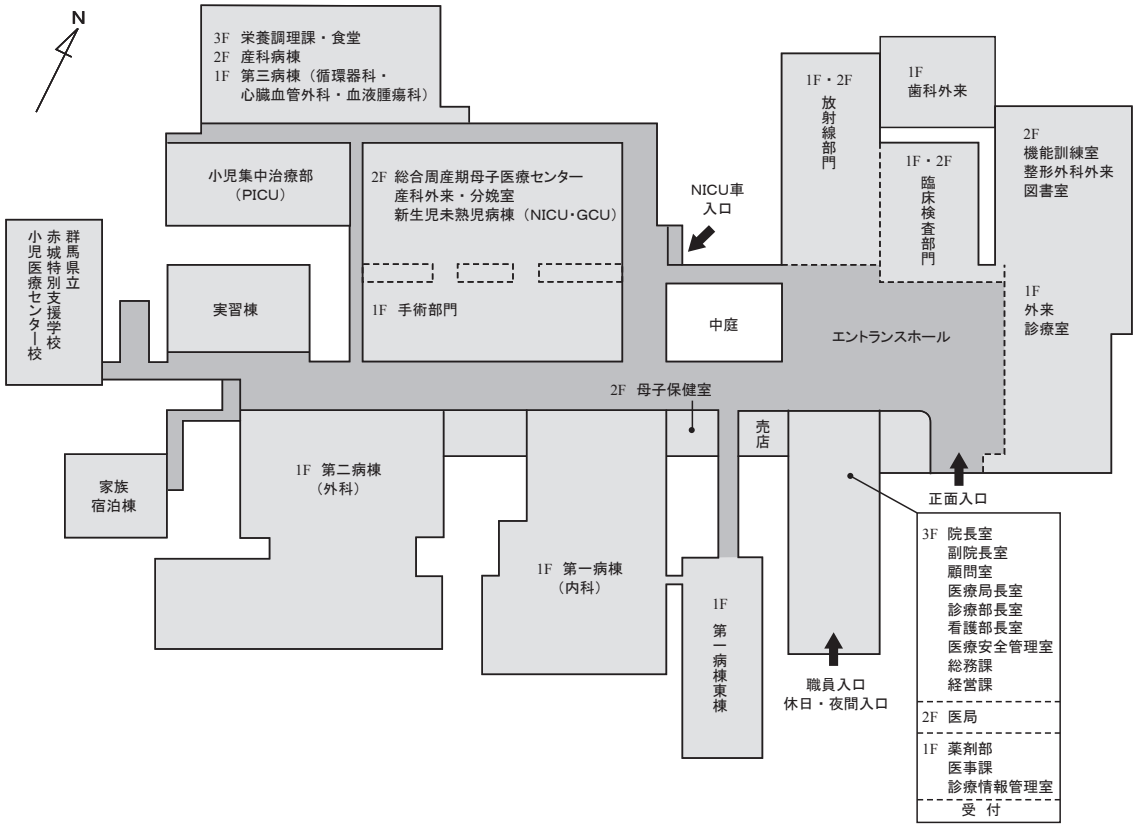
2. 施　設

⑴ 敷地・建物の面積

敷地		53,031.42㎡
本館	鉄筋コンクリート地下 1 階地上 3 階建	18,441.17㎡
看護師宿舎	鉄筋コンクリート地上 4 階建	1,170.28㎡
職員宿舎	鉄筋コンクリート地上 2 階建	379.61㎡
実習棟	鉄筋コンクリート地上 2 階建	485.00㎡
家族宿泊棟	鉄筋プレハブ平屋建	200.00㎡

⑵ 病棟構成並びに建物配置図

階	病　棟　名	設置病床数 (令和 2 年 4 月 1 日現在)
2 階	新生児未熟児病棟	33 床
2 階	産科病棟	18 床
1 階	第一病棟	32 床
1 階	第二病棟	29 床
1 階	第三病棟	30 床
1 階	小児集中治療部	8 床
	合　　計	150 床



⑶ 施設・設備の設置状況

（単位：千円）

区　分	事業費	年次別内訳					
		54	55	56	57	58	59
本　館	7,854,114		911,600	1,914,690		追加工事 医療ガス 配管工事等 2,857	純水製造 装置 13,525
看護師宿舎	375,519			18,653		上水槽配管 保温工事 697	
職員宿舎	120,948			73,180		273	
実習棟	192,044						
家族宿泊棟	43,575						
設　計	272,897	本館 64,850	本館 8,646 宿舎 6,150	本館 17,354			
外構工事等	627,845			494,829	追加工事 駐車場等 1,659	追加工事 植栽等 2,118	フェンス 180
敷　地	625,643	290,000		67,328		191,228	
医療機器	9,277,941			502,748	760,940	2,732	18,309
備　品	394,357			27,948	31,147		
電話設置等	22,591			債権 870 架設加入料 482	ポケットベル 加入保証金 200		
工事事務費	5,202		1,394	3,536			
合　計	19,812,676	354,850	927,790	3,121,618	793,946	199,905	32,014

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

（単位：千円）

区　分	年次別内訳						
	60	61	62	63	元	2	3
本　館	照明工事等 1,605	11,923		塩酸等貯留槽 4,001			
看護師宿舎			クーラー 10,093				
職員宿舎			クーラー 2,883				
実習棟							
家族宿泊棟							
設　計		390	クーラー 700				
外構工事等	定着液保留槽 362	駐車場舗装等 2,331	植栽工事等 3,496	フェンス 570			
敷　地							
医療機器	24,160	11,983	12,000	52,400	213,936	211,120	100,094
備　品	2,839	2,924	3,000		4,619	9,995	6,660
電話設置等							
工事事務費							
合　計	28,966	29,551	32,172	56,971	218,555	221,115	106,754

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

（単位：千円）

区　分	年次別内訳						
	4	5	6	7	8	9	10
本　館	放射線棟増築等 385,667	調理室冷房増設等 49,247	冷凍機更新工事等 42,035	屋上防水工事等 12,087	冷凍機更新工事等 75,767	中央監視装置更新等 83,192	外来棟増設 353,619
看護師宿舎	田口住宅 124,364	改築 204,479					
職員宿舎		一部改築 44,338					
実習棟					192,044		
家族宿泊棟							
設　計		職員宿舎等 14,420		実習棟 4,900		外来棟 15,120	
外構工事等	駐車場舗装等 8,918	外構舗装 927		駐車場舗装等 24,291			
敷　地	77,087						
医療機器	106,149	733,654	87,173	113,753	190,495	186,144	121,241
備　品	8,817	5,995	9,973	8,000	43,394 実習棟分 3,986	7,780	6,369 外来棟分 2,051
電話設置等	電話加入権 975	電話加入権 3,195	電話加入権 900	院内ポケベルシステム更新 10,155	コードレス増設 3,018 電話加入権 450		
工事事務費	272						
合　計	712,249	1,056,255	140,081	173,186	509,154	292,236	483,280

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

（単位：千円）

区　　分	年　　次　　別　　内　　訳						
	11	12	13	14	15	16	17
本　　館	ボイラー 純水装置 28,350	受水槽 更新工事等 20,822	R-2 冷却塔 更新工事等 14,049	内科病棟 増築工事等 24,885	新病棟建築 工事等 18,726 非常用自家 発電機整備 11,000	新病棟建築 工事等 2,417,398	
看護師宿舎							
職員宿舎							
実　習　棟							
家族宿泊棟	43,575						
設　　計			内科病棟増 築 5,775	内科外科病 棟等改修 745	新病棟建築工 事実施設計 54,600		外構工事 (電気工事を 含む) 1,659
外構工事等							駐車場舗装等 55,293 駐車場電気 4,809
敷　　地							
医療機器	104,808	114,158	129,964	109,703	87,716	1,048,076	328,243
備　　品	4,996	9,000	5,390	3,271	2,715	82,548	4,968
電話設置等					コードレス交 換機更新 2,346		
工事事務費							
合　　計	181,729	143,980	155,178	138,604	177,103	3,548,022	394,972

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

（単位：千円）

区　分	年次別内訳						
	18	19	20	21	22	23	24
本　館	集塵配管更新工事 5,985	PICUトランス増設工事 3,780 新システムLAN配線 10,448	歯科改修工事 10,133		新生児病棟改修 150,433 薬剤クリーンルーム空調 3,360	管理棟増築建築工事 22,827 管理棟増築機械設備工事 4,641	冷凍機更新工事 22,869 電源設備改修・電気供給設備工事 58,992
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟							
設　計		歯科改修 735			新生児病棟改修 9,229 管理棟改修 1,785		電気・空調設備改修 2,310
外構工事等							
敷　地							
医療機器	53,102	233,517	336,857	175,807	358,277	301,860	289,256
備　品	4,613	4,851	5,241	4,934	4,971	6,423	5,000
電話設置等							
工事事務費							
合　計	63,700	253,331	352,231	180,741	528,055	335,751	378,427

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

（単位：千円）

区分	年次別内訳						
	25	26	27	28	29	30	元
本館	冷凍機(R-1)更新工事 50,400	外科病棟改修及び増築工事 302,357	変電設備更新工事 5,378	外来棟増築及び改修等工事 547,408	エントランスホール屋上防水改修 5,368	放射線棟ほか屋上防水改修工事 14,861	新生児未熟児棟ほか屋上防水改修工事 34,804
	外科病棟改修及び増築工事 32,000	変電設備更新工事 11,146	ピット配管等改修工事 29,117		第二病棟ピット配管工事 20,044	B棟受水槽全目地補修工事 7,560	非常用放送設備アンプ更新工事 35,167
	NICU パックアップ空調設置 12,285		第一病棟東棟空調改修工事 7,398		B棟漏電警報器設置工事 9,537	第一病棟病室ほか床張り替え工事 2,106	第1変電室制御用整流器交換工事 18,837
					中央滅菌材料室機器配線等工事 2,043		排煙用トップライト改修工事 15,785
看護師宿舎			エアコン設置工事 2,783		熱源等改修工事 14,450		
職員宿舎			エアコン設置工事 274				
実習棟							
家族宿泊棟							
設計	冷凍機(R-1)更新工事 1,029		外来棟増築及び改修等工事 34,744			設備改修工事 2,700	第1変電室トランス更新工事 3,672
	外科病棟改修及び増築工事 21,384						
外構工事等					駐車場舗装等 28,062		
敷地							
医療機器	169,184	227,313	301,794	353,450	199,226	501,696	404,903
備品	4,987	5,000	4,939	10,654	20,276	7,130	6,953
電話設置等							
工事事務費							
合計	291,269	545,816	386,427	911,512	299,006	536,053	520,121

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

（単位：千円）

区　分	年　次　別　内　訳						
	2	3	4	5	6	7	8
本　館	第一変電室トランス開閉器盤更新工事3,200						
	B棟加湿器更新工事 8,250						
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟							
設　計	ナースコール更新工事 2,420						
	外壁等改修工事 3,520						
外構工事等							
敷　地							
医療機器	252,986						
備　品	4,126						
電話設置等							
工事事務費							
合　計	274,502						

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

⑷ 付属設備

主なる付属設備一覧

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
熱源設備	ボイラー	2	炉筒煙管式ボイラー 蒸発量 3.6t/h 伝熱面積 32.9㎡ 最大使用蒸気圧 1MPa 燃料 A 重油
	危険物地下タンク	1	コロッケ式 A 重油 容量 36,000L
	純水製造装置	1	MASP-100 型 処理水量 6 ㎥/h × 100 ㎥/cycle
	冷凍機	1	蒸気炊二重効用吸収式冷凍機 冷凍能力 1,407kw (400RT) 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 4,032L/min 11kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 6,670L/min 45kw
		1	チリングユニット 冷凍能力 450kw 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,290L/min 3.7kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,541L/min11kw
	冷温水発生機	2	重油炊吸収式冷温水発生機 冷凍能力 703kw (200RT) 暖房能力 588kw 冷水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 2,016L/min 30kw 温水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 1,686L/min 30kw 冷却水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 3,340L/min 37kw
	冷却塔	4	角型開放超低騒音型 ①冷却能力 2,558kw × 1 送風機 5.5kw 口径 1,800mm × 3 ②冷却能力 537kw × 1 送風機 3.7kw 口径 1,600mm × 1 ③冷却能力 1,279kw × 2 送風機 3.7kw × 4 口径 1,600mm × 4
	冷水二次ポンプ	4	片吸込渦巻型 1,100L/min × 27m × 11kw
	熱交換器	2	温水暖房系統シェルアンドチューブ型 加熱能力 128kw × 2 温水ポンプ × 2 渦巻型 500L/min 5.5kw
空調設備	エアハンドリングユニット	19	水平型 × 11 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込 垂直型 × 8 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込
	バックアップ用エアコン	1	パッケージエアコン 冷房能力 80kw 暖房能 90kw 送風機 シロッコファン 255㎥ /min 1.5kw 押込ファン シロッコファン 255㎥ /min 3.7kw

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
空調設備	全熱交換機	1	床置型給排気ファン 5.5kw × 2
	外調機	13	別置き電気式 蒸気加湿器付き × 10 別置き電気式 蒸気加湿器なし × 4 水気化式 加湿器付き × 1
	ファンコイル	463	
	給気・排気ファン	59	片吸込多翼型 (うち 24 時間運転 16 台)
	エアコン等	138	冷房能力合計 2,085kw、暖房能力合計 1,640kw
	恒温庫ユニット	1	冷却能力 1.9kw
電気設備等	高圧受変電設備	1	本線、予備線による二系統受電 受電電圧 6.6kv 受電変圧器 × 9　2,425kVA 契約電力 1,200kwH
	副高圧変電設備	2	高圧変圧器 × 5　1,750KVA＋高圧変圧器 × 2　500KVA
	非常用自家発電設備	2	水冷ディーゼルエンジン 923PS 1,500rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 750KVA ガスタービンエンジン 600PS 53,000rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 500KVA
	無停電電源装置	1	容量 100KVA × 2　3 相 3 線式 105V-210V 鉛蓄電池 200Ah
	電気時計設備	1	パネル型水晶発信式 8 回線 子時計 30 個/1 回線
	電話交換機	1	デジタル電子交換機 最大内線 512 回線方式
	コードレス電話交換機	1	沖デジタルコードレスシステム 120
	放送設備	1	一般放送及び非常放送 40 系統 非常電源ユニット付き
昇降設備	低速エレベーター	9	寝台用 × 4　750kg 45m/min 荷物用 × 2　750〜900kg 45m/min 乗　用 × 2　480〜900kg 45〜60m/min 乗　用 850kg 45m/min
	ダムウェーター	3	B1F 〜2F 用 B1F 〜1F 用 100〜400kg 15〜30m/min
防災設備	スプリンクラー	1	900L/min × 65〜75m × 18.5kw ヘッド × 1,920 流水作動弁 × 11
	屋内消火栓	1	750L/min × 50m × 15kw 放水口 × 17 補助散水栓 × 26　60L/min

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
防災設備	自働火災報知器	843	GR 型アナログ式受信機 (蓄積式、自動試験機能付) 255 回線 煙感知式× 231 熱作動式× 489 定温式× 87
	排煙機	1	29,400 ㎥/min 120mmAg 15kw 排煙口× 19
	ハロゲン化物消火設備	1	ハロゲン 1301 ボンベ× 6 本
	二酸化炭素消火設備	1	CO_2 ボンベ 55kg× 22 本
	フード消火設備	2	栄養調理課厨房及び食堂厨房 強化液 3L×各 1
	火災通報装置	4	表示盤機能付 一般加入電話回線による押しボタン式
	防火水槽	1	40ton
衛生設備	上水受水槽	3	42t× 2 FRP 製 保温型 加圧給水装置 600L/min× 0.38MPa× 7.5kw× 2 71t× 1 FRP 製 保温型 2 槽式 加圧給水装置 640L/min× 0.48MPa× 3.7kw× 4
	井水受水槽	1	320t× 1 鉄筋コンクリート製 給水ポンプ 750L/min× 45m× 11kw× 2 加圧給水装置 1,200L/min× 0.34MPa× 11kw× 2 925L/min× 0.40MPa× 3.7kw× 4
	深井戸ポンプ	1	800L/min× 0.83MPa× 18.5kw
	貯湯槽	4	蒸気加熱式 4,000L× 2 60℃ 温水ボイラー加熱式 6,000L× 2 60℃
	温水ボイラー	2	真空式 2 回路式ボイラー 465kw (暖房 150kw、給湯 315kw) 伝熱面積 9.9㎡ 最高使用圧力 0.49MPa
	液酸タンク	1	4,942L 供給圧力 0.43MPa
	医療用ガスボンベ	16	笑気× 4 本 窒素× 8 本
	医療用圧空・吸引機	9	コンプレッサー 630L/min× 5.5kw× 3 台 コンプレッサー 605L/min× 5.5Kw× 2 台 吸引ポンプ 2,333L/min× 5.5Kw× 4 台
	合併処理浄化槽	2	長時間ばっき＋接触酸化方式 汚水量 145 ㎥/日 679 人槽 流量調整担体流動浮上ろ過式 汚水量 52 ㎥/日 743 人槽
	薬液処理槽	1	酸及びアルカリによる連続中和＋接触ばっき方式 日平均排水量 10 ㎥/日

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
衛生設備	RI 処理槽	1	BDO 分離接触ばっき＋接触ばっき方式 RI 貯留法＋希釈法 排水量 20 人 A系統 600L/日 B 系統 2,000L/日
	薬液処理槽	1	湿式 処理風量 19.9 ㎥ -27KPa 30kw 乾式 処理風量 10.5 ㎥ -38KPa 15kw

⑸ 重要物品

主なる医療機器一覧　　(購入価格 500 万円以上のもの)

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
薬局	散薬分包機 (全自動)	Ai-8080 (トーショー)	1	2016
検査	ヘモクロン (血液凝固計)	コアグレックス 800 (シスメックス)	1	2003
	脳波計	EEG-1518 他 (日本光電)	1	2004
	誘発電位筋電図検査装置	MEB-9204 (日本光電)	1	2005
	全自動生化学分析装置	JCA-BM6050 (日本光電)	1	2008
	血液自動分析機	XE-5000 (シスメックス)	1	2009
	全自動細菌検査システム	マイクロスキャン Walkway40 plus (シーメンス)	1	2009
	脳波計	EEG-1200 (日本光電)	1	2010
	全自動血液培養検査装置	VersaTREK240 (コージンバイオ)	1	2011
	フローサイトメーター (自動細胞解析装置)	FACS Canto Ⅱ (日本BD)	1	2012
	凍結切片作成装置	クリオスター NX70 (サーモフィッシャーサイエンティフィック)	1	2012
	超音波診断装置	Vivid E9 (GE ヘルスケアジャパン)	1	2012
	X 線照射装置	MBR-1520A-3 (日立メディコ)	1	2015
	密閉式自動固定包埋装置	ティシュー・テック VIP6 (サクラファインテックジャパン)	1	2015
	全自動輸血検査装置	WADiana Compact (カイノス)	1	2015
	脳波計	EEG-1218 (日本光電)	1	2017
	超音波診断装置	TUS-AI900 (キヤノンメディカルシステムズ)	1	2017
	生化学自動分析装置	JCA-ZS050 (日本電子)	1	2018
	脳波計	EEG-1214 (日本光電)	1	2018
	多項目自動血球分析装置	XN-1000 XN-350 (シスメックス)	1	2020
放射線	超音波診断装置	Aplio80 (東芝)	1	2004
	CR システム	REGIUS170 (コニカミノルタ)	2	2004
	循環器画像解析装置	CCIP-310/W (カテックス)	1	2005
	循環器診断・治療システム	循環器診断システムINFX-8000V/JB 他 (東芝メディカル)	1	2008
	一般撮影装置	Discovery XR650 (GE ヘルスケア)	1	2009
	外科用 X 線 TV 装置	OEC 9900 Elite (GE ヘルスケア)	1	2009
	デジタル X 線透視診断装置	CUREVISTA (日立メディコ)	1	2010
	全身用コンピュータ断層装置・PACS	SOMATOM Definition AS+ (シーメンス)	1	2011
	2 検出器型ガンマカメラ	Symbia Evo (シーメンス)	1	2015
	医用画像管理システム更新に伴う周辺機器	「テクマトリックス製 NOBORI サービス」導入に伴うもの	1	2017
	超伝導磁気共鳴画像診断装置 (MRI)	SmartPath to dStream for 1.5T	1	2019
	動画ネットワークシステム	Kada-Serve (フォトロン)	1	2019
栄養調理	オートクレーブ	NSS-009W (サクラ機械)	1	2004
	ユニット式調乳水製造装置	CMIFSC-501E-WA-230MC2HC1V (三田理化工業)	1	2017

分　　類	資　産　名　称	構　　造　　規　　格	数量	取得年度
ME (集中管理)	人工呼吸器 (新生児用)	ハミングⅤ (メトラン)	1	2003
	人工呼吸器 (新生児用)	ハミングⅤ (メトラン)	1	2004
ME (集中管理)	人工呼吸器 (小児用)	ハミングⅤ (メトラン)	4	2004
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングⅤ (メトラン)	1	2007
	酸素モニタ (非侵襲頭部)	NIRO-500 (浜松ホトニクス)	1	1997
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科)	1	1998
	血液浄化用装置	JUN-505 (ウベ循研)	1	2003
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングX (メトラン)	3	2010
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2011
	人工呼吸器	AVEA (米国ケアフュージュン 207)	2	2012
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2014
	人工心肺装置システム	メラ人工心肺装置HASⅡ (泉工医科工業)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2016
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2018
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2019
外　　来	超音波診断装置 (4D)	730Expert (GEBOLUSON)	1	2004
	超音波診断装置	Volson E8 (GE ヘルスケアジャパン)	1	2011
	皮膚良性血管病変治療用レーザー装置	Vbeam一式 (キャンデラ)	1	2012
	X 線撮影装置	X-era Smart3D F+ セファロ (ヨシダ)	1	2016
	歯科用キャビネット一式	(ヨシダ)	1	2016
	耳鼻科診察台一式	永島医科製	1	2019
	簡易診察室一式	陰圧式エアーテント一式 (ノルメカエイシア)	1	2020
	全身麻酔器 (歯科)	PRO-NEXTⅡ+s (アコマ医科)	1	2020
病　　棟	心電図監視システム	CNS8200　8 床用 (日本光電)	1	1993
	血液成分分離装置	AS-104 (フレゼニウス)	1	1997
	エンドスコープカメラ	MC-800E (日本光電)	1	1999
	セントラルモニタ (外科)	M3150B (フィリプス)	1	2004
	EOG 殺菌乾燥薫蒸装置	EOリメーカー (日本リメイク)	1	2004
	インファントウォーマ	V-505HL (アトム)	1	2005
	生体情報管理システム	CAP2420 (日本光電)	1	2004
	超音波診断装置	Nemio (東芝)	1	2004
	患者監視用モニタ	(フィリップス)	1	2004
	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	1	2005
	生体情報管理システム　ハードウェア更新	CAP2420 (日本光電)	1	2010
	赤外線酸素モニタ装置	NIRO-200NX (IMI)	1	2010
	超音波診断装置	HD11EX (フィリップス)	1	2010
	生体情報モニタリングシステム	MP50 外 (フィリップス)	1	2011
	セントラルモニタアップグレード、テレメータ更新	PIMS (フィリップス)	1	2012
	遠心型血液成分分離装置	コムテック 9008021 (アムコ)	1	2013
	超音波診断装置	iE33 (フィリップス)	1	2013
	母体胎児集中監視システム	(アトムメディカル)	1	2014
	超音波診断装置	Voluson E10 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	超音波診断装置	LOGIQ e Premium (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	シーリングペンダント (4 台)	TruPort5000-1465 ICU Solo (セントラルユニ)	1	2014
	患者情報管理システム	PIMS 機能改修 (フィリップス)	1	2014
	イエロー・レーザー光凝固装置	IQ577 (トーメーコーポレーション)	1	2014
	NICU 車	シビリアン (ベース車、日産自動車)	1	2014
	新生児用ファイバースコープ	M シリーズ (町田製作所)	1	2015
	分娩監視装置	FM-20 (アトムメディカル)	1	2016
	超音波診断装置	Voluson P8 (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2016

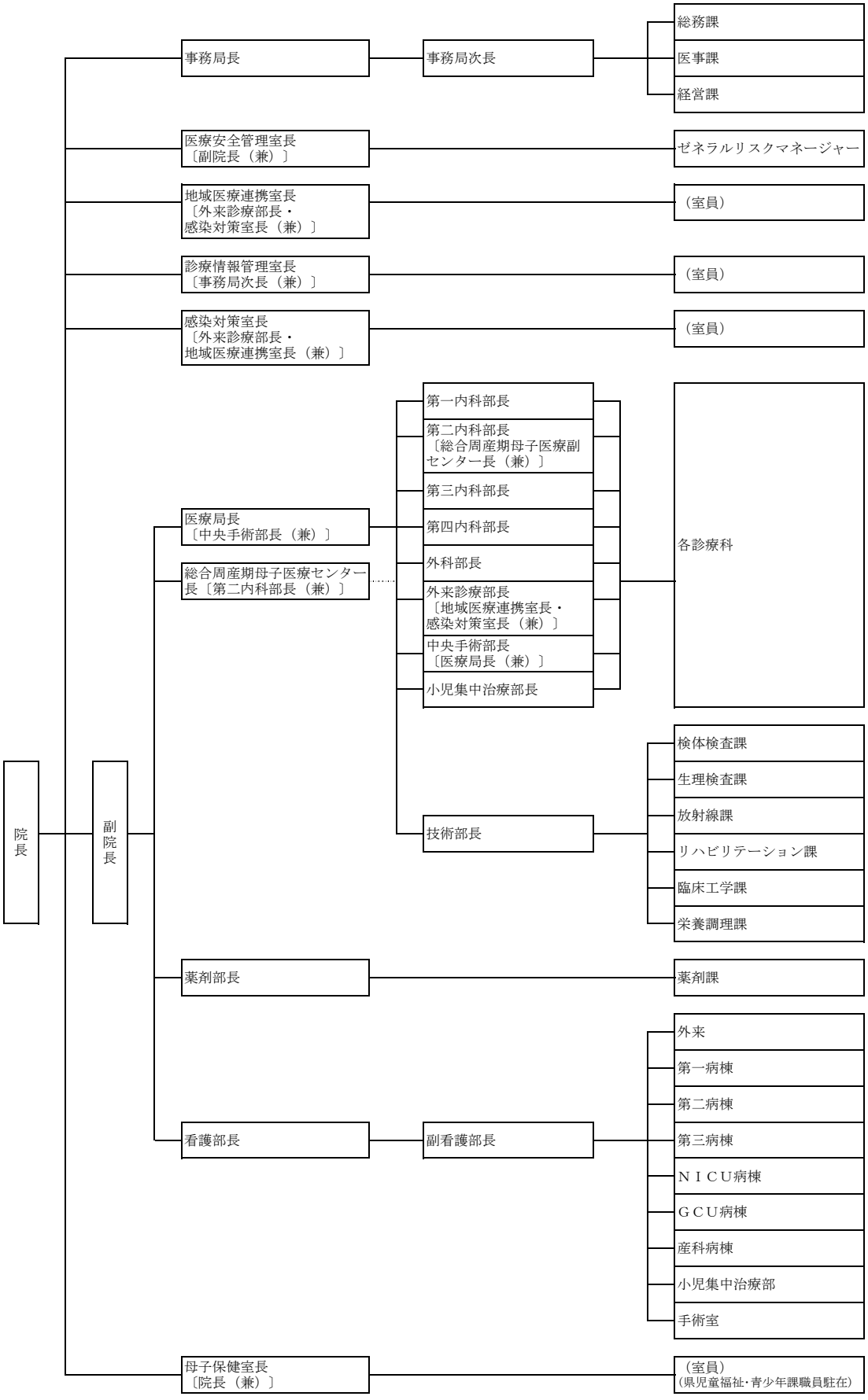
分　類	資　産　名　称	構　造　規　格	数量	取得年度
病　棟	産科病棟セントラルモニタ	PU-621R (日本光電)	1	2017
	NICU/GCU 生体情報モニタリングシステム	(フィリップス・ジャパン)	1	2017
	超音波診断装置	Voluson S8 (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	WEP-1450-Z02 外 (日本光電)	1	2020
I　C　U	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	4	2004
	PICU モニタリングシステム	(フィリップス)	1	2004
	血液ガス分析装置 (全自動)	スタットプロファイルCCX (ノババイオメディカル)	1	2004
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (ピューリタンベネット)	1	2009
	超音波診断装置	Vivid S6 (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	生体情報モニタリングシステム (1階)	(フィリップス・ジャパン)	1	2018
	超音波診断装置	Vivid S60N (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2020
	体外式膜型人工肺	UNIMO (泉工医科工業)	1	2020
	人工呼吸器	ベンチレータ 980 (コヴィディエンジャパン)	2	2020
手　術　室	全身麻酔器	エスティバ 7900ST PVSPro (GE 横川メディカルシステム)	1	2007
	超音波メス	スミソニックME-2400 キューサー (住友ベーク)	1	1997
	腹腔鏡手術器具	OTV-SX2 外 (オリンパス)	1	1998
	手術台 (電動油圧)	小児型特注 (ミズホ)	1	2000
	無影燈	Sola700+500 (ドレーゲル)	2	2004
	関節鏡システム	A70940A外 (オリンパス)	1	2004
	手術台 (整形外科用)	MOS-1300B (瑞穂医科)	1	2004
	気管支ファイバービデオスコープ一式	BF－XP260F (オリンパス)	1	2005
	体外循環用血液パラメータモニターシステム	CDI500 (テルモ)	1	2007
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科工業)	1	2007
	人工心肺装置データ記録システム	ORSYS (フィリップス)	1	2004
	術中経食道エコー検査装置	プロサウンドα 7 (アロカ製)	1	2008
	遠心型血液ポンプ	HAS-CFP (泉工医科工業)	1	2009
	全身麻酔装置	アバンスケアステーション (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2012
	腹腔鏡手術システム	1288-010-001 外 (日本ストライカー)	1	2014
	過酸化水素低温プラズマ滅菌器	ステラッド 100S (ジョンソン・エンド・ジョンソン)	1	2015
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2017
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2018
	サージカルナイフ	Domain (ガデリウス・メディカル)	1	2018
	電動式骨手術装置	日本ストライカー製	1	2019
	超音波診断装置	Affiniti 70G (フィリップス・ジャパン)	1	2020
	腹腔鏡カメラシステム	1688AIM (日本ストライカー)	1	2020
中央滅菌材料室	ウォッシャーディスインフェクター	WD8668EW (GETINGE)	1	2017
	小型高圧蒸気滅菌器	HS33 (GETINGE)	1	2017
	高圧蒸気滅菌器	VSCH-G12WNR (サクラ精機)	1	2018
臨床研究室	DNA シーケンサ	ジェネティックアナライザ (アプライドバイオシステム社)	1	2005
	光分析測定装置マルチプレートリーダ	1420ARVO MX-flad (パーキンエルマージャパン)	1	2005
情報システム	カルテ管理検索システム装置	システマトリーブ (イトーキ)	1	2004
	カルテ管理検索システム装置　制御機器更新	(イトーキ)	1	2012
	総合医療情報システム (電子カルテ導入)	(富士通)	1	2012
	電子カルテデータ統合分析システム	データウェアハウス (富士通)	1	2013
	診断書作成支援システム	MEDI-Papyrus (ニッセイ情報テクノロジー)	1	2015
	医事会計システム	HOPE SX-R (富士通)	1	2016
	監視モニターシステム	(カリーナシステム)	1	2016
	NICU 患者情報管理システム	PIMS (フィリップスエレクトロニクスジャパン)	1	2016

分　　類	資　産　名　称	構　　造　　規　　格	数量	取得年度
情報システム	PICU 患者情報管理システム	PIMS (フィリップスエレクトロニクスジャパン)	1	2016
	放射線情報システム	Dr.View/RIS (インフォコム)	1	2016
	電子カルテシステム更新	HOPE EGMAIN-GX (富士通)	1	2018
	手術部門患者情報システム	Fortec ORSYS (フィリップス)	1	2018
	栄養管理システム	栄養管理システムVer.6 (SFC 新潟)	1	2019
	歯科電子カルテシステム	オプテック製	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2019
	ネットワーク機器群	Cisco 社製	1	2019
	総合臨床検査システム	CLINILAN Series (エイアンドティー)	1	2020
	感染管理システム	CLINILAN IC3 (エイアンドティー)	1	2020

3. 組　織

(1) 機　構

(令和 3 年 3 月 31 日現在)



⑵ 人　事

① 役職者名簿

職名	R3.3.31	R2.3.31	H31.3.31	H30.3.31	H29.3.31	H28.3.31
院長	外松　学	外松　学	外松　学	丸山健一	丸山健一	丸山健一
副院長	小林富男	小林富男	小林富男	外松　学	外松　学	外松　学
事務局長	今井正浩	今井正浩	今井正浩	原澤　隆	原澤　隆	三ツ木敦男
事務局次長	吉澤隆雄	吉澤隆雄	井田　浩	井田　浩	古沢実知也	古沢実知也
総務課長	篠澤雅之	篠澤雅之	篠澤雅之	篠澤雅之	六本木則和	六本木則和
医事課長	岡島正樹	岡島正樹	猪岡忠仁	猪岡忠仁	能勢光祐	能勢光祐
経営課長	園田　宏	岡崎正弘	岡崎正弘	岡崎正弘	関江康宏	関江康宏
総合周産期母子医療センター長	丸山憲一	（院長兼務）	（院長兼務）	髙木　剛	髙木　剛	髙木　剛
医療局長	浜島昭人	浜島昭人	浜島昭人	小林富男	小林富男	小林富男
第一内科部長	椎原　隆	椎原　隆	椎原　隆	椎原　隆	－	－
第二内科部長	（総合周産期母子医療センター長兼務）	丸山憲一	丸山憲一	丸山憲一	丸山憲一	丸山憲一
総合周産期母子医療副センター長	—	（第二内科部長兼務）	（第二内科部長兼務）	－	－	－
第三内科部長	河崎裕英	河崎裕英	朴　明子	朴　明子	朴　明子	朴　明子
第四内科部長	渡辺美緒	渡辺美緒	—	－	－	－
外科部長	—	富沢仙一	富沢仙一	富沢仙一	富沢仙一	富沢仙一
産科部長	—	—	—	(周産期センター長兼務)	(周産期センター長兼務)	(周産期センター長兼務)
外来診療部長	山田佳之	山田佳之	山田佳之	山田佳之	山田佳之	山田佳之
中央手術部長	（医療局長兼務）	（医療局長兼務）	（医療局長兼務）	浜島昭人	浜島昭人	浜島昭人
中央診療部長	—	—	—	－	畠山信逸	畠山信逸
小児集中治療部長	下山伸哉	下山伸哉	下山伸哉	下山伸哉	下山伸哉	(医療局長兼務)
部長	西　明	西　明	西　明	宮本隆司	宮本隆司	宮本隆司
部長	木下　樹	木下　樹	木下　樹	西　明	椎原　隆	椎原　隆
部長	浅井伸治	浅井伸治	浅井伸治	木下　樹	西　明	西　明
部長	岡　徳彦	岡　徳彦	渡辺美緒	浅井伸治	木下　樹	井垣純子
部長	池田健太郎	池田健太郎	岡　徳彦	渡辺美緒	浅井伸治	木下　樹
部長	道和百合	道和百合	池田健太郎	岡　徳彦	渡辺美緒	浅井伸治
部長	小泉亜矢	小泉亜矢	道和百合	友保貴博	山本英輝	渡辺美緒
部長	京谷琢治	松本直樹	小泉亜矢	京谷琢治	大久保　淳	鮫島希代子
部長	森田孝次	山崎聡子	松本直樹	池田健太郎	友保貴博	山本英輝
部長	松本直樹	市之宮健二	山崎聡子	道和百合	京谷琢治	大久保　淳
部長	山崎聡子	木暮さやか	市之宮健二	小泉亜矢	道和百合	下山伸哉
部長	野村　滋	友保貴博	木暮さやか	松本直樹	池田健太郎	本川真美加
部長	福田一代	福田一代	友保貴博	井上文孝	小泉亜矢	鈴木　完
部長	市之宮健二	田中健佑	福田一代	山崎聡子	松本直樹	井上貴博
部長	木暮さやか	廣木　茜	田中健佑	福田一代	井上文孝	京谷琢治
部長	廣木　茜	髙澤慎也	廣木　茜	市之宮健二	山内聡子	池田健太郎
部長	髙澤慎也	清水彰彦	髙澤慎也	木暮さやか	福田一代	小泉亜矢
部長	清水彰彦	山﨑　優	清水彰彦	髙澤慎也	－	道和百合
部長	中島公子	山口　有	山﨑　優	廣木　茜	－	松本直樹
部長	山﨑　優	野村　滋	山口　有	－	－	－
部長	鏑木浩太	佐藤達也	—	－	－	－
部長	山口　有	森田孝次	—	－	－	－
部長	浅見雄司	—	—	－	－	－
医長	新井修平	鏑木浩太	佐藤達也	佐藤達也	市之宮健二	井上文孝
医長	林　秀憲	新井修平	鏑木浩太	山﨑　優	田中健佑	山内聡子
医長	清水真理子	浅見雄司	宮川陽一	川島　淳	木暮さやか	市之宮健二
医長	大和玄季	黒岩陽介	黒岩陽介	浅見雄司	廣木　茜	荒木夏枝
医長	井上崇道	林　秀憲	清水真理子	鏑木浩太	髙澤慎也	田中健佑
医長	大嶋　瑛	清水真理子	大和玄季	林　秀憲	佐藤達也	木暮さやか
医長	鏑木多映子	大和玄季	新井修平	黒岩陽介	田口雅基	髙澤慎也
医長	清水有紀	大嶋　瑛	松田知子	宮川陽一	笹原聡豊	中島公子
医長	坂本　崇	鏑木多映子	林　秀憲	鎌　裕一	山﨑　優	佐藤達也
医長	—	髙本尚弘	大嶋　瑛	新井修平	川島　淳	田口雅基
医長	—	清水有紀	髙本尚弘	－	浅見雄司	中尾真理子
医長	—	—	鏑木多映子	－	岡庭　隼	笹原聡豊
医長	—	—	南雲一洋	－	－	－

職名	R3.3.31	R2.3.31	H31.3.31	H30.3.31	H29.3.31	H28.3.31
技師	飯野彩奈	飯野彩奈	飯野彩奈	大嶋瑛	宮川陽一	山﨑優
技師	佐々木淑恵	田中亜由子	—	—	鎌裕一	有馬大輔
技師	則内友博	道﨑護	—	—	新井修平	浅見雄司
技師	星野智	—	—	—	寺川勝也	宮地那実
技師	菊地健太	—	—	—	—	—
技師	村上麻耶	—	—	—	—	—
技術部長	富岡千鶴子	富岡千鶴子	竹内浩司	竹内浩司	竹内浩司	竹内浩司
検体検査課長	神山晴美	神山晴美	富岡千鶴子	富岡千鶴子	長井綾子	長井綾子
生理検査課長	田中伸久	田中伸久	田中伸久	田中伸久	田中伸久	若井公子
放射線課長	佐々木保	佐々木保	都丸健一	都丸健一	都丸健一	都丸健一
リハビリテーション課長	臼田由美子	臼田由美子	臼田由美子	臼田由美子	臼田由美子	臼田由美子
栄養調理課長	島田純子	島田純子	神保裕子	神保裕子	神保裕子	神保裕子
臨床工学課長	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦	—	—
薬剤部長	藤波洋征	橋場尚子	橋場尚子	橋場尚子	橋場尚子	木暮政惠
薬剤課長	伊藤理恵	藤波洋征	藤波洋征	藤波洋征	藤波洋征	橋場尚子
看護部長	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保	下田あい子	下田あい子
副看護部長	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	清水奈保	飯塚もと子
GRM	福田円	福田円	福田円	福田円	亘啓子	亘啓子
補佐(看護師長)	丸山美幸	丸山美幸	丸山美幸	丸山美幸	都丸八重子	都丸八重子
補佐(看護師長)	—	—	武井貴代美	武井貴代美	丸山美幸	清水奈保
看護師長	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	武井貴代美	武井貴代美
看護師長	浅野香	髙橋敦子	髙橋敦子	髙橋敦子	高橋敦子	高橋敦子
看護師長	村上容子	片貝まさみ	片貝まさみ	片貝まさみ	片貝まさみ	丸山美幸
看護師長	石坂泰子	浅野香	金井みち子	金井みち子	宮川祐子	片貝まさみ
看護師長	福島富美子	村上容子	浅野香	浅野香	金井みち子	宮川祐子
看護師長	大平典子	石坂泰子	村上容子	村上容子	福田円	金井みち子
看護師長	黒田佐織	福島富美子	石坂泰子	石坂泰子	石坂泰子	福田円
看護師長	北爪幸子	大平典子	福島富美子	福島富美子	福島富美子	石坂泰子
看護師長	齊藤織恵	黒田佐織	大平典子	大平典子	村上容子	福島富美子
看護師長	角田愉香里	齊藤織恵	—	—	—	—
母子保健課長	髙橋雪子	髙橋雪子	髙橋雪子	髙橋雪子	増田さゆり	宮内紀代美

② 職種別・部門別職員配置状況

令和2年4月1日現在

区分	定数	配置数	部門別内訳																					
			事務局	医局							検体検査課	生理検査課	放射線課	リハビリテーション課	栄養調理課	薬剤課	看護部	臨床工学課	医療安全管理室	感染対策室	歯科衛生士室	地域医療連携室	母子保健室
				小児科	小児外科	新生児科	産科	麻酔科	放射線科	歯科													
◎職員																							
医師	45	44		20	10	6	4	4															
歯科医師	2	2								2													
事務	13	15	15																				
臨床検査技師	11	12									7	5											
診療放射線技師	6	6											6										
理学療法士	4	4												4									
栄養士	3	4													4								
調理師	4	4													4								
薬剤師	8	8																					
看護師	191	202														200		1	1				
助産師	18	18														18							
臨床工学技士	4	4															4						
歯科衛生士	2	2																		2			
作業療法士	1	1												1									
言語聴覚士	1	2												2									
MSW(医療ソーシャルワーカー)	1	1																			1		
(保健師)		(1)																				(1)	
計	314	329	15	20	10	6	4	4	0	2	7	5	6	7	8	218	4	1	1	2	1	0	
◎再任用職員、実務研修生及び臨時雇用者																							
医師		7		4	1			1	1														
歯科医師		1								1													
補助員(事務)		7	7																				
補助員(医師事務)		7	7																				
診療放射線技師		4											4										
臨床検査技師		9									5	4											
理学療法士		1												1									
作業療法士		2												2									
言語聴覚士		0																					
栄養士		1													1								
調理師		1													1								
歯科衛生士		3																		3			
薬剤師		2																					
看護師		16														16							
助産師		1														1							
保育士		7														7							
看護助手		18														18							
保健師		1																				1	
臨床心理士		2																				2	
MSW(医療ソーシャルワーカー)		1																			1		
警備		1	1																				
補助員(電気技師)		1	1																				
補助員(研究)		0																					
補助員(図書司書)		1	1																				
補助員(医療安全管理室)		1																1					
受付補助		2																					
計		97	17	4	1	0	0	1	1	1	5	4	4	3	2	42	0	1	0	3	1	3	

※（ ）は外数

4. 運　営

⑴ 診療制度

当センターは、県内唯一の県立小児医療専門病院であるとともに総合周産期母子医療センターに認定されている。診療は、二次・三次救急を原則とし、未熟児・新生児・乳児、幼児、学童並びに胎児に異常が疑われる母胎を主な対象として、医療機関・保健福祉事務所等からの紹介予約制を基本としている。

ア 紹介予約制

患者の紹介予約は、医療機関・保健福祉事務所等から FAX 等を利用して行われる他、紹介状をもらった患者家族からの電話申込みによる。

当センターでは、紹介内容から患者の症状等を判断し、急を要する場合を除いて患者の都合のよい日時に予約日を指定する方法を採っている。なお、紹介医療機関等に対しては、診療後必ず診療結果を報告することとしている。

イ 外来診療

診療科及び診療時間は、次のとおりである。(令和 3 年 3 月 1 日現在)

◎内科系

○総合内科	月～金曜 (9 時～17 時)
○神経内科	月～金曜 (9 時～17 時)
○循環器科	月・水曜 (9 時～15 時 30 分)、火曜 (13 時 00 分～17 時)、金曜 (9 時～15 時)
○血液腫瘍科	月～水曜 (14 時～17 時)
○腎臓内科	第 1・3・5 火曜 (13 時 30 分～16 時)、第 2・4 木曜 (13 時～17 時)、第 2・4 金曜 (13 時～16 時)
○アレルギー感染免疫・呼吸器科	月・火・木・金曜 (13 時～17 時、14 時～14 時 30 分: 初診)、第 1・3・5 水曜 (9 時～17 時、14 時～14 時 30 分: 初診) 第 2・4 水曜 (13 時～17 時、14 時～14 時 30 分: 初診)

◎外科系

○小児外科	火曜 (9 時～17 時)、木曜 (9 時～12 時)、金曜 (13 時～17 時、13 時～15 時 30 分: 初診)
○心臓血管外科	月曜 (14 時～17 時)、水曜 (13 時～17 時)、金曜 (9 時 30 分～12 時)
○形成外科	月・木曜 (9 時～17 時: 初診、9 時～10 時)
○整形外科	月・水曜 (9 時～17 時: 午前再診、午後初診)、金曜 (9 時～12 時、13 時～14 時: リハビリテーション外来)
○脳神経外科	第 2 火曜 (13 時 30 分～16 時)

◎総合周産期母子医療センター

○新生児科	月・水・木・金曜 (13 時～17 時) 第 2・4 火曜 (9 時～12 時)
○産科	月～金曜 (9 時～17 時、14 時～16 時: 初診)
○胎児心臓外来	木曜 (9 時～12 時)
○胎児超音波	

スクリーニング外来	水・木曜 (13 時～17 時)、金曜 (9 時～12 時)
○母乳外来	月～金曜 (9 時～17 時)
◎特殊専門外来	
○麻酔科	月曜 (13 時～17 時)、火・木・金曜 (9 時～17 時)
○放射線科	月曜～金曜 (9 時～17 時)
○遺伝科	月曜 (9 時～12 時)、金曜 (9 時～17 時)
○歯科・障害児歯科	月曜～金曜 (9 時～17 時)
○耳鼻咽喉科	月曜 (15 時～17 時)、第 1・3・5 水曜 (9 時～11 時)
○眼科	第 2・4 水曜 (9 時～12 時)
○内分泌代謝科	水曜 (14 時～17 時)

ウ 救急対応

当センターは、救急告示病院の指定を受けていないが、医療機関からの紹介に基づく第 2 次・第 3 次救急対策を行っている。

緊急対応としては、診療時間外における管理当直として医師 1 名、看護師 1 名があたり、さらに必要な場合は電話によるオンコールで医療従事者の確保を図り、昼夜いつでも診療が可能な体制を整えている。

また、未熟児・新生児を治療しながら搬送する NICU 車 (新生児救急車) は、主に産科から病棟へ直接電話の依頼により出動し、24 時間体制で対応している。

平成 13 年度、休日及び夜間における子供の救急医療体制を整備するため、小児科医及び病床等の確保を図る小児救急支援事業がスタート、北毛地区では同年 9 月から、当院、利根中央病院、原町赤十字病院の 3 病院が交代で協力することでスタートしたが、現在は当院と利根中央病院の 2 病院が交代で行っている。

エ 診療録管理等

診療録は外来・入院それぞれ別冊で管理するが、登録番号はともに共通の永久番号制で、保存方法は患者番号の下 2 桁が同じファイルを同一グループとして順次配架するターミナル・デジット方式を採用している。

また、病院内の組織横断的な診療情報管理を担うため、平成 18 年度から診療情報管理室を設置するとともに、同年末に入院診療情報管理システムを導入し、診療録管理・各種診療統計業務等の効率化を図った。

オ 院内総合医療情報システム

平成 19 年度、総合医療情報システムの入替更新に取り組み、11 月医事会計システム先行稼働、平成 20 年 2 月 23 日 (外来診療初日は 25 日) にオーダリングシステムの第 1 次の運用を開始した。

平成 20 年度は 5 月 1 日に第二稼働として、放射線、生理・病理検査オーダが稼働した。6 月 3 日、第三次稼働として注射オーダ稼働、12 月には手術予約が稼働し、当初計画したオーダリングシステムの全てが無事稼働した。

平成 22 年度は、PICU 棟の PIMS システム及び産科の患者情報管理システムのシステム機器更新を実施した。

平成 24 年度は、平成 25 年 2 月 24 日、総合医療情報システム (電子カルテ) 及び看護支援システ

ムが稼働し、カルテの判読性・検索性の向上を図った。

平成25年度は、歯科電子カルテシステムの整備を行い、平成25年9月2日から運用を開始した。

平成26年度は、臨床検査システムの更新を行い、平成26年12月1日から、順次、運用を開始した。

平成 28 年度は、NICU 及び PICU の患者情報管理システム、放射線情報システムを更新した。

平成 29 年度は、医用画像管理システム (PACS) の更新を行い、クラウド型システムを導入した。

平成 30 年度は、総合医療情報システム (電子カルテ) を更新し、手術部門患者情報システムを導入した。

令和元年度は、歯科電子カルテシステムの更新を行った。

令和 2 年度は、臨床検査システムを更新し、感染管理システムを導入した。

カ 院内ボランティア

複数のボランティア団体の活動により、患者や家族の快適な環境と楽しい時間を提供している。

令和 2 年度には、新型コロナ感染症の流行に伴い、多くの活動が休止を余儀なくされた。

○「おもちゃ図書館どんぐり」(平成 9 年 10 月～)

月 2 回 (第 2・4 金曜日)、エントランスホールにおいて、診察待ちの子ども達におもちゃを貸し出し遊び相手となる活動。

○「ひまわり会」(平成 12 年 4 月～)

毎週火曜日、慢性疾患児家族宿泊施設の管理として、宿泊棟の清掃やノート等を利用しての相談活動。

○小児医療センターアメニティー研究会「楓の実」(平成 13 年 3 月～)

院内チャリティバザーやクリスマス会の開催による入院患者・家族の交流活動。

○「日本クリニクラウン協会」(平成 17 年 10 月～)

月 1 回 (第 4 水曜日)、長期入院患者を励ますためのクリニクラウン (臨床道化師) による病棟訪問。

○「お話しの風」(平成 20 年 10 月～)

月に 2 日、病棟、外科外来での絵本の読み聞かせ等の活動。

○「花壇ボランティアひまわり」(平成 22 年 4 月～)

月 1 回程度、院内の花壇、中庭の花弁、植栽の管理。

○音楽ボランティア (平成 24 年 1 月～)

月 1 回 (水曜午後)、音楽療法士による病棟やエントランスホール (平成 25 年度～) 等での楽器演奏、入院患者との音楽交流。

キ 臨床研修

当院は新臨床研修制度の協力型病院として平成 17 年度から小児科の研修を行う初期臨床研修医を受け入れている。当院は内科系だけでも三つの病棟を擁しているため、研修方法は研修医の希望に基づいて各病棟をローテートする方法で行っている。なお、希望者には一定期間、小児外科、形成外科、整形外科、心臓血管外科、産科の研修も許可している。

令和 2 年度　職員のメディアへの出演実績

年　月　日	番　組　名		出演者氏名		テ　ー　マ
令和 2 年 11 月 10 日	tsulunos		アレルギー感染免疫科部長	清水彰彦	講演「小児の新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)「その症状や感染対策」」

⑵ 院内会議の状況

会　議　の　名　称	会　議　の　目　的	開催状況
管理職会議	病院の基本方針等の協議・決定	月 1 回
管理診療会議	病院管理運営事項の協議･検討､各部門業務の連絡調整	月 1 回
予算委員会	予算に関する協議・決定	随　時
医療機器等購入審査委員会	医療機器等購入の選考・審査	随　時
経営検討会議	病院経営に関する協議・決定	月 1 回
地域医療連携室運営委員会	地域の医療機関との連絡調整	随　時
在宅療養支援委員会	在宅療養に関する支援策の検討	月 1 回
臨床試験審査委員会	臨床試験の妥当性の審査	随　時
倫理委員会	医療行為に係る倫理的検討	随　時
利益相反委員会	臨床研究に係る利益相反マネジメントの審議	随　時
医療安全管理委員会	医療安全管理対策を総合的に企画、実施	月 1 回
BLS 推進委員会	BLS の推進を計画・実施	月 1 回
リスクマネジメント委員会	医療安全管理に関する小委員会	月 1 回
救急カート WG	救急カートに関する検討	随　時
診療関連死原因検討委員会	死亡原因が医療事故又は合併症のいずれかを判定	月 1 回
診療情報管理委員会	診療情報提供に関する検討	随　時
DPC コーディング委員会	適切なコーディングに関する討議	年 2 回
薬事委員会	新薬・同種同効薬品の採用・選択等の検討	月 1 回
労働安全衛生委員会	職員の労働安全衛生に関する協議・予防接種の実施	月 1 回
学術委員会	臨床研究を含めた学術活動の活性化	随　時
臨床研究室運営委員会	臨床研究室の運営・管理	随　時
自主研究事業委員会	自主研究研修事業の審査	随　時
海外学会等出席者選考委員会	海外学会等出席者の選考	随　時
年報編集委員会	病院年報編集の協議	随　時
図書委員会	図書の購入検討・管理	随　時
臨床検査委員会	精度管理報告､検査項目･院内検査の機器・試薬等検討	3か月1回
輸血療法委員会	輸血業務の適正化に関する検討事項､各部門の連絡調整	年 6 回
院内感染対策委員会	院内感染防止対策の協議	月 1 回
ICT	院内感染防止対策マニュアルの検討	月 2 回
総合医療情報システム委員会	総合医療情報システムの課題検討	随　時
サービス向上委員会	患者サービス向上に係る取り組みの検討	年 4 回
外来診療委員会	外来診療各科の連絡調整	随　時
総合周産期母子医療センター運営委員会	総合周産期母子医療センターの運営に関する検討	随　時
中央手術部運営委員会	施設・設備に関する事項及び診療各科との連絡調整	隔月 1 回
医局診療会議	診療各科の連絡調整	月 1 回
子ども虐待防止チーム委員会	子ども虐待の緊急対応に関する対応方針の決定	随　時
要支援事例検討等委員会	要支援事例の情報共有と具体的支援策を検討	隔月 1 回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発症予防、処置等の対策を検討	月 1 回
栄養委員会	栄養業務の改善等の検討	年 4 回
NST	NST 実施にかかる協議・検討	随　時
診療材料検討委員会	診療材料購入等に関する検討	随　時
臨床研修委員会	研修医師の指導等に関する検討	随　時
保険診療委員会	診療報酬審査減の再審査の検討	随　時
クリニカルパス委員会	クリニカルパス導入に関する検討	随　時
ホームページ委員会	ホームページの編集	随　時
防災対策委員会	防災対策・訓練計画等の検討	年 2 回
医療機器安全管理委員会	ME 機器の維持管理、購入の検討及び操作法の教育	随　時
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全確保、良質な患者サービスの提供	年 1 回
小児集中治療部運営委員会	PICU の運営に関する方針等の協議・調整・決定	年 4 回
セキュリティ対策委員会	院内防犯体制、情報セキュリティ等の検討	随　時
ドクタークラーク委員会	医師事務作業補助者の配置・業務内容等の検討	随　時
省エネ・節電対策委員会	省エネ対策等の検討	随　時
緩和ケア委員会	緩和ケアの計画策定・教育・情報収集等の検討	年 2 回
緩和ケアWG	緩和ケアの症例検討	月 1 回
母子保健室運営委員会	母子保健室の運営に関する検討	随　時
治験管理委員会	IRB が審査する事項以外の治験の検討	随　時
臓器提供対応委員会	臓器移植提供体制の検討	随　時

令和２年度のあゆみ

令和２年	4月1日	新規採用者辞令交付式
	13日	管理職会議
	22日	管理診療会議(書面)
	5月27日	管理診療会議(書面)
	6月9日	管理職会議(書面)
	24日	管理診療会議(書面)
	7月21日	管理職会議
	31日	本監査(病院局総務課)・例月現金出納検査
	9月1日	医療安全研修
	8日	管理職会議
	23日	管理診療会議
	10月1日	消防訓練(第１回)
	28日	管理診療会議
	11月17日	例月現金出納検査
	18日	医療安全講演会
	25日	管理診療会議
	12月15日	管理職会議
	23日	管理診療会議
令和3年	1月12日	管理職会議
	17日	医療安全研修
	19日	監査委員事務局事務監査
	27日	管理診療会議
	2月9日	管理職会議
	27日	管理診療会議
	3月9日	管理職会議
	18日	第１回在宅療養支援委員会　勉強会
	24日	管理診療会議
	25日	消防訓練(第２回)
	31日	退職者辞令交付式

職 員 名 簿

令和３年４月１日現在

職名	氏名
院　長	外松　学
副院長	小林富男
顧　問	林　泰秀
顧　問	丸山健一
◎事務局	
事務局長	今井正浩
次　長	和田裕幸
〇総務課	
課　長	田村英昭
主　幹	高尾　淳
主　事	船山　晋
主　事	粕川雅人
〇医事課	
課　長	福島義明
主　任	籾山兼大
主　事	蜂須　愛
〇経営課	
課　長	園田　宏
主任	佐藤隆亮
主　任	猪熊茉里奈
主　事	井上陸斗
◎総合周産期母子医療センター	
センター長 (兼)	丸山憲一
◎医療安全管理室	
室長 (兼)	浜島昭人
看護師長（ＧＲＭ）	大平典子
主事 (兼)	和田裕幸
主事 (兼)	田村英昭
技師 (兼)	藤波洋征
◎地域医療連携室	
室長 (兼)	野村　滋
主任	瀬下明日香
技師 (兼)	宮川裕子
技師 (兼)	浅野　香
主事 (兼)	福島義明
主事 (兼)	籾山兼大
主事 (兼)	蜂須　愛
◎診療情報管理室	
室長 (兼)	和田裕幸
主事 (兼)	福島義明
主事 (兼)	籾山兼大
主事 (兼)	蜂須　愛
◎感染対策室	
室　長	清水彰彦
看護師長	北爪幸子
技師 (兼)	小泉亜矢
技師 (兼)	佐藤敦子
技師 (兼)	高橋大輔
◎医療局	
院長補佐 (医療局長)	浜島昭人
第二内科部長 (兼)	丸山憲一
第一内科部長	椎原　隆
第三内科部長	河崎裕英
第四内科部長	渡辺美緒
麻酔科部長 (兼)	志賀達哉
小児集中治療部長	下山伸哉
中央手術部長	浅井伸治
外来診療部長	野村　滋

職名	氏名
部長 (感染対策室長)	清水彰彦
部　長	西　明
部　長	木下　樹
部　長	岡村　達
部　長	道和百合
部　長	池田健太郎
部　長	小泉亜矢
部　長	京谷琢治
部　長	森田孝次
部　長	松本直樹
部　長	福田一代
部　長	山崎聡子
部　長	市之宮健二
部　長	木暮さやか
部　長	廣木　茜
部　長	諏訪裕人
部　長	中島公子
部　長	山口　有
部　長	鏑木浩太
部　長	清水真理子
部　長	大和玄季
部　長	浅見雄司
部　長	新井修平
部　長	五十嵐昭宏
部　長	宮川陽一
部　長	井上崇道
医　長	大嶋　瑛
医　長	鏑木多映子
医　長	内山陽介
医　長	清水有紀
医　長	坂本　崇
医　長	松永慶廉
医　長	佐々木淑恵
医　長	則内友博
医　長	星野　智
医　長	齊藤　景
医　長	千葉真子
技　師	村上麻耶
◎技術部	
技術部長	富岡千鶴子
〇検体検査課	
課　長	神山晴美
副主幹	田原貴子
主　任	松井重憲
技　師	服部沙耶
技　師	新井菜津子
〇生理検査課	
課　長	田中伸久
主　幹	佐藤敦子
主　幹	丸山裕子
技　師	諸岡　望
技　師	齋木美穂
〇放射線課	
技師長 (課長)	佐々木　保
副主幹	清水宏史
主　任	木村壮平
主　任	茂木彰子
技　師	吉田有希
技　師	下田寛貴
〇リハビリテーション課	
技師長 (課長)	臼田由美子
主　幹	熊丸めぐみ
副主幹	代　美穂
副主幹	鳥越和哉

職名	氏名
主　任	六本木温子
主　任	松下郁江
〇歯科衛生士室	
主　任	瀬下愛子
技　師	楠　幸代
〇栄養調理課	
課　長	島田純子
主　査	瀬間祐子
主　査	狩野知子
主　査	萩原勝代
主　任	原田明菜
技　師	河野美咲
〇臨床工学課	
課　長	関　明彦
主　幹	深町直之
主　任	下田隼人
主　任	髙橋祐樹
◎薬剤部	
薬剤部長	藤波洋征
〇薬剤課	
課　長	伊藤理恵
主　幹	佐藤真理子
主　幹	高橋和子
副主幹	髙橋大輔
主　任	高山広志
技　師	新井咲紀
技　師	髙木身和
◎看護部	
看護部長	清水奈保
副看護部長	都丸八重子
看護師長	浅野　香
主　任	大山朋美
主　任	佐藤宏美
主　任	伊東修子
主　任	石川さやか
主　任	尾崎沙織
主　任	齊藤麻由美
主　任	塩谷　愛
主　任	勝山ゆかり
主　任	長島あゆみ
主　任	星野麗菜
主　任	髙橋沙織
主　任	齋藤理沙
技　師	金子紗也加
技　師	高橋夏姫
技　師	屋島越子
技　師	戸川里紗
技　師	阿部　栞
技　師	原田みさき
技　師	新谷夢菜
技　師	田中瑞季
〇外来	
看護師長	宮川祐子
主幹 (副師長)	瀬谷由美
主幹 (副師長)	佐川有子
主　幹	高野朝乃
主　任	松本直子
副主幹専門員	本多喜代美
〇手術室	
看護師長	村上容子
主幹 (副師長)	小林育代
副主幹 (副師長)	黒岩　徹

職名	氏名
副主幹	笠原寿絵
主任	齊藤春恵
主任	日景智行
主任	川浦秀明
主任	髙橋健一
主任	磯部博樹
主任	熊谷扶美子
主任	髙橋ゆり菜
○第一病棟	
看護師長	小林志のぶ
主幹 (副師長)	冨澤はるみ
主幹 (副師長)	狩野由紀
副主幹 (副師長)	殿木裕美
主幹	山本由記子
主幹	鈴木絹代
主幹	木暮奈櫻
主任	平田裕香
主任	都丸真由美
主任	川浦彰子
主任	髙橋克典
主任	岡田美和
主任	吉田智和
主任	岩井淳
主任	轟木由加里
主任	山﨑綾美
主任	石北淳美
主任	飯島亜希子
主任	阿部真菜美
主任	齋藤理沙
主任	水落宏彰
主任	飯塚卓也
技師	須田慎也
技師	石田芽生
技師	宮嶋佑紀
技師	山岸未侑
技師	藤井勇気
技師	小林萌伽
技師	荒川実穂
○第二病棟	
看護師長	石坂泰子
主幹 (副師長)	亀井和広
主幹 (副師長)	星山友絵
主任 (副師長)	金子友香
主幹	眞下茂美
主幹	青木郁子
主任	鳥山和久
主任	大須智恵
主任	佐藤和美
主任	大崎育子
主任	髙橋裕也
主任	小野千夏
主任	倉持有紀子
主任	近藤龍平
主任	狩野ひかる
技師	原田みさき
技師	馬場南々海
技師	新谷夢菜
技師	七五三木大樹
技師	青木優弥
技師	吉田知紗
技師	津久井大晟
技師	齋木梨佐
○第三病棟	
看護師長	角田愉香理
主幹 (副師長)	堤万希子
主幹 (副師長)	柴田夕貴子
主任 (副師長)	石関梨華
主任	林範子
主任	大河原美穂

職名	氏名
主任	石井理恵
主任	植木悦子
主任	小谷陽子
主任	荒木里香
主任	渡邉佳世
主任	中島徹
主任	千明桃子
主任	石沢恵理
主任	渡邊卓也
主任	田中仁美
主任	井田智巳
主任	細野さくら
技師	若林大介
技師	山蔭悠馬
技師	関口百香
技師	湯本真帆
技師	髙橋里奈
技師	沖村詩織
技師	小島大明
技師	清水麻友
技師	片桐梨果
技師	木口輝
○ＮＩＣＵ病棟	
看護師長	福島富美子
主幹 (副師長)	飯田尚絵
副主幹 (副師長)	木島久仁子
主任 (副師長)	松田直美
主幹	青木幸枝
主幹	本多草子
主幹	大谷ゆう子
主幹	外丸恵利
主任	高田やよい
主任	平石美香
主任	小林理恵
主任	塚本久美栄
主任	中島寿恵
主任	深見悦子
主任	真下梨乃
主任	樺澤彩
主任	黒岩智香
主任	須藤亘
主任	髙橋真
主任	伊東修子
主任	齊藤麻由美
主任	松下典子
主任	内田良徳
主任	諏佐和也
主任	浜本知美
主任	小渕加奈絵
技師	金子紗也加
技師	大竹里奈
技師	大澤あゆみ
技師	登山茉美
技師	浅野光貴
技師	荒木有美
技師	上原杉梨
技師	柳田安友加
○ＧＣＵ病棟	
看護師長	黒田佐織
主幹 (副師長)	本間美樹恵
主幹 (副師長)	後藤真紀
主任 (副師長)	本多みさ子
主幹	角田晃子
主幹	宮本佳子
主幹	横尾美知代
主幹	永沢育子
主任	山田和子
主任	萩原梨絵
主任	服部由佳

職名	氏名
主任	尾崎沙織
主任	田中綾香
主任	藤井蘭
主任	勝山ゆかり
主任	松岡亜美
主任	松村香織
主任	大谷真樹子
技師	牧山穂香
技師	石坂亜美
技師	八木橋千瑛
副主幹専門員	野村幸枝
○産科病棟	
補佐 (看護師長)	福田円
副主幹 (副師長)	小池智美
副主幹 (副師長)	髙橋洋子
主任 (副師長)	和田千穂
主任 (副師長)	佐々木理恵
主幹	青木明子
主幹	羽鳥悌枝
主幹	天田美枝子
主任	渡邊敦美
主任	佐藤直美
主任	田島伴美
主任	籾山由美
主任	小林恭子
主任	狩野英美
主任	高倉和枝
主任	田中絢子
主任	坪井杏菜
主任	渡邊智香子
主任	青木弓子
主任	石関綾
技師	篠原由実子
○小児集中治療部	
看護師長	齊藤織恵
主幹 (副師長)	藤井美香
主幹 (副師長)	野田暁子
主任 (副師長)	青木秀佳
主幹	品川時子
主任	山田めぐみ
主任	平本寛子
主任	佐藤夏枝
主任	荒木七生
主任	冨樫哲雄
主任	樋口沙織
主任	荒木美樹
主任	青木栄信
主任	木村寛
主任	近藤充
主任	千木良千春
主任	塩谷愛
主任	槙田梨佳
主任	樋口真梨子
主任	今井文弥
主任	福田あずさ
主任	楯聖美
主任	田村芳子
技師	曽根ちひろ
技師	茂木歩美
技師	板垣綾乃
技師	久松飛鳥
技師	松澤裕太
◎母子保健室	
室長 (兼)	外松学
(併) 母子保健課長	阿久澤直子

職員異動状況

転入・採用		
所属	氏名	年月日・区分
看護部	角田 愉香理	R2.4.1 転入
	近藤 充	
	楯 聖美	
	山蔭 悠馬	
	関口 百香	
薬剤部	伊藤 理恵	
事務局	園田 宏	
	船山 晋	
	井上 陸斗	
	粕川 雅人	
医療局	京谷 琢治	R2.4.1 採用
	中島 公子	
	則内 友博	
	菊地 健太	
	星野 智	
	村上 麻耶	
	佐々木 淑恵	
看護部	飯塚 梨佐	
	松澤 裕太	
	竹内 葵香	
	小林 萌伽	
	石坂 亜美	
	荒川 実穂	
	津久井 大晟	
	長島 南	
	八木橋 千瑛	
	木口 輝	
	本多 喜代美	
技術部	楠 幸代	
	新井 菜津子	
	齋木 美穂	
医療局	井上 崇道	R2.5.1 採用
医療局	坂本 崇	R2.7.1 採用

転出・退職		
所属	氏名	年月日・区分
技術部	三宅 妙子	R2.4.1 転出
事務局	岡崎 正弘	
	太田 知幸	
	佐藤 紀代子	
	武尾 仁美	
医療局	富沢 仙一	R2.3.31 退職
	佐藤 達也	
	田中 健佑	
	黒岩 陽介	
	髙本 尚弘	
	田中 亜由子	
	道崎 護	
看護部	髙橋 敦子	
	片貝 まさみ	
	本多 喜代美	
	楯 真佐美	
	長尾 育江	
	藤巻 まゆか	
技術部	神保 直樹	
薬剤部	橋場 尚子	
医療局	友保 貴博	R2.4.30 退職
看護部	倉品 汐里	R2.6.30 退職
事務局	関 直人	R2.10.1 転出
看護部	長島 南	R2.9.30 退職

◇ 編　集　後　記 ◇

令和 2 年度の年報をお届けします。

令和 2 年度は COVID-19 とともに過ごした 1 年間でした。前例のない状況の中で、各部署・各科が試行錯誤しながら院内だけでなく群馬県の小児医療を支えるべく努力してまいりました。感染者の受入れや県の警戒度などに伴って、入院や手術、面会の制限などが必要となることもあり、それは今も続いています。その都度多方面にご迷惑をおかけしましたが、ご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。そのような当院の現状や取り組みについても、この年報でご覧いただければと思います。

新しい生活様式が日常になりつつある現在も、日本は第 5 波の脅威にさらされています。幸い昨年のような長期休校はありませんが、生活の変化に伴う子どもたちの心身への影響についても徐々に明らかになってきました。様々な情報が錯綜する中、県立病院として正しい情報と適切な医療を患者様とご家族に提供できるよう、今後も病院一丸となって取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、年報作成にあたりご協力いただいた多くのスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。

年報編集委員長　渡辺　美緒

○年報編集委員

渡辺美緒	清水奈保	小林富男	浜島昭人
丸山憲一	椎原　隆	河崎裕英	下山伸哉
浅井伸治	野村　滋	清水彰彦	西　明
木下　樹	岡村　達	京谷琢治	松本直樹
山口　有	富岡千鶴子	神山晴美	佐々木保
臼田由美子	島田純子	伊藤理恵	阿久澤直子
外松　学（オブザーバー）		（担当事務局　総務課）	

群馬県立小児医療センター

〒 377-8577　渋川市北橘町下箱田 779 番地
電　話　0279-52-3551（代表）
0279-52-3555（新生児未熟児病棟直通）
0279-52-4600（産科病棟直通）
0279-52-7171（地域医療連携室）
0279-52-4000（予約専用）
ＦＡＸ　0279-52-2045（事務局）
0279-52-4216（図書室）
0279-52-3539（検査課）
0279-52-7333（地域医療連携室）
0279-52-4800（栄養調理課）